

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第192集

下川原II遺跡発掘調査報告書

滝名川河川改修関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

下川原 II 遺跡発掘調査報告書

滝名川河川改修関連遺跡発掘調査

序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、7,600箇所にあふ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。一方、広大な面積を有する本県は地域開発にともなう社会資本の充実も重要な一施策であります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和は今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。本報告書は滝名川河川改修に関連して平成3年度に発掘調査した、下川原Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものであります。下川原Ⅱ遺跡は滝名川左岸の自然堤防上に立地し、調査の結果、平安時代の住居跡と遺物及び縄文時代と思われる陥し穴状遺構が発見されるなど貴重な資料を提供する事ができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御協力、御援助を賜りました岩手県土木部盛岡土木事務所、紫波町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成5年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 工藤 巖

例言

1. 本報告書は岩手県紫波郡紫波町南日詰字下川原 121-3 ほかに所在する下川原II遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 下川原II遺跡の調査は滝名川河川改修に伴う記録保存を目的とした緊急発掘調査である。調査は岩手県土木部盛岡土木事務所と岩手県教育委員会の協議を経て財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 本遺跡の岩手県遺跡台帳の遺跡番号及び遺跡調査略号は次の通りである。
遺跡番号 LE 77-2290 遺跡調査略号 SK II-91
4. 野外調査は平成3年6月21日～11月29日まで実施した。調査面積は10,460㎡である。室内整理は平成3年11月1日～平成4年3月31日まで実施した。
5. 発掘調査は佐々木務、佐々木弘、遠藤修、引屋数学、星雅之が担当し、室内整理・報告書の作成は佐々木務が担当した。
6. 発掘調査によって検出された遺構の内容は次の通りである。
竪穴住居跡（平安）21 溝跡10 陥し穴状遺構9 土坑7 焼土遺構1
7. 分析・鑑定は次の方々の依頼した。（敬称略）
鉄器・鉄滓の金属学的解析……………赤沼英男（岩手県立博物館）
炭化種子（堅果類）の同定……………パリノサーヴェイ株式会社
炭化樹種の同定……………早坂松次郎（社団法人岩手県木炭協会）
石質鑑定……………佐藤二郎（佐藤地質工学研究所）
8. 本報告書の執筆は「I 調査に至る経過」を鈴木恵治が、他は佐々木務が担当した。
9. 発掘調査に於ける基準点の設定は株式会社吉田測量設計に委託した。
10. 野外調査に当たっては紫波町教育委員会、岩手県土木部盛岡土木事務所の協力を得た。また、地元の方々に作業員として協力を得ている。
11. 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目次

序

例言

本文

| | | |
|-----|---------------|-----|
| I | 調査に至る経過 | 2 |
| II | 遺跡の立地と環境 | |
| 1 | 遺跡の位置 | 3 |
| 2 | 地形と立地 | 3 |
| 3 | 周辺の遺跡 | 7 |
| 4 | 基本土層 | 9 |
| III | 調査と整理の方法 | |
| 1 | 野外調査 | 12 |
| 2 | 室内整理 | 15 |
| IV | 検出された遺構と遺物 | |
| 1 | 竪穴住居跡 | 16 |
| 2 | 溝跡 | 78 |
| 3 | 陥し穴状遺構 | 89 |
| 4 | 土坑 | 93 |
| 5 | 焼土遺構 | 96 |
| 6 | その他の遺構・遺構外の遺物 | 96 |
| V | まとめ | |
| 1 | 遺構 | 100 |
| 2 | 遺物 | 101 |
| 3 | まとめ | 102 |
| 付篇1 | 試料種子の同定結果 | 103 |
| 付篇2 | 鉄器・鉄滓の金属学的解析 | 105 |

図 版

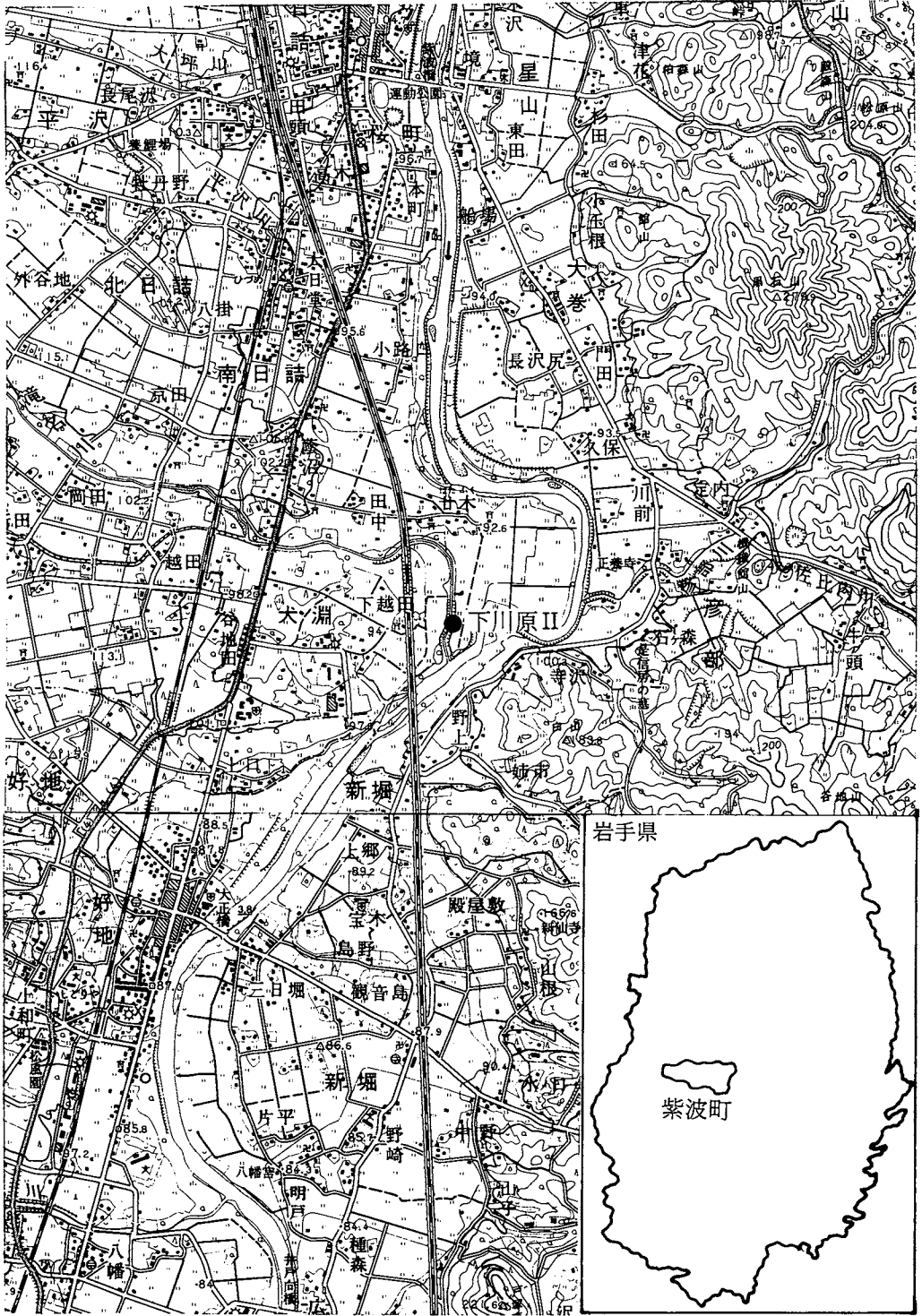
| | | | | | |
|------|--------------|----|------|-----------------------|----|
| 第1図 | 遺跡位置図 | 1 | 第31図 | 8号住居跡出土遺物(1) | 42 |
| 第2図 | 地形分類図 | 4 | 第32図 | 8号住居跡出土遺物(2) | 43 |
| 第3図 | 下川原II遺跡調査区域 | 5 | 第33図 | 8号住居跡出土遺物(3) | 44 |
| 第4図 | 周辺の遺跡位置図 | 8 | 第34図 | 8号住居跡出土遺物(4) | 45 |
| 第5図 | 基本土層 | 10 | 第35図 | 8号住居跡出土遺物(5) | 46 |
| 第6図 | 下川原II遺跡遺構配置図 | 13 | 第36図 | 9号住居跡 | 47 |
| 第7図 | 凡例 | 15 | 第37図 | 9号住居跡出土遺物 | 48 |
| 第8図 | 1号住居跡(1) | 17 | 第38図 | 10号住居跡 | 49 |
| 第9図 | 1号住居跡(2) | 18 | 第39図 | 10号住居跡出土遺物(1) | 50 |
| 第10図 | 1号住居跡出土遺物(1) | 19 | 第40図 | 10号住居跡出土遺物(2) | 51 |
| 第11図 | 1号住居跡出土遺物(2) | 20 | 第41図 | 11号住居跡・ 11号住居跡出土遺物 | 52 |
| 第12図 | 1号住居跡出土遺物(3) | 21 | 第42図 | 12号住居跡・ 12号住居跡出土遺物 | 54 |
| 第13図 | 2号住居跡 | 23 | 第43図 | 13号住居跡 | 55 |
| 第14図 | 2号住居跡出土遺物 | 24 | 第44図 | 13号住居跡出土遺物 | 56 |
| 第15図 | 3号住居跡(1) | 25 | 第45図 | 14号住居跡 | 57 |
| 第16図 | 3号住居跡(2) | 26 | 第46図 | 14号住居跡出土遺物(1) | 58 |
| 第17図 | 3号住居跡出土遺物(1) | 27 | 第47図 | 14号住居跡出土遺物(2) | 59 |
| 第18図 | 3号住居跡出土遺物(2) | 28 | 第48図 | 14号住居跡出土遺物(3) | 60 |
| 第19図 | 4号住居跡 | 30 | 第49図 | 14号住居跡出土遺物(4) | 61 |
| 第20図 | 4号住居跡出土遺物(1) | 31 | 第50図 | 14号住居跡出土遺物(5) | 62 |
| 第21図 | 4号住居跡出土遺物(2) | 32 | 第51図 | 15号住居跡(1) | 63 |
| 第22図 | 5号住居跡 | 33 | 第52図 | 15号住居跡(2) | 64 |
| 第23図 | 6号住居跡 | 34 | 第53図 | 15号住居跡出土遺物(1) | 65 |
| 第24図 | 6号住居跡出土遺物 | 35 | 第54図 | 15号住居跡出土遺物(2) | 66 |
| 第25図 | 7号住居跡(1) | 36 | 第55図 | 15号住居跡出土遺物(3) | 67 |
| 第26図 | 7号住居跡(2) | 37 | 第56図 | 16号住居跡 | 68 |
| 第27図 | 7号住居跡出土遺物(1) | 38 | 第57図 | 16号住居跡出土遺物 | 69 |
| 第28図 | 7号住居跡出土遺物(2) | 39 | 第58図 | 17号住居跡 | 70 |
| 第29図 | 7号住居跡出土遺物(3) | 40 | | | |
| 第30図 | 8号住居跡 | 41 | | | |

| | | | | | |
|------|-----------------------|----|------|------------------|----|
| 第59図 | 17号住居跡出土遺物 | 71 | 第68図 | 4号溝・3号土坑 | 84 |
| 第60図 | 18号住居跡 | 72 | 第69図 | 5～7号溝 | 85 |
| 第61図 | 18号住居跡出土遺物 | 73 | 第70図 | 8～10号溝 | 87 |
| 第62図 | 19号住居跡・ 19号住居跡出土遺物 | 74 | 第71図 | 1～4号陥し穴状遺構 | 90 |
| 第63図 | 20号住居跡 | 75 | 第72図 | 5～8号陥し穴状遺構 | 92 |
| 第64図 | 20号住居跡出土遺物 | 76 | 第73図 | 9号陥し穴状遺構 | 93 |
| 第65図 | 21号住居跡・ 21号住居跡出土遺物 | 77 | 第74図 | 1～7号土坑(3号除く) | 94 |
| 第66図 | 1・2号溝 | 81 | 第75図 | 1号焼土遺構 | 96 |
| 第67図 | 3号溝 | 83 | 第76図 | その他の遺構・遺構外の遺物(1) | 97 |
| | | | 第77図 | その他の遺構・遺構外の遺物(2) | 98 |
| | | | 第78図 | その他の遺構・遺構外の遺物(3) | 99 |

写真図版

| | | | | | |
|--------|-------------|-----|--------|-----------------|-----|
| 写真図版1 | 遺跡遠景 | 115 | 写真図版19 | 15号・16号住居跡 | 133 |
| 写真図版2 | 基本土層 | 116 | 写真図版20 | 17号住居跡 | 134 |
| 写真図版3 | 1号住居跡 | 117 | 写真図版21 | 18号・20号住居跡 | 135 |
| 写真図版4 | 1号住居跡 | 118 | 写真図版22 | 20号・21号住居跡 | 136 |
| 写真図版5 | 2号住居跡 | 119 | 写真図版23 | 1号・2号溝 | 137 |
| 写真図版6 | 3号住居跡 | 120 | 写真図版24 | 3号・4号溝 | 138 |
| 写真図版7 | 4号住居跡 | 121 | 写真図版25 | 5号・6号溝 | 139 |
| 写真図版8 | 5・13・19号住居跡 | 122 | 写真図版26 | 7号・8号溝 | 140 |
| 写真図版9 | 6号住居跡 | 123 | 写真図版27 | 9号・10号溝 | 141 |
| 写真図版10 | 7号住居跡 | 124 | 写真図版28 | 1～3号陥し穴状遺構 | 142 |
| 写真図版11 | 7号住居跡 | 125 | 写真図版29 | 4～6号陥し穴状遺構 | 143 |
| 写真図版12 | 8号住居跡 | 126 | 写真図版30 | 7～9号陥し穴状遺構 | 144 |
| 写真図版13 | 8号・9号住居跡 | 127 | 写真図版31 | 1～3号土坑 | 145 |
| 写真図版14 | 10号住居跡 | 128 | 写真図版32 | 4～7号土坑 | 146 |
| 写真図版15 | 11号住居跡 | 129 | 写真図版33 | 1号焼土遺構 | 147 |
| 写真図版16 | 12号住居跡 | 130 | 写真図版34 | 1号住居跡出土遺物 土器 | 148 |
| 写真図版17 | 14号住居跡 | 131 | 写真図版35 | 1号・2号住居跡出土遺物 | |
| 写真図版18 | 15号住居跡 | 132 | | | |

| | | | | |
|--------|-----------------|--------|------------------|-----------|
| | 土器 ……149 | 写真図版45 | 14号住居跡出土遺物 | 土器 ……159 |
| 写真図版36 | 2号・3号住居跡出土遺物 | | | |
| | 土器 ……150 | 写真図版46 | 15号住居跡出土遺物 | 土器 ……160 |
| 写真図版37 | 3号・4号住居跡出土遺物 | | | |
| | 土器 ……151 | 写真図版47 | 15号住居跡出土遺物 | 土器 ……161 |
| 写真図版38 | 4号・6号・7号住居跡出土遺物 | | | |
| | 土器 ……152 | 写真図版48 | 15～19号住居跡出土遺物 | 土器 ……162 |
| 写真図版39 | 7号・8号住居跡出土遺物 | | | |
| | 土器 ……153 | 写真図版49 | 19～21号住居跡・5号溝・ | |
| 写真図版40 | 8号住居跡出土遺物 | | 遺構外出土遺物 | 土器 ……163 |
| | 土器 ……154 | 写真図版50 | 5号・7号・8号溝・3号土坑 | |
| 写真図版41 | 8～10号住居跡出土遺物 | | ・5号陥し穴状遺構・遺構外出 | |
| | 土器 ……155 | | 土遺物 | 土器 ……164 |
| 写真図版42 | 10～13号住居跡出土遺物 | 写真図版51 | 出土遺物 | 石器類 ……165 |
| | 土器 ……156 | 写真図版52 | 出土遺物 | |
| 写真図版43 | 14号住居跡出土遺物 | | 石器・鉄製品・鉄滓 ……166 | |
| | 土器 ……157 | 写真図版53 | 出土遺物 | |
| 写真図版44 | 14号住居跡出土遺物 | | 鉄製品・鉄滓・土製品 ……167 | |
| | 土器 ……158 | | その他 | |



第 1 図 遺跡位置図

1 : 50,000

I 調査に至る経過

事業の概要（下川原II遺跡）

滝名川は、紫波町と雫石町との境界をなす鍵掛峠の東方を水源地とし、稻荷坂の峡谷を流下し、平坦地に入って穀倉地帯を潤し、下越田で北上川に合流する。紫波郡内では最長であり、昭和4年に北上川合流部を起点として区間延長18,925 m間が一級河川としての指定を受け、岩手県が管理している。

滝名川は自然の状態で放置されていたため、流路は曲折して安定せず、河積も狭く、中程度の降雨の都度、氾濫と崩壊を繰り返していた。そのため昭和44年から河積の拡大と流路の整正および河床の安定化を計るための河川改修事業が、北上川合流部を起点として実施され、現在に至っている。

河川改修事業に関わる埋蔵文化財の取扱いについては、岩手県教育委員会と岩手県土木部盛岡土木事務所との間で協議が行われ、平成2年に文化課が下川原II遺跡の試掘調査を実施して竪穴住居跡を検出した。このため県教育委員会の調整によって、当該遺跡の発掘調査を平成3年度の岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。委託契約は平成3年6月15日である。

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置

下川原II遺跡のある紫波郡紫波町は岩手県のほぼ中央部にあり、北に矢巾町・盛岡市、南に石鳥谷町、また、東に大迫町、西に雫石町とそれぞれ接する。遺跡は石鳥谷町との境界に近い紫波町の南部にあり、東日本旅客鉄道東北本線日詰駅の南南東約3 km付近に位置する。調査区の西隣には滝名川が南に流れ、調査区の南端から約60 m南側の地点で南西に流れる北上川と合流する。調査区はそこから北に約400 m、東西幅20～40 mの範囲で延びている。

本遺跡は国土地理院発行の5万分の1地形図「日詰」(NJ-54-13-15) および2万5千分の1地形図「日詰」(NJ-54-13-15-2)の図幅に含まれ、北緯39度30分45秒・東経141度19分12秒付近に位置する。

2 地形と立地

下川原II遺跡周辺の地形は大きく三つに分けられ、それぞれが南北に帯状に延びている。西側は奥羽山脈の東縁部に当たり、東根山(928.4 m)など標高500 m以上の山地がある。グリーン・タフからなり、北上川河谷平野とは比高300 m以上の断層崖を以て接している。ここから滝名川、葛丸川が東へと流れ出て扇状地を形成している。

東側は北上山地の西縁部が北上川に迫るように分布し、古生層及び花崗岩類からなる。西側の奥羽山脈に見られるような断層崖は見られない。

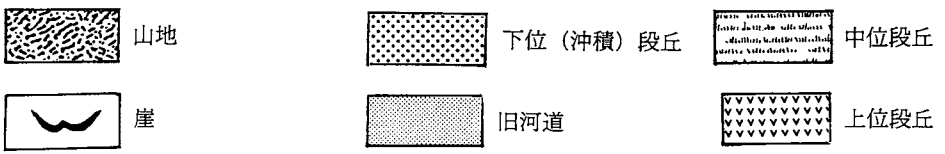
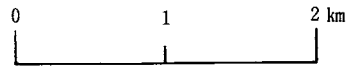
中央には北上川河谷平野が広がっている。本流にそって幅1～3 kmの谷底平野が形成され、他の部分は新旧3段以上に分類できる段丘群からなる台地が広がる。この段丘群は北上川右岸ではよく発達しているが、左岸ではあまり発達していない。この地域の段丘は中川ほか(1963)によれば古期から順に石鳥谷段丘・二枚橋段丘・都南段丘と呼ばれる。

第2図の上位段丘は石鳥谷段丘に相当する。構成礫層は日詰礫層で上層部は風化が著しく赤色を呈する。日詰から石鳥谷付近ではあまり広く分布せず断片的に残丘状を呈して分布する。下川原II遺跡周辺では東日本旅客鉄道東北本線石鳥谷駅の北西1.8 km付近に認められる。

中位段丘は同様に二枚橋段丘に相当し、日詰付近以南に広く発達している。日詰から石鳥谷付近では上位の石鳥谷段丘に伴って分布している。滝名川西岸の、調査区の対岸にも残丘状に認められる。日詰以北では構成層を欠くこともあり、こうした段丘面を中川ほか(1963)は花巻段丘と呼んでいる。

下位段丘は北上川本流・支流にそって広く分布している。上流では段丘崖の比高が一般に低く、下流に向かって増大していく。概ね都南段丘に相当すると思われる。

中央を南北に流れる北上川は、東北地方最長の河川で岩手県北部の西岳に源を発し岩手県を



第2図 地形分類図



第3図 下川原II遺跡調査区域

縦断し宮城県に入り、飯野川付近で東に向きを変え追波湾に注いでいる。幹線流路延長は247 kmに及ぶ。下流では、近世初期と大正から昭和の間の2度にわたり付替工事が行われ流路がかわっている。

日詰付近ではほぼ直線状に南に流れていた北上川は、調査区の北1 km付近で東に流れを変え大きく蛇行する。この付近に滝名川が北西から流入し、やや南には葛丸川が流入している。東側では北上山地から赤沢川が流れ込んでいる。

遺跡はすでに述べた通り滝名川と北上川の合流点近くの滝名川の東岸に位置し、東岸に沿って南北に延びている自然堤防状の微高地上にある。調査区はその西半部に位置し東から西へとわずかに傾斜する。

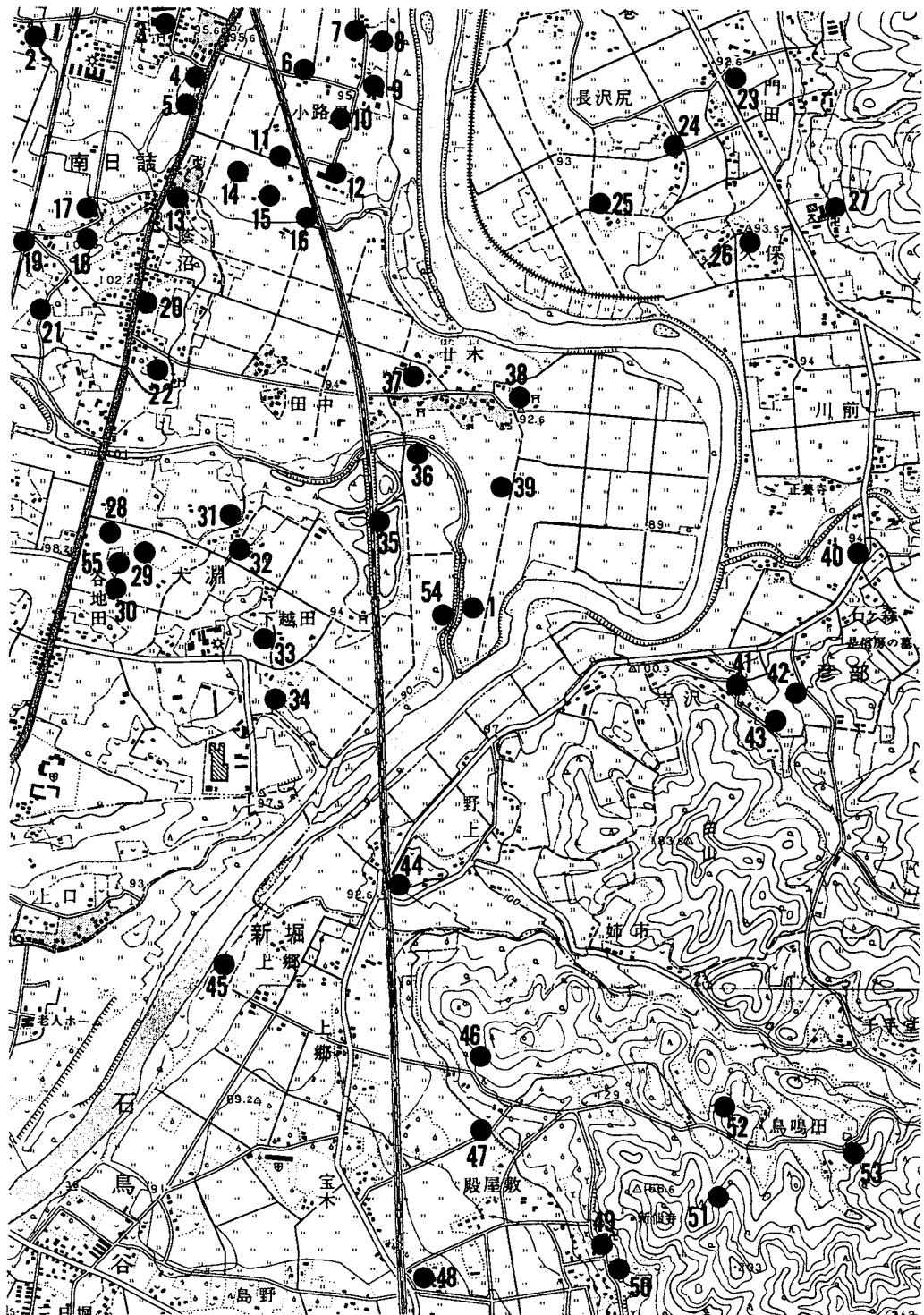
3 周辺の遺跡

紫波町には多くの遺跡が分布し、『岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧』（岩手県教委 1986）によれば277箇所が確認されている。このうち土師器あるいは須恵器を出土する遺跡の数は139箇所と半数以上を占めている。第4図と表1はこの『岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧』を基に下川原II遺跡周辺の遺跡55箇所を抜出して作成したものである。以下、時代にしたがって主な遺跡について述べていく。

縄文時代の遺跡には下川原II遺跡と滝名川を挟んだ対岸に西田遺跡がある。西田遺跡は縄文時代中期の集落遺跡として知られている。東北新幹線の建設に伴って昭和50年から52年にかけて3次にわたり30,000 m²が発掘調査されている。この調査では集落跡のほぼ中央を縦断し集落全体の半分以上が調査されたと考えられており、縄文時代中期の集落の構造がほぼ明らかになっている。集落の中央には墓壙と考えられる舟底状の土坑群が環状に並び、その外側に柱穴状ピット群が広がる。更にその外側に竪穴住居跡が分布し、北側には竪穴住居跡と共に貯蔵穴状の土坑群が分布している。また、西田遺跡からは平安時代の竪穴住居跡も4棟検出されている。ここから土師器・須恵器・「赤焼き土器」が出土し、9～10世紀の年代が与えられている。

奈良・平安時代と思われる遺跡は下川原II遺跡周辺に多く分布しているが調査された遺跡はそれほど多くない。野上遺跡では9世紀後半とされる竪穴住居跡が検出されている。伝善知鳥館は1963年に発掘調査が行われ、安倍氏ないし安倍氏に関連する居館的柵と推定されていると言う（紫波町史1）。

比爪館は下川原II遺跡の北西にあり奥州藤原氏の一族の比爪氏の居館とされている。現在は、赤石小学校の敷地になっており、小学校の校舎の建設などに伴い何度も調査が行われている。その結果、12世紀代の遺構や遺物とともに10世紀とされる竪穴住居跡を含む遺構や遺物も見つかっている。また大銀遺跡からもかわらけが出土し、比爪氏との関連が指摘されている。



第4図 周辺の遺跡位置図

1 : 25,000 日詰・石鳥谷

| No. | 遺跡名 | 種別 | 遺構・遺物 | No. | 遺跡名 | 種別 | 遺構・遺物 |
|-----|---------|-----|---------------------|-----|--------|------|-----------------|
| 1 | 下川原Ⅱ | 集落跡 | 土師器、須恵器、住居跡等 | 29 | 犬淵谷地田Ⅰ | 散布地 | 土師器、須恵器 |
| 2 | 北日詰八掛 | 散布地 | 土師器、須恵器 | 30 | 犬淵谷地田Ⅱ | 散布地 | 須恵器 |
| 3 | 比爪館 | 館跡 | 土師器、須恵器 | 31 | 犬淵新田堰Ⅱ | 散布地 | 縄文土器、土師器、須恵器 |
| 4 | 五郎沼 | 散布地 | 縄文(中・後)土器、石鏃、石匙、石斧 | 32 | 犬淵新田堰Ⅰ | 散布地 | 土師器、須恵器 |
| 5 | 伝蛇塚 | 散布地 | | 33 | 下越田Ⅰ | 散布地 | |
| 6 | 南日詰大銀Ⅰ | 散布地 | 土師器 | 34 | 下越田Ⅱ | 散布地 | |
| 7 | 北日詰下東ノ坊 | 散布地 | 土師器、白磁 | 35 | 西田 | 集落跡 | 縄文(早・前・中)、平安 |
| 8 | 北日詰城内Ⅰ | 散布地 | 土師器、須恵器 | 36 | 西田北 | 散布地 | 縄文(中)土器 |
| 9 | 南日詰大銀Ⅱ | 散布地 | 土師器、須恵器 | 37 | 南日詰八坂 | 散布地 | 須恵器 |
| 10 | 南日詰小路Ⅰ | 散布地 | 土師器、須恵器 | 38 | 甘木下川原 | 散布地 | |
| 11 | 南日詰小路Ⅱ | 散布地 | 土師器 | 39 | 下川原Ⅰ | 散布地 | 土師器 |
| 12 | 南日詰小路Ⅲ | 散布地 | 土師器 | 40 | 元町 | 散布地 | 須恵器 |
| 13 | 南日詰田Ⅰ | 散布地 | 須恵器 | 41 | 寺沢Ⅰ | 散布地 | 縄文土器、剝片 |
| 14 | 南日詰宮崎Ⅰ | 散布地 | 土師器 | 42 | 小深田 | 散布地 | 土師器 |
| 15 | 南日詰宮崎Ⅱ | 散布地 | 土師器 | 43 | 寺沢Ⅱ | 散布地 | 古代(奈良?)、土師器 |
| 16 | 南日詰田Ⅱ | 散布地 | 土師器 | 44 | 野上 | 散布地 | 縄文(中)土器 |
| 17 | 南日詰藤沼Ⅰ | 散布地 | 土師器 | 45 | 境船場 | 渡し場跡 | |
| 18 | 南日詰藤沼Ⅱ | 散布地 | 土師器 | 46 | 宝木Ⅰ | 散布地 | 縄文土器 |
| 19 | 南日詰京田Ⅱ | 散布地 | 土師器、須恵器 | 47 | 宝木Ⅱ | 散布地 | 須恵器、土師器 |
| 20 | 南日詰 | 集落跡 | 縄文(中)土器、住居跡、須恵器、土師器 | 48 | 殿屋敷 | 館跡 | |
| 21 | 南日詰京田Ⅲ | 散布地 | 土師器 | 49 | 長善寺Ⅰ | 散布地 | 須恵器、土師器 |
| 22 | 伝善知鳥館 | 館跡 | 縄文土器、土師器 | 50 | 長善寺Ⅱ | 散布地 | 須恵器 |
| 23 | 大巻間田 | 散布地 | 土師器 | 51 | 新堀城跡 | 館跡 | 空堀、階段状の整地面、土塁 |
| 24 | 大巻長沢尻 | 散布地 | 縄文(後)土器、土師器 | 52 | 鳥鳴田Ⅰ | 散布地 | 縄文土器、石器 |
| 25 | 赤川館跡? | 城館跡 | 中～近世 | 53 | 鳥鳴田Ⅱ | 散布地 | 縄文土器、石器 |
| 26 | 彦部久保 | 散布地 | 土師器 | 54 | 西田東 | 集落跡 | 平安 |
| 27 | 彦部小学校敷地 | 散布地 | 土師器 | 55 | 犬淵谷地田Ⅲ | ? | 土師器、須恵器、住居跡(平安) |
| 28 | 犬淵新田堰Ⅵ | 散布地 | 土師器 | | | | |

表1 周辺の遺跡一覧表

4 基本土層

表土ないし耕作土を除去すると調査区の東側には褐色の砂質シルトが広がる。西側にはこの褐色の砂質シルトの上に黒褐色土などが広がる。この黒褐色土は滝名川の蛇行によって削られた部分に堆積したものと考えられる。大きく北・南・中央の三つに区分されるが、それぞれが相互にどのような先後関係を持っているか調査区内ではとらえられなかったため、西側部分については単一の層序関係で調査区全体を代表させることが出来なかった。従って、調査区を「北」「中央」「南」の3つに区分して基本層序を示すことにする。Ⅰ層とⅥ層については調査区全域

に広がっている。

「北」はII C区以北であり遺構で言うと1号溝から北側になる。VI～I層の順に東から西へと縞状に並んでいる。

I層 黒褐色土 (10 YR 2/2) 表土ないし水田の耕作土である。シルトからなり、締りはなく粘性も弱い。このI層は調査区域全域に共通する。層厚は15～20 cmである。

II層 黒褐色土 (10 YR 2/3) シルトからなる。締りがあり粘性は弱い。層厚は15～25 cmである。

III層 黒色土 (10 YR 2/1) シルトからなる。締りがあり、粘性は強い。層厚は0～35 cmである。

IV層 濃い黄褐色土 (10 YR 5/4) 粘土質～砂質シルトからなる。締りがあり、粘性が強い。層厚は0～45 cmである。

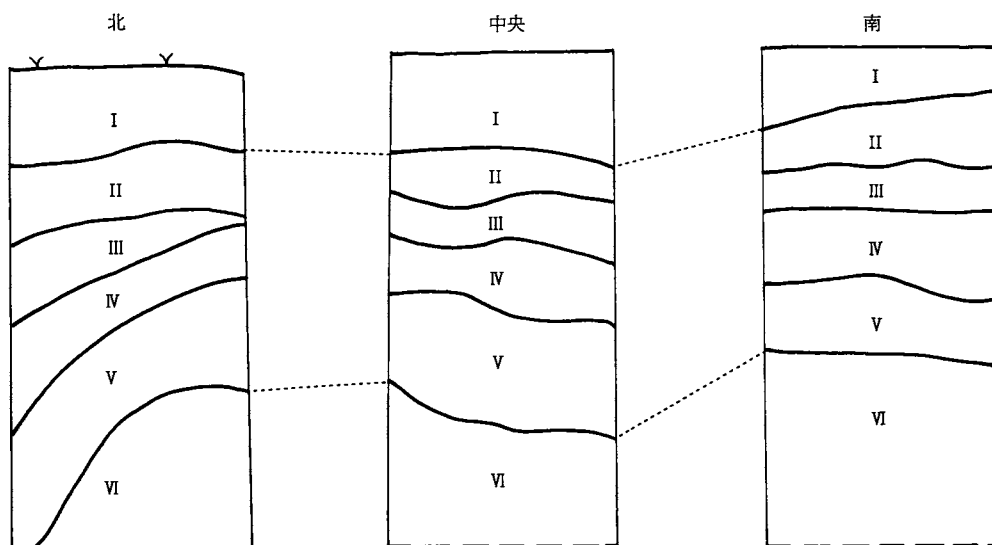
V層 黒褐色土 (10 YR 2/2) シルトからなる。締りがあり、粘性は弱い。層厚は8～35 cmである。

VI層 褐色土 (10 YR 4/4) 砂質シルトからなる。締りがあり、粘性は弱い。層厚は不明である。

「中央」はII D～II F区付近で5号溝を中心として遺構が集中している部分である。

I層 北側と基本的に同一の層である。

II層 褐色土 (7.5 YR 4/4) 粘土質シルトからなる。締りがややあり、粘性が強い。層厚は20 cm前後である。



第5図 基本土層

III層 黒褐色土 (10 YR 3/2) 粘土質シルトからなる。締りはなく、粘性は強い。微量の炭化物を含んでいる。層厚は10~35 cmである。

IV層 黒褐色土 (10 YR 2/2) 粘土質シルトからなる。締りがややあり、粘性は強い。層厚は15~30 cmである。

V層 におい黄褐色土 (10 YR 5/4) 粘土からなる。締りはあり、粘性が強い。層厚は20~60 cmである。

VI層 北側と同一である。

「南」はI・II G区以南である。調査区の南側のややふくらんだ部分である。

I層 北側・中央と同一である。

II層 黒褐色土 (10 YR 2/2) シルトからなる。締りがややあり、粘性は強い。層厚は5~15 cmである。

III層 黒褐色土~暗褐色土 (10 YR 2/2~3/3) 粘土質シルトからなる。締りがあり、粘性は強い。層厚は0~20 cmである。

IV層 黒褐色土 (10 YR 2/2) シルトからなる。締りはなく、粘性も弱い。層厚は15~20 cmである。

V層 黒褐色土 (10 YR 2/3) シルトからなる。締りがあり、粘性は強い。層厚は10~30 cmである。

VI層 北側・中央と同一である。

以上が今回の調査区における基本土層である。いずれも6層に分けられているが、既に述べたようにそれぞれが対応するものではない。本文中ではそれぞれを「北」「中央」「南」として区別する。

引用・参考文献

- 1963 中川久夫他、「北上川上流沿岸の第四系および地形 ー北上川流域の第四紀地史(1)ー」
『地質学雑誌 69- 3』
- 1963 中川久夫他、「北上川中流沿岸の第四系および地形 ー北上川流域の第四紀地史(2)ー」
『地質学雑誌 69- 3』
- 1972 森嘉兵衛 「紫波町史第1巻」
- 1975 岩手県企画開発室「北上山系開発地域土地分類基本調査 日詰」
- 1976 岩手県企画開発室「北上山系開発地域土地分類基本調査 花巻」
- 1979 岩手県教育委員会「岩手県文化財調査報告書 35 集 東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書III」
- 1980 岩手県教育委員会「岩手県文化財調査報告書 51 集 東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書VII」
- 1986 岩手県教育委員会「岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧」

III 調査と整理の方法

1 野外調査

(1) グリッドの設定

調査区はほぼ南北に延びており、面積は 10,460 m²である。グリッドの配置については調査区内に公共座標の X 系に基づく南北方向の基準点を 2 点設け、それを基に区画している。2 点の座標値は次の通りである。

基準点 A (X = -53,950.000 m Y = 29,832.000 m)

基準点 B (X = -54,030.000 m Y = 29,832.000 m)

この 2 点をもとに調査区を 1 辺 40 m の大グリッドに区画し、更に 1 辺 4 m の小グリッドに区画している。大グリッドは東西方向は西から I・II、南北が北から A~K に区分している。小グリッドは東西が西から 1~10、南北は北から a~j に大グリッドをそれぞれ十等分している。グリッド名を示すときは東西方向から先に呼ぶ (例・II A 1 b 区)。

(2) 粗掘と精査

調査では、はじめ草刈り・雑物撤去を行い、次いで調査区内に溜まっていた水や調査区の東側にある水田から絶えず流れ込んでくる水を排出するため、調査区の東側の縁辺と水田の東西方向の畦畔に沿って排水溝を掘っている。水が引いた後、岩手県教育委員会文化課による試掘トレンチの清掃を行い、調査区全体の遺物や遺構の状況を確認した。また、必要に応じて新たにトレンチを設定した。若干の遺構は排水溝によって存在が確認された。

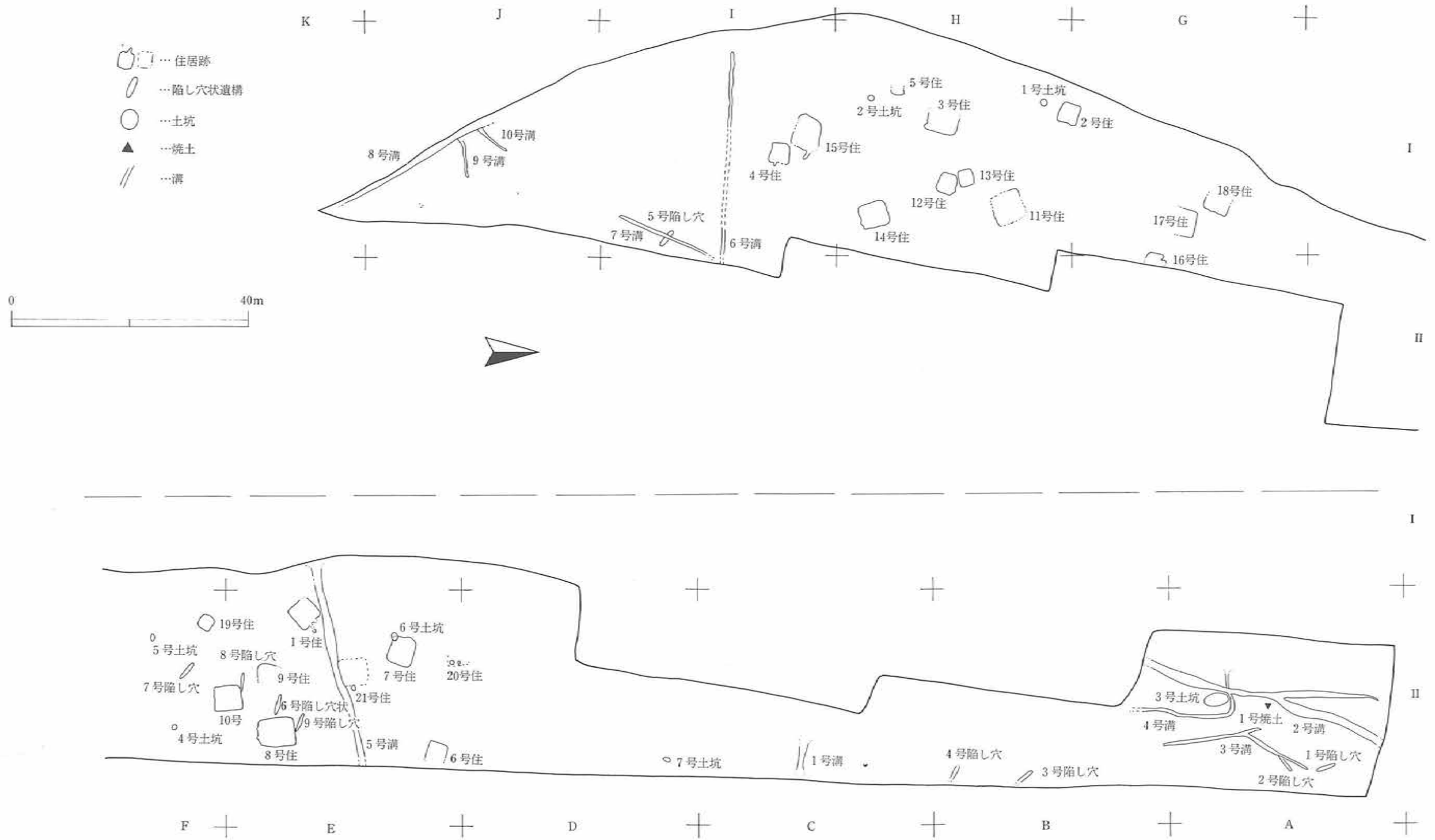
状況の確認後、北側から順に重機によって表土の除去を行い、そして遺構の検出、精査を行っている。

遺構の精査は住居跡については 4 分法、その他の遺構については 2 分法を原則とした。溝跡については適宜ベルトを設けて埋土断面を観察・記録している。遺物は表土・遺構外から出土したものは大グリッド毎に取上げている。遺構内のものも含めてできるだけ層位毎に遺物を取上げるようにした。しかし、遺構の埋土中の遺物については必ずしも層位的に取上げているわけではない。

(3) 実測と写真

それぞれの遺構について平面図と断面図を作成している。平面図は簡易遣り方による。縮尺は原則的に 1/20 であるが、それでは細部が描ききれないカマドの断面などについては 1/10 で作成している。

写真は 35 mm の白黒・カラーリバーサル、6 × 7 cm の白黒の 3 台を併せて用いている。遺構については検出・埋土断面・完掘それぞれの状況を 3 台で撮影している。また、遺物の検出状況



第6図 下川原II遺跡遺構配置図

等、必要と考えられる場面で写真撮影を行っている。

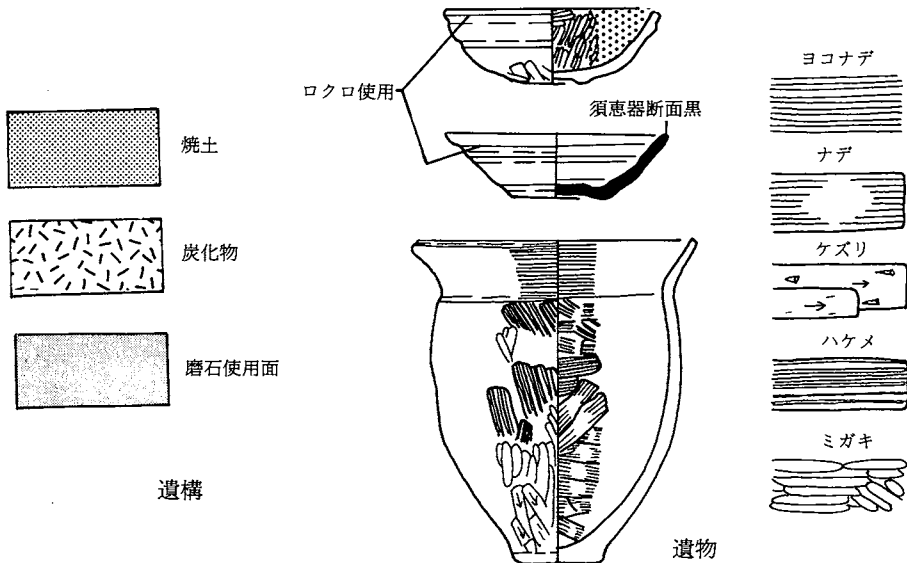
2 室内整理

遺物の水洗は一部現場で行っている。室内では残った遺物の水洗から作業をはじめ注記・接合・復元・登録・計測・写真撮影・実測・トレース等を行い、図版を作成した。遺物は磨耗の著しい小さな破片を除いて抜き出し、同一個体と思われる破片はより大きな破片を原則として登録している。但し、口縁部のみと、底部のみの破片との間については不確実なものもある。登録した遺物は観察表を作成し本報告書に掲載している。観察表中に於ける土器の分類は非常に大まかなものである。坏類が黒色処理の無い個体がI、内面のみがII、内外面がIII、また、再調整の無いものはa、有るものはbとしている。甕類はロクロ使用がA、不使用がBである。須恵器と縄文土器は分類せず前者は「一」、後者は「縄文」としてある。実測図は図化できるものについてのみ行い、写真は登録したもの全てを撮影し掲載している。観察表の図の欄の「○」は有、「一」は無を示す。計測は土器については口径・器高・底径を、その他の遺物は原則として長さ・幅・厚さ・重量を測定している。なお、計測値の（）は推定、[]は残存の値である。観察表中の空欄はどの場合も不明を表す。実測図の縮尺は1/3であり、そこに示される内容は第7図の凡例の通りである。写真の縮尺は5cm以下の小破片は約4/9、その他は約1/3である。

現場で作成した遺構の実測図は室内で点検・修正等を行った後トレースを行い、原則として以下の縮尺でそれぞれについて平面図と断面図を掲載している。各遺構図版中の座標値の原点は基準点Bである。

1号焼土・カマド断面……1/40、溝跡平面図……1/120、その他……1/60

遺構図版で用いているスクリーントーンは第7図の凡例の通りである。また、北は公共座標X系上の北を指す。



第7図 凡例

IV 検出された遺構と遺物

1 竪穴住居跡

1号住居跡

遺構（第8・9図、写真図版3・4）

〈検出〉調査区ほぼ中央のII E区西側の滝名川寄りに位置する。水田耕作土を除去した後、「中央」のII層上面で暗褐色土の広がりとして検出された。この住居跡を排水溝が横切っており、精査前に住居跡の存在が認められた。この排水溝の断面で炭化材などが確認され、焼失住居である事もこの段階で推測された。今回の調査した住居跡の中ではかなり残存状況のよい住居跡である。

〈形状・規模〉平面形は隅丸方形である。壁はやや外傾しながら立ち上がり、壁高は東側で40cm、西側で18cmである。床面の規模は、北東—南西・北西—南東ともに約4mである。

〈埋土〉主に暗褐色のシルト～粘土質シルトから成る。埋土は東側から西側へと流れ込んだような様相を呈しており、自然堆積と考えられる。埋土の下部には炭化材の小破片や焼土粒が多く含まれている。

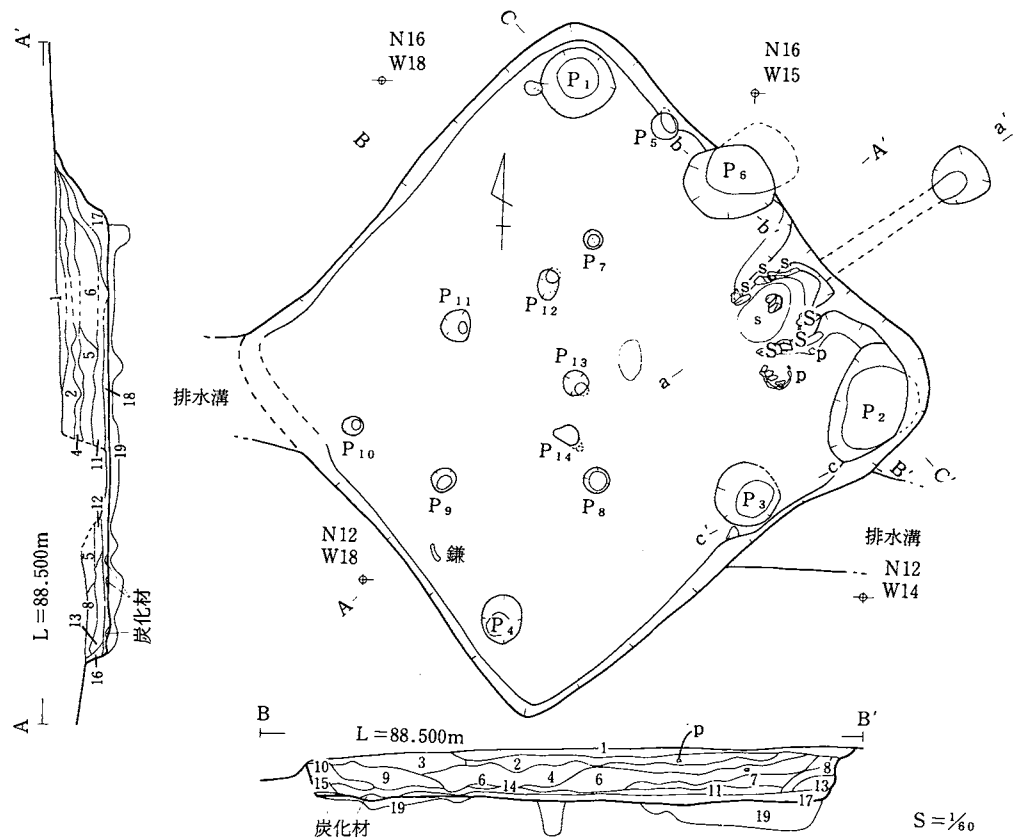
〈床〉貼り床であり、ほぼ水平で平坦である。におい黄褐色土粒を含む暗褐色の粘土質シルトで構成され、埋土よりは堅く締っている。床面全体に炭化材が分布し特に西半部に多いが、住居の中でどの様に用いられていたか推定できるものはない。埋土中の炭化材の小片・焼土粒と共にこの住居跡が焼失したことを示すと考えられる。北西部には、床面の直上に炭化したススキが乗っている。これは概ね一定方向に並び一部これと直交するように入り込んでいる。性格は不明である。中央やや東よりには30×20cm程の焼土があるが、焼成が弱く厚さはかなり薄い。

〈柱穴・土坑〉P1～P14が検出された。P5・P11が柱穴と考えられる。P6の埋土下半は不均質な粘土質の土である。このうえに15cm程の礫が乗る。その上はさほど不均質な埋土ではない。

〈カマド〉北東壁の南東よりにあり、煙道は割り貫き式であり、ほぼ水平に北東に延びている。袖部は15～30cmほどの礫を芯としてこれに黒褐色土をまいて作っている。焚き口の床面近くには長さ56cm厚さ11cmの扁平な礫があるが、この礫がカマドの天井部を構成していたと考えられる。燃焼部には支脚となる細長い礫が埋め込まれている。規模は、煙道部の長さ120cm、煙出口の開口部45×43cm・深さ50cm、袖部の幅90cmで燃焼部の焼土の範囲は53×54cm、厚さ7cmである。

遺物（第10～12図、写真図版34・35・51～53）

〈土器〉1～28が出土している。このうち坏・台付坏が8点、甕類が20点である。甕類のうち2点が須恵器である。5の坏の内面の調整はミガキというより、ナデに近い。9～11・17の甕の胎土中には2mm前後の砂が多く含まれている。10の底部外面はケズリの様な調整が施されている。



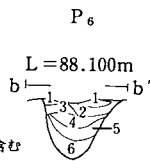
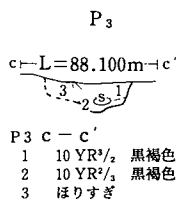
A-A', B-B'

- | | | | | | | | |
|----|----------------------|-----|--------------------------|----|----------------------|-----|--------------------------|
| 1 | 10 YR ^{3/2} | 暗褐色 | シルト | 11 | 10 YR ^{2/2} | 黒褐色 | 粘土質シルト、炭化材片・焼土粒含む |
| 2 | 10 YR ^{3/2} | 黒褐色 | シルト、炭化材片少量含む | 12 | 10 YR ^{2/2} | 暗褐色 | シルト、炭化物含む |
| 3 | 10 YR ^{3/2} | 暗褐色 | シルト | 13 | 10 YR ^{2/2} | 暗褐色 | シルト、炭化材片含む |
| 4 | 10 YR ^{3/2} | 暗褐色 | シルト | 14 | 10 YR ^{2/2} | 暗褐色 | シルト、にぶい黄褐色粘土粒含む |
| 5 | 10 YR ^{3/2} | 黒褐色 | シルト、にぶい黄褐色粘土粒・炭化材片含む | 15 | 10 YR ^{2/2} | 暗褐色 | 粘土質シルト、粘土粒・炭化材片多く含む |
| 6 | 10 YR ^{2/2} | 黒褐色 | 粘土質シルト | 16 | 10 YR ^{2/2} | 暗褐色 | 粘土質シルト |
| 7 | 10 YR ^{3/2} | 暗褐色 | 粘土質シルト、炭化物・褐色土粒含む | 17 | 10 YR ^{3/2} | 暗褐色 | シルト |
| 8 | 10 YR ^{3/2} | 暗褐色 | 粘土質シルト、炭化材片・焼土粒含む | 18 | 10 YR ^{2/2} | 黒褐色 | シルト、炭化材片非常に多く含む |
| 9 | 10 YR ^{3/2} | 暗褐色 | シルト、にぶい黄褐色土粒多く含む | 19 | 10 YR ^{2/2} | 暗褐色 | 粘土質シルト、にぶい黄褐色粘土粒含む、掘り方理土 |
| 10 | 10 YR ^{3/2} | 暗褐色 | シルト、にぶい黄褐色粘土粒多く含む、炭化材片含む | | | | |

Pit計測値

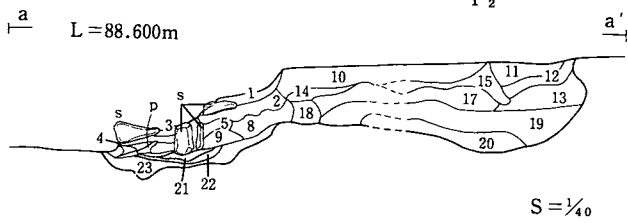
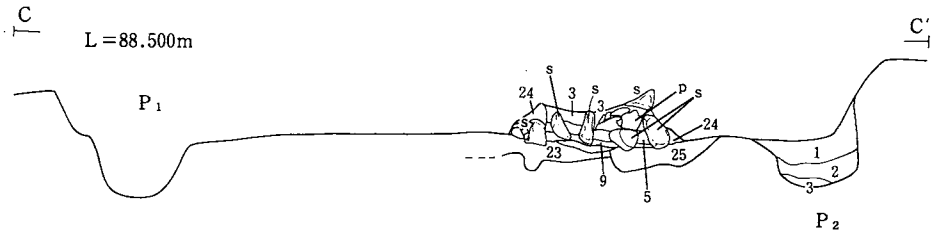
| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
|-----|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大きさ | 58×54 | 86×52 | 51×(53) | 38×32 | 23×20 | 72×58 | 16×14 | 21×21 | 20×20 | 19×16 | 26×24 | 25×16 | 21×19 | 21×16 |
| 深さ | 34 | 29 | 28 | 28 | 19 | 32 | 35 | 6 | 21 | 10 | 18 | 12 | 14 | 12 |

単位: cm



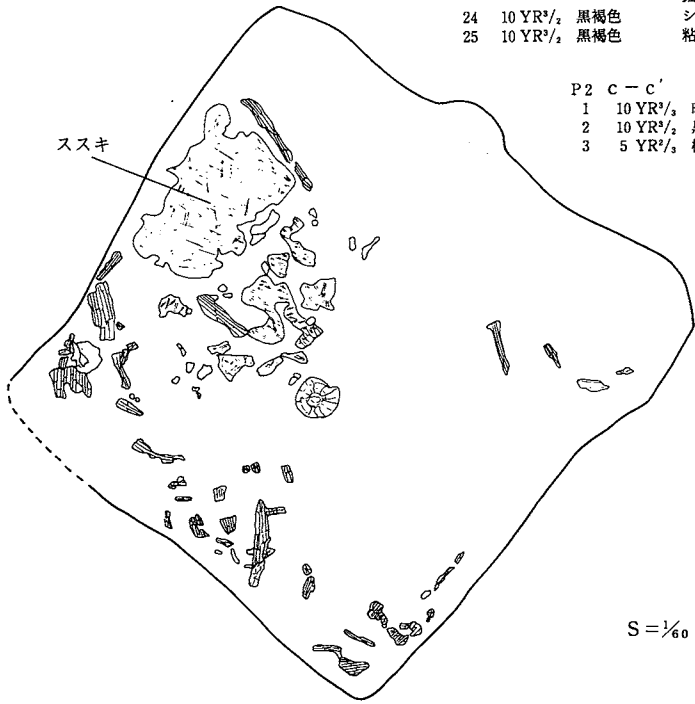
- P6 b-b'
- | | | | |
|---|----------------------|-----|-------------------|
| 1 | 10 YR ^{2/2} | 黒褐色 | シルト、炭化材片含む |
| 2 | 10 YR ^{3/2} | 暗褐色 | シルト、褐色土粒・炭化材片含む |
| 3 | 10 YR ^{2/2} | 褐色 | 粘土質シルト |
| 4 | 10 YR ^{3/2} | 暗褐色 | シルト |
| 5 | 10 YR ^{2/2} | 黒褐色 | 粘土質シルト、にぶい黄褐色土粒含む |
| 6 | 10 YR ^{2/2} | 黒褐色 | 粘土質シルト、褐色土粒多く含む |

第8図 1号住居跡(1)



カマド a-a', c-c'

| | | | | | | | |
|----|------------------------------------|-----|-----------------|----|-----------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト | | | | |
| 2 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト、焼土含む | | | | |
| 3 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト | | | | |
| 4 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト、粘性あり | | | | |
| 5 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト、焼土粒含む | | | | |
| 6 | 7.5 YR ³ / ₄ | 暗褐色 | シルト、焼土多く含む | | | | |
| 7 | 10 YR ³ / ₂ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化材片含む | | | | |
| 8 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト、炭化物少量含む | | | | |
| 9 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト、焼土粒・炭化物・灰含む | 16 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト、炭化物含む |
| 10 | 10 YR ⁴ / ₁ | 褐色 | シルト、地山 | 17 | 10 YR ³ / ₂ | 黒褐色 | シルト、炭化物含む |
| 11 | 10 YR ³ / ₂ | 黒褐色 | シルト | 18 | 10 YR ³ / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化物を多く含む |
| 12 | 10 YR ³ / ₂ | 黒褐色 | シルト、炭化物少量含む | 19 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト、炭化物微量含む |
| 13 | 10 YR ³ / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化物含む | 20 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト |
| 14 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト | 21 | 5 YR ⁶ / ₆ | 明赤褐色 | 焼土 |
| 15 | 10 YR ³ / ₃ | 黒褐色 | シルト | 22 | 5 YR ⁴ / ₄ | にぶい赤褐色 | 焼土 |
| | | | | 23 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | 粘土質シルト、にぶい黄褐色の粘土粒を含む、掘り方埋土 |
| | | | | 24 | 10 YR ³ / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| | | | | 25 | 10 YR ³ / ₂ | 黒褐色 | 粘土質シルト |

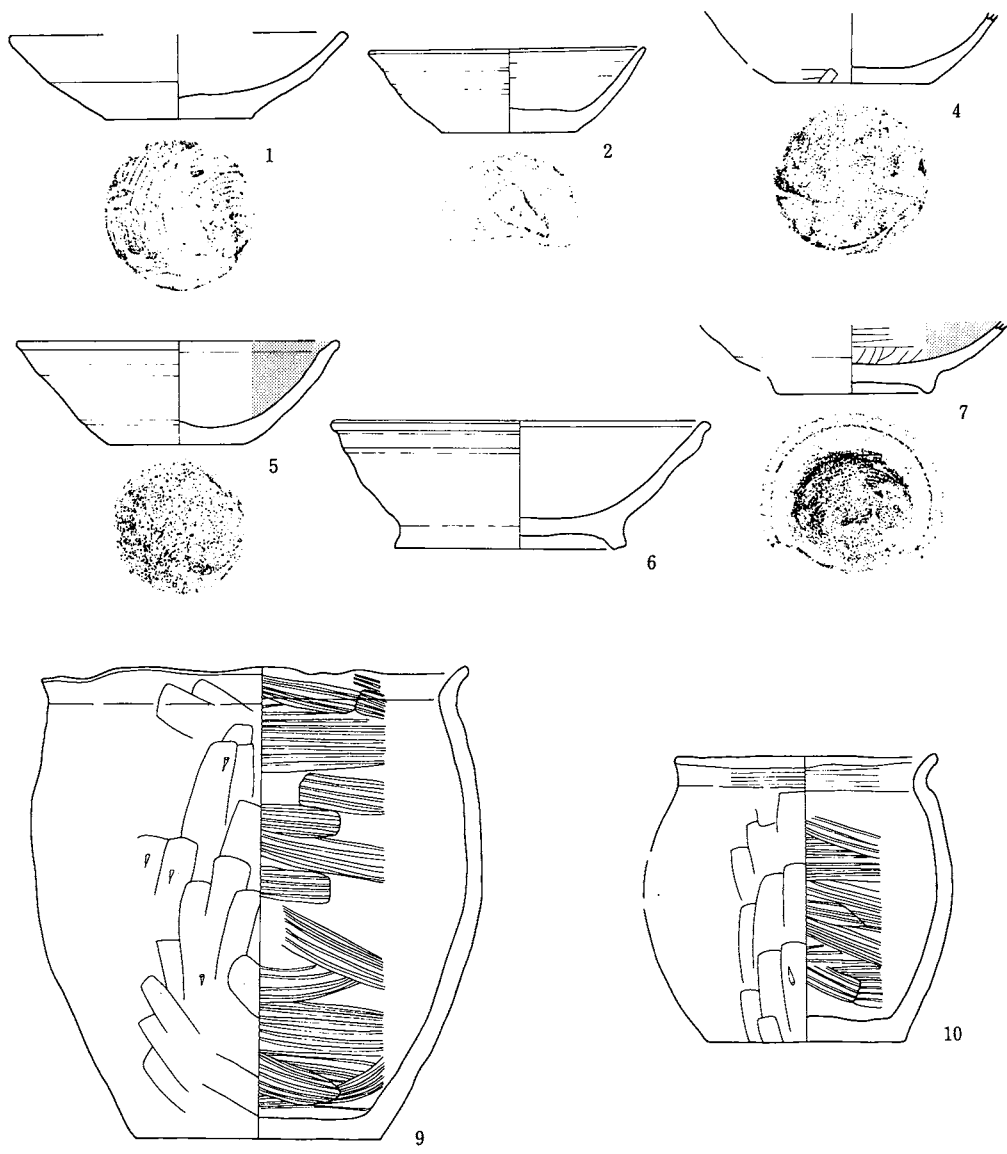


P2 C-C'

| | | | |
|---|-----------------------------------|-------|----------|
| 1 | 10 YR ³ / ₃ | 暗褐色 | シルト |
| 2 | 10 YR ³ / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 3 | 5 YR ² / ₃ | 極暗赤褐色 | シルト、焼土含む |

炭化材出土状況

第9図 1号住居跡(2)

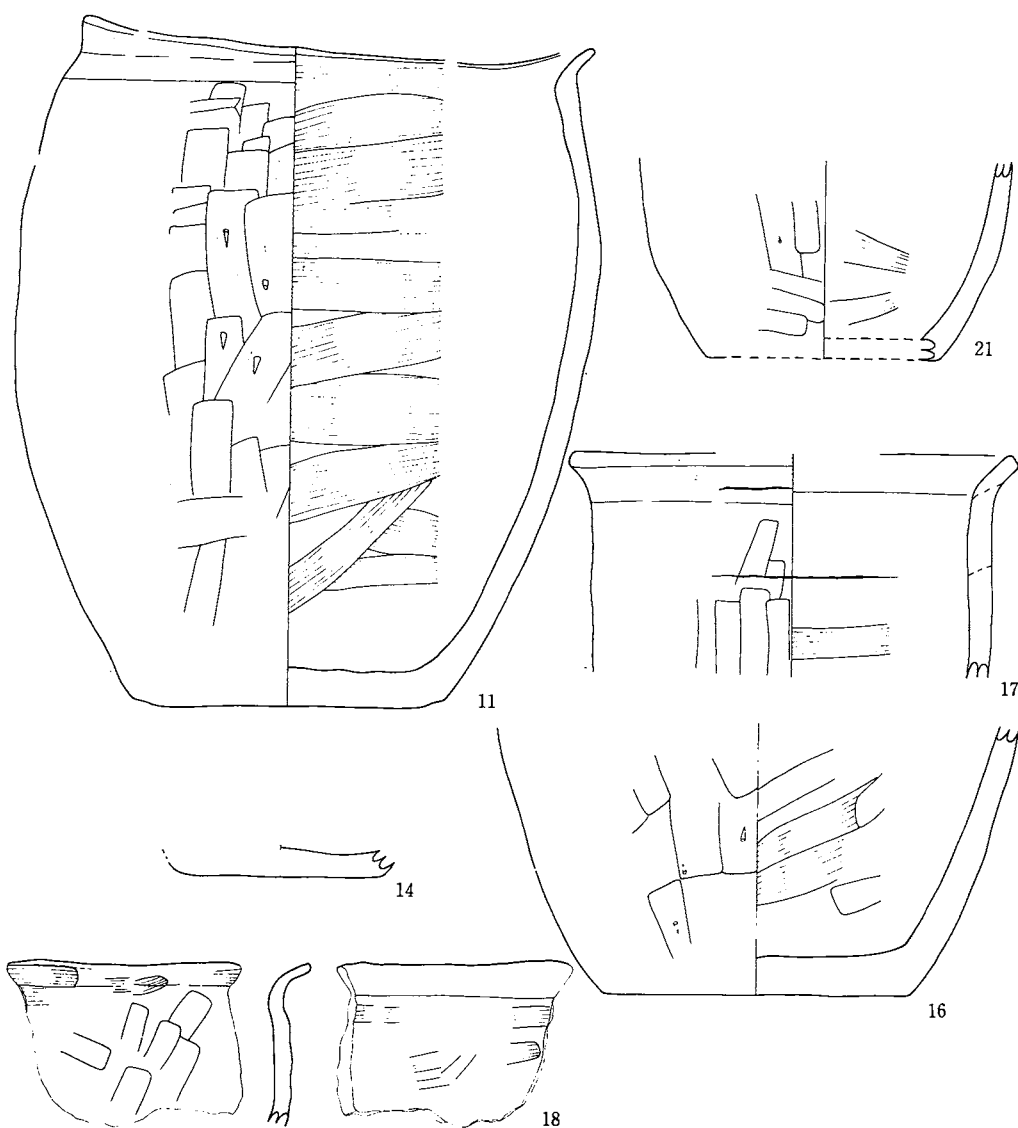


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計 測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|----|---------------------|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|------|-------|----------|-----|-------|------|---|------|
| | | | 口縁 | 体部(下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 1 | 1住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | — | 有 | 有 | — | 浅黄橙 | 13.0 | 6.0 | 3.4 | I a | ○ | 34 |
| 2 | 1住 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | — | にぶい褐 | 11.2 | 5.5 | 3.4 | I a | ○ | 34 |
| 3 | 1住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | ロクロ | — | 浅黄橙 | — | — | — | I | — | 34 |
| 4 | 1住 P ₂ 底 | 坏 | — | ロクロ | 回・糸 | — | ミガキ | ミガキ | 内 | にぶい黄褐 | — | 6.2 | [2.8] | II a | ○ | 34 |
| 5 | 1住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ナデ | 内 | 浅黄橙 | 13.1 | 5.3 | 4.2 | II a | ○ | 34 |
| 6 | 1住 カマド | 台付坏 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | 有 | 有 | 有 | — | にぶい黄褐 | 13.4 | 9.2 | 5.1 | I | ○ | 34 |
| 7 | 1住 2層 | 台付坏 | — | ロクロ | 回・糸 | — | ミガキ | ミガキ | 内 | にぶい褐 | — | 6.0 | [3.7] | II | ○ | 34 |
| 8 | 1住 埋土 | 台付坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | — | 浅黄橙 | — | — | [2.1] | I | — | 34 |
| 9 | 1住 床 | 甕 | ナデ | ケズリ | ナデ | ハケメ | ハケメ | ハケメ | — | 浅黄橙 | 17.0 | 9.7 | 19.0 | B | ○ | 34 |
| 10 | 1住 床 | 甕 | ナデ | ケズリ | 有 | ナデ | ナデ | ナデ | — | にぶい黄 | 9.3 | 7.8 | 11.6 | B | ○ | 34 |

第10図 1号住居跡出土遺物(1)

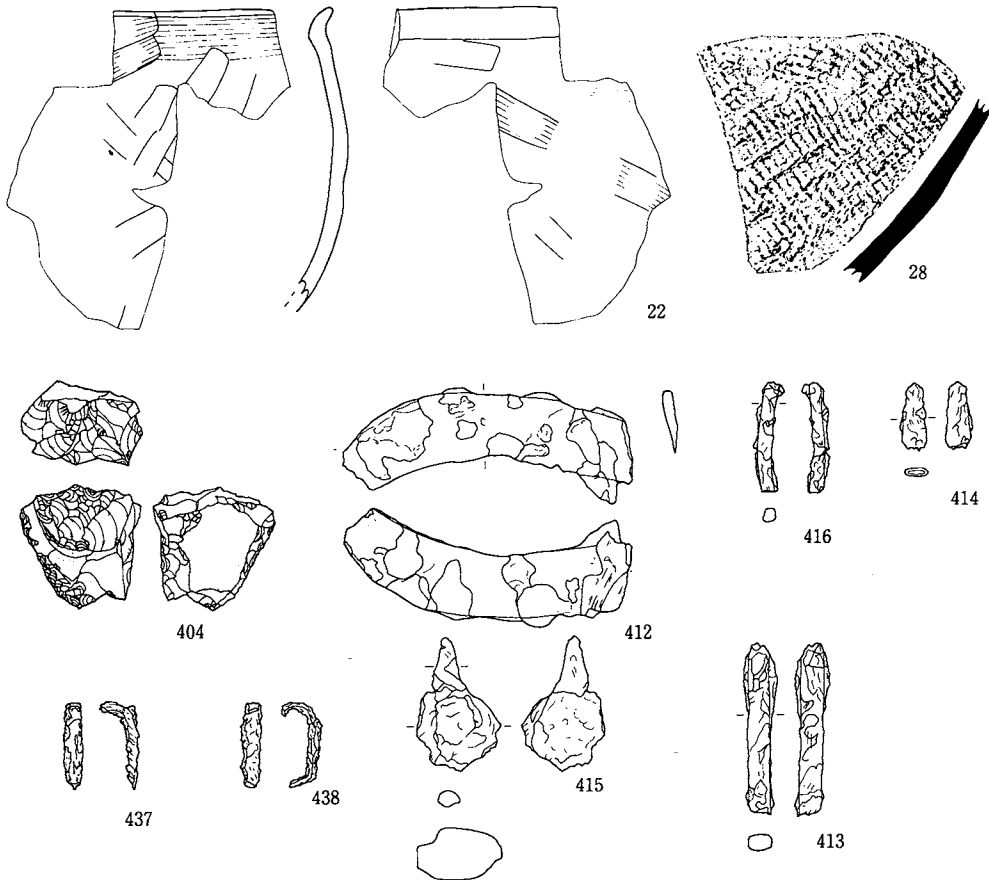


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|----|----------------------|----|----|--------|-----|----|----|----|------|-------|---------|-------|--------|----|---|------|
| | | | 口縁 | 体部(下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 11 | 1住 床 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | ナデ | — | 浅黄橙 | 20.4 | 10.8 | 26.6 | B | ○ | 34 |
| 12 | 1住 床 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | — | にぶい黄橙 | — | — | [7.5] | B | — | 34 |
| 13 | 1住 床 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | — | 褐灰 | — | — | [3.7] | B | — | 34 |
| 14 | 1住 カマド | 甕 | — | — | ナデ? | — | — | ナデ | — | にぶい黄橙 | — | — | 8.0 | B | ○ | 34 |
| 15 | 1住 カマド | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | — | 灰白 | — | — | [8.8] | B | — | 35 |
| 16 | 1住 床 | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | ナデ | — | 浅黄橙 | — | 12.2 | [10.2] | — | ○ | 35 |
| 17 | 1住 カマド | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | — | にぶい橙 | (17.5) | — | [9.0] | B | ○ | 35 |
| 18 | 1住 P ₂ 底 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | — | にぶい黄橙 | — | — | [6.5] | B | ○ | 35 |
| 19 | 1住 P ₂ 埋土 | 甕 | — | — | — | — | — | — | — | 灰白 | — | — | [4.8] | B | — | 35 |
| 20 | 1住 4層 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | — | にぶい橙 | — | — | [3.3] | B | — | 35 |
| 21 | 1住 埋土 | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | — | にぶい橙 | — | (9.2) | [8.1] | — | ○ | 35 |

第11図 1号住居跡出土遺物(2)



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|----|-------|----|----|---------|----|----|----|----|------|---|---------|--------|----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 22 | 1住 埋土 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | 褐灰 | — | — | [12.3] | B | ○ | 35 | |
| 23 | 1住 埋土 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | 褐灰 | — | — | [5.5] | B | — | 35 | |
| 24 | 1住 埋土 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | 褐灰 | — | — | [3.4] | B | — | 35 | |
| 25 | 1住 埋土 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | 灰 | — | — | [2.6] | B | ○ | 35 | |
| 26 | 1住 埋土 | 甕 | — | ケズリ | — | ナデ | — | — | 灰 | — | — | [2.1] | B | — | 35 | |
| 27 | 1住 3層 | 甕 | — | — | — | ナデ | — | — | 灰 | — | — | — | — | — | 35 | |
| 28 | 1住 埋土 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | ナデ | — | 灰 | — | — | — | — | ○ | 35 | |

石器類

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 計測 (cm, g) | | | | 石 | 材 | 写真図版 |
|-----|--------|----|------------|-----|-----|----|----|---|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | | |
| 404 | 1号住 埋土 | 石核 | 5.0 | 5.0 | 3.4 | 70 | 玉髓 | ○ | 51 |

鉄製品

| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計測 (cm, g) | | | | 図 | 写真図版 |
|-----|---------|----|------------|-----|-----|------|---|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | |
| 412 | 1住 床 | 鎌 | 11.5 | 2.7 | 0.4 | | ○ | 52 |
| 413 | 1住 P66層 | | 7.0 | 1.3 | 0.7 | 8.8 | ○ | 52 |
| 414 | 1住 P66層 | | 2.6 | 1.1 | 0.3 | 0.9 | ○ | 52 |
| 415 | 1住 床 | | 5.3 | 3.4 | 2.0 | 18.5 | ○ | 52 |
| 416 | 1住 カマド | | 4.3 | 0.6 | 0.5 | 3.4 | ○ | 52 |

その他

| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計測 | | | | 供考 | 図 | 写真図版 |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|---|------|---|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | | |
| 437 | 1住床 | | 3.5 | 0.8 | 0.4 | | 材質不明 | ○ | 53 |
| 438 | 1住床 | | 3.5 | 0.8 | 0.5 | | 材質不明 | ○ | 53 |

第12図 1号住居跡出土遺物(3)

〈その他〉404 は玉髓の石核である。412～416 が鉄製品で412 が鎌である他は不明の製品である。437・438 は材質・性格ともに不明である。

2号住居跡

遺構（第13図、写真図版5）

〈検出〉調査区の南側に位置し、IG、IH区にまたがっている。本遺跡の住居跡では最も滝名川に近い位置にある。耕作土除去後、カマドの構成礫と黒褐色の広がり「南」のⅢ層で検出されている。西壁に沿った幅約50cmをのぞけば、一部に3cm程の埋土が残っている他は床面がほぼ露出していた。

〈形状・規模〉平面形は隅丸方形だが、カマドのある東壁北端が半円形に張り出している。この方向に煙道が伸びていたと考えられる。規模は、床面で南北3.2m、東西3.3mである。耕作土除去の際、西側を若干下げすぎたため壁高は東壁で16cm、西壁で3cmと西壁が低くなっている。東壁はやや外傾しながら立ち上がる。

〈埋土〉暗褐色土粒を含む黒褐色土から成り、暗褐色土粒のため全体的には周囲の「南」のⅢ層よりやや明るく見える。他の住居跡においても埋土中に同様の土粒を含む。人為的な堆積とは認められず、自然堆積と考えられる。

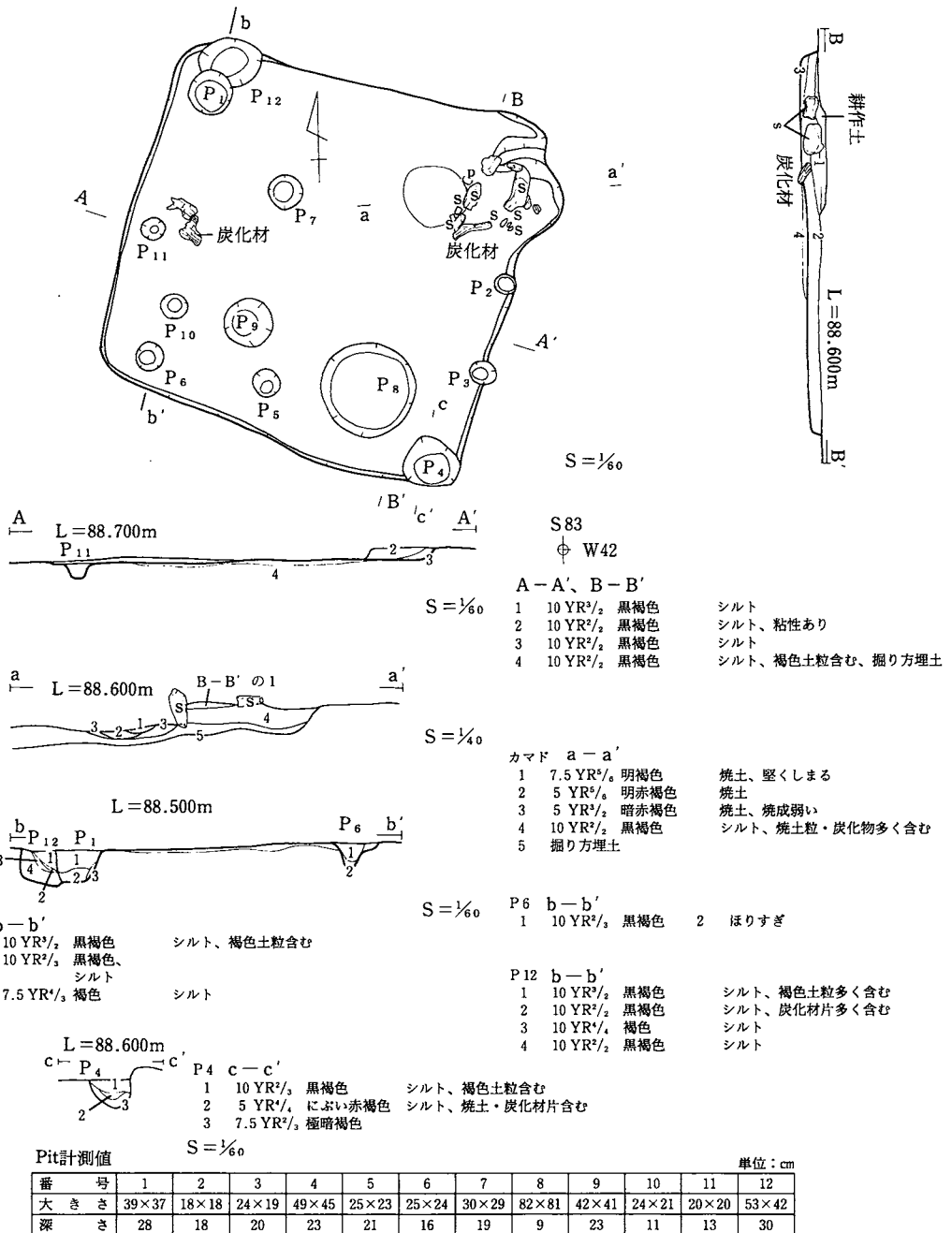
〈床〉床面は平坦でほぼ水平である。床面のカマド周辺で炭化材、西側に炭化物の分布が認められることから焼失住居跡の可能性が高い。貼り床であり、褐色土粒を含む黒褐色土で床が構築されている。

〈柱穴・土坑〉P1～P12まで検出されている。P2・P3・P7・P9が深さ20cm前後と揃っており、柱穴と考えられる。他は性格不明である。P2・P3は東壁際にあり、東壁の長さの割に間隔が狭い。P4の中には3～4cmの円礫が入っているが住居跡の周囲にも同様の円礫が見られる。P8は浅い皿状の凹みで、床面の構築土とよく似た埋土だが、5mm程の大きさの炭化材を含んでいる。不均質な土で人為的に埋められたと考えられる。

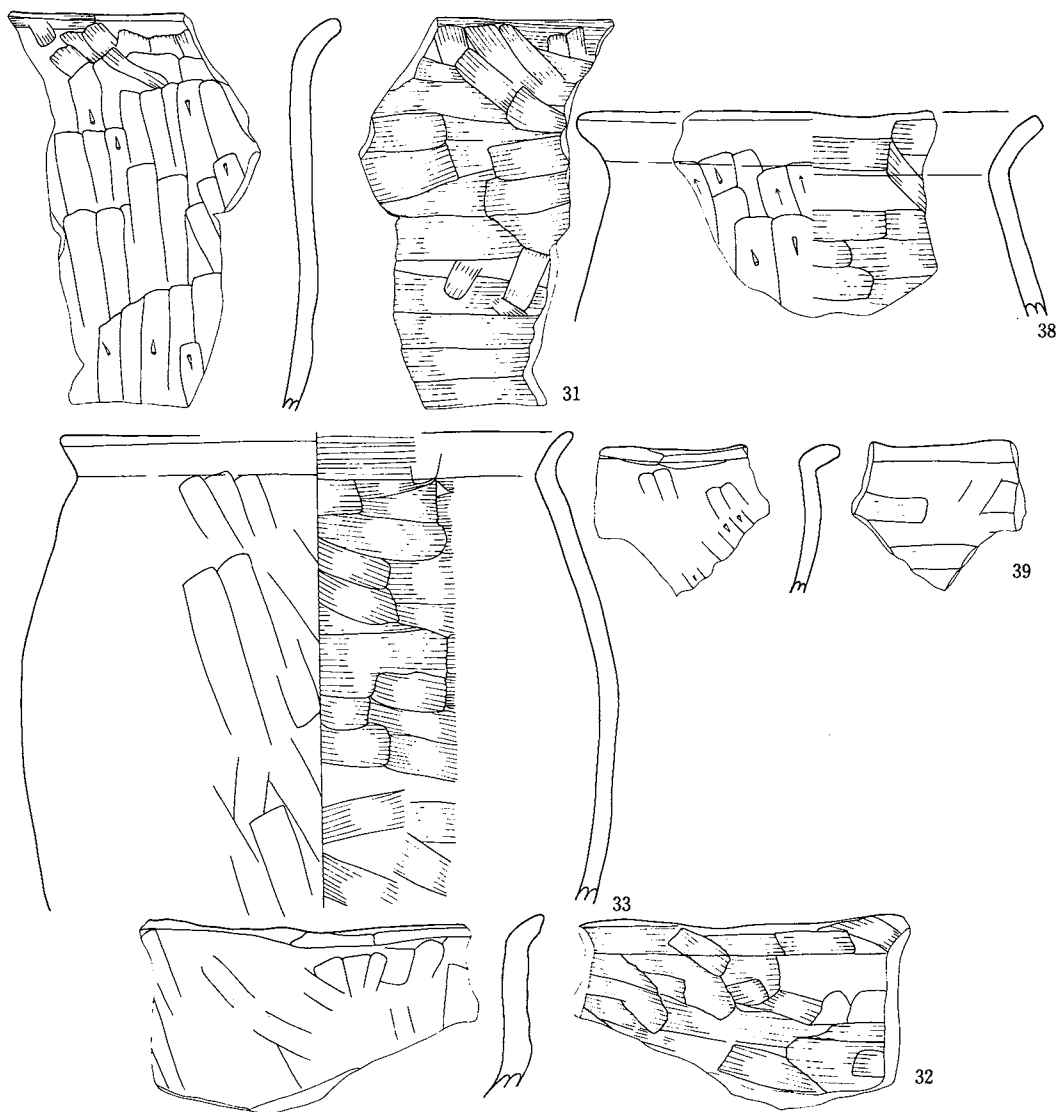
〈カマド〉東壁の北端にあり残存状況は悪いが、角礫を芯にして構築していたと考えられる。燃烧部の焼土の範囲は57×52cm、厚さ8cmであり、東隣に長さ25cm程の扁平な礫が垂直に立っている。若干めり込んで埋まっているようにも見えたが、本来この位置にあったとすると東側に伸びていたと考えられる煙道と燃烧部を分断することになるため、天井を構成していた礫が落下したのと考えられる。

遺物（第14図、写真図版35・36）

〈土器〉29～40が出土している。坏は2点で他はすべて甕である。須恵器はない。甕のうち31・38・39は砂あるいは10mm以下の小礫を胎土中に多く含む。



第13図 2号住居跡

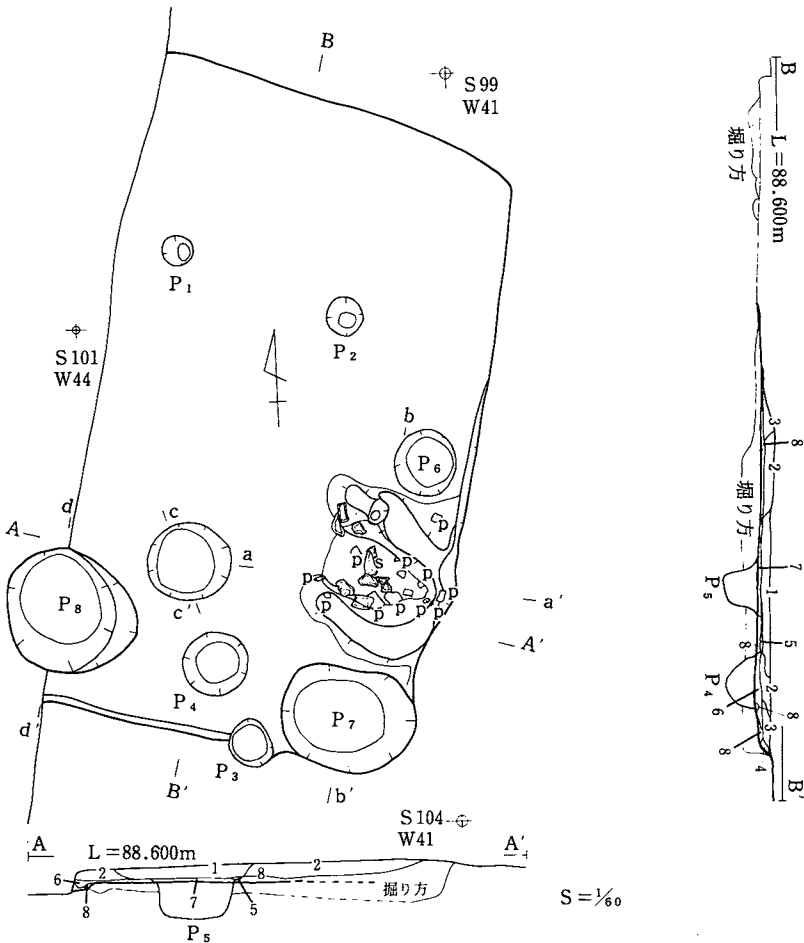


土器

遺物観察表

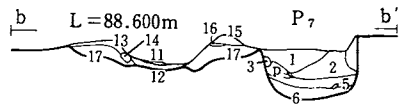
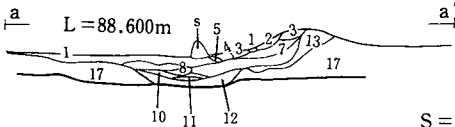
| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|----|-------------------|----|----|---------|-----|----|----|----|-------------|---|---------|--------|-----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 29 | 2住 床 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・系 | — | 有 | | にぶい楊 | | | [1.5] | I a | — | 35 | |
| 30 | 2住 埋土下部 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・系 | — | 有 | | にぶい楊 | | | [1.3] | I a | — | 35 | |
| 31 | 2住 床 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | にぶい黄橙 | | | [15.7] | B | ○ | 35 | |
| 32 | 2住 床 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | にぶい黄橙 | | | [7.4] | B | ○ | 35 | |
| 33 | 2住 床 | 甕 | | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | にぶい黄橙(20.5) | | | [20.2] | B | ○ | 35 | |
| 34 | 2住 床 | 甕 | | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | 灰黄橙 | | | [5.3] | B | — | 36 | |
| 35 | 2住 床 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | 灰黄橙 | | | [5.0] | B | — | 36 | |
| 36 | 2住 床 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | にぶい黄橙 | | | [3.7] | B | — | 36 | |
| 37 | 2住 カマド | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | ナデ | — | にぶい橙 | | | [4.8] | B | — | 36 | |
| 38 | 2住 P ₃ | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | にぶい黄橙 | | | [8.1] | B | ○ | 36 | |
| 39 | 2住 埋土下部 | 甕 | | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | にぶい楊 | | | [6.1] | B | ○ | 36 | |
| 40 | 2住 埋土下部 | 甕 | | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | にぶい橙 | | | [4.1] | B | — | 36 | |

第14図 2号住居跡出土遺物



A-A', B-B'

| | | | | | | | |
|---|-----------------------------------|-----|----------------|---|------------------------------------|-----|-------------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒・炭化物含む | 5 | 10 YR ⁴ / ₆ | 褐色 | シルト、焼土粒・炭化物含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒少量含む | 6 | 7.5 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化物・褐色土ブロック含む |
| 3 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒含む | 7 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、黄褐色粘土・褐色土ブロック・焼土粒含む |
| 4 | 10 YR ² / ₁ | 黒色 | シルト、炭化物微量含む | 8 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、黒色土ブロック含む |



カマド a-a', b-b'

| | | | |
|---|------------------------------------|------|--|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・黄褐色土ブロック含む |
| 3 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルトと10 YR ² / ₃ 暗褐色土シルトの混合 |
| 4 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、焼土ブロック含む |
| 5 | 7.5 YR ⁴ / ₆ | 褐色 | 粘土 |
| 6 | 7.5 YR ² / ₁ | 黒色 | シルト、焼土粒微量含む |
| 7 | 7.5 YR ² / ₂ | 黒褐色 | 粘土質シルト、焼土多く含む |
| 8 | 5 YR ² / ₃ | 暗赤褐色 | 粘土質シルト |

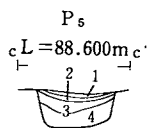
S=1/40

| | | | |
|----|------------------------------------|--------|-----------------|
| 9 | 5 YR ² / ₂ | 暗赤褐色 | シルト |
| 10 | 5 YR ² / ₂ | 暗赤褐色 | シルト、焼土粒含む |
| 11 | 5 YR ² / ₄ | 暗赤褐色 | 焼土 |
| 12 | 7.5 YR ² / ₆ | 暗赤褐色 | 焼土 |
| 13 | 7.5 YR ² / ₄ | 黒褐色 | シルト、焼土粒含む |
| 14 | 7.5 YR ² / ₁ | 黒褐色 | シルト、礫の抜き取り痕 |
| 15 | 10 YR ² / ₄ | にぶい黄褐色 | 粘土、黒褐色シルトブロック含む |
| 16 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 17 | 5 YR ² / ₂ | 黒色 | シルト、掘り方埋土 |

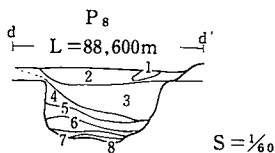
P7 b-b'

| | | | |
|---|------------------------------------|-----|-----------------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 3 | 10 YR ² / ₄ | 褐色 | シルト |
| 4 | 7.5 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック含む |
| 5 | 7.5 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、炭化材片・焼土多く含む |
| 6 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒・焼土粒含む |

第15図 3号住居跡(1)



- P5 c-c'
- | | | | |
|---|-----------------------------------|------|---------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₅ | 明黄褐色 | 粘土、焼土粒含む |
| 2 | 10 YR ² / ₁ | 黒色 | シルト、暗褐色土ブロック含む |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒含む、焼土粒微量含む |
| 4 | 5 YR ² / ₃ | 暗赤褐色 | シルト、黒褐色土・焼土粒含む |



- P8 d-d'
- | | | | |
|---|------------------------------------|-----|---------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック多く含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・褐色土粒微量含む |
| | | | 下部に黄褐色粘土小礫・炭化材片多く含む |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 4 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒多く含む |
| 5 | 10 YR ² / ₁ | 黒色 | シルト、褐色土粒微量含む |
| 6 | 10 YR ² / ₁ | 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック含む |
| 7 | 7.5 YR ² / ₁ | 黒色 | シルト |
| 8 | 7.5 YR ² / ₁ | 黒色 | シルト、焼土・炭化物多く含む |

Pit計測表

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|
| 大きさ | 24×24 | 31×28 | 39×34 | 52×49 | 69×64 | 52×49 | 107×81 | 110×100 |
| 深さ | 25 | 49 | 20 | 25 | 30 | 26 | 40 | 58 |

単位：cm

第16図 3号住居跡(2)

3号住居跡

遺構（第15・16図、写真図版6）

〈検出〉 I H 区のほぼ中央に位置し、耕作土除去後、VI層の褐色土中に黒褐色土の広がりとして検出された。西側の一部は削平され失われている。

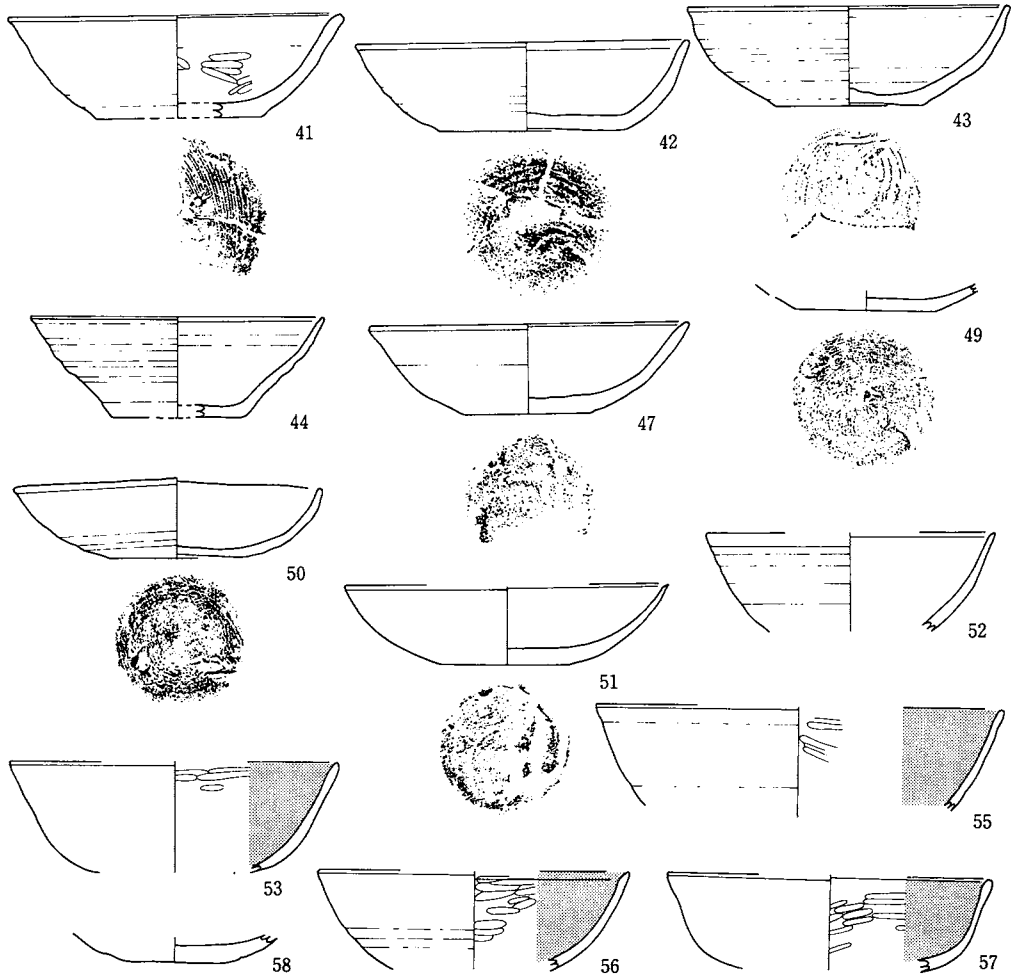
〈形状・規模〉 西壁が失われているが、平面形は方形あるいは長方形になると考えられる。床面の規模は南北は5.3mあり、東西は3mが残存している。P1・P2から北側の約1/3は床面が削られて地山が露出している。ただ、北縁に床面の構築土が残存しており、ここから北側の範囲を決定している。

壁は北・西側は残っていない。残っている南壁は壁高12cmでやや外傾しながら立ち上がる。〈埋土〉 主に黒褐色土から成り褐色土粒を含む。埋土の下部や壁際、土坑の埋土中には炭化物や焼土粒が含まれていることから焼失住居の可能性が高い。人為的に埋め戻された痕跡は認められず自然堆積と考えられる。

〈床〉 貼り床であり、床面は水平でほぼ平坦である。床は暗褐色土粒を含む黒色土で構築されており、北壁際でやや厚くなっている。全体にやや堅いが、とくにカマドの西隣～中央部が特に堅く締っている。

〈柱穴・土坑〉 P1～P8が検出されている。削平を受けている西側はP8を除き柱穴・土坑等は検出されていない。P1・P2・P3が柱穴と考えられ、P3が南壁際に位置するが、対応する位置であるP8の南隣には検出されなかった。

P8は埋土の2層下部に黄褐色粘土や焼土・炭化材の破片があり、3～8層は褐色土ブロック等を含み、人為的な埋め戻しと考えられる。2層下部の焼土・炭化材は住居の焼失時に生じた

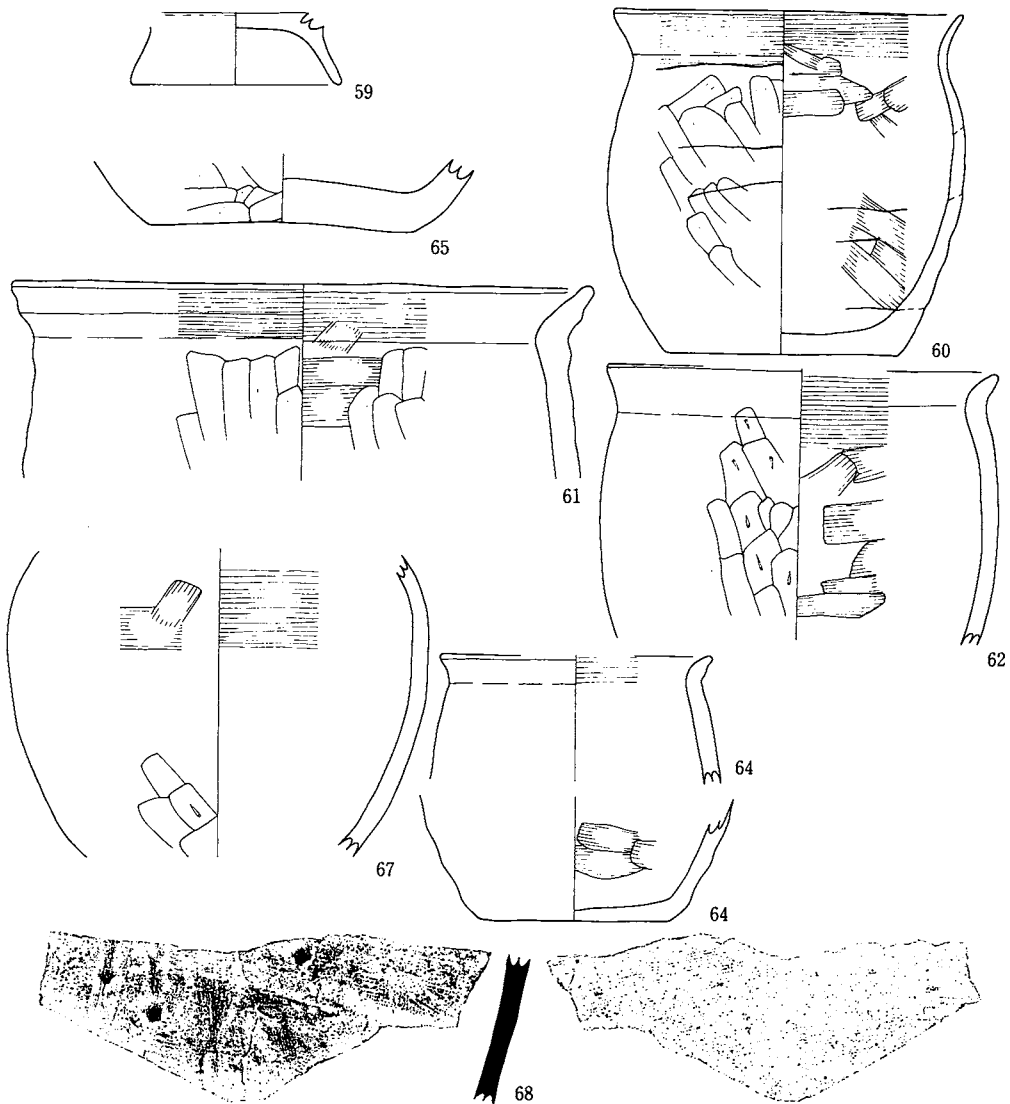


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|----|------------------------|----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|--------|-----------|---------|-------|-------|------|---|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 41 | 3住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | | 灰黄 | 13.3 | 6.7 | 4.2 | I a | ○ | 36 |
| 42 | 3住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ () | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | 13.3 | 7.2 | 3.6 | I a | ○ | 36 |
| 43 | 3住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 灰黄 | 12.8 | 5.8 | 4.1 | I a | ○ | 36 |
| 44 | 3住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 灰黄 (11.8) | (11.8) | (5.2) | 4.1 | I a | ○ | 36 |
| 45 | 3住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | | | 3.5 | I a | — | 36 |
| 46 | 3住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 橙 | | | [4.3] | I | — | 36 |
| 47 | 3住 P ₂ 層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | | 有 | 有 | | 浅黄橙 | 12.8 | 5.1 | 3.7 | I a | ○ | 36 |
| 48 | 3住 P ₂ 層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 灰黄 | | | 3.3 | I a | — | 36 |
| 49 | 3住 P ₂ 層 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | ロクロ | ロクロ | | 橙 | | 5.4 | [1.2] | I a | ○ | 36 |
| 50 | 3住 P ₂ 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | 12.4 | 5.3 | 2.8 | I a | ○ | 36 |
| 51 | 3住 P ₂ 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 灰黄 (13.0) | (13.0) | 5.2 | 3.2 | I a | ○ | 36 |
| 52 | 3住 P ₂ 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 橙 (11.6) | | | [4.0] | I | ○ | 36 |
| 53 | 3住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ミガキ | ミガキ | — | 内 | 灰黄 | | | [4.5] | II | ○ | 36 |
| 54 | 3住 床 | 坏 | — | ロクロ | 回・糸 | — | ミガキ | ミガキ | 内 (部分) | 灰黄 | | | [2.1] | II a | — | 36 |
| 55 | 3住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ミガキ | ミガキ | — | 内 | 灰黄 | | | [4.0] | II | ○ | 36 |
| 56 | 3住 P ₂ 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ミガキ | ミガキ | — | 内 | 灰黄 (12.5) | (12.5) | | [4.0] | II | ○ | 36 |
| 57 | 3住 P ₂ 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ミガキ | ミガキ | — | 内 | 橙 | | | | II | ○ | 36 |
| 58 | 3住 床 | 坏? | — | — (ロクロ) | ケズリ | — | — | ロクロ | | 灰黄 | | (5.2) | [1.1] | I a | ○ | 36 |

第17図 3号住居跡出土遺物(1)



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|----|------------------------|-----|----|---------|-----|----|----|-----|------|--------------|---------|------|---------------------|----|---|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 59 | 3住 カマド | 台付坏 | — | — | ロクロ | — | — | ミガキ | 内 | 橙 | | 8.4 | [2.8] | II | ○ | 36 |
| 60 | 3住 床 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | ナデ | — | 橙 | 14.1 | 9.2 | 13.8 | B | ○ | 36 |
| 61 | 3住 床 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | — | にふい橙 (23.2) | | | [7.7] | B | ○ | 36 |
| 62 | 3住 カマド | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | — | にふい黄緑 (15.7) | | | [11.0] | B | ○ | 37 |
| 63 | 3住 カマド | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | — | 橙 | | | [23.0] | — | — | 37 |
| 64 | 3住 カマド | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | ナデ | ナデ | — | 橙 | (10.8) | 7.4 | ロ底 [5.1] 底 [5.0] | B | ○ | 37 |
| 65 | 3住 カマド | 甕 | — | — (ケズリ) | — | ナデ | ナデ | — | — | にふい褐 | | 10.7 | [2.6] | — | ○ | 37 |
| 66 | 3住 カマド | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | — | 橙 | (13.0) | | [4.2] | B | — | 37 |
| 67 | 3住 カマド | ? | — | — | — | — | ナデ | — | — | 灰白 | | | [12.0] | — | ○ | 37 |
| 68 | 3住 P ₂ 埋土下部 | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | — | 灰 | | | | — | ○ | 37 |

第18図 3号住居跡出土遺物(2)

ものと考えられる。

P 5 は埋土中には焼土粒が含まれ、その最上部はカマドに使われているのと類似した明黄褐色の粘土で覆われている。人為的に埋め戻され粘土で覆われたものであるが、その性格は不明である。

〈カマド〉 東壁の南寄りに位置する。煙道はほとんど残っておらず形状は不明であるが、東側に延びていたと考えられる。袖部は一部角礫を芯にして黒褐色土で構築し、それにのび黄褐色の粘土をかぶせている。袖部の幅は1.4 m とかなり大きい。燃焼部の焼土の範囲は60×60 cm で厚さ6 cm である。燃焼部の中央には支脚となる細長い礫が縦に埋め込まれている。

遺物（第17・18図、写真図版36・37・52）

〈土器〉41～68までが出土している。坏・台付坏が19点、甕が7点、不明が2点である。この内、須恵器は不明が1点である。52の坏は焼成良好で堅く焼きしまっている。54の坏の内面の黒色処理は部分的である。62の甕は二つの破片に分れ、胎土中には砂と小礫を多く含む。68の須恵器の内面のナデはハケメに近く、横方向である。外面には自然釉が認められる。

〈その他〉鉄滓が1点（417）カマドの北側から出土している。

4号住居跡

遺構（第19図、写真図版7）

〈検出〉調査区の南側のⅠⅠ区にあり、北西隣に15号住居跡がある。「南」のⅢ層上面で暗褐色土粒を含む黒褐色土の広がりとして検出された。

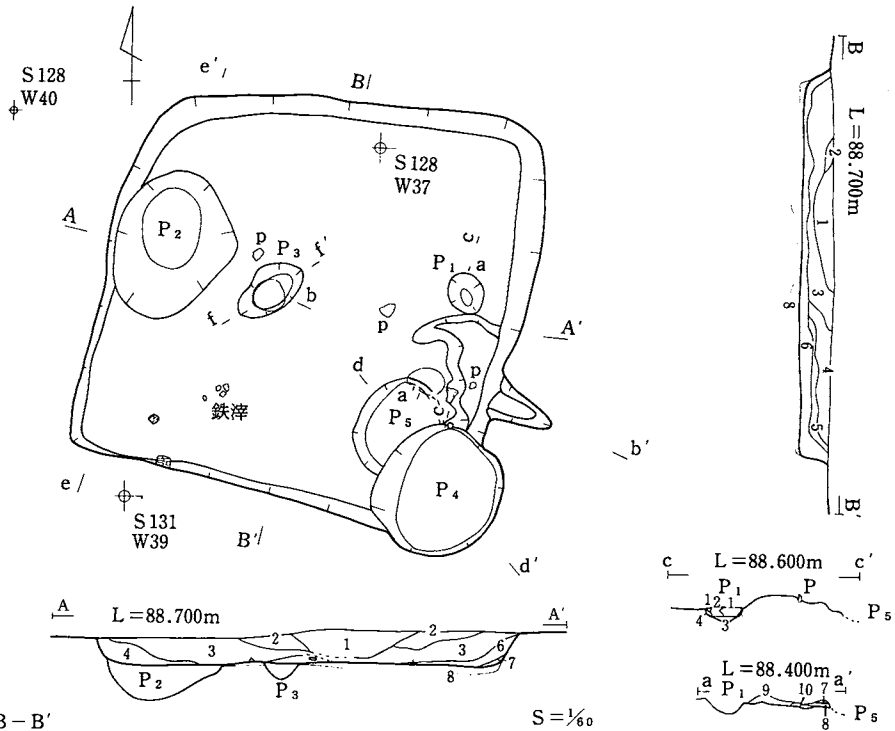
〈形状・規模〉平面形は隅丸方形であるが、東辺がやや長くなり南東隅が住居内の土坑のためやや張り出す。床面の規模は南北3.0 m、東西3.1 m である。壁はやや外傾しながら立ち上がり、壁高は25～30 cm である。比較的残りの良い住居跡である。

〈埋土〉暗褐色～黒褐色土から成り、7層に分れる。床面直上の6層は南半部を中心に焼土粒を多く含んでいる。住居の焼失も考えられるがP 3の焼土との関連も考慮する必要がある。人為的な埋め戻しの痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

〈床〉黒褐色土で構築されている。床面はほぼ水平で平坦である。埋土よりは堅く締るが顕著ではない。南西部を中心に炭化物が分布し、鉄滓も出土している。

〈柱穴・土坑〉P 1～P 5まで検出されているが、柱穴は確認できなかった。P 4の埋土は主に黒褐色土であるが、褐色土ブロックを含む10層以下については人為的に埋め戻された可能性がある。

P 3の底部中央には還元状態で焼成されたと考えられる黒褐色の堅い焼土があり、その周囲はやや柔らかい暗赤褐色の焼土になっている。焼土はほぼ円形で直径26 cm 厚さ6 cm である。このP3の南西側には炭化物・鉄滓等が分布している。



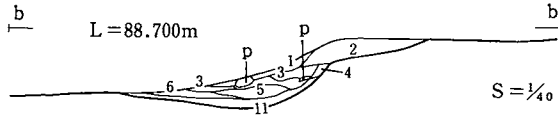
A-A', B-B'

- | | | | |
|---|-----------------------------------|-----|----------------|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 2 | 10 Y ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 3 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒含む |
| 4 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、炭化物微量含む |
| 5 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 6 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、南半で焼土粒多く含む |
| 7 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 8 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、掘り方埋土 |

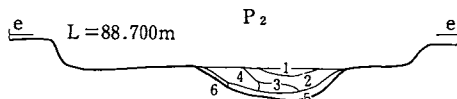
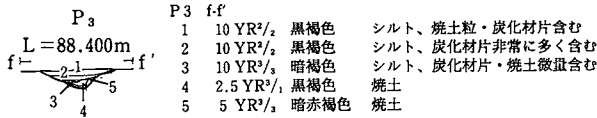
S = 1/60

カマド a-a', b-b'

- | | | | |
|----|------------------------------------|------|------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化材片・焼土粒少量含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 3 | 10 YR ² / ₄ | 暗褐色 | シルト |
| 4 | 5 YR ² / ₄ | 暗赤褐色 | シルト |
| 5 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化材片含む |
| 6 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 7 | 7.5 YR ² / ₆ | 明褐色 | 焼土 |
| 8 | 7.5 YR ² / ₄ | 暗褐色 | 焼土 |
| 9 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 10 | | | 掘り方埋土 |
| 11 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化材片少量含む |



S = 1/40



P1 c-c'

- | | | | |
|---|------------------------------------|-----|------------------|
| 1 | 7.5 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化材片多く含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化材片含む |
| 4 | | | ほりすぎ |

P2 e-e'

- | | | | |
|---|-----------------------------------|-----|-----------------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒多く含む |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、黒褐色土粒多く含む |
| 4 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック多く含む |
| 5 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、褐色土粒含む |
| 6 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |

P4 d-d'

- | | | | |
|---|-----------------------------------|-----|----------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒多く含む、炭化材片含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒少量含む |
| 4 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒含む |
| 5 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 6 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒少量含む |

- | | | | |
|----|-----------------------------------|-----|-------------------------------|
| 7 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒多く含む |
| 8 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒含む |
| 9 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒含む |
| 10 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック多く含む、下部に炭化材片・焼土粒含む |
| 11 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒少量含む |
| 12 | 10 YR ² / ₄ | 暗褐色 | シルト |

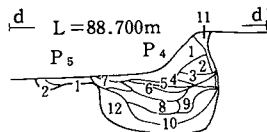
P5 d-d'

- | | | | |
|---|-----------------------------------|-----|-------------|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、土粒含む |
| 2 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、焼土粒多く含む |

Pit計測値

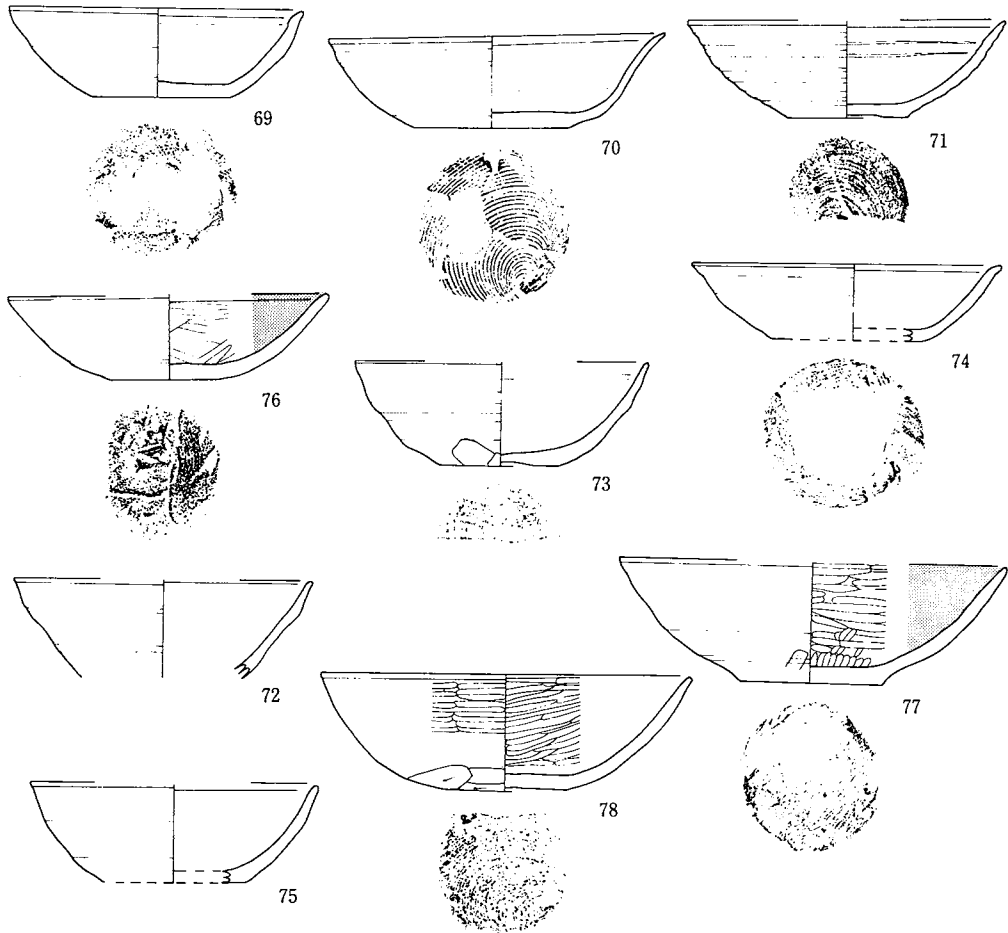
単位cm

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----|-------|--------|-------|--------|---------|
| 大きさ | 34×26 | 120×96 | 60×36 | 105×95 | 80×(70) |
| 深さ | 12 | 26 | 8 | 48 | 9 |



S = 1/60

第19図 4号住居跡



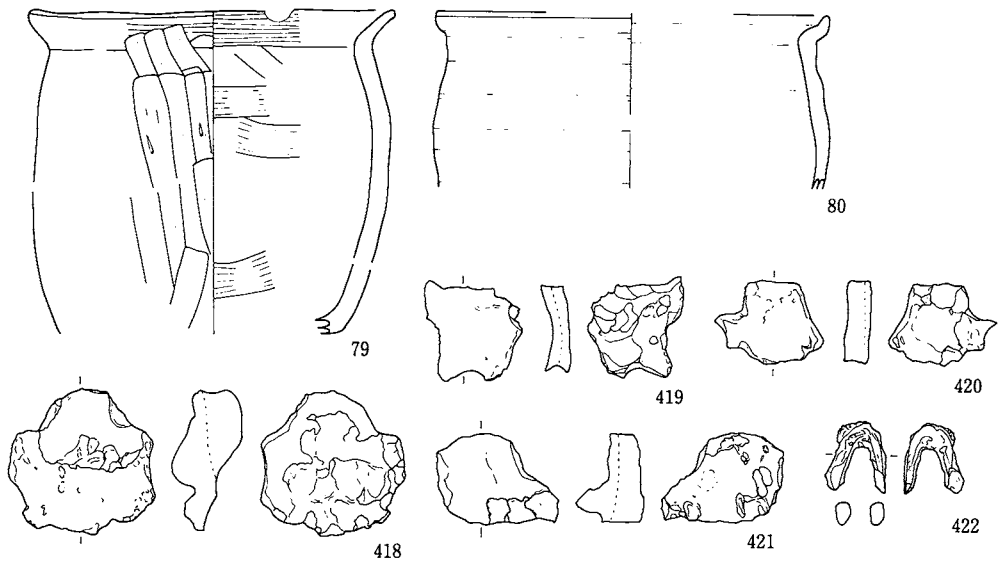
土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図録 |
|----|---------|----|-----|-----------|-----|-----|-----|-----|------|------|---------|-------|-------|------|---|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 69 | 4住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 浅黄橙 | 11.8 | 5.6 | 4.5 | I a | ○ | 37 |
| 70 | 4住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい橙 | 13.5 | 6.3 | 3.8 | I a | ○ | 37 |
| 71 | 4住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 浅黄橙 | (12.8) | 5.0 | 3.9 | I a | ○ | 37 |
| 72 | 4住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | にぶい橙 | (12.0) | | [4.0] | I a | ○ | 37 |
| 73 | 4住 P.9層 | 坏 | ロクロ | ロクロ (ケズリ) | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | | | 淡黄 | (11.9) | 4.9 | 4.2 | I b | ○ | 37 |
| 74 | 4住 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい橙 | 12.4 | 6.2 | 3.1 | I a | ○ | 37 |
| 75 | 4住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | | (5.6) | 4.1 | I a | ○ | 37 |
| 76 | 4住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ (有) | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 | にぶい橙 | (13.0) | 4.5 | 3.4 | II b | ○ | 37 |
| 77 | 4住 P.埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 | にぶい橙 | (15.5) | 5.6 | 4.9 | II a | ○ | 37 |
| 78 | 4住 床 | 坏 | ミガキ | ミガキ (ケズリ) | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 | 橙 | (15.0) | 5.0 | 4.6 | II b | ○ | 37 |

第20図 4号住居跡出土遺物(1)

〈カマド〉東壁の中央やや南よりに設けられており、つぶれた状態で検出された。袖部は黒褐色土で構築されるが、南側はP 4・P 5によって挟れている。袖部の幅は92 cm、燃烧部の焼土



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|----|---------|----|-----|---------|----|-----|----|----|------------|--------|---------|-------|----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 79 | 4住 床 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | 橙 | 14.7 | 11.0 | 13.0 | B | ○ | 37 | |
| 80 | 4住 床 | 甕 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ナデ | — | 淡橙 | [15.8] | | [7.0] | A | ○ | 37 | |
| 81 | 4住 埋土6層 | 甕 | ロクロ | — | — | ロクロ | — | — | こぶ・貴器 | | | [4.3] | A | — | 38 | |
| 82 | 4住 埋土下部 | 深鉢 | — | — | — | — | ナデ | — | 外・黒濁内・にぶい橙 | | | | 細文 | — | 38 | |
| 83 | 4住 埋土 | 深鉢 | — | — | — | — | ナデ | — | | | | | 細文 | — | 38 | |

鉄製品・鉄滓

| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計測 (cm, g) | | | | 図 | 写真図版 |
|-----|-------------------|----|------------|-----|-----|------|---|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | |
| 418 | 4住 床 | 鉄滓 | 5.7 | 5.7 | 2.7 | 53.7 | ○ | 52 |
| 419 | 4住 床 | 鉄滓 | 3.3 | 4.0 | 1.0 | 13.1 | ○ | 52 |
| 420 | 4住 床 | 鉄滓 | 4.0 | 3.7 | 0.9 | 11.2 | ○ | 53 |
| 421 | 4住 床 | 鉄滓 | 4.6 | 3.5 | 1.3 | 34.9 | ○ | 52 |
| 422 | 4住 P ₂ | | 2.9 | 2.4 | 0.9 | 5.1 | ○ | 52 |

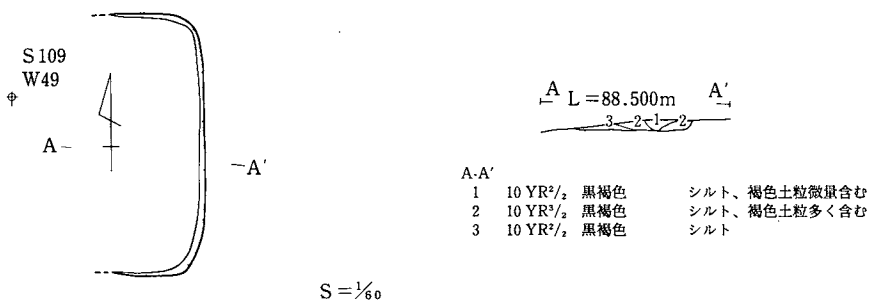
第21図 4号住居跡出土遺物(2)

の範囲は32×23 cm、厚さ4 cmである。P 4・P 5に含まれる焼土・炭化物はこのカマドに由来する可能性がある。煙道は一部残存するのみであり、東側に延びている。本来の形状は明らかでないが、他の住居跡の例からみて掘り込み式と考えられる。

遺物 (第 20・21 図、写真図版 37・38・52)

〈土器〉69～83 が出土している。内訳は坏が 10 点、甕が 3 点、縄文時代の粗製の深鉢 2 点である。深鉢は埋土中から出土したもので本遺構に伴うものではない。71 の坏は内面体部に 2 条の沈線状の線が横方向にめぐる。78 の坏、80 の甕の胎土中には砂が多く含まれる。

〈その他〉器種不明の鉄製品 (422) と鉄滓 (418～421) が出土している。



第22図 5号住居跡

5号住居跡

遺構（第22図、写真図版8）

〈検出〉調査区の南側のIH区に位置する。「南」のIII層で、褐色土粒を含み周囲よりやや明るい黒褐色土の広がりとして検出されている。西半部は失われている。

〈形状・規模〉東半部しか残っていないが、本来の平面形は隅丸方形あるいは隅丸長方形だったと考えられる。規模は南北2mあり、東西は80cmが残っている。

〈埋土〉3層に分れ、黒褐色土に褐色土粒を含む。人為的な埋め戻しなどの痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

〈床〉床面はほぼ水平で平坦である。貼り床ではない。

〈カマド・柱穴等〉内部にカマド・柱穴・土坑等の施設は全く検出されなかった。従って、住居跡ではない可能性がある。

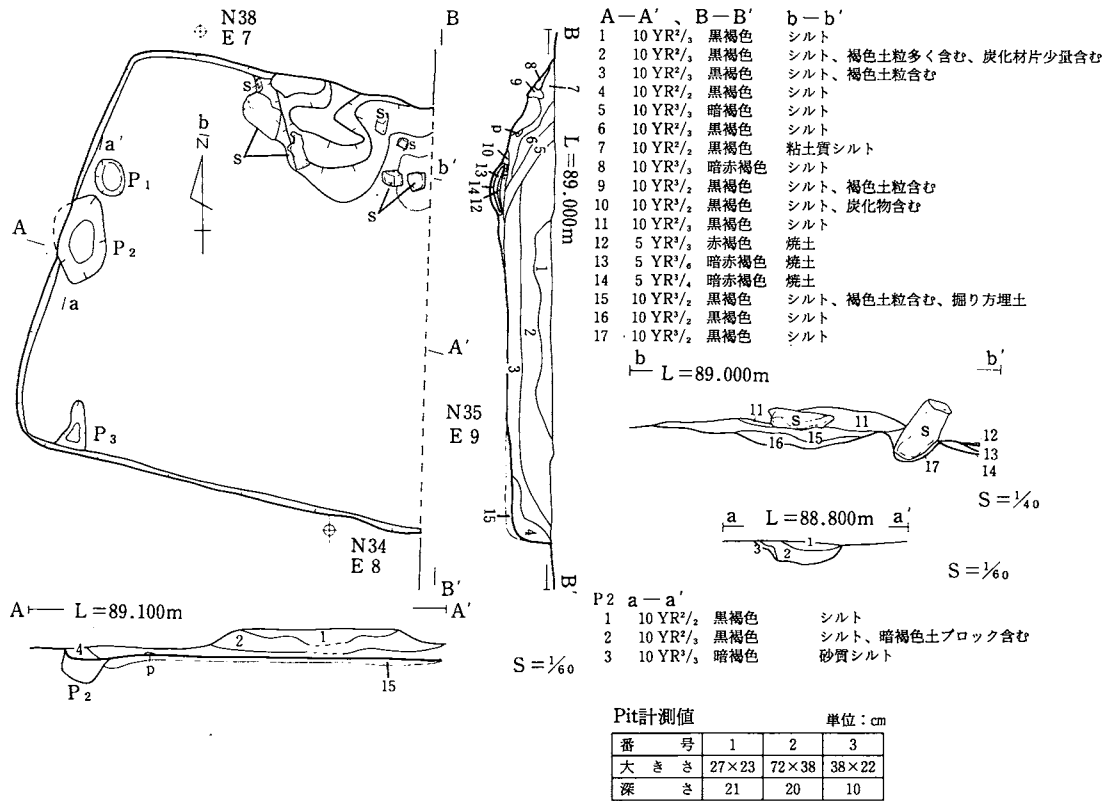
6号住居跡

遺構（第23図、写真図版9）

〈検出〉調査区ほぼ中央のIIE区にあり、耕作土除去後、VI層中の黒褐色土の広がりとして検出された。東端は調査区域外の水田の畦畔下になっているため調査できなかった。しかし、調査区より一段高い水田の畦畔であったため、ここで残りのよい埋土断面を観察することができた。

〈形状・規模〉東端が調査できなかったが平面形は隅丸方形になると考えられる。床面の規模は南北が3.2mあり、東西は少なくとも3.3mある。調査区域外に延びる東端を除き水田造成時に一部削平されており、壁高は西壁が9cm、畦畔の断面に見える南東隅では36cmでほぼ垂直に立ち上がる。

〈埋土〉南北断面は畦畔に見える断面を観察している。カマドの埋土を含み17層に分れる。主に黒褐色土からなり、下半部には褐色土粒が含まれる。人為的な埋め戻しとみられる痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。



第23図 6号住居跡

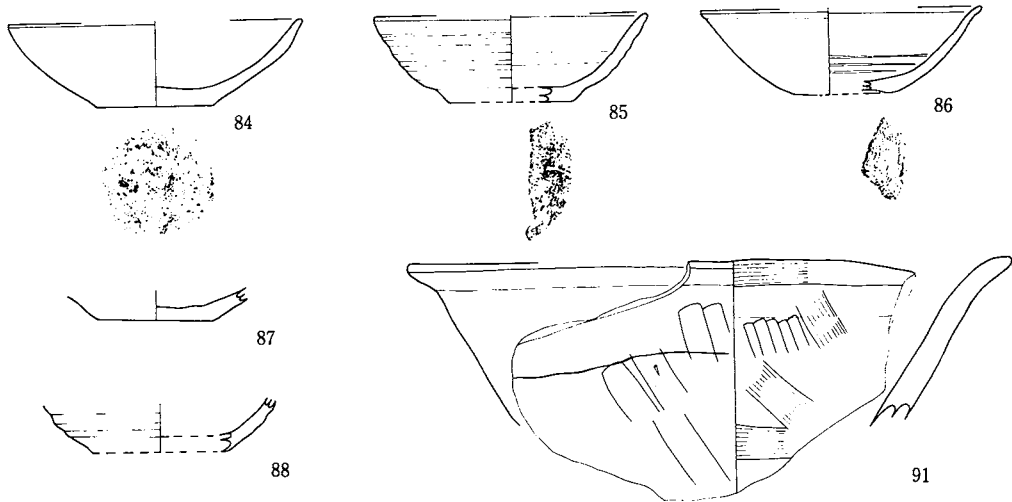
〈床〉VI層まで掘り込んだ後、黒褐色土で床が構築されている。かなり堅くしまっており、床面はほぼ水平で平坦である。

〈柱穴・土坑〉P1～P3が検出されている。P1が柱穴の可能性はあるほか柱穴らしきものは検出されていない。P3の埋土には炭化材片・焼土粒が含まれる。

〈カマド〉畦畔によって観察される断面がちょうどカマドの中央を縦に通っており、ここでカマドの断面が観察される。北壁の東端に設置されている。煙道は燃焼部から緩やかに北に向かって上昇しており、掘り込み式のものである。燃焼部の焼土の直上には扁平な礫がのり、熱を受けて赤変している。また、焼土の左隣には長い角礫が埋め込まれている。

遺物 (第24図、写真図版9)

〈土器〉84～91が出土している。この内訳は坏が7点、埴が1点である。85と88の坏は同一個体の可能性がある。86の坏の内面の体部には横方向に数条の筋がめぐる。



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|----|---------|----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|------|------|---------|-------|-------|-----|---|------|
| | | | 口縁 | 体部(下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 84 | 6住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | (11.9) | 4.7 | 3.4 | I a | ○ | 38 |
| 85 | 6住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい橙 | (11.0) | (4.9) | 3.5 | I a | ○ | 38 |
| 86 | 6住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | (11.2) | (4.1) | 3.4 | I a | ○ | 38 |
| 87 | 6住 カマド | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | | 浅黄橙 | | 4.7 | [1.4] | I a | ○ | 38 |
| 88 | 6住 埋土2層 | 坏 | — | — (ロクロ) | — | — | 有 | — | | 淡黄 | | | [2.2] | I a | ○ | 38 |
| 89 | 6住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 橙 | | | [3.5] | I | — | 38 |
| 90 | 6住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ミガキ | ミガキ | — | 内 | 橙 | | | | II | — | 38 |
| 91 | 6住 カマド | 埴 | ナデ | ケズリ | | ナデ | ナデ | | | にぶい橙 | | | [9.5] | | ○ | 38 |

第24図 6号住居跡出土遺物

7号住居跡

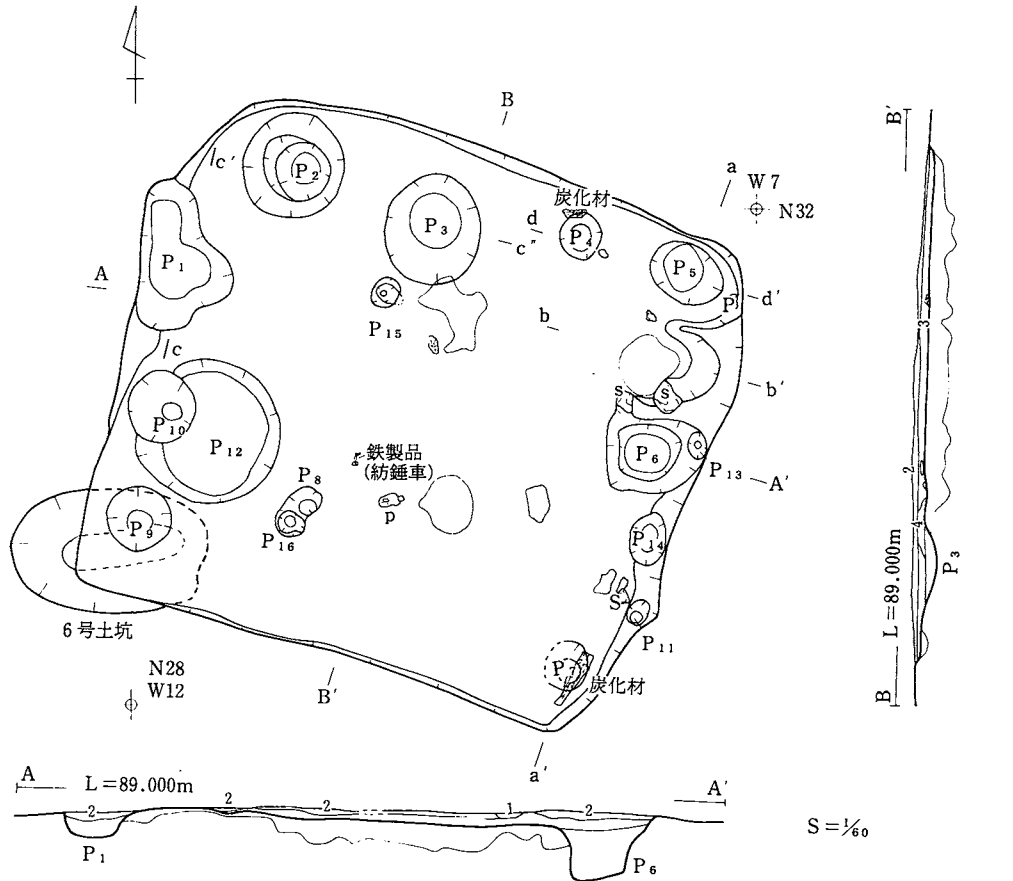
遺構 (第 25・26 図、写真図版 10・11)

〈検出〉調査区ほぼ中央のII E区北西に位置する。耕作土除去後、6号土坑と共にVI層中の炭化材片を含む黒褐色土の広がりとして検出された。水田造成による削平を受けており、西側は一部床面が削られている。6号土坑より7号住居跡が新しい。

〈形状・規模〉平面形は隅丸方形で、床面で東西4.4m、南北4.1mと東西がわずかに長い。壁高は東壁で12cm、西壁はほとんど残存しない。東壁はやや外傾しながら立ち上がる。

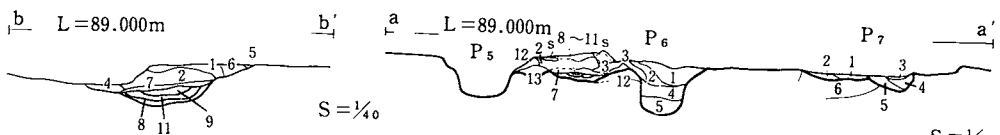
〈埋土〉主に黒褐色土からなり、炭化材片を多く含む。埋土はあまり残っていないが、観察できる範囲では人為的に埋め戻したような状況は認められない。

〈床〉貼り床である。床は暗褐色土で構築される。P 3～P 8付近は削平により地山が露出しており起伏がある。ここから東側の床面はほぼ水平で堅く締っており、床の構築土が一段厚くなっている。この厚くなっている部分はほぼ方形を呈しており住居跡が拡張された可能性がある。P 8の東側は48×38cmの範囲で床面が焼けており、焼土の厚さは1cm程で焼成は余りよくな



A-A'、B-B'

| | | | | | | | |
|---|-----------------------------------|-----|-----------------|---|------------------------------------|-----|-----------------|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、褐色土粒・炭化材片含む | 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化材片非常に多く含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化材片含む | 4 | 7.5 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒多く含む |



カマド a-a'、b-b'

| | | | | | | | |
|---|------------------------------------|-----|---------------------|----|------------------------------------|------|-----------|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、褐色土粒含む、炭化材片少し含む | 7 | 7.5 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化材片含む | 8 | 5 YR ² / ₃ | 赤褐色 | 焼土 |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化材片非常に多く含む | 9 | 5 YR ² / ₃ | 暗赤褐色 | 焼土 |
| 4 | 7.5 YR ² / ₃ | 黒色 | シルト、炭化物多く含む | 10 | 5 YR ² / ₃ | 暗赤褐色 | 焼土 |
| 5 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化物含む | 11 | 5 YR ² / ₃ | 暗赤褐色 | 焼土 |
| 6 | 7.5 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、焼土粒・炭化物含む | 12 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| | | | | 13 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、掘り方埋土 |

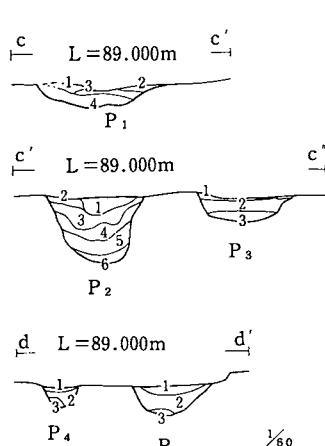
P6 a-a'

| | | | |
|---|-----------------------------------|-----|----------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化材片多く含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒少量含む、炭化材片多く含む |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化材片多く含む |
| 4 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化材片・灰含む |
| 5 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |

P7 a-a'

| | | | |
|---|------------------------------------|------|--------------|
| 1 | 7.5 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、焼土・炭化物含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 3 | 7.5 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、焼土粒多く含む |
| 4 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、焼土粒少し含む |
| 5 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、焼土粒含む |
| 6 | | ほりすぎ | |

第25図 7号住居跡(1)



- | | | | |
|-----------|------------------------------------|-----|--------------------------|
| P1 c-c' | | | |
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化物少量含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土ブロック含む |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 4 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒多く含む |
| P2 c'-c'' | | | |
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒含む、炭化材片多く含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒含む |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土ブロック多く含む |
| 4 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | 砂質シルト、暗褐色土ブロック含む |
| 5 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | 砂質シルト |
| 6 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| P3 c'-c'' | | | |
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | 炭化材片・焼土粒含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | 褐色土粒含む |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | 焼土粒含む |
| P4 d-d' | | | |
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒多く含む、焼土粒・炭化物少量含む |
| 2 | 7.5 YR ⁴ / ₆ | 褐色 | 粘土質シルト、焼土粒多く含む |
| 3 | 10 YR ² / ₄ | 暗褐色 | 粘土質シルト、炭化物少量含む |
| P5 d-d' | | | |
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化材片含む |
| 2 | 7.5 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト、焼土粒多く含む、炭化物少量含む |
| 3 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |

Pit計測値

単位: cm

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|
| 大きさ | 120×75 | 82×80 | 89×77 | 38×37 | 61×47 | 76×60 | 40×(34) | 25×24 | 52×51 | 59×52 | 21×16 | 115×114 | 21×16 | 42×30 | 25×20 | 24×20 |
| | 20 | 53 | 25 | 20 | 25 | 40 | 13 | 32 | 18 | 20 | 46 | 20 | 53 | 5 | 51 | 21 |

第26図 7号住居跡(2)

い。他のカマドを除く2ヵ所の焼土は床面が焼けたものではなく、床面直上の焼土粒が密集した部分である。また、床面の直上には炭化材片が多量にあり、焼土も存在することから焼失住居と考えられる。

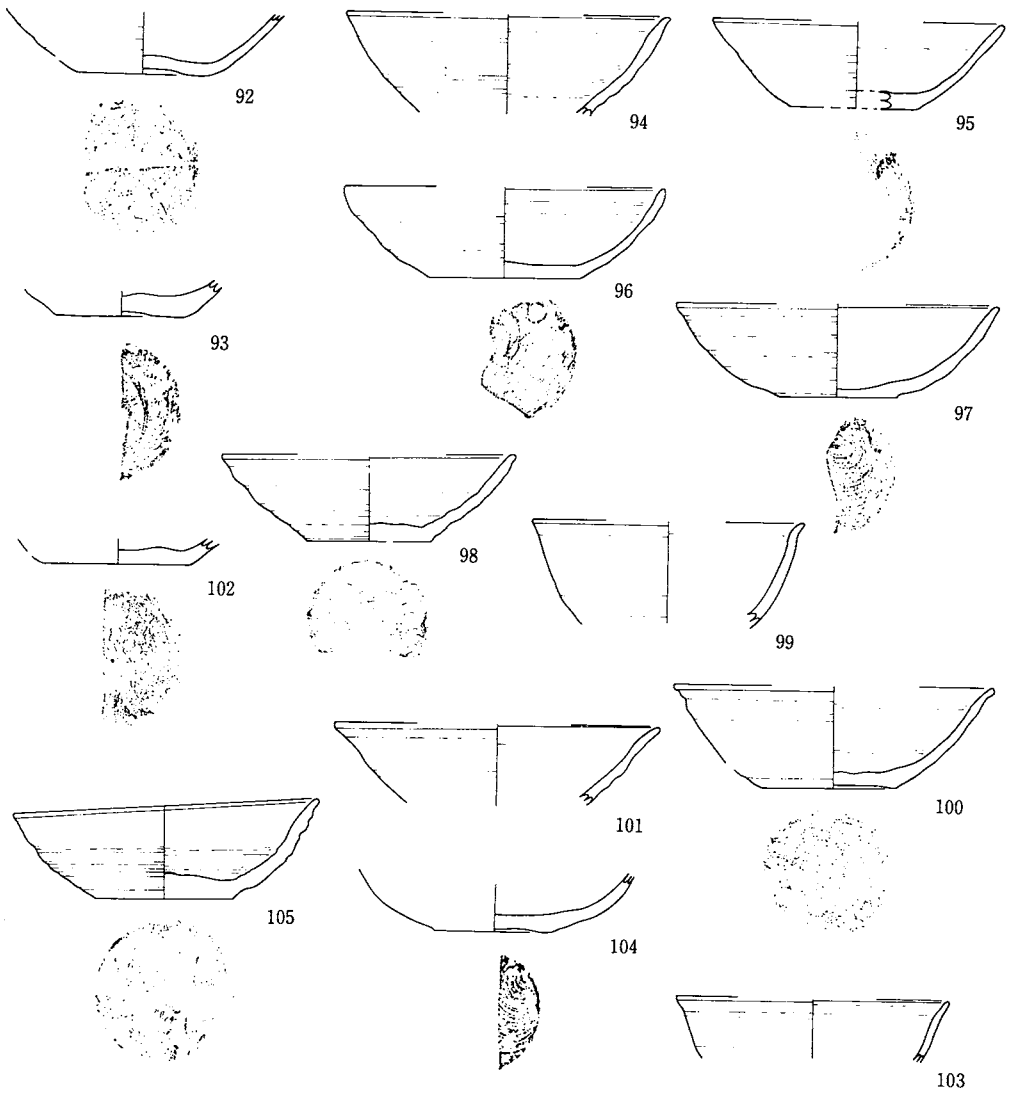
〈柱穴・土坑〉P1～P16まで検出されている。柱穴は配置や形状からP13・P11・P8・P15と考えられる。P13・P11はカマドのある東壁際にある。P2・P5・P7・P9が四隅に配置するが形状が不揃いである。カマドの南隣のP6の上面には炭化したオニグルミ・ハシバミ等の堅果類が出土している。この堅果類はP6の埋土中には全く含まれておらず、堅果類がこの住居跡の焼失時に炭化したものだとすれば焼失時にP6はすでに埋め戻されていたことになる。

〈カマド〉東壁の北寄りに位置する。煙道は残っていない。袖部は幅60cmで角礫を芯にして黒褐色土をまいて構築している。燃燒部の焼土の範囲は48×49cm、厚さ6cmである。

遺物(第27～29図、写真図版39・52)

〈土器〉92～129が出土している。須恵器は9点とやや多い。内訳は坏・台付坏が16点、甕が14点、壺が2点、不明が6点である。104の坏は堅く焼き締まっている。105の坏の内面調整はミガキあるいはナデである。また、内面に2条、外面に3条沈線状の線がある。105と106は内外面、断面全て黒色である。108は107と同一の可能性がある。109・112・115・117の甕は胎土中に砂を多く含む。117は115と、126は125とそれぞれ同一個体の可能性がある。

〈その他〉比較的残存状況の良い鉄製品が2点床面から出土している。423は紡錘車、424は穂摘具である。

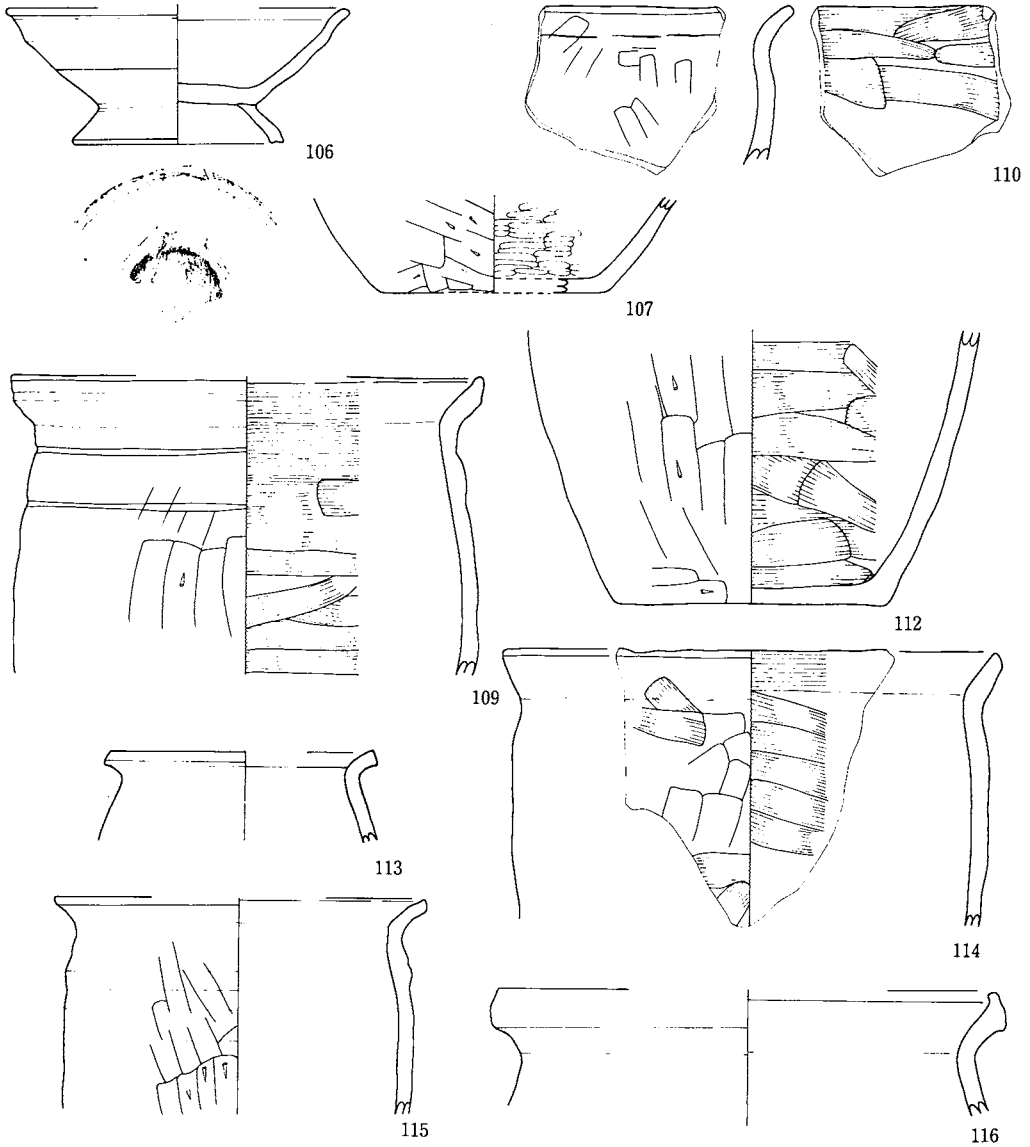


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真版 |
|-----|----------------------|----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|------|------|---------|-------|-------|-----|----|-----|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 92 | 7住 床 | 坏 | — | ロクロ | 回・糸 | — | ロクロ | ロクロ | | 淡赤橙 | 5.2 | [2.5] | 1 a | ○ | 38 | |
| 93 | 7住 P ₃ 上面 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | | 浅黄橙 | (5.2) | [1.2] | 1 a | ○ | 38 | |
| 94 | 7住 P ₃ 2層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | にぶい橙 | (13.0) | [4.0] | I | ○ | 38 | |
| 95 | 7住 P ₃ 2層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | (11.8) | (4.9) | 3.1 | I a | ○ | 38 |
| 96 | 7住 P ₃ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | (13.9) | 6.0 | 3.7 | 1 a | ○ | 38 |
| 97 | 7住 P ₄ 2層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | (13.0) | 4.8 | 3.7 | 1 a | ○ | 38 |
| 98 | 7住 P ₄ 4層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 浅黄橙 | (11.9) | 5.0 | 3.5 | 1 a | ○ | 38 |
| 99 | 7住 P ₄ 4層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 橙 | (11.8) | (4.9) | 3.1 | I | ○ | 38 |
| 100 | 7住 P ₁₂ 底 | 坏 | ロクロ | ロクロ (有) | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい橙 | (12.8) | 5.4 | 4.1 | 1 b | ○ | 38 |
| 101 | 7住 P ₁₂ 底 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 橙 | (12.4) | | [4.1] | I | ○ | 38 |
| 102 | 7住 P ₁₂ 底 | 坏 | — | — (有) | 回・糸 | — | — | ロクロ | | 黄橙 | | 6.0 | [1.0] | I b | ○ | 38 |
| 103 | 7住 2層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 淡橙 | (11.0) | | [2.5] | I | ○ | 38 |
| 104 | 7住 2層 | 坏 | — | ロクロ | 回・糸 | — | ロクロ | ロクロ | | 橙 | (4.6) | [2.5] | 1 a | ○ | 38 | |
| 105 | 7住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | 有 | | 褐灰 | 12.2 | 5.5 | 4.1 | 1 a | ○ | 38 |

第27図 7号住居跡出土遺物(1)

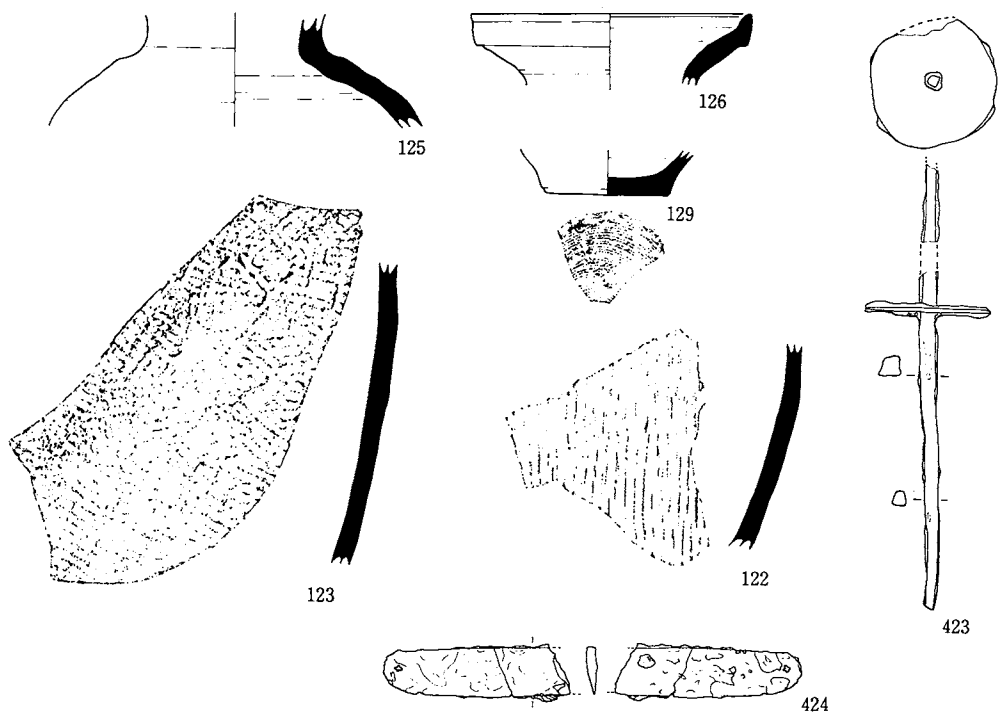


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|----------------------|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|------|-------|---------|-------|--------|------|---|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 106 | 7住 床 | 台付坏 | ロクロ | ロクロ | 回+糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 灰白-緑 | (14.7) | 8.7 | 5.5 | I | ○ | 38 |
| 107 | 7住 カマド | 鉢? | — | — (ケズリ) | ケズリ | — | ミガキ | ミガキ | 内 | 浅黄橙 | | (9.0) | [3.9] | II b | ○ | 38 |
| 108 | 7住 3層 | 鉢? | — | ロクロ、ケズリ | — | — | ミガキ | — | 内 | 浅黄橙 | | | | II b | — | 38 |
| 109 | 7住 床 | 甕 | ロクロ | ロクロ、ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | 黄橙 | (19.0) | | [12.0] | A | ○ | 38 |
| 110 | 7住 カマド | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | 橙 | | | [6.1] | B | ○ | 38 |
| 111 | 7住 カマド | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | | 橙 | | | | — | — | 38 |
| 112 | 7住 カマド | 甕 | — | ケズリ | 砂底 | — | ナデ | ナデ | | 褐灰 | | 11.0 | [11.0] | — | ○ | 38 |
| 113 | 7住 2層 | 甕 | ロクロ | — | — | ナデ | — | — | | 褐灰 | (11.0) | | | A | ○ | 38 |
| 114 | 7住 P ₀ 上面 | 甕 | — | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | 灰白-黄橙 | (19.4) | | [11.0] | B | ○ | 39 |
| 115 | 7住 P ₁₂ 底 | 甕 | ロクロ | ロクロ、ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | 灰白-黄橙 | (14.9) | | [8.5] | A | ○ | 39 |
| 116 | 7住 P ₁₂ 底 | 甕? | ロクロ | — | — | ロクロ | — | — | | 橙 | (20.0) | | [4.8] | A | ○ | 39 |

第28図 7号住居跡出土遺物(2)



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|-----------------------|----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|--------|---|---------|-------------|----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部(下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 117 | 7住 P ₁₂ 底 | 甕 | — | ロクロ、ケズリ | — | — | ナデ | — | にぶい橙 | | | | A | — | 39 | |
| 118 | 7住 P ₁₂ 底 | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | 灰黄褐色 | | | | — | — | 39 | |
| 119 | 7住 3層 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | にぶい黄褐色 | | | [3.0] | B | — | 39 | |
| 120 | 7住 埋土 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | 浅黄褐色 | | | [3.0] | B | — | 39 | |
| 121 | 7住 2層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | 褐灰 | | | | — | — | 39 | |
| 122 | 7住 床 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | あて具 | — | 灰 | | | | — | ○ | 39 | |
| 123 | 7住 P ₁ 、4層 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | ナデ | — | 灰 | | | | — | ○ | 39 | |
| 124 | 7住 埋土 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | — | — | にぶい黄 | | | | — | — | 39 | |
| 125 | 7住 床 | 壺 | — | ロクロ | — | — | ロクロ | — | 灰 | | | [4.5] | — | ○ | 39 | |
| 126 | 7住 2層 | ? | ロクロ | — | — | ロクロ | — | — | 灰 | | | [2.9] | — | ○ | 39 | |
| 127 | 7住 P ₁ 上面 | ? | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | 灰 | | | | — | — | 39 | |
| 128 | 7住 P ₃ 上面 | ? | ロクロ | — | — | ロクロ | — | — | 暗青灰 | | | | — | — | 39 | |
| 129 | 7住 2層 | ? | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | 黒 | | | (5.0) [1.8] | — | ○ | 39 | |

鉄製品

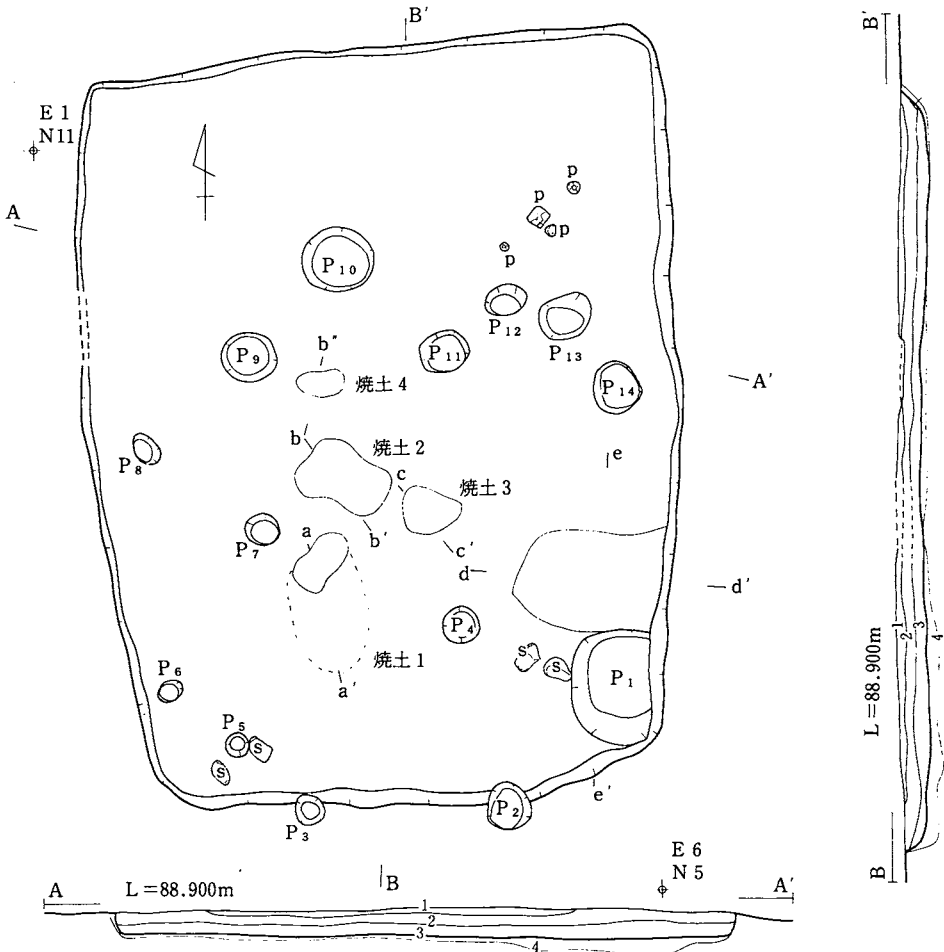
| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計測 (cm, g) | | | | 図 | 写真図版 |
|-----|----------------------|-----|------------|-----|-----|------|---|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | |
| 423 | 7住 床 | 紡錘車 | 13.6 | 5.1 | 0.6 | | ○ | 52 |
| 424 | 7住 P ₃ 上面 | 懸摘具 | 7.5 | 2.0 | 0.4 | 10.4 | ○ | 52 |

第29図 7号住居跡出土遺物(3)

8号住居跡

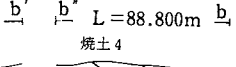
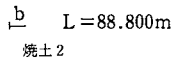
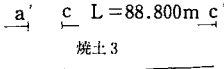
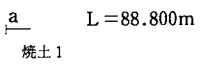
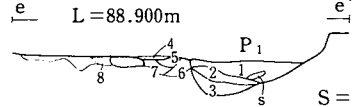
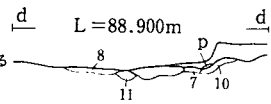
遺構 (第30図、写真図版12・13)

〈検出〉 調査区はぼ中央のII E区南側に位置する。排水溝が東西に横切り、その断面から精査前に何等かの遺構が存在することが確認された。VI層中の極暗褐色土と黒褐色土の広がりとし



A-A', B-B'

- 1 7.5 YR²/₃ 極暗褐色 シルト、小礫・砂含む
- 2 7.5 YR³/₂ 黒褐色 シルト、褐色土粒・小礫含む、南壁付近に赤褐色土粒含む
- 3 7.5 YR³/₂₋₃ 黒褐色 シルト、炭化物・焼土・北壁付近に褐色土粒含む、堅くしまる
- 4 7.5 YR⁴/₁ 褐色 シルト、暗褐色土ブロック含む



焼土1 a-a'

- 1 5 YR²/₃ 暗赤褐色
- 2 2.5 YR³/₃ 暗赤褐色

焼土2 b-b'

- 焼土 1 2.5 YR³/₂ 暗赤褐色 焼土、堅くしまる

焼土3 c-c'

- 1 2.5 YR³/₂ 暗赤褐色

焼土4 b''-b

- 焼土 1 2.5 YR³/₂ 暗赤褐色 焼土

d-d', e-e'

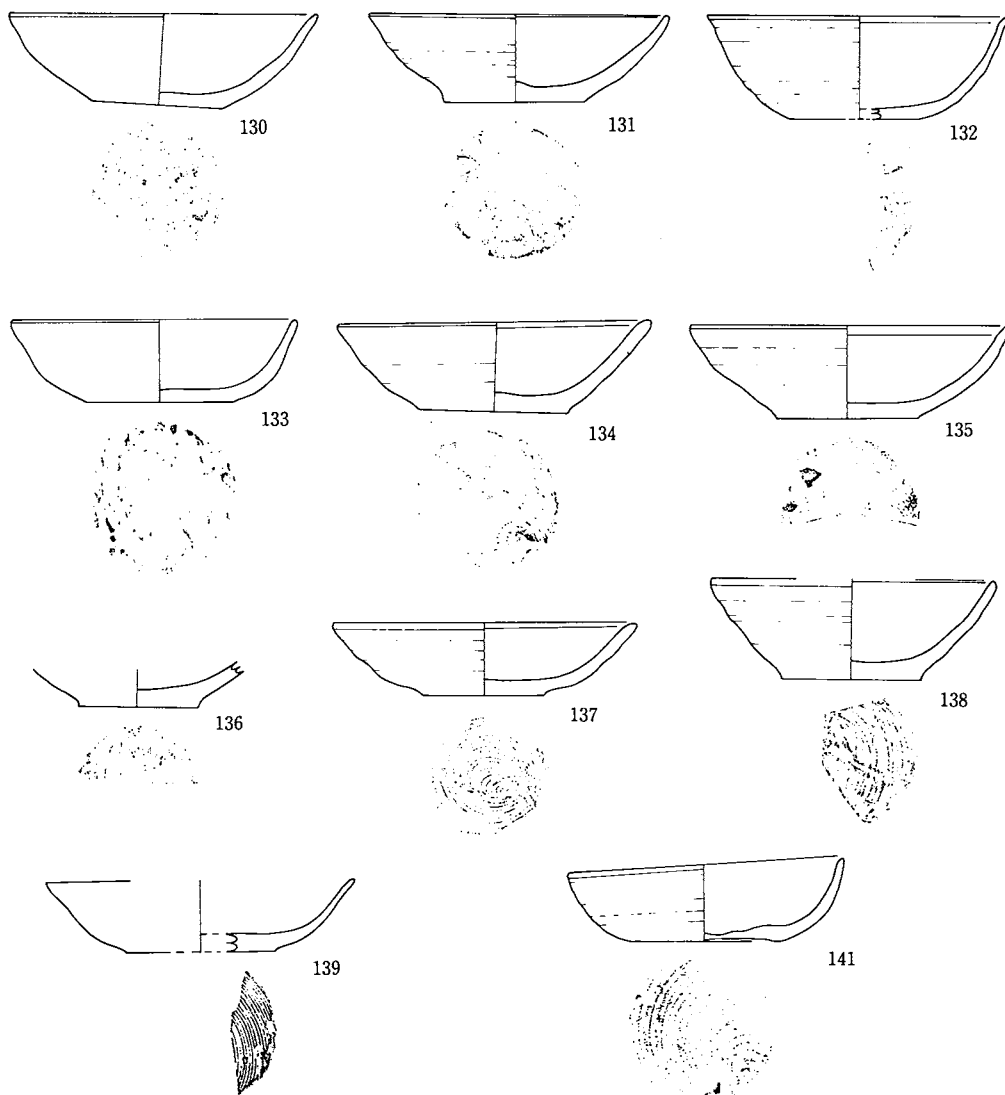
- 1 7.5 YR²/₃ 黒褐色 シルト、炭化物・砂含む、焼土粒微量含む
- 2 5 YR³/₂ 暗赤褐色 シルト、炭化物・砂含む、北側堅くしまる
- 3 7.5 YR³/₂ 暗褐色 シルト、小礫・炭化物・土器片含む
- 4 7.5 YR²/₃ 黒褐色 シルト、小礫・炭化物・褐色土粒含む
- 5 7.5 YR⁴/₁ 褐色 砂質シルト
- 6 7.5 YR³/₂ 暗褐色 シルト、小礫微量含む
- 7 5 YR⁴/₁ にぶい赤褐色 砂質シルト、赤褐色土粒含む
- 8 7.5 YR³/₂ 暗褐色 砂質シルト、堅くしまる
- 9 5 YR⁴/₁ 赤褐色 焼土
- 10 5 YR²/₃ 極暗褐色 砂質シルト
- 11 5 YR³/₂ 暗赤褐色 砂質シルト

Pit計測値

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大きさ | 88×62 | 40×36 | 24×24 | 30×27 | 19×19 | 22×17 | 28×24 | 26×20 | 44×40 | 56×51 | 38×34 | 36×25 | 44×33 | 42×37 |
| 深さ | 31 | 24 | 30 | 9 | 19 | 30 | 44 | 22 | 32 | 23 | 40 | 29 | 10 | 19 |

単位: cm

第30図 8号住居跡

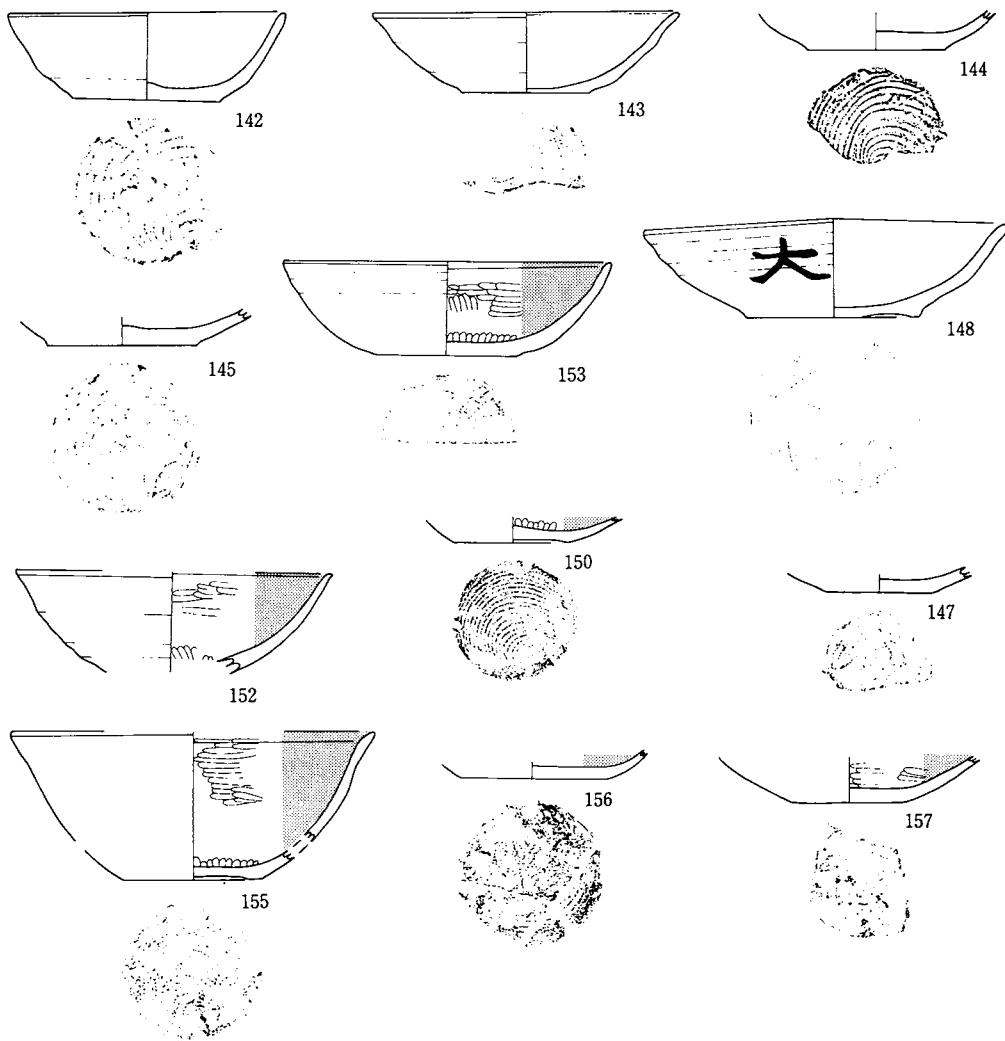


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真版 |
|-----|----------|----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|------|------|---------|-------|-------|-----|---|-----|
| | | | 口縁 | 体部(下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 130 | 8住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい黄 | 12.4 | 5.4 | 4.0 | I a | ○ | 39 |
| 131 | 8住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | 有 | 有 | 有 | | にぶい黄 | 12.0 | 5.7 | 3.6 | I a | ○ | 39 |
| 132 | 8住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい黄 | (12.1) | (5.0) | 4.2 | I a | ○ | 39 |
| 133 | 8住 カマド付近 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 浅黄橙 | 11.3 | 6.0 | 3.3 | I a | ○ | 39 |
| 134 | 8住 カマド付近 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい黄 | 12.4 | 6.0 | 3.8 | I a | ○ | 39 |
| 135 | 8住 カマド付近 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい黄 | 12.7 | 5.7 | 3.7 | I a | ○ | 39 |
| 136 | 8住 カマド付近 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | | にぶい黄 | | (4.8) | [1.5] | I a | ○ | 39 |
| 137 | 8住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 浅黄橙 | (12.0) | 4.9 | 2.9 | I a | ○ | 39 |
| 138 | 8住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい黄 | (11.2) | (5.6) | 4.0 | I a | ○ | 39 |
| 139 | 8住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 淡黄 | | (6.0) | 2.9 | I a | ○ | 39 |
| 140 | 8住 2層 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | | 淡黄 | | | [1.3] | I a | — | 39 |
| 141 | 8住 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい黄 | 11.0 | 6.1 | 3.4 | I a | ○ | 39 |

第31図 8号住居跡出土遺物(1)

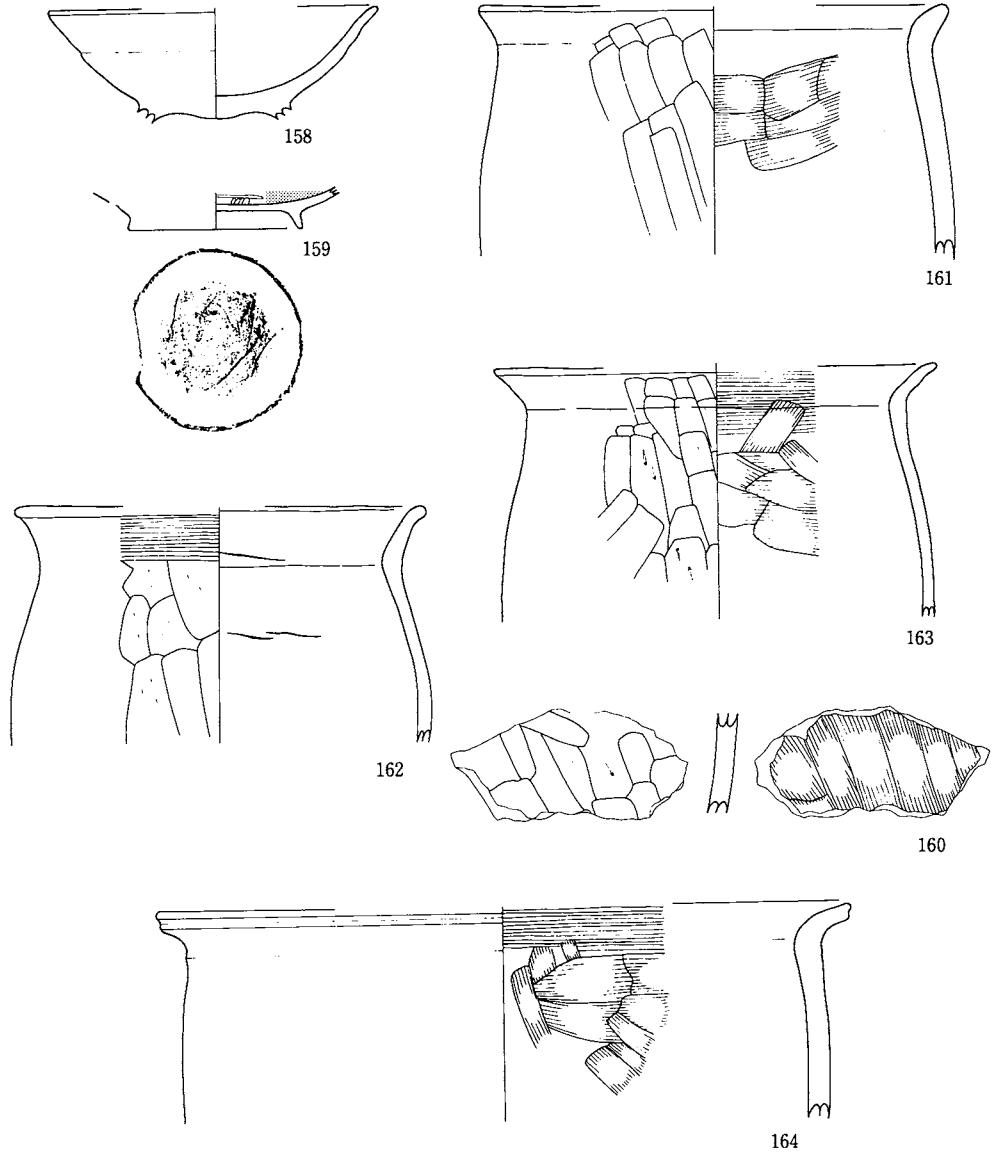


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真版 |
|-----|-------------------|----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|--------|--------|---------|-------|------|----|----|-----|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 142 | 8住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | 茶い黄緑 | 11.0 | 6.0 | 3.7 | I a | ○ | 39 | |
| 143 | 8住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | 明黄緑 | (12.2) | 5.2 | 3.3 | I a | ○ | 39 | |
| 144 | 8住 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | 淡黄 | | (5.6) | [1.5] | I a | ○ | 40 | |
| 145 | 8住 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | 浅黄橙 | | 6.0 | [1.3] | I a | ○ | 40 | |
| 146 | 8住 埋土 | 坏 | — | — (ケズリ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | 褐灰 | | | [1.0] | I b | — | 40 | |
| 147 | 8住 掘り方 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | 橙 | | (4.5) | [0.7] | I a | ○ | 40 | |
| 148 | 8住 掘り方 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | 橙 | 14.4 | 7.0 | 4.0 | I a | ○ | 40 | |
| 149 | 8住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ミガキ | ミガキ | — | 内 黄灰 | | | | II | — | 40 | |
| 150 | 8住 床 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ミガキ | 内 橙 | | 4.8 | [1.0] | II a | ○ | 40 | |
| 151 | 8住 カマド付近 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ミガキ | ミガキ | — | 内 茶い橙 | | | | II | — | 40 | |
| 152 | 8住 カマド付近 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 灰白 | (13.5) | (5.2) | (4.0) | II a | ○ | 40 | |
| 153 | 8住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 淡黄 | (13.0) | 5.7 | 3.8 | II a | ○ | 40 | |
| 154 | 8住 P ₂ | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ミガキ | ミガキ | — | 内 淡黄 | | | | II | — | 40 | |
| 155 | 8住 3層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 茶い黄緑 | (14.6) | 5.5 | | II a | ○ | 40 | |
| 156 | 8住 3層 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | ミガキ | 内 橙 | | 5.8 | [1.2] | II | ○ | 40 | |
| 157 | 8住 3層 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ミガキ | 内 茶い黄緑 | | 4.4 | [1.8] | II a | ○ | 40 | |

第32図 8号住居跡出土遺物(2)

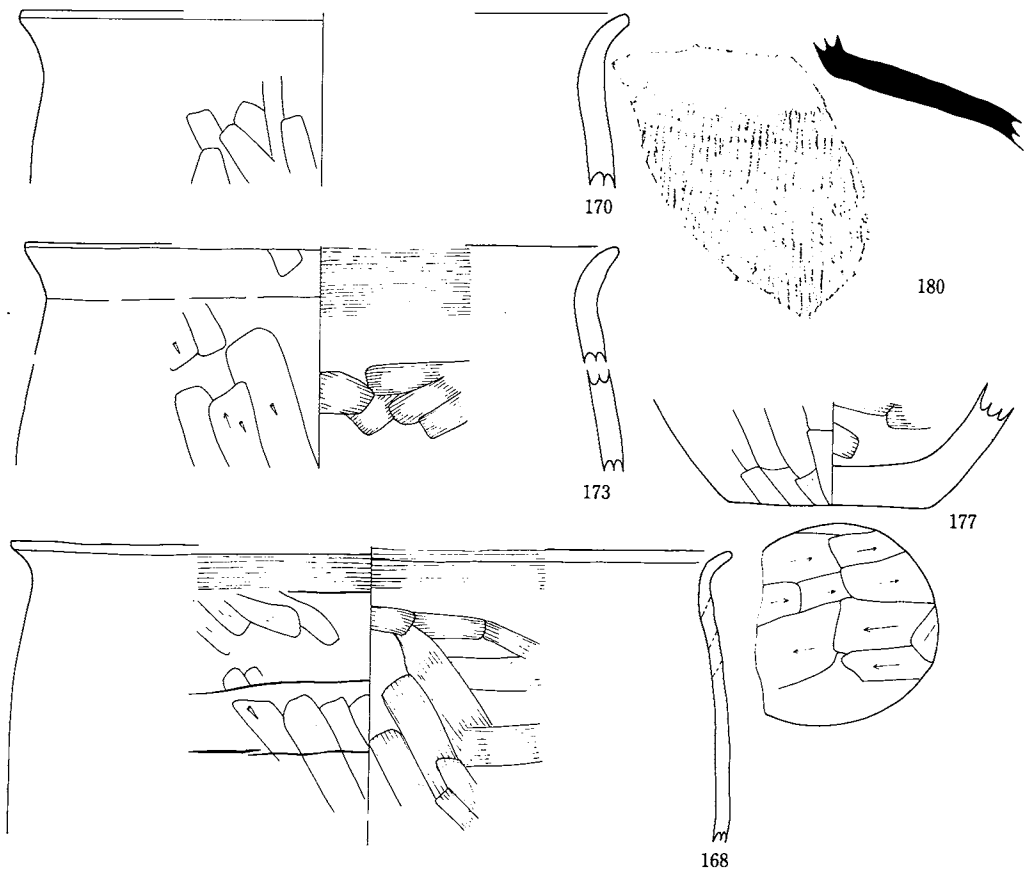


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|----------|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|------|------|---------|--------|----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部(下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 158 | 8住 床 | 台付坏 | ロクロ | ロクロ | | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | (13.2) | [4.4] | I | ○ | 40 | |
| 159 | 8住 床 | 台付坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ミガキ | 内 | 浅黄橙 | | | II | ○ | 40 | |
| 160 | 8住 床 | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | | 橙 | | [4.0] | — | — | 40 | |
| 161 | 8住 カマド付近 | 甕 | | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | にぶい濁 | | [10.0] | B | ○ | 40 | |
| 162 | 8住 カマド | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | — | — | | 浅黄橙 | | [9.5] | B | ○ | 40 | |
| 163 | 8住 カマド | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | 浅黄橙 | (17.6) | [10.2] | B | ○ | 40 | |
| 164 | 8住 カマド | 甕 | ロクロ | | — | ロクロ | ナデ | — | | 浅黄橙 | | [8.7] | A | ○ | 40 | |
| 165 | 8住 カマド | 甕 | ロクロ | | — | ロクロ | — | — | | 灰黄 | | | A | — | 40 | |
| 166 | 8住 カマド | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | | 橙 | | [17.0] | — | — | 40 | |
| 167 | 8住 カマド | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | | にぶい濁 | | [14.0] | — | — | 40 | |

第33図 8号住居跡出土遺物(3)



土器

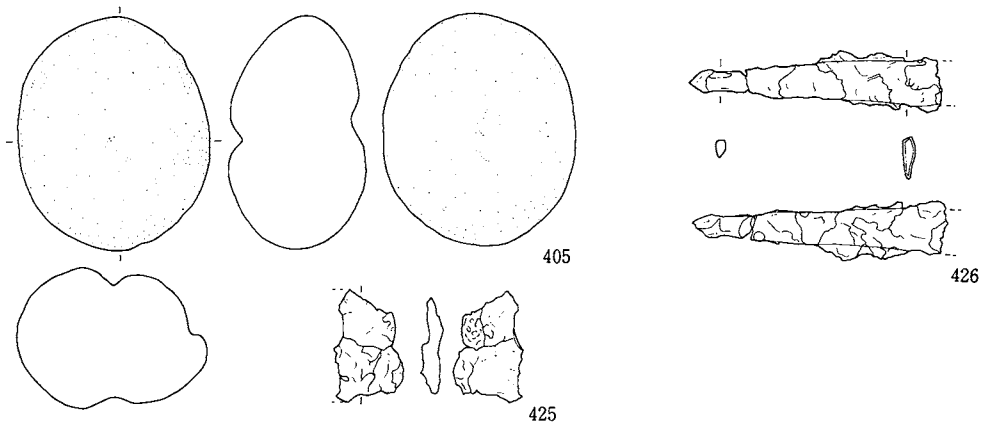
遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|--------|----|-----|---------|-----|----|----|----|------|------|---------|-------|----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 168 | 8住 2層 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | 灰 | 27.6 | [8.7] | B | ○ | 40 | |
| 169 | 8住 3層 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | | にぶい壇 | | [6.3] | B | — | 41 | |
| 170 | 8住 2層 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | — | — | | 浅黄橙 | | [7.0] | B | ○ | 41 | |
| 171 | 8住 2層 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | | 浅黄橙 | | | B | — | 41 | |
| 172 | 8住 1層 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | | 浅黄橙 | | | B | — | 41 | |
| 173 | 8住 埋土 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | 浅黄橙 | | [9.0] | | ○ | 41 | |
| 174 | 8住 埋土 | 甕 | — | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | 浅黄橙 | | | B | — | 41 | |
| 175 | 8住 埋土 | 甕 | ケズリ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | 浅黄橙 | | [6.5] | B | — | 41 | |
| 176 | 8住 埋土 | 甕 | — | — | — | — | — | — | | にぶい壇 | | | B | — | 41 | |
| 177 | 8住 埋土 | 甕 | — | — (ケズリ) | ケズリ | — | — | ナデ | | にぶい壇 | 8.0 | [4.2] | | ○ | 41 | |
| 178 | 8住 掘り方 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | ナデ | — | | 浅黄橙 | | [5.8] | B | — | 41 | |
| 179 | 8住 掘り方 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | | にぶい壇 | | | B | — | 41 | |
| 180 | 8住 埋土 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | ナデ | — | | 灰 | | | — | ○ | 41 | |

第34図 8号住居跡出土遺物(4)

て検出され、西隣には9号陥し穴状遺構がある。

〈形状・規模〉平面形は隅丸方形で、北側がやや広がる。床面の規模は南北5.9m、東西5.6mである。壁高は20cm前後で南・北壁は外傾しながら、東・西壁はほぼ垂直に立ち上がる。



遺物観察表

| 石器類 | | | | 計測 (cm, g) | | | | 石 | 材 | 写真図版 |
|-----|-------------|-----|-----|------------|-----|-----|-------------|-----|------|------|
| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計 | 測 | 厚 | 重 | | | | |
| 405 | 8号住 カマド右脇付近 | 凹み石 | 9.3 | 7.6 | 5.6 | 328 | 輝石安山岩 (熔岩流) | 第四紀 | 岩手火山 | ○ 51 |

| 鉄製品 | | | | 計測 (cm, g) | | | | 図 | 写真図版 |
|-----|-------|----|------|------------|-----|------|---|----|------|
| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計 | 測 | 厚 | 重 | | | |
| 425 | 8号住 床 | 鉄滓 | 11.0 | 8.0 | 3.8 | 320 | ○ | 53 | |
| 426 | 8住 3層 | 刀子 | 10.1 | 1.7 | 0.5 | 16.1 | ○ | 53 | |
| 427 | 8住 | | 4.5 | 2.7 | 0.7 | 8.9 | ○ | 53 | |

第35図 8号住居跡出土遺物(5)

〈埋土〉 3層に分れ、極暗褐色、黒褐色土から成る。埋土の下半部には炭化物と焼土粒が分布し、特に床面の焼けている南半部に多い。人為的に埋められた痕跡は認められない。

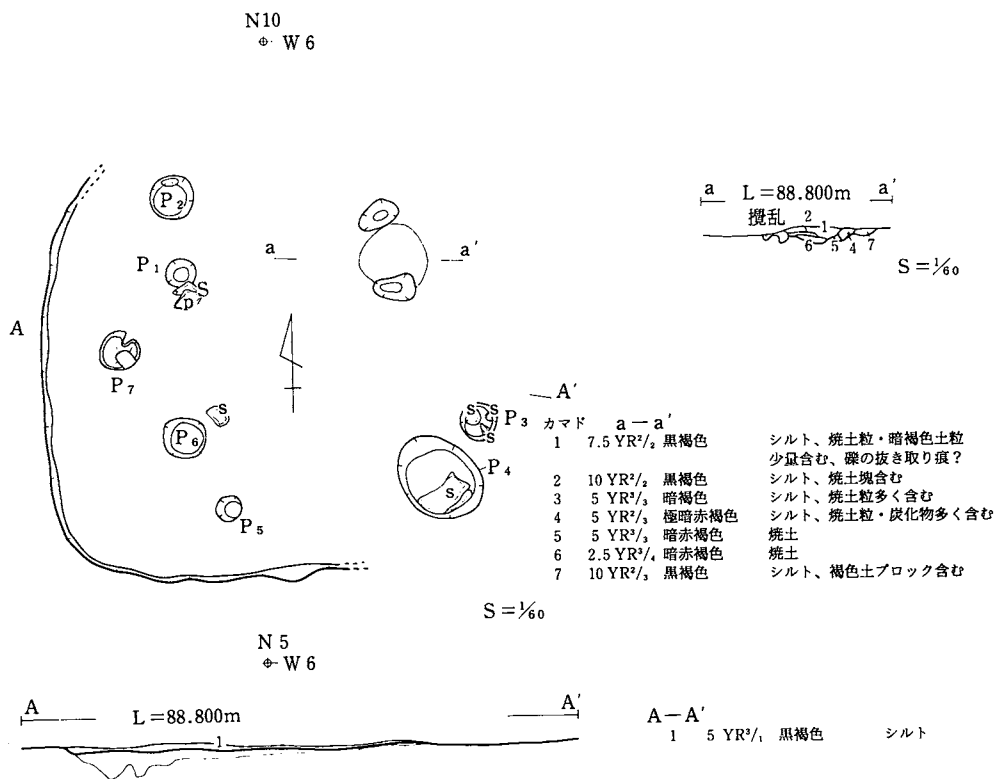
〈床〉 貼り床である。床は褐色のシルトで構築され、南側が厚い。床面はほぼ水平で平坦である。南半部を中心に4箇所が焼けており、範囲はそれぞれ焼土1が(114)×(60)cm、焼土2、78×41cm、焼土3、46×36cm、焼土4、38×21cmであり、焼土の厚さは6～10cmである。焼土1は、断面観察時に範囲が広がったため範囲は推定による。

〈柱穴・土坑〉 P1～P14まで確認されており、P2・P3・P9・P11が柱穴と考えられる。P2・P3は南壁際に位置し、P9・P11は中央やや北寄りに位置している。

〈カマド〉 東壁の南側の焼土が、カマドに由来する焼土と考えられる。削平をうけているため袖部、煙道は検出されていない。焼土の大きさは120×80cm、厚さ11cmである。

遺物 (第31～35図、写真図版39～41・51・53)

〈土器〉 130～180が出土している。内訳は坏・台付坏が30点、甕が21点である。その内、須恵器は甕が1点埋土中から出土しているのみである。131の坏は内面が滑らかでなんらかの調整が施されているが調整方法は不明である。133と141の坏は比較的小さく体部の下半で強く内湾しており、よく似た形状をしている。142～144の坏はカマドの横から出土しており、本遺構に伴うものとして良いと考えられる。148の坏の外表面体部には「大」の字の墨書がある。判読



Pit計測値 単位：cm

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大きさ | 26×23 | 36×34 | 30×30 | 76×59 | 20×19 | 34×32 | 32×32 |
| 深さ | 25 | 11 | 9 | 11 | 20 | 20 | 11 |

第36図 9号住居跡

できるものとしては今回の調査で唯一の例である。162・163・166～168・170・173・175～178の甕の胎土中には粗い砂が多く含まれる。164・165の甕のロクロ使用は口縁のみである。

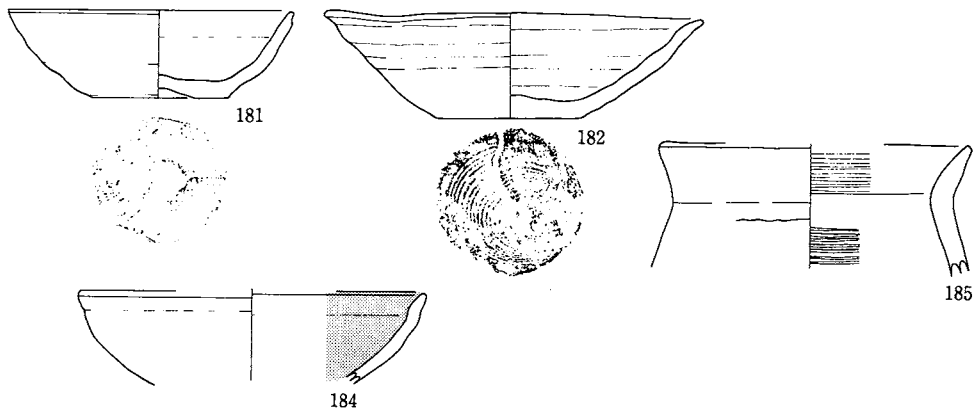
<その他>鉄滓（425）、刀子（426）を含む鉄製品（425～427）と凹み石（405）が出土している。

9号住居跡

遺構（第36図、写真図版13）

<検出> 調査区ほぼ中央のII E区南西に位置し、VI層の褐色土中で黒褐色土の広がりとして検出された。東に8号住居跡、南東には10号住居跡がある。南壁・西壁しか残っておらず北・東方向の範囲は不明である。

<形状・規模> 北壁・東壁が失われているが、他の住居跡の例から、平面形は隅丸方形になると考えられる。規模は床面は南北、東西ともに測定できない。おそらく3.5m前後になると推



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|-------------------|----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|----|----|----|------|--------|---------|-------|------|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | | | |
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | | | | | | | | | |
| 181 | 9住 P ₃ | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | | | 淡橙 | 11.4 | 5.5 | 3.5 | I a | ○ | 41 | |
| 182 | 9住 掘り方 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | | | 橙 | 15.2 | 5.7 | 4.2 | I a | ○ | 41 | |
| 183 | 9住 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ミガキ | 内 | | | 浅黄橙 | | | [1.5] | II a | — | 41 | |
| 184 | 9住 掘り方 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | — | — | — | 内 | | | 橙 | (14.0) | | [4.1] | II | ○ | 41 | |
| 185 | 9住 床 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | ナデ | — | | | | にぶい橙 | (12.5) | | [5.1] | B | ○ | 41 | |
| 186 | 9住 埋土 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | — | — | | | | 灰 | | | | — | — | 41 | |

第37図 9号住居跡出土遺物

定される。残存する南壁・西壁の高さは約5cmである。壁の傾きなどは残存状況が悪いため不明である。

〈埋土〉黒褐色土1層が認められる。確認できる範囲では人為的に埋め戻された痕跡は認められなかった。

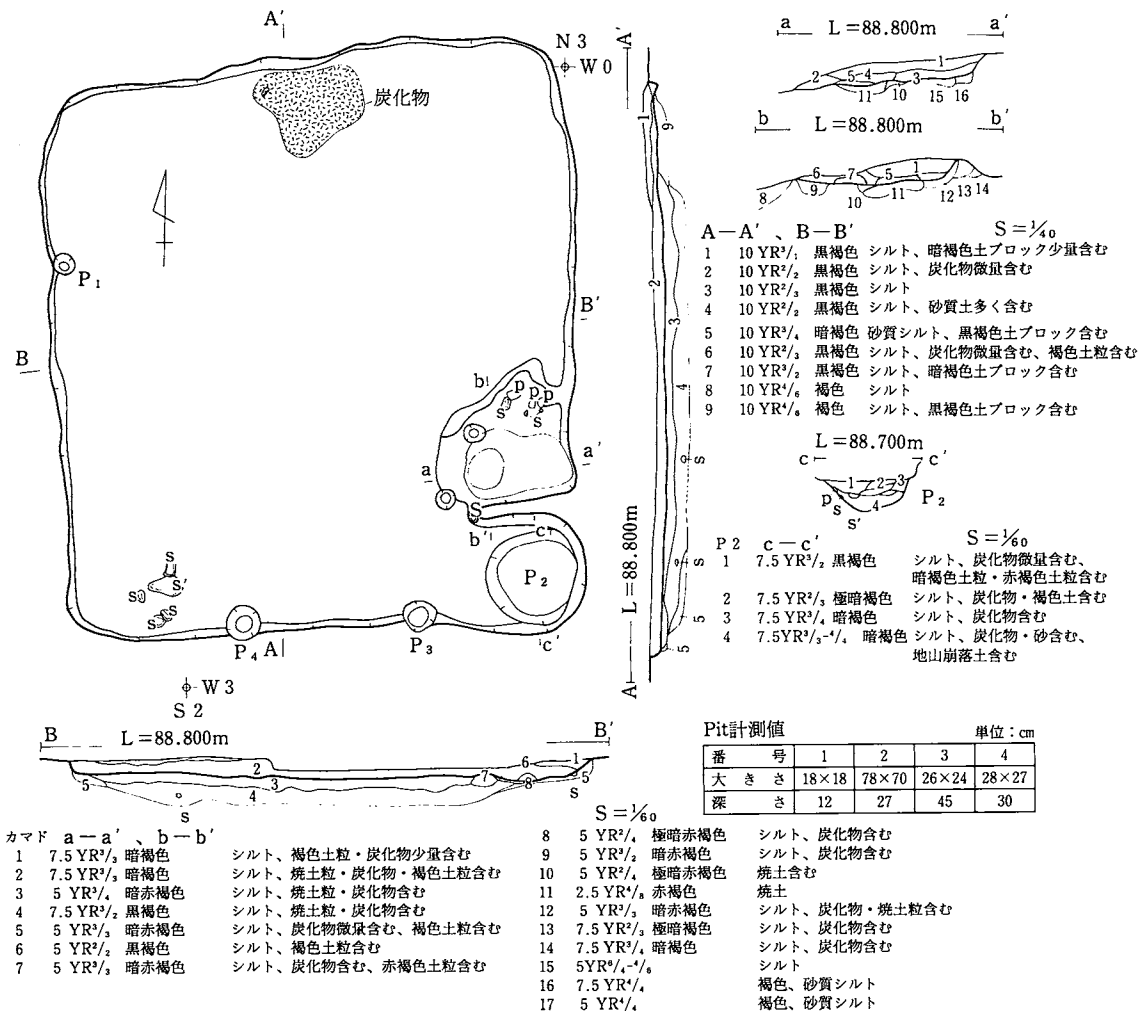
〈床〉貼り床である。ほぼ水平で平坦であるが、北東半は床面が削平され、地山が露出している。床は黒褐色土で構築されている。

〈柱穴・土坑〉P1～P7が検出されている。他の住居跡の例から見てP1・P3・P6が柱穴と考えられる。P4からは礫が出土している。焼土の南北にあるくぼみはカマドの構成礫の抜き取り痕と考えられる。これから袖部の位置が推定される。

〈カマド〉北東部にある焼土がカマドの燃焼部と考えられ、焼土の範囲は54×48cm、厚さ10cmである。南北にある礫の抜き取り痕から袖部は焼土を挟んで南北にあったと考えられる。従ってカマドの位置は東壁の北側になる。袖部・煙道は残っておらず詳しい形状・規模は不明である。

遺物 (第37図、写真図版41)

〈土器〉181～186が出土している。内訳は坏が4点、甕が2点である。そのうち須恵器は甕が1点出土している。181の坏は、8号住居跡で出土している133・141の坏と形態がよく似ており、比較的小形で体部の下半で強く内湾している。185の甕は焼土付近から出土している。



第38図 10号住居跡

10号住居跡

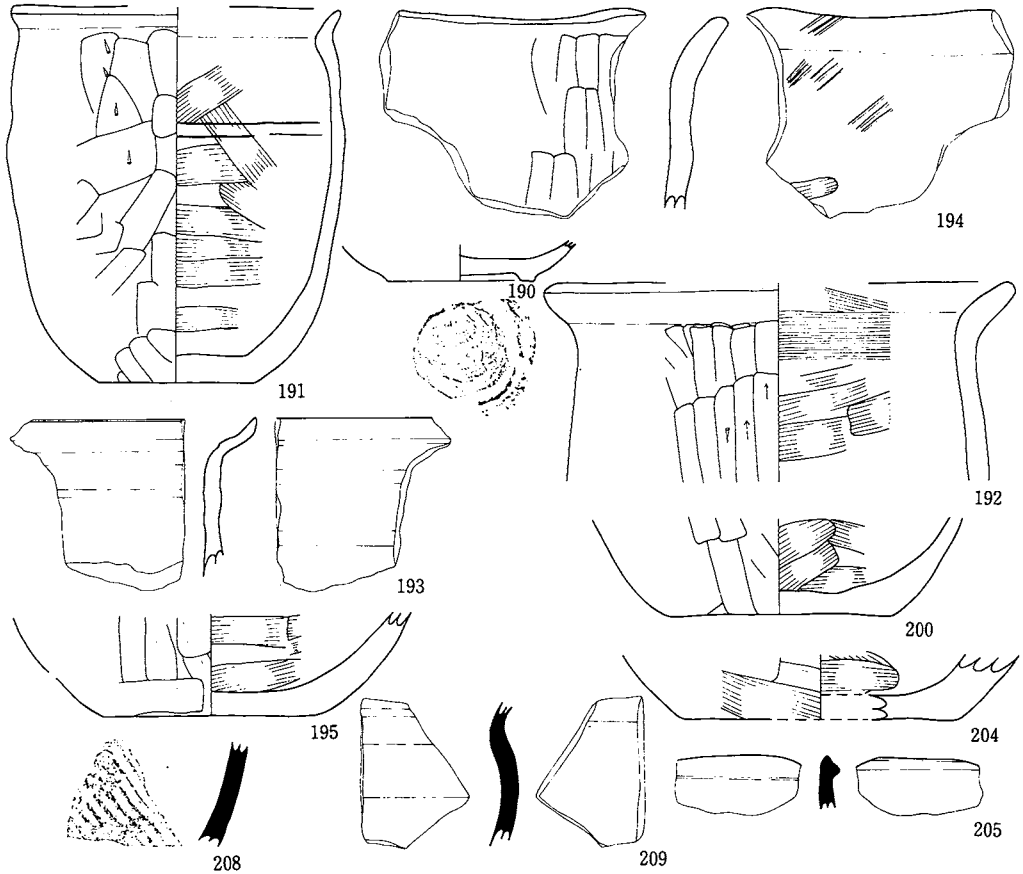
遺構 (第38図、写真図版14)

〈検出〉 調査区ほぼ中央のII E・II F区にまたがって位置する。VI層の褐色土中の黒褐色土の広がりとして検出された。耕作土除去後に設定した基準杭がカマドの位置に偶然あたっている。

〈形状・規模〉 平面形は隅丸方形である。床面の規模は南北4.4m、東西4.1mとわずかに南北に長い。東西南北いずれの壁高も10cm前後でほぼ垂直に立ち上がる。

〈埋土〉 2層に分れ、いずれも黒褐色土である。3層以下は床を構成する土である。人為的な堆積の痕跡は認められず自然堆積と考えられる。

〈床〉 貼り床であり、床面はほぼ水平で平坦である。3層の黒褐色土で構築され中央がわずか

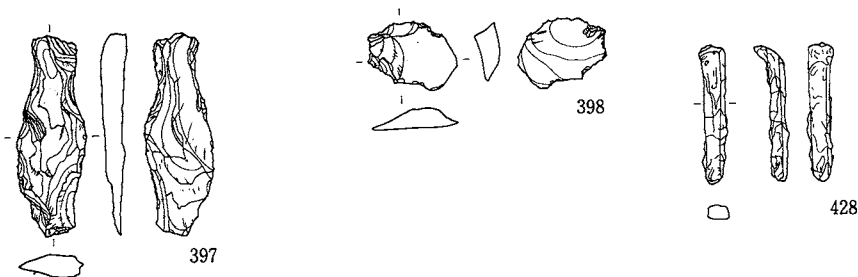


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|---------|-----|-----|---------|-----|-----|----|-----|------|--------|---------|--------|-----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 187 | 10住 埋土 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | ロクロ | ぶい黄橙 | | | [1.6] | I | — | 41 | |
| 188 | 10住 埋土 | 坏 | — | — | — | — | — | 内 | 灰白 | | | | II | — | 41 | |
| 189 | 10住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | — | — | 内・外 | オリイ型 | | | | III | — | 41 | |
| 190 | 10住 カマド | 台付坏 | — | — | 回・糸 | — | — | ロクロ | 浅黄橙 | | | [1.5] | I | ○ | 41 | |
| 191 | 10住 カマド | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | ナデ | ぶい橙 | (13.1) | 6.2 | 15.1 | B | ○ | 41 | |
| 192 | 10住 カマド | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | 明褐灰 | (19.4) | | [8.0] | B | ○ | 42 | |
| 193 | 10住 カマド | 甕 | ロクロ | — | — | ナデ | ナデ | — | ぶい赤橙 | | | | A | ○ | 42 | |
| 194 | 10住 カマド | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | 橙 | | | [8.3] | B | ○ | 42 | |
| 195 | 10住 カマド | 甕 | — | (ケズリ) | ケズリ | — | — | ナデ | ぶい橙 | | 8.5 | [4.1] | ○ | — | 42 | |
| 196 | 10住 カマド | 甕 | — | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | ぶい黄橙 | | | [16.0] | — | — | 42 | |
| 197 | 10住 カマド | 甕 | ロクロ | — | — | ロクロ | — | — | ぶい黄橙 | | | | A | — | 42 | |
| 198 | 10住 埋土 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | ぶい黄橙 | | | [6.5] | B | — | 42 | |
| 199 | 10住 埋土 | 甕 | — | — | — | — | — | — | ぶい黄橙 | | | | B | — | 42 | |
| 200 | 10住 埋土 | 甕 | — | (ケズリ) | — | ナデ | — | — | ぶい橙 | | | [4.0] | ○ | — | 42 | |
| 201 | 10住 埋土 | 甕 | ロクロ | — | — | ロクロ | — | — | ぶい橙 | | | | A | — | 42 | |
| 202 | 10住 埋土 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | 褐灰 | | | | B | — | 42 | |
| 203 | 10住 掘り方 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | ぶい黄橙 | | | | B | — | 42 | |
| 204 | 10住 掘り方 | 甕 | — | (ケズリ) | — | — | ナデ | — | ぶい橙 | (11.0) | [2.7] | | ○ | — | 42 | |
| 205 | 10住 カマド | 甕 | ロクロ | — | — | ロクロ | — | — | 灰 | | | [1.5] | — | ○ | 42 | |
| 206 | 10住 カマド | 甕 | — | 叩き目 | — | ナデ | — | — | 灰 | | | | — | — | 42 | |
| 207 | 10住 カマド | 甕? | — | ケズリ | — | ナデ | — | — | 灰 | | | | — | — | 42 | |
| 208 | 10住 1層 | 甕 | — | 叩き目 | — | ナデ | — | — | 灰 | | | | — | ○ | 42 | |
| 209 | 10住 埋土 | 甕? | — | ロクロ | — | ロクロ | — | — | 灰 | | | | — | ○ | 42 | |

第39図 10号住居跡出土遺物(1)



遺物観察表

石器類

| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計測 (cm, g) | | | | 石 | 材 | 写真図版 |
|-----|---------|----|------------|-----|-----|--------|-----------------------|---|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | | |
| 397 | 10号住 埋土 | 剝片 | 8.1 | 2.8 | 0.8 | 23.550 | 凝灰岩 北上山地 古生界 (紫波郡下) | | ○ 51 |
| 398 | 10号住 埋土 | 剝片 | 2.8 | 3.6 | 1.0 | 7.23 | 珪質極細凝灰岩 磐石西部 新第三系 中新統 | | ○ 51 |

鉄製品

| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計測 (cm, g) | | | | 写真図版 |
|-----|--------|----|------------|-----|-----|-----|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | |
| 428 | 10住 1層 | | 5.6 | 1.0 | 0.5 | 7.1 | ○ 53 |

第40図 10号住居跡出土遺物(2)

にくぼむ。北壁際の中央に炭化物の集中が見られる。床面を構成する3層の下に4層・5層があり、中央部が周辺より15cm程厚くなっており、地山がくぼんでいる。住居の拡張等の可能性も考えられるが、くぼみの平面形は不定型であり、拡張以前の住居にあったと想定される内部施設の痕跡は検出されなかった。

〈柱穴・土坑〉P 1～P 4が検出されている。カマド付近の小さな二つのくぼみはカマド構成礫の抜き取り痕である。P 3・P 4は柱穴であると考えられ、P 1は補助的な柱穴の可能性もある。P 3・P 4は南壁際にあり本遺跡の他の住居跡と同様の位置にあるが、北側に想定できるそれに対応するもう二つの柱穴は検出されなかった。

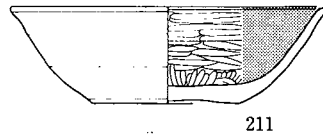
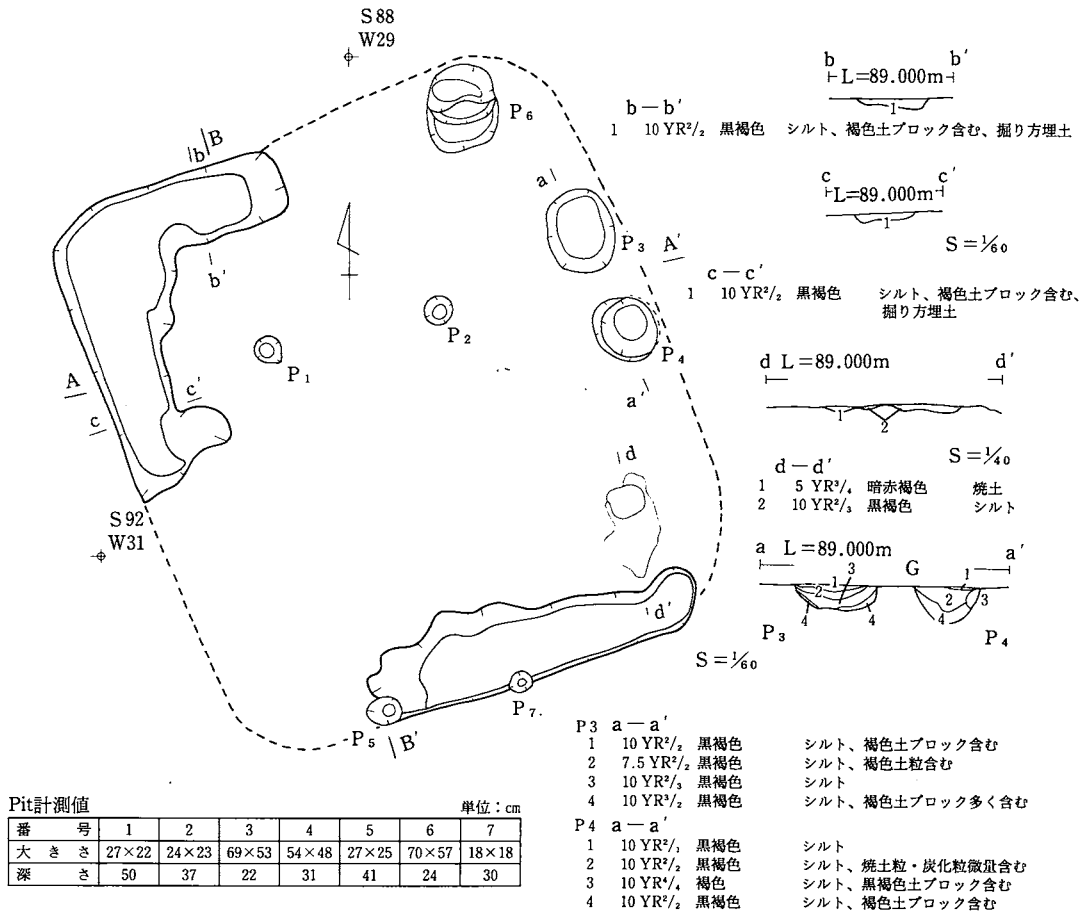
〈カマド〉東壁の南寄りに位置する。袖部の幅は約120cmあり、礫の抜き取り痕があることから、少なくともその一部は礫を芯にして構築されていたと考えられる。燃烧部の焼土は32×27cmの大きさで、厚さは7cmである。煙道は残っていないため、形状や規模は不明である。東壁に設けられていることから概ね東の方向に延びていたと考えられる。

遺物 (第39・40図、写真図版41・42・51・53)

〈土器〉187～209までが出土している。内訳は坏・台付坏が4点で、甕あるいは甕？が19点である。その内、須恵器は甕あるいは甕？が4点出土している。192・193・195・196・199～201の甕は胎土中に粗い砂や微小な礫を多く含んでいる。193の甕は口縁部のみロクロを使用している。

〈その他〉器種不明の鉄製品1点(428)、剝片2点(397・398)が出土している。

11号住居跡



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|-----------------------|----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|------|-----|---------|-----|-------|------|---|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 210 | 11住 P ₃ 3層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | | | (3.3) | I a | ○ | 42 |
| 211 | 11住 P ₃ 3層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 | 浅黄橙 | 12.7 | 5.9 | 3.9 | II a | ○ | 42 |

第41図 11号住居跡・11号住居跡出土遺物

遺構（第 41 図、写真図版 15）

〈検出〉調査区南側の I H 区北東に位置する。水田造成によると思われる削平の為、既に床面・カマドなどは失われていたが、一部に残っていた貼り床・柱穴・土坑・カマドの名残と考えられる焼土によって VI 層中で検出された。

〈形状・規模〉残存状況が良くないため確実なものではないが、北東隅に残っている貼り床の一部や土坑などによって大まかに形状や規模が推定できる。平面形は南北にやや長い方形に近い形状になると推定される。規模は南北 4.7 m 前後、東西 4.4 m 前後と推測される。

〈床〉床面は削平によって失われているため詳しい状況は不明である。一部に残っている貼り床は褐色土ブロックを含む黒褐色土で、この土で床面を構築していたと考えられる。

〈柱穴・土坑〉P 1～P 7 まで検出されており、P 1・P 2・P 5・P 7 が柱穴と考えられる。このような配置は本遺跡の他の住居跡でもみられるものである。P 3・P 4・P 6 は壁際に位置していたものと推測され、ここから本遺構の平面プランを推定している。

〈カマド〉南東隅の焼土がカマドの燃焼部の痕跡と考えられる。この焼土は本来もっと広がったと考えられるが残っているのは 27×25 cm、厚さ 4 cm である。袖部・煙道は失われており、それぞれの形状や規模、煙道がどの方向に延びていたかは不明である。ただ、本遺跡の他の例を見ると南側に延びているものはない。

遺物（第 41 図、写真図版 42）

〈土器〉210・211 が出土しており、いずれも坏である。

12 号住居跡

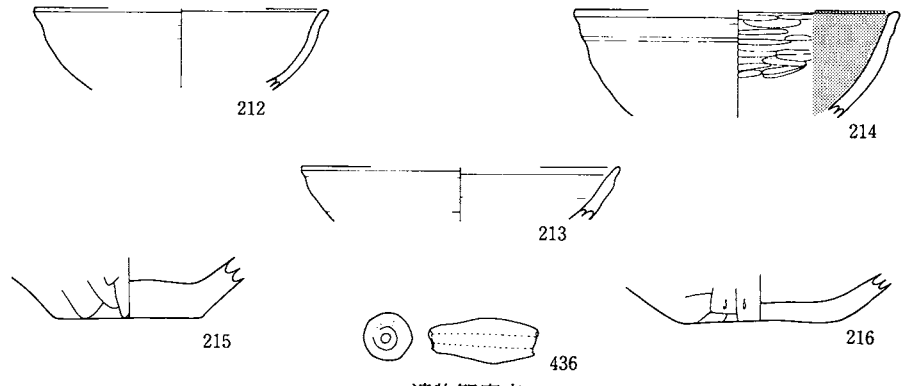
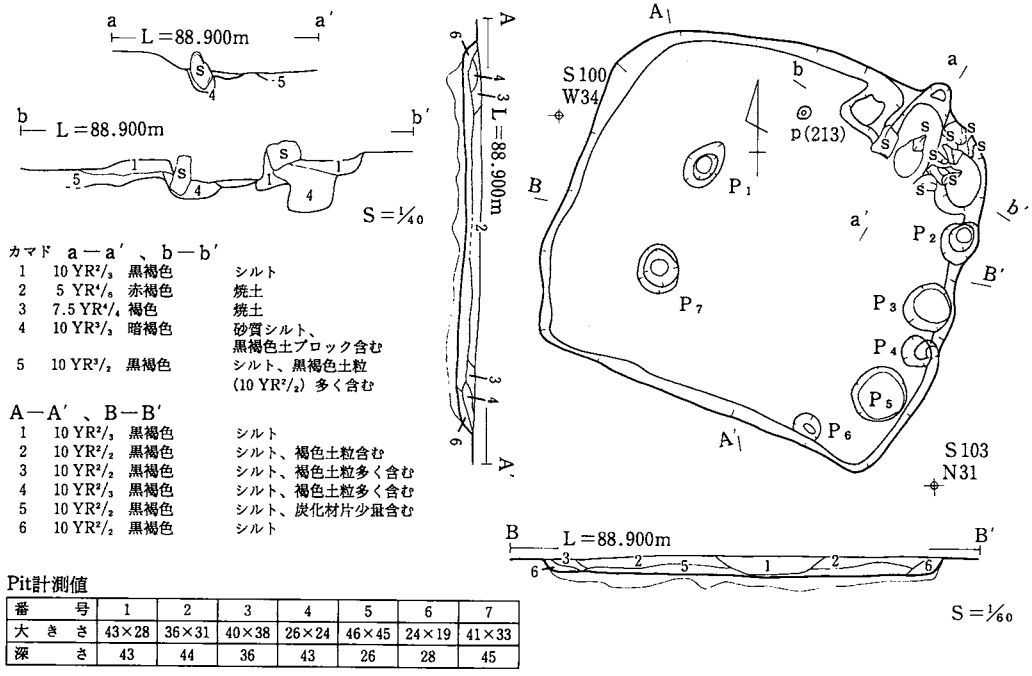
遺構（第 42 図、写真図版 16）

〈検出〉調査区南側の I H 区中央部のやや東寄りに位置し、VI 層中の黒褐色土の広がりとして検出された。北隣に 13 号住居跡がある。検出時には 13 号住居跡と重複するように見えたが重複してはいなかった。

〈形状・規模〉平面形は隅丸方形であるが東西にわずかに長く、床面で東西 3.0 m・南北 2.8 m である。南壁が直線的でわずかに内側にくぼみ気味である他は、東・西・北壁とも外側にやや張り出している。壁は東・西・南・北壁とも外傾しながら立ち上がり、壁高は約 15 cm である。

〈埋土〉6 層に分れている。黒褐色土から成っており一部を除き褐色土粒を含んでいる。5 層には炭化材片が少量含まれている。人為的な堆積の痕跡は認められないため、自然堆積と考えられる。

〈床〉貼り床であり、黒褐色土で構築され、床面は平坦でほぼ水平である。床面は全体的に堅いがカマド付近を含む北東部は特に堅く締っている。また、カマド周辺にはやや遺物が集中している。



土器

遺物観察表

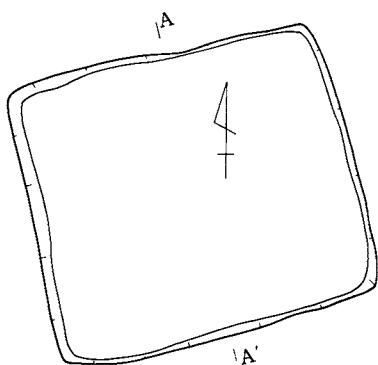
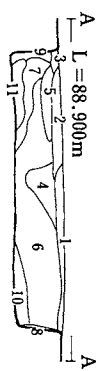
| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|---------|----|-----|---------|----|-----|-----|-----|------|------------|---------|----|--------|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 212 | 12住 5層 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | に白い濁 | | | I | ○ | 42 | |
| 213 | 12住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | に白い濁 ~黒 | (12.7) | | [2.1] | I | ○ | 42 |
| 214 | 12住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ミガキ | ミガキ | — | 内 | に白い濁 | (13.0) | | [4.4] | II | ○ | 42 |
| 215 | 12住 床 | 甕 | — | — (ケズリ) | — | — | — | ナデ | | 浅黄褐色 | 6.0 | | [1.2] | ○ | 42 | |
| 216 | 12住 床 | — | — | — (ケズリ) | — | — | — | ミガキ | | に白い濁 | 6.2 | | [1.6] | ○ | 42 | |
| 217 | 12住 床 | 甕 | — | ケズリ | — | — | — | ナデ | | 褐灰 | | | [10.0] | ○ | 42 | |

土製品

| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計測 (cm, g) | | | 供考 | 図 | 写真図版 |
|-----|----------|----|------------|-----|------|----|---|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | | | |
| 436 | 12住 埋土下部 | 土錐 | 4.4 | 1.9 | 11.3 | | ○ | 53 |

第42図 12号住居跡・12号住居跡出土遺物

S 96
W 32



A-A'

- | | | | |
|----|-----------------------------------|-----|-----------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化材片少量含む、暗褐色土粒含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化材片少量含む |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化材片微量含む |
| 4 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック含む |
| 5 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、炭化材片・暗褐色土ブロック含む |
| 6 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒多く含む、黒色土粒少量含む |
| 7 | 10 YR ¹ / ₄ | 褐色 | シルト |
| 8 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 9 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト |
| 10 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒多く含む、炭化材片含む |
| 11 | 10 YR ¹ / ₄ | 暗褐色 | シルト、褐色土粒含む |

S = 1/100

第43図 13号住居跡

〈柱穴・土坑〉 P 1～P 7が検出され、P 1・P 2・P 4・P 7が柱穴と考えられる。P 2・P 4が東壁際に位置し、間隔も狭い。P 3・P 5の性格は不明である。

〈カマド〉北壁の東端にある。袖部は20～30 cmの長さの角礫を穴を掘って埋め、それに黒褐色土をまいて構築している。幅は約130 cmである。焚き口付近には長さ50 cm、幅10～18 cmの扁平な礫が崩落しているが、本来はカマドの天井部を構成していたと考えられる。カマドの中央部には支脚となる長さ30 cm程の礫が半ばまで埋めて設置されている。燃焼部の焼土の大きさは30×23 cm、厚さ4 cmである。煙道の底部は北東方向に延びるが、大部分は削平されており、形状・規模は不明である。

遺物（第42図、写真図版42・53）

〈土器〉遺構の残存状況の割には遺物の量が少ない。212～217が出土している。そのうち、坏が3点、甕が2点、不明1点である。須恵器は全く出土していない。不明の216は、鉢の可能性はある。内面底部のミガキは放射状である。

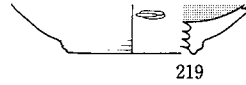
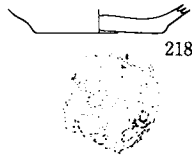
〈その他〉436の土錘が1点埋土の下部より出土している。

13号住居跡

遺構（第43図、写真図版8）

〈検出〉調査区南側のIH区中央に位置し、南隣に12号住居跡がある。VI層の褐色土中で黒褐色土の広がりとして検出された。

〈形状・規模〉平面形はほぼ方形で床面は南北2.2 m、東西2.4 mと東西にわずかに長い。壁はほとんど崩れた様子は認められず東西南北いずれも垂直に立ち上がり、壁高は40 cm前後である。柱穴、カマド等の内部施設はない。住居跡ではない可能性がある。



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|--------|-----|----|---------|-----|----|----|-----|------|-------|---------|-------|----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 218 | 13住 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | | 橙 | (4.1) | [1.0] | I | ○ | 42 | |
| 219 | 13住 埋土 | 台付坏 | — | — (ロクロ) | ロクロ | — | — | ミガキ | 内 | 土い黄褐色 | (5.7) | [2.0] | II | ○ | 42 | |

第44図 13号住居跡出土遺物

〈埋土〉黒褐色～暗褐色土に褐色土が交じった不均質な土であり、11層に分れる。壁面は崩壊した様子は認められず垂直に立ち上がっている。従って本遺構は人為的に埋め戻されたと考えられる。

〈床〉若干の起伏があるが概ね平坦で水平である。掘り込まれているVI層がそのまま床面になっている。

遺物 (第44図、写真図版42)

〈土器〉218の坏と219の台付坏が出土している。

14号住居跡

遺構 (第45図、写真図版17)

〈検出〉調査区南側のIH区南東隅にあり、事前の試掘調査で既に確認されていた。VI層の褐色土中で黒褐色土の広がりとして検出されており、カマドの構成礫も検出時に確認された。

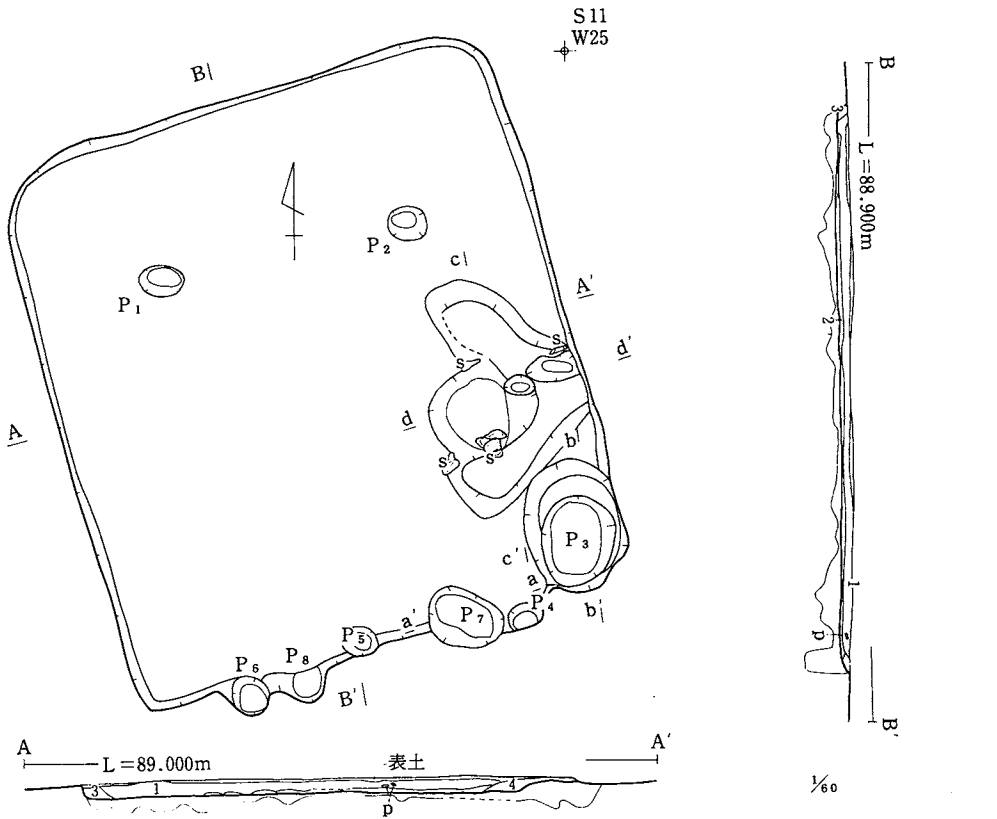
〈形状・規模〉平面形は隅丸方形で床面は南北4.4m、東西4.1mの規模である。南北にわずかに長い。壁は西壁はほぼ垂直に立ち上がり、他はやや外傾しながら立ち上がる。壁高はいずれも12cm前後である。

〈埋土〉黒褐色土からなり、4層に分れる。人為的な堆積を示す痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

〈床〉貼り床である。床面はほぼ水平で平坦であり、中央部が強く締る。床は褐色土がブロック状に混入する黒褐色土で構築される。床の構築土は概して周辺で厚く、中央部で薄くなっている。

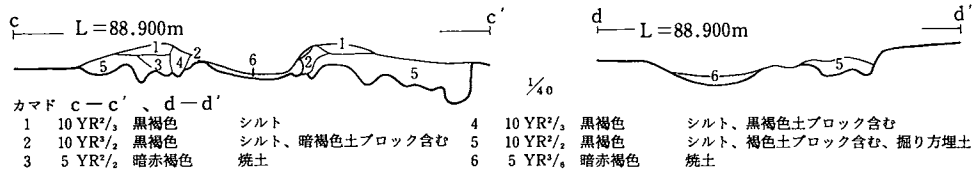
〈柱穴・土坑〉P1～P8が検出されている。このうちP1・P2・P4・P5・P6が柱穴と考えられる。P3は埋土中にかなり大きな礫がある。周囲から落下したものと考えられる。熱を受けた痕跡は認められない。他のものの性格については不明である。

〈カマド〉東壁の南寄りに設けられている。袖部には礫の抜き取り痕が認められていることか



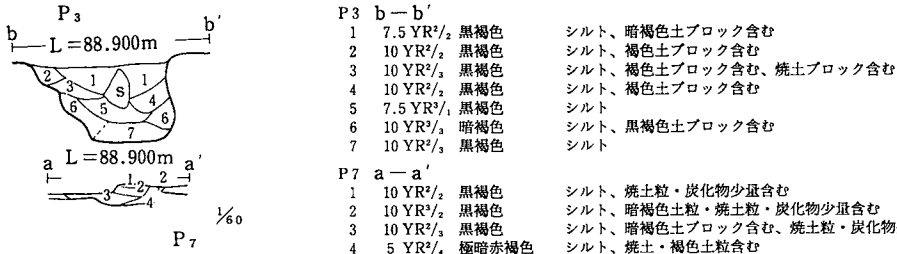
A-A'、B-B'

- | | | | |
|--|---------------------|--|-----------------|
| 表土 10 YR ² / ₃ 黒褐色 | シルト、水田耕作土 | 3 10 YR ² / ₃ 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック多く含む |
| 1 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック・炭化物少量含む | 4 7.5 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、炭化物微量含む |
| 2 10 YR ² / ₃ 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック多く含む | | |



カマド c-c'、d-d'

- | | | | |
|---|----------------|---|---------------------|
| 1 10 YR ² / ₃ 黒褐色 | シルト | 4 10 YR ² / ₃ 黒褐色 | シルト、黒褐色土ブロック含む |
| 2 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、暗褐色土ブロック含む | 5 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック含む、掘り方埋土 |
| 3 5 YR ² / ₂ 暗赤褐色 | 焼土 | 6 5 YR ² / ₃ 暗赤褐色 | 焼土 |



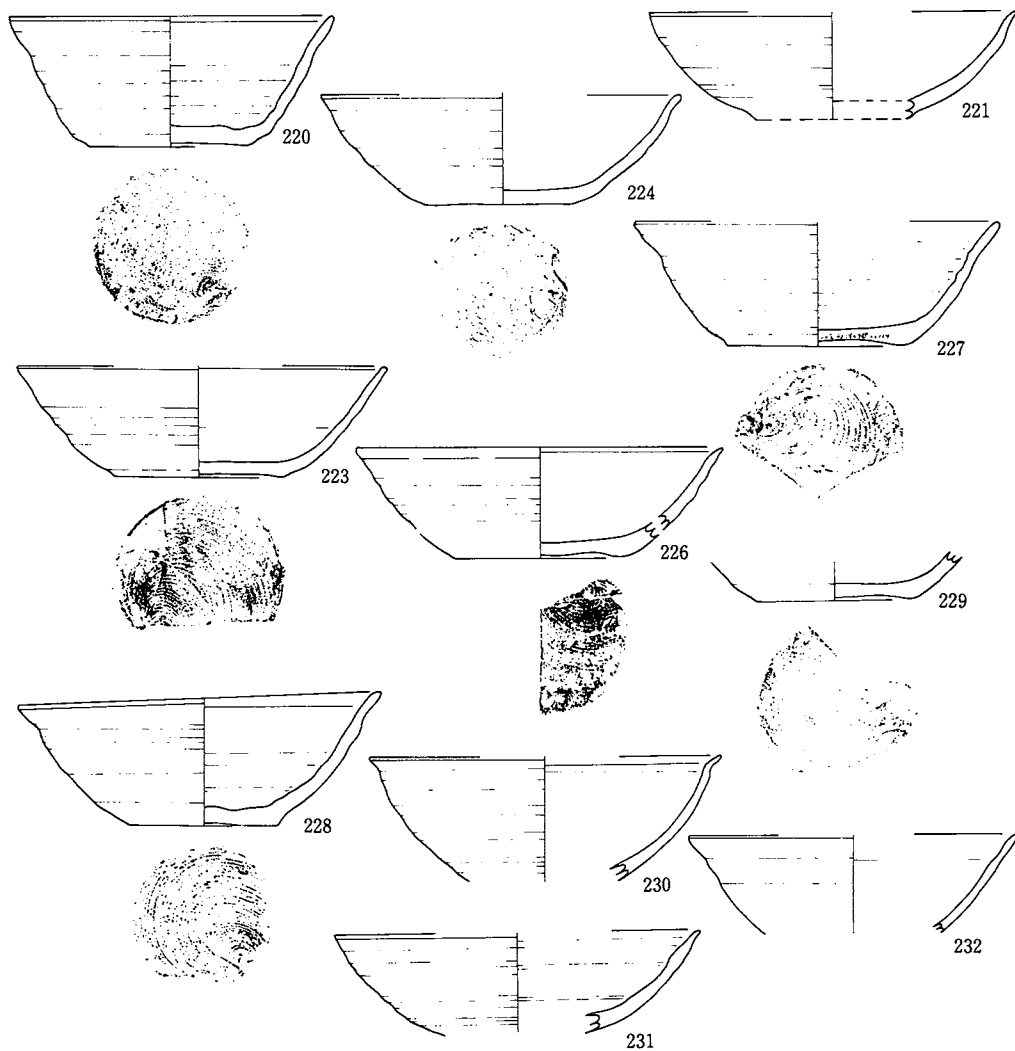
- | | | |
|--|----------------------------|-----------------|
| P3 b-b' | | シルト、暗褐色土ブロック含む |
| 1 7.5 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック含む | |
| 2 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック含む、焼土ブロック含む | |
| 3 10 YR ² / ₃ 黒褐色 | シルト、褐色土ブロック含む | |
| 4 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト | |
| 5 7.5 YR ² / ₃ 黒褐色 | シルト、黒褐色土ブロック含む | |
| 6 10 YR ² / ₃ 暗褐色 | シルト | |
| 7 10 YR ² / ₃ 黒褐色 | | |
| P7 a-a' | | シルト、焼土粒・炭化物少量含む |
| 1 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒・焼土粒・炭化物少量含む | |
| 2 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、暗褐色土ブロック含む、焼土粒・炭化物少量含む | |
| 3 10 YR ² / ₃ 黒褐色 | シルト、焼土・褐色土粒含む | |
| 4 5 YR ² / ₄ 極暗赤褐色 | | |

Pit計測値

単位: cm

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|-----|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 大きさ | 36×25 | 32×28 | 108×80 | 30×19 | 29×24 | 33×29 | 62×45 | 25×(34) |
| 深さ | 29 | 36 | 64 | 50 | 29 | 47 | 9 | 2 |

第45図 14号住居跡

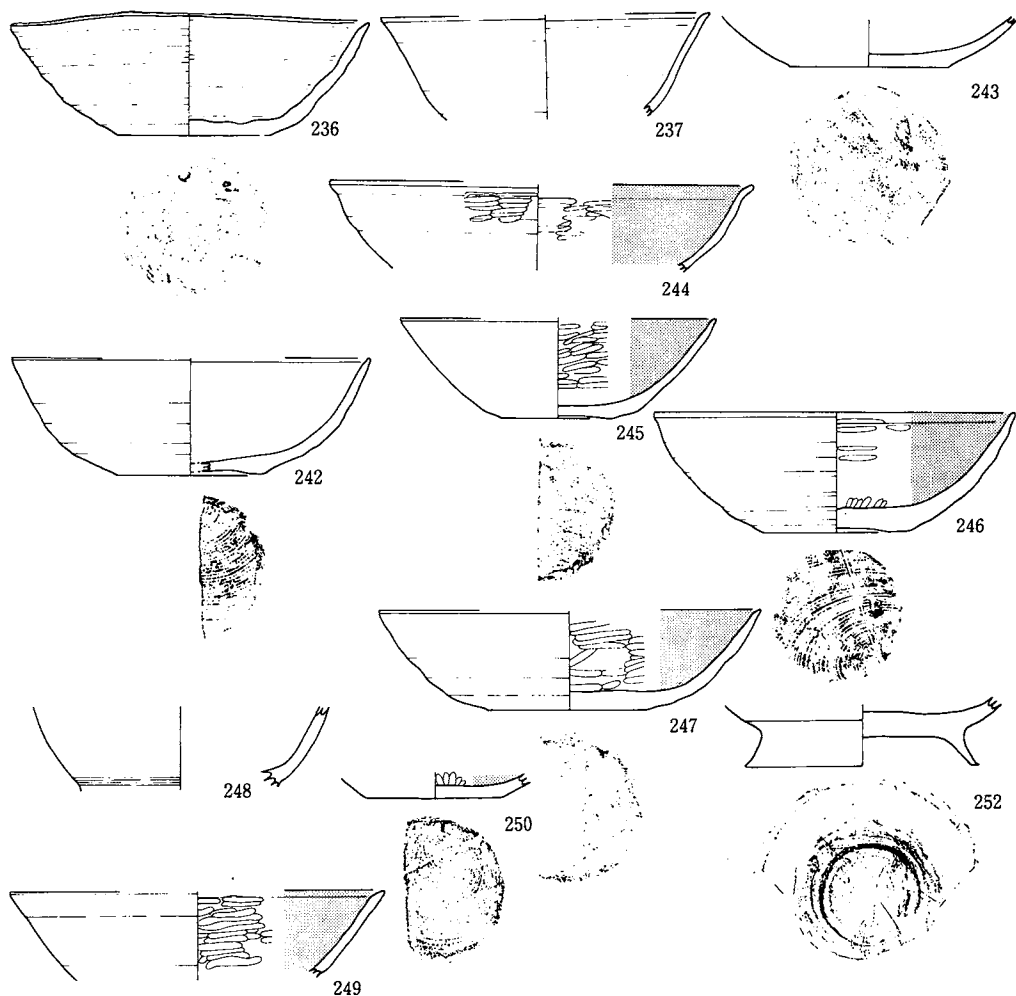


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|-------------------------|----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|------|-------------|---------|-------|-----|-----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 220 | 14住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい襷 (13.1) | 6.4 | 5.2 | I a | ○ | 43 | |
| 221 | 14住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | | ミガキ | ミガキ | ミガキ | | にぶい襷 (14.7) | | [4.3] | I | ○ | 43 | |
| 222 | 14住 カマド | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | — | | にぶい襷 | | [1.5] | I | — | 43 | |
| 223 | 14住 カマド直上 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 灰襷 (14.8) | (6.8) | 4.5 | I a | ○ | 43 | |
| 224 | 14住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 襷灰 (14.5) | 5.8 | 4.4 | I a | ○ | 43 | |
| 225 | 14住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | 有 | 有 | — | | にぶい襷 | | | I | — | 43 | |
| 226 | 14住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | | | にぶい襷 (14.8) | (6.8) | 4.5 | I a | ○ | 43 | |
| 227 | 14住 P ₃ 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい襷 (14.7) | (6.9) | 5.0 | I a | ○ | 43 | |
| 228 | 14住 P ₃ 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 襷 | 14.6 | 5.9 | 5.4 | I a | ○ | 43 |
| 229 | 14住 P ₃ 埋土下部 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | ロクロ | ロクロ | | にぶい襷 | 6.2 | [1.7] | I a | ○ | 43 | |
| 230 | 14住 P ₃ 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 浅黄襷 (14.8) | | [5.0] | I | ○ | 43 | |
| 231 | 14住 P ₃ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | にぶい襷 | | (4.5) | I a | ○ | 43 | |
| 232 | 14住 P ₃ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | にぶい襷 | | [4.0] | I | ○ | 43 | |
| 233 | 14住 P ₃ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 浅黄襷 (13.4) | | [2.1] | I | — | 43 | |
| 234 | 14住 P ₃ 埋土 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | ロクロ | | 襷 | | [1.5] | I | — | 43 | |

第46図 14号住居跡出土遺物(1)

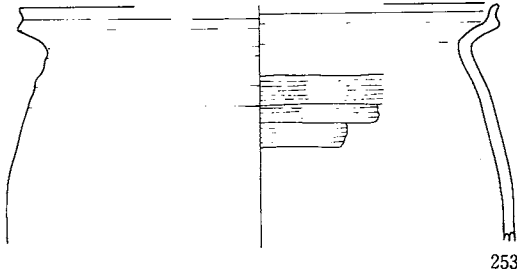


土器

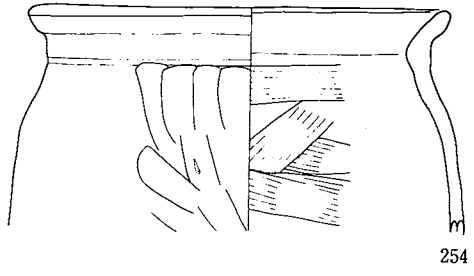
遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|-------------------------|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|-----|------|--------|---------|-------|-------|------|----|------|
| | | | 口縁 | 体部(下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 235 | 14住 P ₁ 埋土 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | ロクロ | 灰黄褐色 | | | [1.0] | I | — | 43 | |
| 236 | 14住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | 浅黄褐色 | 14.3 | 6.0 | 5.0 | I a | ○ | 43 | |
| 237 | 14住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | 浅黄褐色 | (14.7) | | [4.3] | I | ○ | 43 | |
| 238 | 14住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | 灰黄褐色 | (13.0) | | [3.5] | I | — | 43 | |
| 239 | 14住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | 浅黄褐色 | | | | I | — | 43 | |
| 240 | 14住 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | — | 灰黄褐色 | | | [1.7] | I a | — | 43 | |
| 241 | 14住 埋土 | 坏 | — | — (ケズリ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | 灰黄褐色 | | | [2.0] | I b | — | 43 | |
| 242 | 14住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 灰黄褐色 | (14.4) | (6.0) | 4.7 | I a | ○ | 43 | |
| 243 | 14住 掘り方 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | 灰黄褐色 | | 6.4 | [2.0] | I a | ○ | 43 | |
| 244 | 14住 カマド | 坏 | ミガキ | ミガキ | — | ミガキ | ミガキ | — | 黒褐色 | | | [3.5] | III | ○ | 43 | |
| 245 | 14住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 | 灰黄褐色 | (12.8) | 4.2 | 4.0 | II a | ○ | 43 |
| 246 | 14住 P ₃ 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ (ケズリ) | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 | 灰黄褐色 | 14.5 | 6.0 | 4.9 | II b | ○ | 43 |
| 247 | 14住 P ₃ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ (ケズリ) | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 | 灰褐色 | (15.3) | 6.2 | 4.0 | II b | ○ | 43 |
| 248 | 14住 埋土 | 坏 | — | — (ミガキ) | — | — | — | — | 内、外 | 黄灰 | | | [3.3] | III | ○ | 44 |
| 249 | 14住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ミガキ | ミガキ | — | 内 | 灰黄褐色 | (15.2) | | [3.6] | II | ○ | 44 |
| 250 | 14住 埋土 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | ミガキ | 内 | 灰黄褐色 | | | | II | ○ | 44 |
| 251 | 14住 埋土 | 台付坏 | — | — | — | — | — | — | 内、外 | 黒 | | | | III | — | 44 |
| 252 | 14住 カマド | 台付坏 | — | — (ミガキ) | 回・糸 | — | — | ミガキ | 内、外 | 灰黄褐色 | 9.4 | [2.5] | I b | ○ | 44 | |

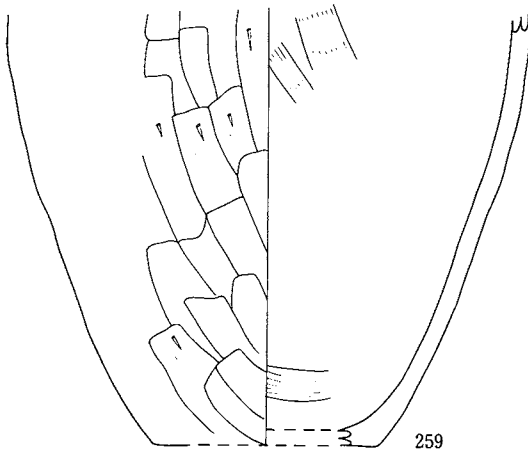
第47図 14号住居跡出土遺物(2)



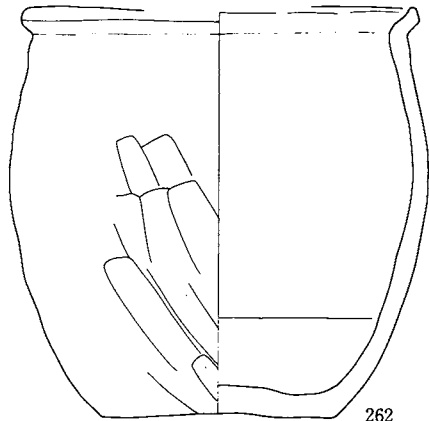
253



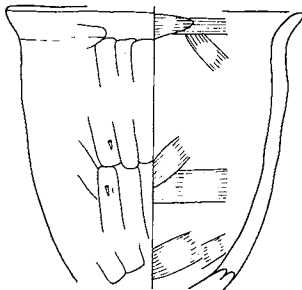
254



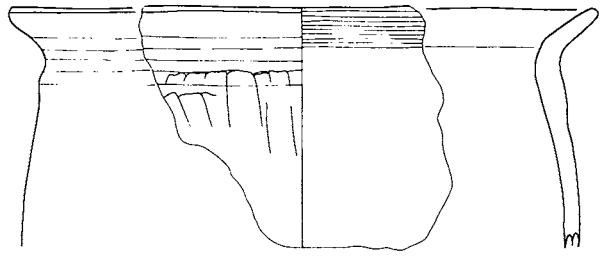
259



262



258



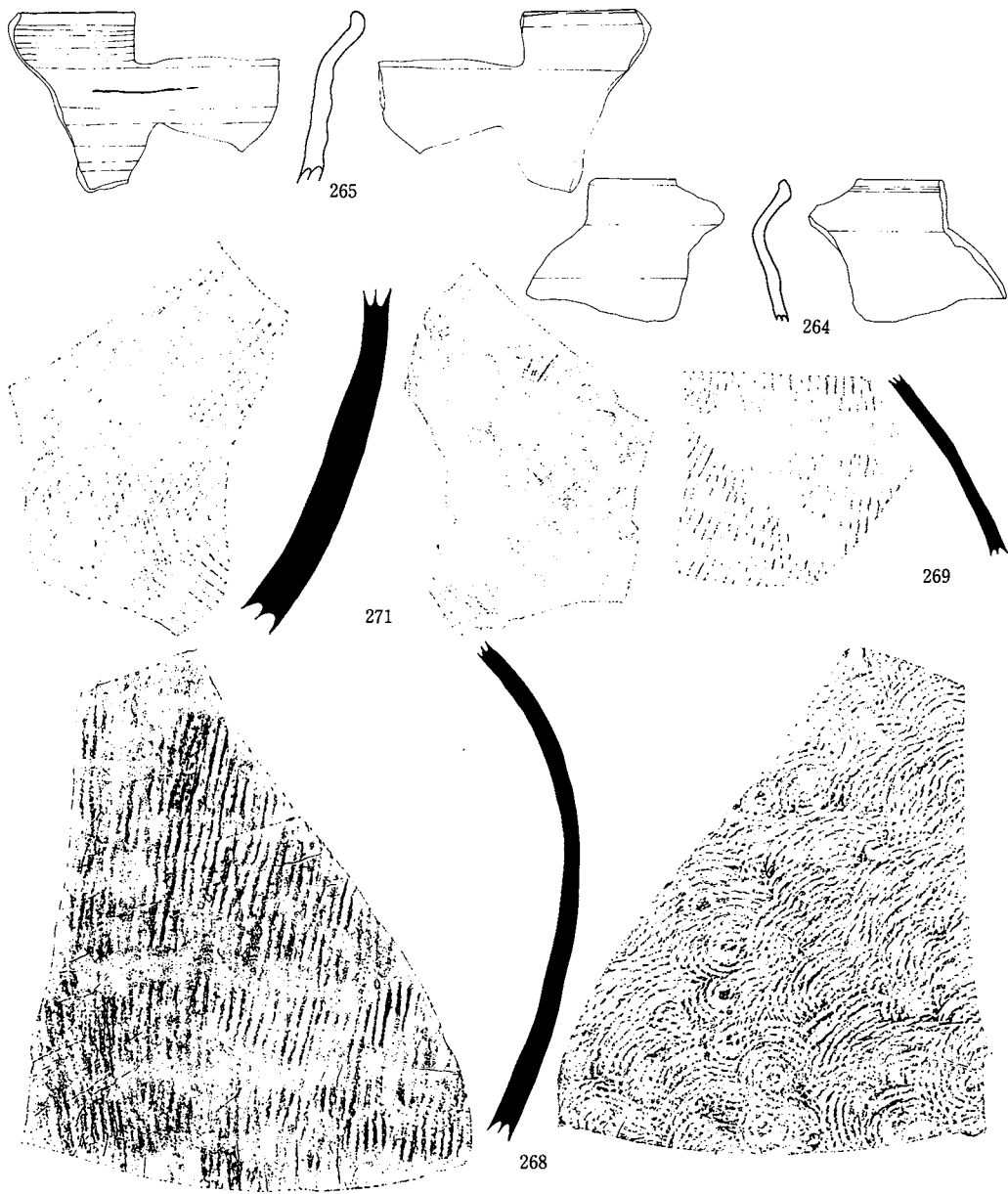
261

土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|-------------------------|----|-----|---------|-----|-----|-----|----|------|--------|---------|--------|----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 253 | 14住 カマド | 甕 | ロクロ | — | ロクロ | ナデ | — | — | にぶ橙 | (19.2) | | [9.5] | A | ○ | 44 | |
| 254 | 14住 カマド | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | 灰白 | 16.8 | | [8.9] | B | ○ | 44 | |
| 255 | 14住 カマド | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | にぶ黄橙 | | | | B | ○ | 44 | |
| 256 | 14住 カマド | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | にぶ黄橙 | | | [12.5] | | — | 44 | |
| 257 | 14住 カマド | 甕 | — | ナデ | — | — | ケズリ | — | 橙 | | | [13.5] | | — | 44 | |
| 258 | 14住 カマド | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | にぶ埋 | (12.0) | | [11.2] | B | ○ | 44 | |
| 259 | 14住 カマド | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | 灰白 | | (9.0) | [17.5] | ○ | 44 | | |
| 260 | 14住 カマド | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | にぶ黄橙 | | | [2.0] | B | — | 44 | |
| 261 | 14住 P ₃ 埋土下部 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | 浅黄橙 | | | [9.5] | B | ○ | 44 | |
| 262 | 14住 P ₃ 埋土 | 甕 | ロクロ | ケズリ | — | ロクロ | ナデ | ナデ | 灰褐 | (15.7) | 9.2 | 16.5 | A | ○ | 45 | |
| 263 | 14住 P ₃ 埋土 | 甕 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | にぶ黄橙 | | | | B | — | 45 | |

第48図 14号住居跡出土遺物(3)

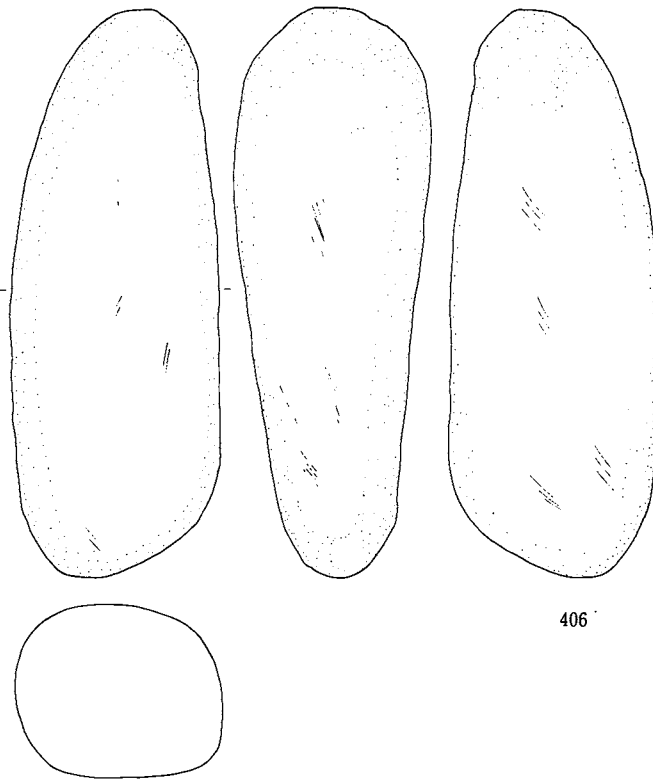


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|-----------------------|----|-----|---------|----|-----|-----|----|------|-------|---------|----|--------|----|---|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 264 | 14住 P ₂ 埋土 | 甕 | ロクロ | | — | ロクロ | ナデ | — | | 浅黄橙 | | | [5.9] | A | ○ | 45 |
| 265 | 14住 埋土 | 甕 | ナデ | | — | ナデ | ナデ | — | | にぶい橙 | | | | B | ○ | 45 |
| 266 | 14住 埋土 | 甕 | ナデ | | — | ナデ | — | — | | 浅黄橙 | | | [3.5] | B | — | 45 |
| 267 | 14住 埋土 | 甕 | — | | — | — | — | — | | にぶい黄橙 | | | | I | — | 45 |
| 268 | 14住 P ₂ 埋土 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | あて具 | — | | 灰 | | | [23.0] | — | ○ | 45 |
| 269 | 14住 P ₂ 埋土 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | ナデ | — | | 灰 | | | | — | ○ | 45 |
| 270 | 14住 埋土 | 甕? | — | ロクロ | — | — | ロクロ | — | | 灰 | | | | — | ○ | 45 |
| 271 | 14住 埋土 | 甕 | — | 叩き目 | | | | | | 灰 | | | | — | ○ | 45 |

第49図 14号住居跡出土遺物(4)



石器類

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計測 (cm, g) | | | | 石 | 材 | 写真図版 |
|-----|------------|----|------------|-----|-----|-------|-------|--------------|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | | |
| 406 | 14号柱 カマド左袖 | | 22.8 | 8.3 | 7.0 | 2,140 | 輝岩安山岩 | 紫波郡西部山地 新第三系 | ○ 51 |

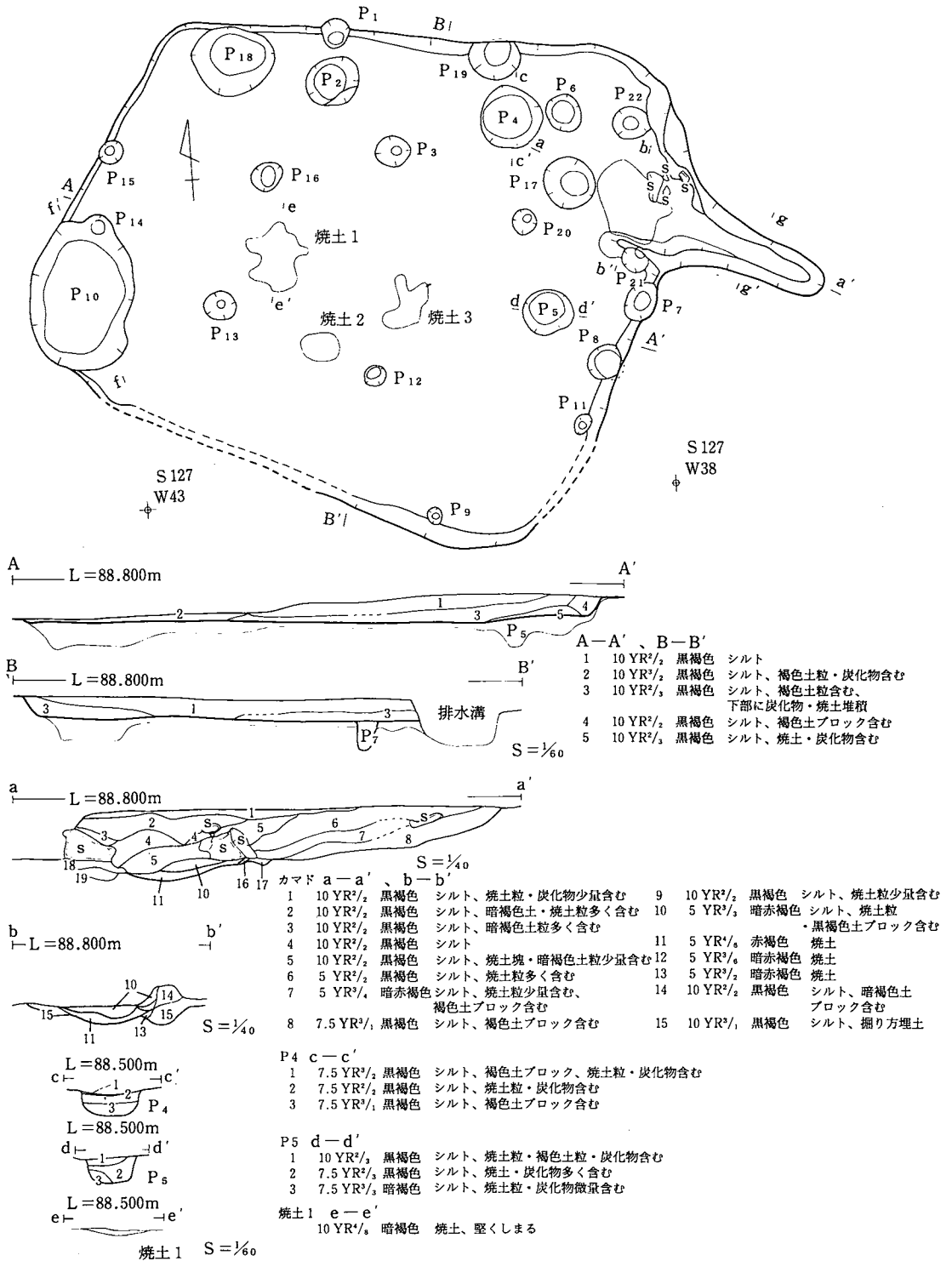
第50図 14号住居跡出土遺物(5)

ら、礫を芯にしてそれに黒褐色土を巻いて構築されていたと考えられる。袖部の幅は約190 cmである。また、燃烧部の焼土の大きさは49×46 cm、厚さ5 cmである。煙道は残っていないため形状・規模は不明である。カマドの上には遺物が集中していた。

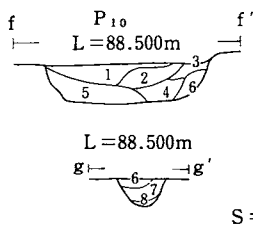
遺物 (第46～50図、写真図版43～45・51)

〈土器〉220～271までが出土している。内訳は坏・台付坏が33点、甕が17点、不明が2点である。その内須恵器は甕3点、不明1点である。不明の内267は台付坏の台部かと思われる。もう1点は須恵器で甕類と思われる。

220・227・239の坏は体部が底部から比較的急角度で直線的に立ち上がっている共通した特徴的な形態をしている。224の坏はカマドの左袖、225は右袖から出土している。227の坏には内面の底部に不明瞭であり断定できないが、回転糸切りによる可能性のある痕跡が認められる。



第51図 15号住居跡(1)



| P10 | f - f' | | |
|--------------------|------------------------------------|-----|----------------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒・炭化物少量含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土ブロック含む、炭化物・焼土粒微量含む |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 4 | 7.5 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土ブロック含む |
| 5 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土ブロック多く含む |
| 6 | 10 YR ⁴ / ₃ | 褐色 | 粘土質シルト、黒褐色土ブロック、炭化物少量含む |
| g - g' | | | |
| カマド断面(a-a'、b-b')参照 | | | |

Pit計測値

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
|-----|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 大きさ | 27×26 | 53×46 | 32×28 | 62×60 | 49×44 | 36×34 | 38×30 | 34×32 | 15×14 | 139×98 | 20×14 |
| 深さ | 24 | 29 | 20 | 25 | 28 | 20 | 6 | 26 | 4 | 32 | 54 |
| 番号 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 大きさ | 21×20 | 31×29 | 26×(22) | 22×21 | 30×25 | 50×46 | 80×65 | 50×36 | 23×23 | 26×21 | 34×31 |
| 深さ | 25 | 67 | 24 | 27 | 42 | 25 | 34 | 27 | 27 | 40 | 9 |

第52図 15号住居跡(2)

230・233の坏は器壁が薄く堅く焼き締まっている。251は台付坏の台部の破片であるが全面をみがいしている。253・254・258～262・264の甕の胎土中には、多くの砂あるいは微小な礫が含まれている。265の甕のナデはロクロによる可能性がある。

〈その他〉カマドの左袖から磨石(406)が1点出土している。

15号住居跡

遺構(第51・52図、写真図版18・19)

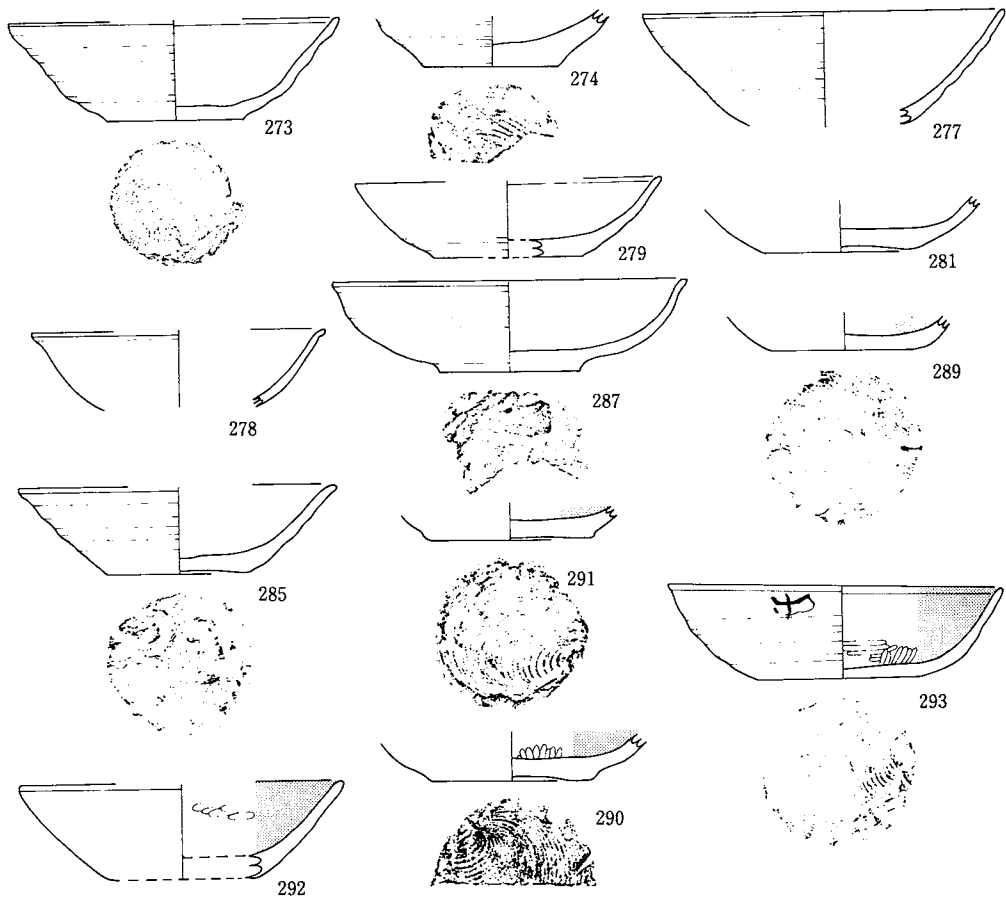
〈検出〉調査区南側のI I区北側に位置する。「南」のII層除去後、「南」のIII層上面で焼土等の広がりから煙道周辺を検出し、その後、全体が検出された。残存状況は比較的良好であるが南側が一部排水溝によって削られている。

〈形状・規模〉平面形は西辺が短い台形状で、隅は丸い。床面の規模は東西5.1m・南北3.2～4.6mである。壁は東西南北いずれも外傾しながら立ち上がり、壁高は東壁で20cm・西壁で5cmで滝名川側で低くなっている。

〈埋土〉黒褐色土から成り4層に分れる。2層以下には褐色土粒が混入している。最下部には炭化物、焼土が薄く堆積している。人為的な堆積の痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

〈床〉貼り床である。床面は西側がわずかに低くなっているが起伏はなく平坦である。床の構築土は黒褐色土で、P21・P3・P16・P13・P12・P11で囲まれた部分が薄くなっている。この部分の床面は堅く締まっている。また、床面が三ヵ所焼けており、それぞれの焼土の大きさは焼土1が66×60cm、焼土2が39×28cm、焼土3が50×33cmであり、焼土1の厚さは5cmである。焼土2・3はそれに比べかなり薄くなっている。

〈柱穴・土坑〉P1～P22まで検出されている。このうちP11・P13・P16・P21が深さ40cm以上であり、柱穴になると考えられる。また、浅いがこれらと同じ程度の大きさの柱穴状ピットが壁際に並び、やや大きなP2・P4・P5・P17がその内側にある。前者は補助的な柱穴

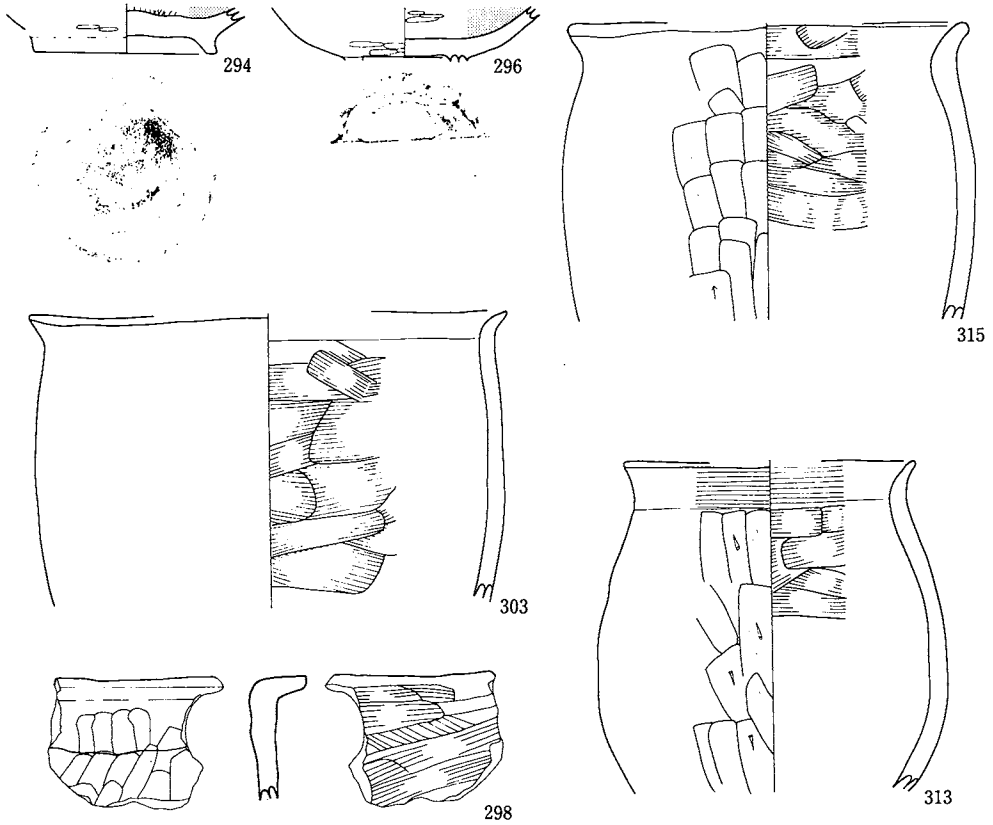


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|------------------------|----|-----|-----------|---------|-----|-----|-------|------|-----|---------|-------|-------|------|---|------|
| | | | 口縁 | 体部(下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 272 | 15住 床 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 灰黄褐 | | | | I | — | 46 |
| 273 | 15住 カマド | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 橙 | (13.3) | 5.4 | 4.0 | I a | ○ | 46 |
| 274 | 15住 カマド | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ミガキ | | 浅黄橙 | | 5.4 | [2.0] | I a | — | 46 |
| 275 | 15住 カマド | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | 有 | | 灰黄橙 | | | [1.6] | I a | — | 46 |
| 276 | 15住 P ₂ 埋土 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | | | 橙 | | | [1.0] | I | — | 46 |
| 277 | 15住 P ₃ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 灰黄橙 | (14.5) | | [4.5] | I | ○ | 46 |
| 278 | 15住 P ₁₀ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 浅黄橙 | (11.8) | | [3.1] | I | ○ | 46 |
| 279 | 15住 埋土下部 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 灰黄橙 | (12.2) | (6.0) | 3.1 | I a | ○ | 46 |
| 280 | 15住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | — | — | | 橙 | | | 3.0 | I | — | 46 |
| 281 | 15住 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | | 灰黄橙 | | 6.2 | [1.8] | I a | ○ | 46 |
| 282 | 15住 埋土 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | — | | 浅黄橙 | | | [1.0] | I | — | 46 |
| 283 | 15住 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | — | | 橙 | | | [1.3] | I a | — | 46 |
| 284 | 15住 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | | 橙 | | | [1.0] | I a | — | 46 |
| 285 | 15住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | — | — | ロクロ | | 灰白 | (12.8) | 5.8 | 3.5 | I a | ○ | 46 |
| 286 | 15住 埋土 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | ロクロ | | 橙 | | | [1.6] | I | — | 46 |
| 287 | 15住 掘り方 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 浅黄橙 | (14.0) | 5.6 | 3.6 | I a | ○ | 46 |
| 288 | 15住 床 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | 内 | | | | | [1.0] | II | — | 46 |
| 289 | 15住 床 | 坏 | — | — () | ケズリ | — | — | ミガキ 内 | | 浅黄橙 | | 6.0 | [1.4] | II b | ○ | 46 |
| 290 | 15住 P ₂ 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ミガキ 内 | | 灰白 | | 6.4 | [1.5] | II a | ○ | 46 |
| 291 | 15住 P ₁ 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ミガキ 内 | | 灰白 | | 6.5 | [1.5] | II a | ○ | 46 |
| 292 | 15住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸? | ミガキ | ミガキ | ミガキ 内 | | 灰黄橙 | (12.8) | | [3.9] | II a | ○ | 46 |
| 293 | 15住 掘り方 | 坏 | ロクロ | ロクロ (ケズリ) | ケズリ 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ 内 | | 浅黄橙 | 13.4 | 6.5 | 3.9 | II b | ○ | 46 |

第53図 15号住居跡出土遺物(1)

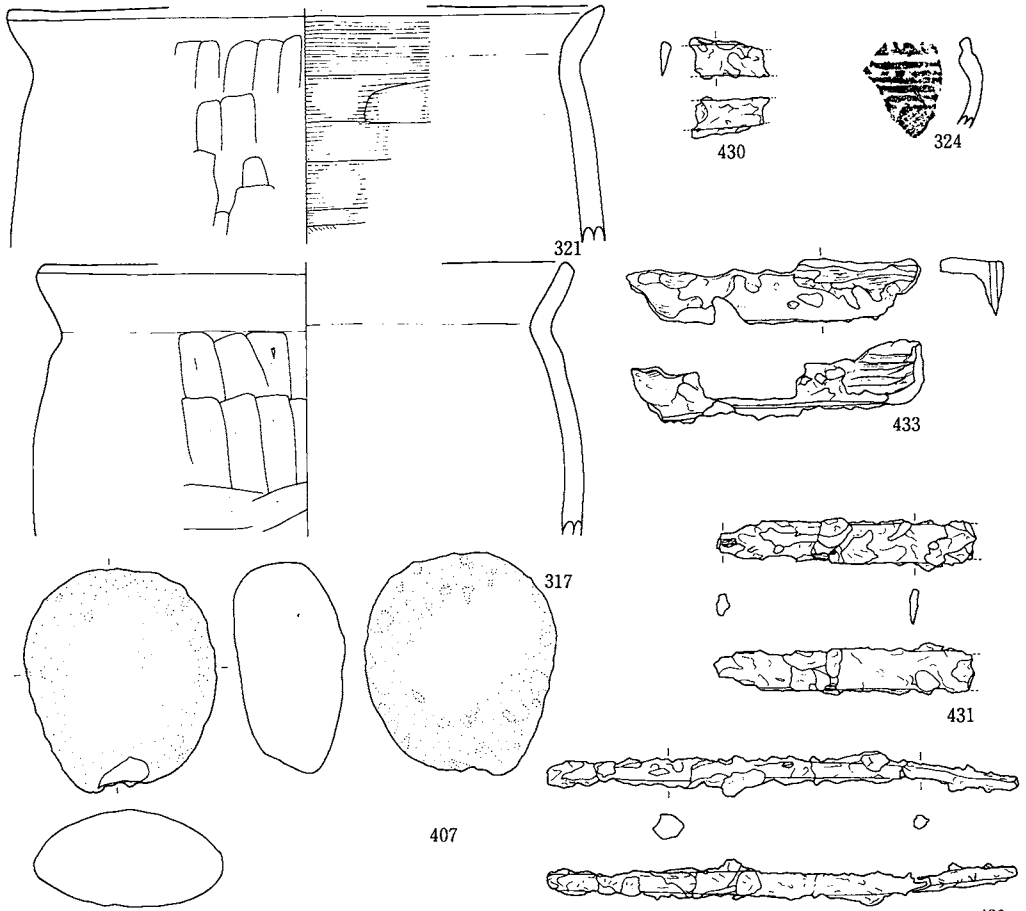


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|------------------------|-----|-----|---------|-----|----|----|-----|------|-------|---------|--------|-----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 294 | 15住 床 | 台付坏 | - | -(ロクロ) | ロクロ | - | - | ミガキ | 内、外 | 黒褐 | 7.4 | [1.5] | III | ○ | 46 | |
| 295 | 15住 カマド | 台付坏 | ロクロ | -(ロクロ) | - | - | - | - | 内 | にぶい橙 | | [2.0] | II | - | 46 | |
| 296 | 15住 P ₁₀ 埋土 | 台付坏 | - | -(ミガキ) | ミガキ | - | - | ミガキ | 内、外 | 黒 | (5.0) | [2.3] | III | ○ | 46 | |
| 297 | 15住 埋土 | 台付坏 | - | - | ロクロ | - | - | - | | 灰黄褐 | | [2.1] | I | - | 46 | |
| 298 | 15住 床 | 甕 | - | - | - | ナデ | ナデ | - | | 橙 | | [4.9] | B | ○ | 46 | |
| 299 | 15住 床 | 甕 | - | - | - | ナデ | ナデ | - | | にぶい黄褐 | | | B | - | 46 | |
| 300 | 15住 床 | 甕 | ナデ | - | - | ナデ | ナデ | - | | にぶい黄褐 | | [6.3] | B | - | 46 | |
| 301 | 15住 床 | 甕 | - | ケズリ | - | - | ナデ | - | | にぶい橙 | | | | - | 46 | |
| 302 | 15住 床 | 甕 | - | - | - | - | ナデ | - | | にぶい黄褐 | | | | - | 46 | |
| 303 | 15住 床 | 甕 | - | - | - | - | ナデ | - | | 灰黄褐 | | [11.5] | B | ○ | 46 | |
| 304 | 15住 床 | 甕 | - | ケズリ | - | - | ナデ | - | | 橙 | | | | - | 47 | |
| 305 | 15住 カマド | 甕 | ナデ | - | - | ナデ | - | - | | にぶい黄褐 | | [2.5] | B | - | 47 | |
| 306 | 15住 カマド | 甕 | - | - | - | - | ナデ | - | | にぶい黄褐 | | [4.8] | B | - | 47 | |
| 307 | 15住 カマド | 甕 | - | -(ケズリ) | - | - | ナデ | ナデ | | | | | | - | 47 | |
| 308 | 15住 カマド | 甕 | - | ケズリ | - | - | ナデ | - | | にぶい橙 | | | | - | 47 | |
| 309 | 15住 P ₂ 埋土 | 甕 | - | ケズリ | - | - | ナデ | - | | にぶい黄褐 | | | | - | 47 | |
| 310 | 15住 P ₄ 埋土 | 甕 | ナデ | ケズリ | - | - | ナデ | ナデ | | 灰黄褐 | | | B | - | 47 | |
| 311 | 15住 P ₄ 埋土 | 甕 | - | - | - | - | ナデ | - | | 灰黄褐 | | [3.3] | B | - | 47 | |
| 312 | 15住 P ₂ 埋土 | 甕? | - | - | - | - | ナデ | - | | 灰黄褐 | | | | - | 47 | |
| 313 | 15住 P ₆ 埋土 | 甕 | ナデ | ケズリ | - | - | ナデ | ナデ | | 橙 | (11.7) | [13.4] | B | ○ | 47 | |
| 314 | 15住 P ₁₀ 埋土 | 甕 | ナデ | - | - | - | ナデ | - | | にぶい橙 | | [2.8] | B | - | 47 | |
| 315 | 15住 埋土下部 | 甕 | - | ケズリ | - | - | ナデ | ナデ | | にぶい潮 | (15.8) | [12.7] | B | ○ | 47 | |
| 316 | 15住 埋土下部 | 甕 | ナデ | ケズリ | - | - | ナデ | ナデ | | にぶい黄褐 | | | B | - | 47 | |

第54図 15号住居跡出土遺物(2)



土器

遺物観察表

429

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|--------|----|-----|---------|----|-----|-----|----|------|-------|---------|--------|----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 317 | 15住 埋土 | 壺 | | ケズリ | — | | | — | | 浅黄褐色 | (21.1) | [11.0] | B | ○ | 47 | |
| 318 | 15住 埋土 | 壺 | | | — | ナデ | ナデ | — | | こぶ黄褐色 | | [8.8] | | — | 47 | |
| 319 | 15住 埋土 | 壺 | ナデ | — | — | ナデ | — | — | | にぶ黄褐色 | | | | — | 47 | |
| 320 | 15住 埋土 | 壺? | ナデ | — | — | ナデ | — | — | | こぶ黄褐色 | | | | — | 47 | |
| 321 | 15住 掘方 | 壺 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | こぶ黄褐色 | | [9.2] | B | ○ | 47 | |
| 322 | 15住 床 | 鉢 | ナデ | ナデ、ケズリ | — | ミガキ | ミガキ | — | | こぶ黄褐色 | | [11.8] | | — | 47 | |
| 323 | 15住 埋土 | 壺 | — | 叩き目 | — | — | ナデ | — | | 灰 | | | | — | 47 | |
| 324 | 15住 埋土 | 鉢 | ミガキ | | — | ミガキ | — | — | | 灰黄褐色 | | | | ○ | 48 | |

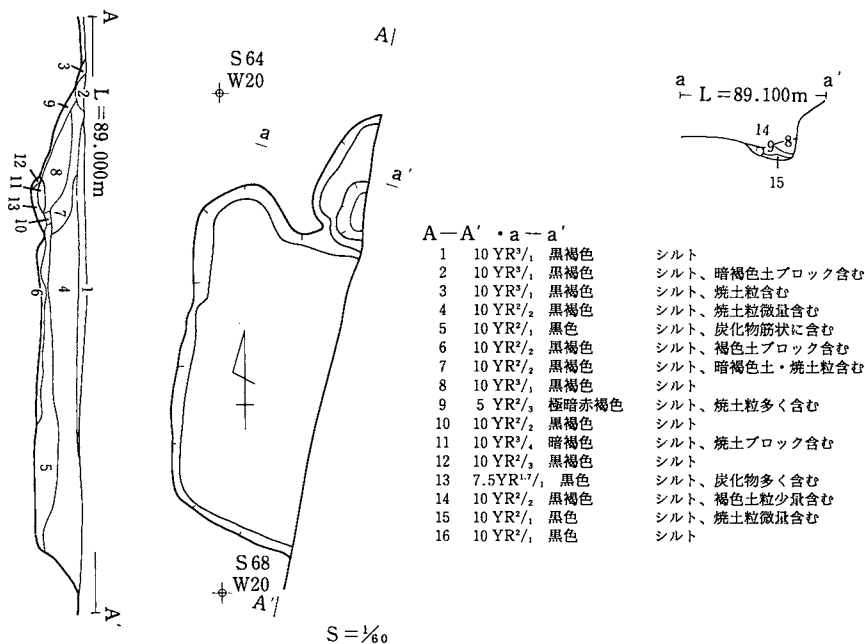
石器類

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 計測 (cm, g) | | | | 石 | 材 | 写真図版 | |
|-----|-----------|----|------------|-----|-----|-----|-------|--------------|------|----|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | | | |
| 407 | 115号 埋土下部 | | 9.0 | 7.7 | 4.5 | 210 | 廊石安山岩 | 紫波郡西部山地 新第三系 | ○ | 51 |

鉄製品・鉄滓

| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計測 (cm, g) | | | | 図 | 写真図版 |
|-----|------------------------|-----|------------|-----|-----|------|---|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | |
| 428 | 10住 1層 | | 5.6 | 1.0 | 0.5 | 7.1 | ○ | 53 |
| 429 | 15住 床 | | 18.9 | 1.0 | 1.1 | 26.6 | ○ | 53 |
| 430 | 15住 P ₁₀ 埋土 | 刀子 | 3.0 | 1.6 | 0.4 | 2.9 | ○ | 53 |
| 431 | 15住 P ₁₀ 埋土 | 刀子 | 10.4 | 1.7 | 0.4 | 20.4 | ○ | 53 |
| 432 | 15住 床 | 鉄滓 | 3.8 | 3.0 | 2.0 | 18.9 | — | 53 |
| 433 | 15住 掘方埋土 | 懸摘具 | 11.7 | 2.5 | 2.6 | | ○ | 53 |

第55図 15号住居跡出土遺物(3)



第56図 16号住居跡

の可能性があるが、後者は性格不明である。

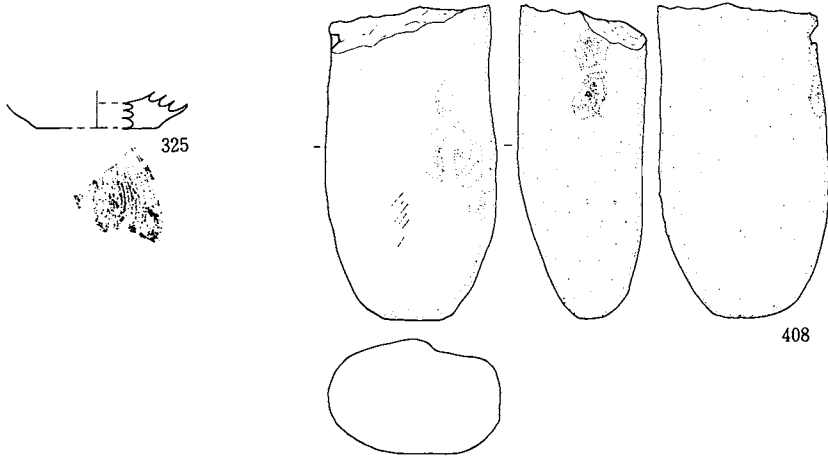
〈カマド〉東壁の北端に設けられている。煙道は掘り込み式であり、南東に延びる。煙道底部は床面と同じ高さから緩やかに上昇している。既に述べたように煙道が最初に検出された。長さは150 cmである。袖部は礫を芯として黒褐色土で構築されている。南側しか残っておらず、幅は計測できなかった。焚き口付近には扁平な礫が崩落しており、この礫が本来はカマドの天井部を構成していたと考えられる。この部分にある P 17 には焼土粒や炭化物が含まれている。燃焼部の焼土の範囲は70×60 cm、厚さ11 cmでかなりよく焼けている。

遺物（第53～55図、写真図版46・47・51・53）

〈土器〉272～324が出土している。内訳は坏・台付坏が26点、甕が23点、鉢が2点、不明が2点である。鉢の内1点は縄文時代晩期のものである。須恵器は323の甕1点のみであり、非常に少ない。

293の坏には外面体部に墨書が認められるが、判読不能である。312の外面の調整法は不明である。粗いブラシの様なものを工具として使ったようにも見える。313・315・317・318の甕の胎土中には粗い砂が多く含まれている。

〈その他〉石器、鉄製品が出土している。石器（407）は器種を特定し難いが、両面に磨った面があり一端は打ち欠かされている。



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|--------|----|----|---------|-----|----|----|----|------|---|---------|-------|----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 325 | 16住 埋土 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | | 橙 | | | [1.5] | I | ○ | 48 | |

石器類

| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計測 (cm, g) | | | | 石 | | | 材 | 写真図版 |
|-----|---------|----|------------|-----|-----|-----|--------------------|--|--|---|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | | | | |
| 408 | 16号住 埋土 | | 12.6 | 6.9 | 4.6 | 400 | 柳石安山岩 紫波郡西部山地 新第三系 | | | | ○ 51 |

第57図 16号住居跡出土遺物

鉄製品と鉄滓は 429～433 の 5 点出土しており比較的多く残りも良い。429 は断面四角形の棒状の製品である。7号住居跡で出土している紡錘車の軸と形状が類似する。430・431 は刀子である。433 は穂摘具である。残存状況がよく木質部も残っている。

16号住居跡

遺構 (第 56 図、写真図版 19)

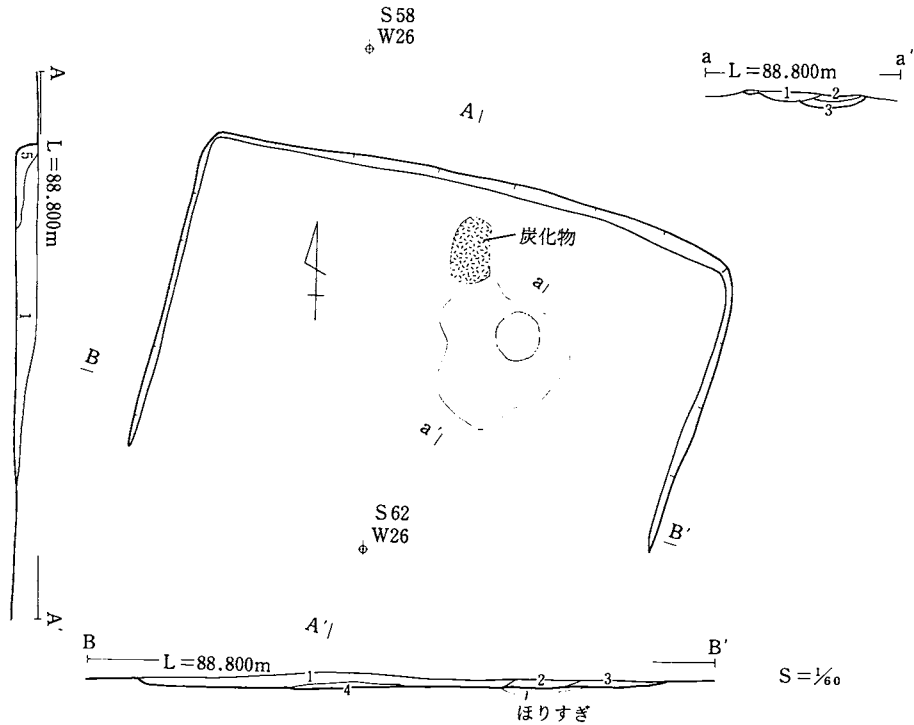
〈検出〉 調査区南側の II G 区西端に位置する。耕作土除去後 VI 層中の黒褐色土の広がりとして検出された。東半部は調査区外の水田下に延びており、西半部のみ調査している。

〈形状・規模〉 東半部は調査区外にあり全体の形状は不明であるが、他の住居跡の例から平面形は隅丸方形を呈するものと考えられる。壁は外傾しながら立ち上がり壁高は 36 cm である。規模は床面で南北 2.5 m ある。東西は不明である。

〈埋土〉 調査区外の水田の畦畔に残る断面は残存状況がよく、良好な断面を観察する事ができた。この断面で「南」の II 層から掘り込まれている事が確認された。埋土は黒褐色土が主体となり、暗褐色土が混入する。人為的な堆積の痕跡はなく、自然堆積と考えられる。

〈床〉 VI 層の褐色土がそのまま床面とされている。床面は起伏がなく平坦でほぼ水平である。

〈カマド〉 北壁に構築されているが、東半部が調査区外の水田の下にあるため、西半部のみ調査している。明瞭な燃焼部の焼土は検出できなかった。煙道は畦畔で断面を観察することが出



A-A'、B-B'

- | | | | |
|---|-----------------------------------|-----|----------------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化物微量含む |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土ブロック含む、焼土粒微量含む |
| 3 | 10 YR ² / ₄ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土ブロック含む |
| 4 | 10 YR ² / ₅ | 暗褐色 | シルト、暗褐色土粒・焼土粒・炭化物含む |
| 5 | 10 YR ² / ₆ | 黒褐色 | シルト、黒褐色・暗褐色土ブロック含む、炭化物少量含む |

焼土 a-a'

- | | | | |
|---|-----------------------------------|------|------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト、焼土ブロック・炭化物含む |
| 2 | 5 YR ² / ₆ | 暗褐色 | 焼土 |
| 3 | 5 YR ² / ₆ | 暗赤褐色 | 焼土 |

第58図 17号住居跡

来た。掘り込み式であり、底面は北側に緩やかに上昇しながら延びていく。長さは90 cmある。袖部の幅は東半部を調査していないので不明である。

遺物 (第57図、写真図版48・51)

〈土器〉 325の坏1点だけ出土している。

〈その他〉 土器類以外では石器(408)が1点出土している。磨耗した面とくぼみがあり、一端は折れている。

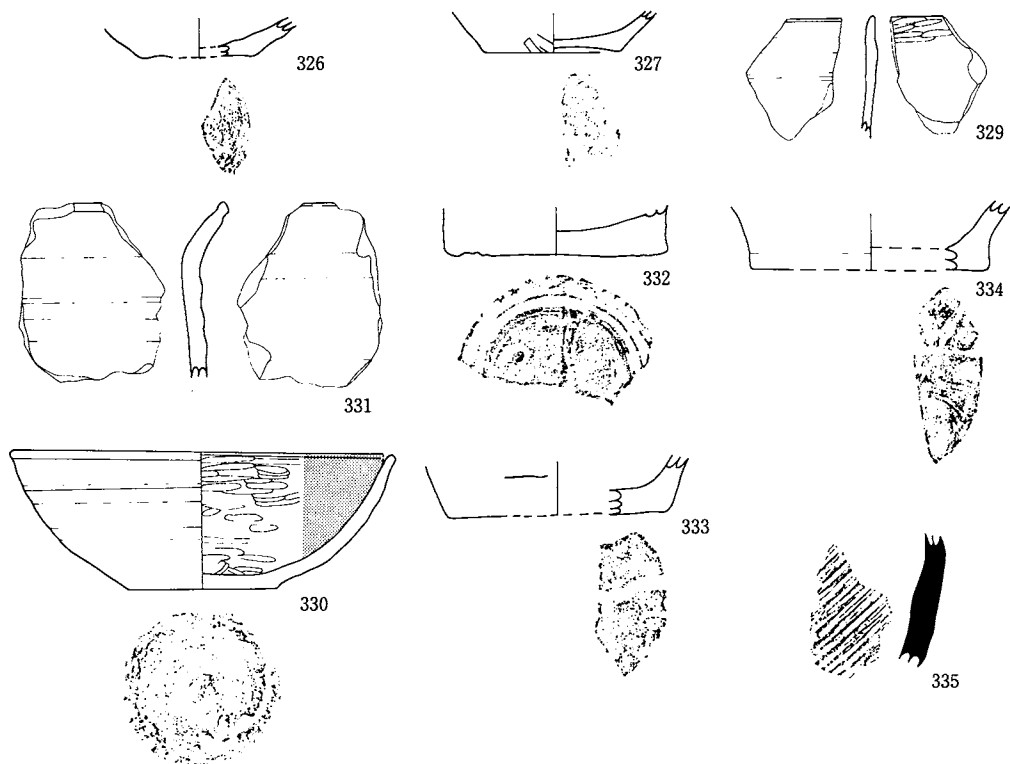
17号住居跡

遺構 (第58図、写真図版20)

〈検出〉 調査区南側のIG区東側に位置する。「南」のIII層中の炭化物・焼土を含む黒褐色土の広がりとして検出されている。

〈形状・規模〉 南側が失われているが、平面形は隅丸方形になると考えられる。東西は床面で4.2 mである。

〈床〉 一部に貼り床が認められる。床面はほぼ水平で平坦である。北側には54×32 cmの範囲で



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|--------|----|-----|---------|-----------|-----|-----|-----|-------|-------|---------|-------|-------|------|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 326 | 17住 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | 橙 | | | [1.7] | I a | ○ | 48 | |
| 327 | 17住 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ナデ | こぶい黄橙 | | | [1.7] | I a | ○ | 48 | |
| 328 | 17住 埋土 | 坏 | — | — (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | こぶい橙 | | | [1.4] | I a | — | 48 | |
| 329 | 17住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ミガキ | ミガキ | — | 内 | こぶい黄橙 | | | | II | ○ | 48 |
| 330 | 17住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 | 浅黄橙 | 15.3 | 6.4 | 5.8 | II a | ○ | 48 |
| 331 | 17住 埋土 | 甕 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ナデ | — | — | こぶい黄橙 | | | | A | ○ | 48 |
| 332 | 17住 埋土 | 甕? | — | — (ロクロ) | ロクロ | — | — | ミガキ | 内 | こぶい黄橙 | | | [1.8] | A | ○ | 48 |
| 333 | 17住 埋土 | 甕 | — | — () | ケズリ? | — | — | — | — | こぶい黄橙 | | | [2.8] | | ○ | 48 |
| 334 | 17住 埋土 | 甕 | — | — (ナデ) | 笹の葉 圧痕 | — | — | ナデ | — | こぶい黄橙 | | | [3.0] | | ○ | 48 |
| 335 | 17住 埋土 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | ナデ | — | 灰 | | | | | — | ○ | 48 |

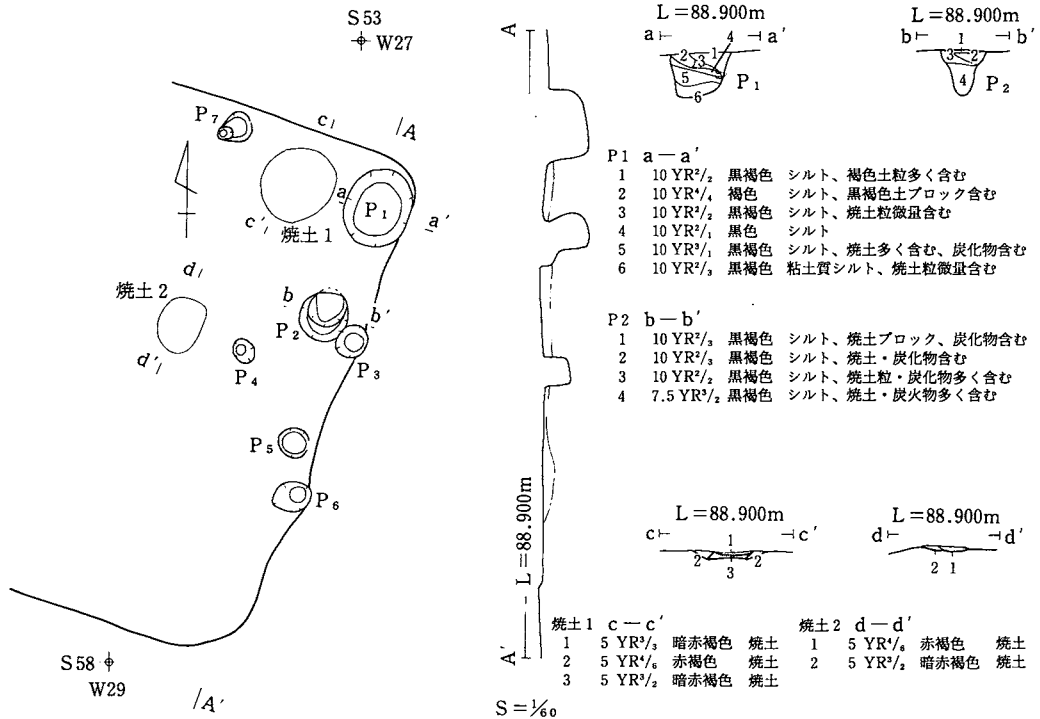
第59図 17号住居跡出土遺物

炭化材の小片が集中する。

〈埋土〉 黒褐色土が主体となり、暗褐色土や炭化物・焼土粒を含む。周囲の「南」のIII層よりやや明るい。人為的な堆積の痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

〈カマド〉 北東部にカマドの燃焼部と考えられる焼土が広がるが、袖部・煙道等はまったく検出されていない。焼土の範囲は40×34 cm、厚さ10 cmであり、まわりに焼土粒・炭化物が広がっている。

遺物 (第59図、写真図版48)



Pit計測値

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大きさ | 64×52 | 42×38 | 27×24 | 21×17 | 26×25 | 30×26 | 29×24 |
| 深さ | 35 | 36 | 22 | 31 | 20 | 13 | 23 |

単位: cm

第60図 18号住居跡

〈土器〉326~335が出土している。内訳は坏が5点、甕が4点、不明が1点である。不明は甕と思われる。埋土中の出土ではあるが住居跡の残存状況からみて、すべて本遺構に伴うと考えられる。

18号住居跡

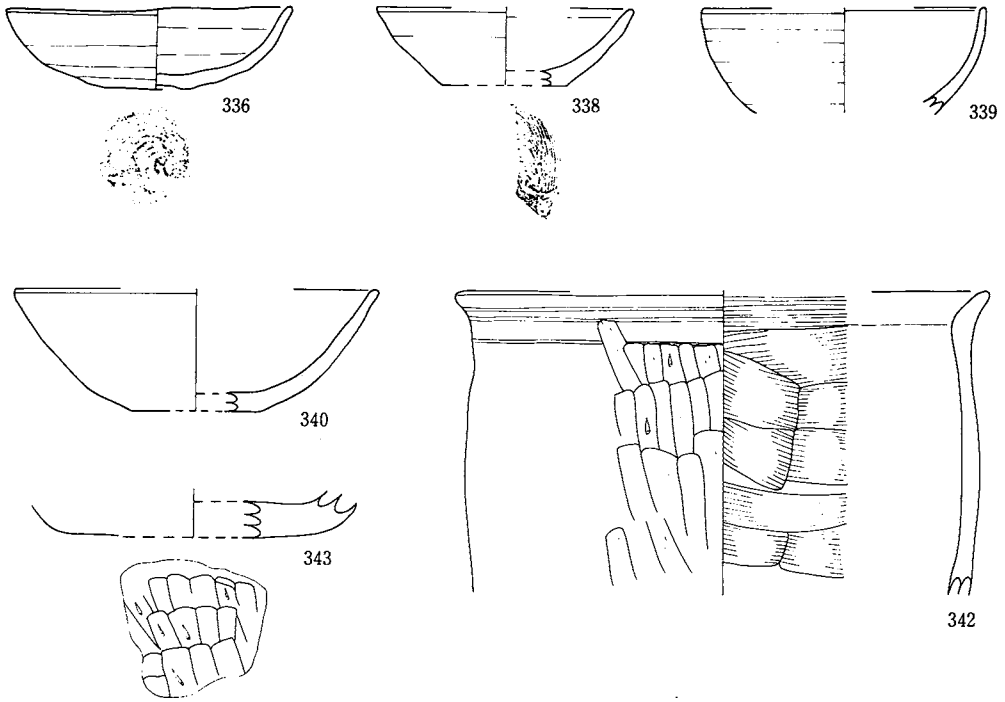
遺構（第60図、写真図版21）

〈検出〉調査区南側のIG区にあり、南隣には17号住居跡がある。「南」のIII層で検出されている。西半部は水田造成による削平によって失われている。ほぼ床面で検出されている。

〈形状・規模〉西半分が失われており全体の形状は確認できないが、他の住居跡の例から隅丸方形になると考えられる。規模は床面で南北が4.3mある。

〈床〉貼り床で、床面はほぼ水平で平坦であり、黒褐色土で構築されている。北東隅にある焼土はカマドの痕跡と考えられる。また中央部に焼土があり、範囲が43×36cm、厚さが4cmある。

〈柱穴・土坑〉P1~P7が検出されている。このうち、やや浅いがP3・P6が他の住居跡



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|-----------------------|----|-----|-----------|-----|-----|-----|-----|------|------|---------|-------|--------|------|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 336 | 18住 P ₁ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ (ケズリ) | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 淡橙 | 11.5 | 3.5 | 3.5 | I b | ○ | 48 |
| 337 | 18住 P ₂ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 橙 | | | [3.2] | I | — | 48 |
| 338 | 18住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | | 黄橙 | (10.4) | (5.0) | 3.2 | I a | ○ | 48 |
| 339 | 18住 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | | 黄橙 | (11.5) | | [4.3] | I | ○ | 48 |
| 340 | 18住 P ₁ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ (ケズリ) | — | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 内 | にぶい橙 | (14.7) | 5.2 | 4.9 | II b | ○ | 48 |
| 341 | 18住 焼土付近 | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | | 明黄褐 | | | [12.0] | — | — | 48 |
| 342 | 18住 埋土 | 甕 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | | 明黄褐 | | | [12.0] | B | ○ | 48 |
| 343 | 18住 埋土 | 甕 | — | (ケズリ) | ケズリ | — | — | ナデ | | 浅黄橙 | | | [2.3] | ○ | 48 | |

第61図 18号住居跡出土遺物

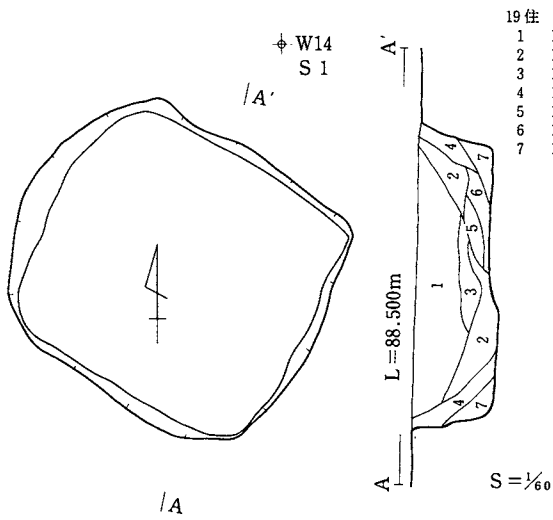
と同様に壁際にあり、柱穴になると考えられる。P 1 は下部に焼土塊を多量に含み、炭化物も多く含まれている。

〈カマド〉北東の焼土がカマドの燃焼部の焼土と考えられる。焼土の範囲は 60×58 cm で厚さ 8 cm である。袖部・煙道等は残っておらず構造は不明である。煙道は焼土の東隣に P 1 が位置する事から、北に延びていたと考えられる。

遺物 (第 61 図、写真図版 48)

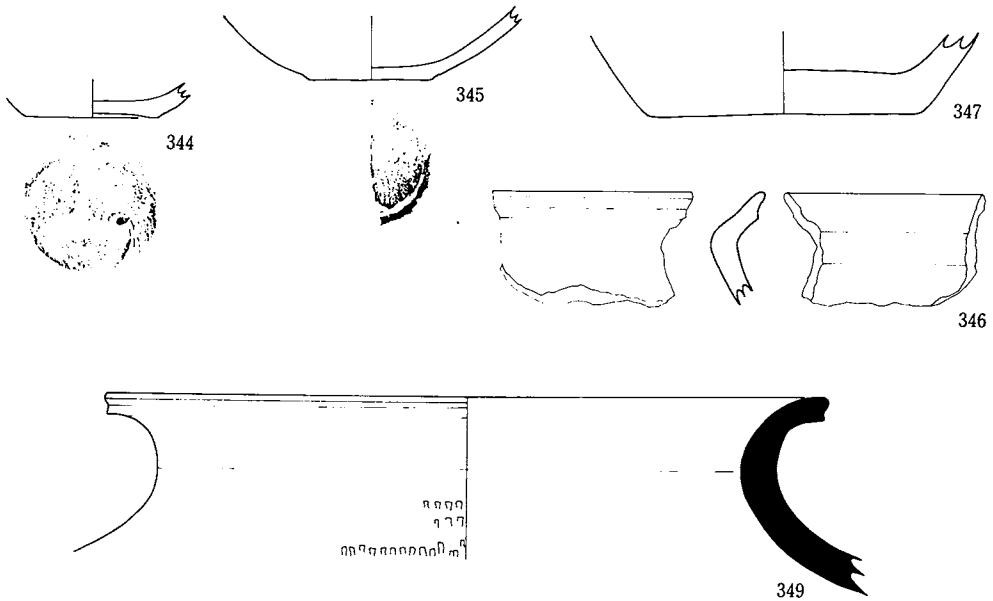
〈土器〉 336~343 が出土している。坏が 5 点、甕が 3 点である。341 と 342 は同一個体の可能性がある。

19 号住居跡



19住 A-A'

- 1 10 YR²/₃ 黒褐色 シルト、褐色土粒・炭化物・焼土粒少量含む
- 2 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、褐色土粒含む
- 3 10 YR²/₁ 黒褐色 シルト、焼土・炭化物多く含む
- 4 10 YR²/₄ 暗褐色 シルト、黒色土粒含む
- 5 10 YR²/₄ 暗褐色 粘土質シルト、褐色土粒多く含む、炭化物微量含む
- 6 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、炭化物微量含む
- 7 10 YR²/₂ 黒褐色 粘土質シルト、褐色土粒多く含む

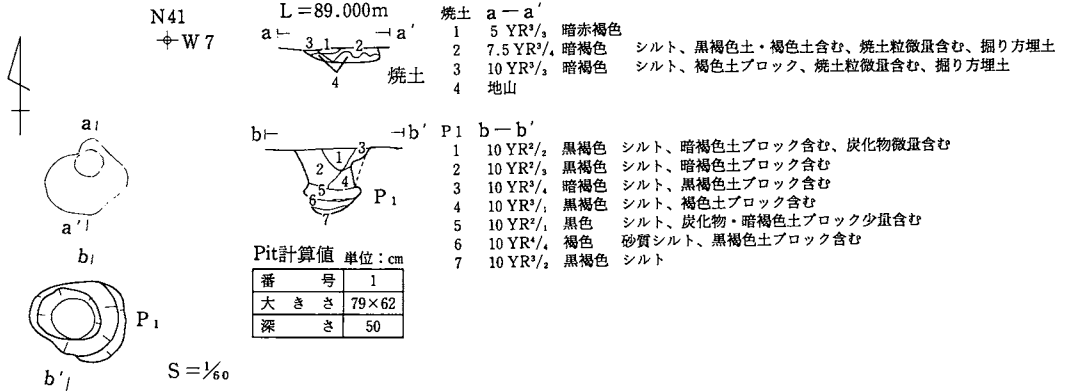


土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|--------|----|-----|---------|-----|----|----|-----|------|--------|---------|----|----|----|---|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 344 | 19住 1層 | 坏 | — | — () | 回・糸 | — | — | ロクロ | 橙 | 5.4 | [1.0] | I | ○ | 48 | | |
| 345 | 19住 1層 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | ロクロ | にぶい橙 | (5.0) | [2.6] | I | ○ | 48 | | |
| 346 | 19住 3層 | 甕 | ロクロ | — | — | ナデ | — | — | にぶい橙 | | [4.0] | A | ○ | 48 | | |
| 347 | 19住 1層 | 甕 | — | (ケズリ) | — | — | ナデ | — | 明黄褐 | | [3.3] | — | ○ | 48 | | |
| 348 | 19住 3層 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | ナデ | — | 灰 | | | — | — | 49 | | |
| 349 | 19住 3層 | 甕 | ロクロ | 叩き目 | — | — | ナデ | — | 灰 | (28.5) | [6.5] | — | ○ | 49 | | |

第62図 19号住居跡・19号住居跡出土遺物



第63図 20号住居跡

遺構 (第 62 図、写真図版 8)

〈検出〉 調査区中央部の II F 区北西隅に位置し、この付近での層序の観察のため方形に掘り下げたところ、西側の断面において検出された。「中央」の II 層から掘り込まれている。

〈埋土〉 主に黒褐色土からなり、7 層に分れる。3 層には焼土が投込まれており、この面から須恵器の甕の口縁部などが出土している。その他では人為的に埋め戻された痕跡は認められず、全体としてみて概ね自然堆積によって埋没したものと考えられる。

〈形状・規模〉 平面形はほぼ正方形である。規模は床面で 2.1×2.3 m である。壁高は西側で 60 cm 前後であり、ほぼ垂直に立ち上がる。13 号住居跡と規模・形状ともによく似ている。住居跡ではない可能性がある。

〈床〉 貼り床ではなく、VI 層の褐色土がそのまま床面となっており、ほぼ水平で平坦である。

遺物 (第 62 図、写真図版 48・49)

〈土器〉 344~349 が出土している。坏が 2 点、甕が 4 点で、甕の内 2 点は須恵器である。346・347 の甕は胎土中に粗い砂を多く含む。

20 号住居跡

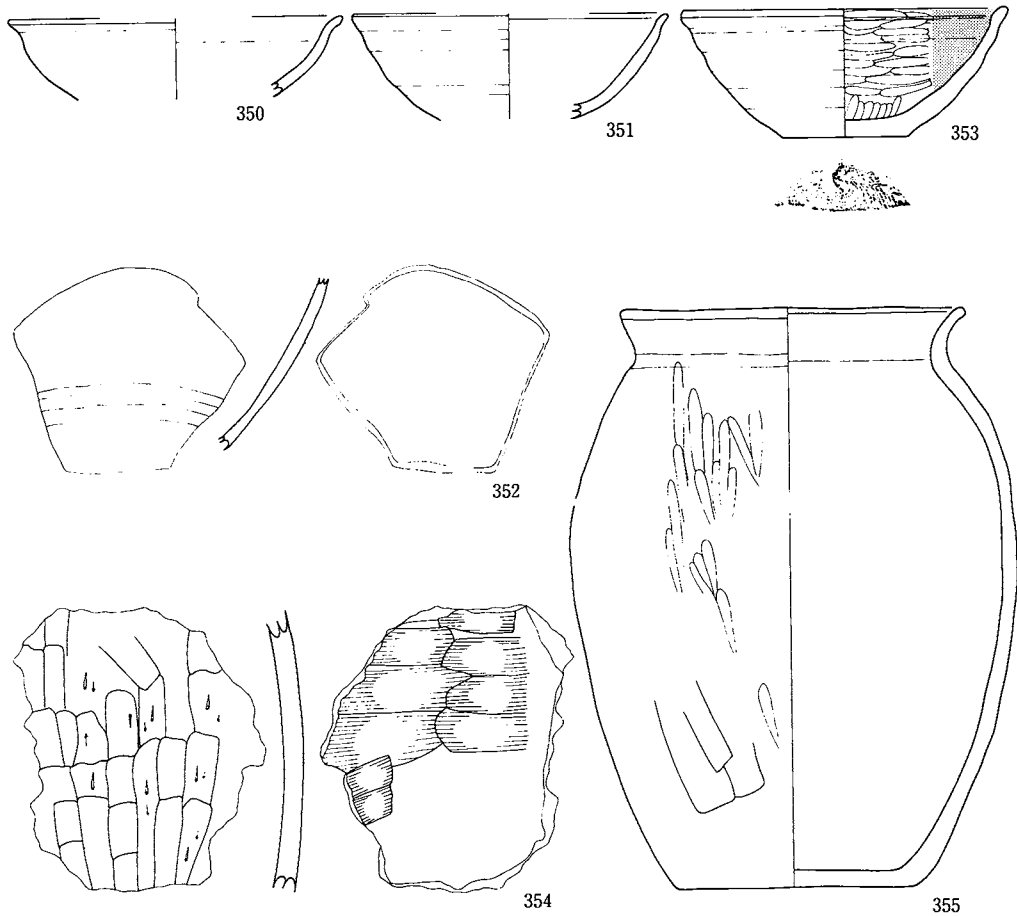
遺構 (第 63 図、写真図版 21・22)

〈検出〉 調査区ほぼ中央の II E 区と II D 区の境界に位置し、焼土とそれに伴う土坑によって VI 層で検出されている。

〈形状・規模〉 形状・規模ともに、推定する根拠となるものが検出されないため不明である。

〈柱穴・土坑〉 焼土の南側に土坑 1 基のみが検出され、ほぼ完形に復元された土師器の甕が出土している。

〈カマド〉 燃焼部の痕跡と考えられる焼土が検出されている。焼土の大きさは 60×65 cm、厚さ約 5 cm である。



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|-----------------------|----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|------|------|---------|-----|--------|-----|---|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 350 | 20住 P ₁ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | ロクロ | ロクロ | — | — | 橙 | (13.6) | | [3.2] | I | ○ | 49 |
| 351 | 20住 P ₂ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | — | 有 | — | — | — | 浅黄橙 | | | [4.2] | I | ○ | 49 |
| 352 | 20住 P ₂ 埋土 | 坏? | — | ロクロ | — | — | — | — | — | にぶい橙 | | | | I | ○ | 49 |
| 353 | 20住 P ₂ 埋土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | — | にぶい橙 | 13.2 | 5.0 | 5.2 | I a | ○ | 49 |
| 354 | 20住 P ₂ 埋土 | 甕 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | — | にぶい橙 | | | [11.3] | | ○ | 49 |
| 355 | 20住 P ₂ 埋土 | 甕 | ナデ | ミカキ、ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | — | にぶい橙 | 13.6 | 9.5 | 23.3 | B | ○ | 49 |

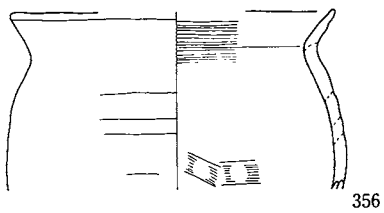
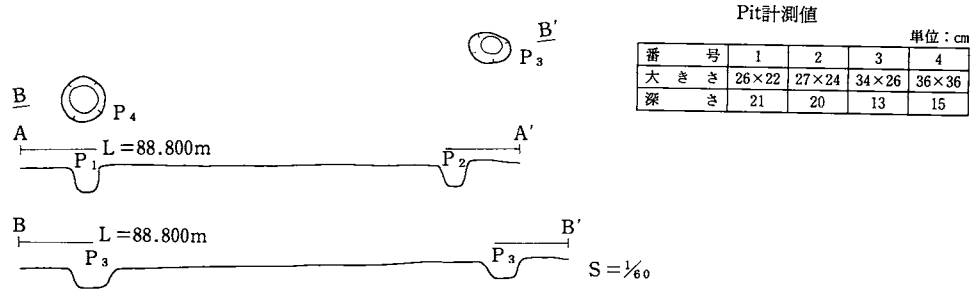
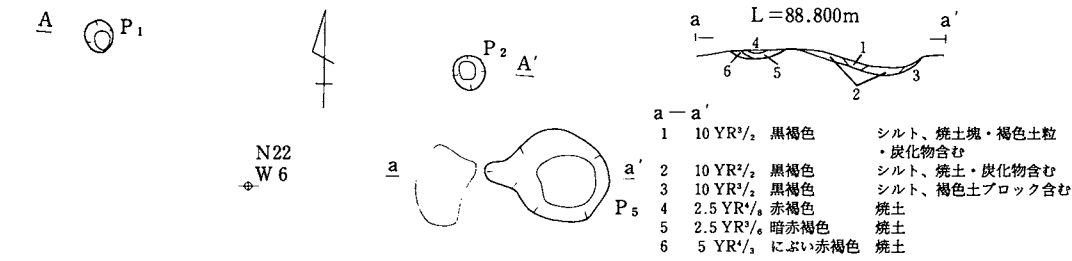
第64図 20号住居跡出土遺物

遺物 (第 64 図、写真図版 49)

〈土器〉 350～355 が出土している。坏が 3 点、甕が 2 点、不明 1 点である。355 の甕はほぼ完形に復元されている。

21 号住居跡

遺構 (第 65 図、写真図版 22)



| 土器 | | 遺物観察表 | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---------|-------|----|---------|----|----|----|----|------|------|---------|----|-------|----|---|------|
| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 356 | 21住 煙道? | 甕 | ナデ | ナデ | — | ナデ | ナデ | — | | にぶい褐 | (12.8) | | [7.2] | B | ○ | 49 |

第65図 21号住居跡・21号住居跡出土遺物

〈検出〉 調査区ほぼ中央のII E区南端に位置し、耕作土除去後VI層で柱穴と焼土によって検出された。

〈形状・規模〉 形状については床まで失われているため不明である。床面の規模は柱穴どうしの間隔から、少なくとも東西3.6m、南北3.3m以上ある。

〈柱穴・土坑〉 P 1～P 4まで検出されている。いずれも柱穴と考えられ、埋土中に炭化材片が少量含まれている。

〈カマド〉 カマドの燃焼部と考えられる焼土が東側に位置する。煙道の可能性がある浅い土坑がその東隣で検出されている。焼土の範囲は64×50cm、厚さ7cmである。袖部、煙道等は失われており、構造は不明である。

遺物（第 65 図、写真図版 49）

〈土器〉 356 の甕 1 点が出土している。

2 溝跡

1 号溝（第 66 図、写真図版 23）

〈検出〉 調査区北側の II C 区東側に位置し、VI 層で黒褐色土の広がりとして検出された。東側は調査区外の水田下に延びる。西側は滝名川の旧河道と考えられる黒褐色土の広がり延び、消滅する。滝名川に流れ込んでいたものと考えられる。

〈形状・規模〉 ほぼ東西に延びる。断面形は浅皿状である。底面は東から西へと低く傾斜している。検出された部分の延長は 5.4 m、幅 85～130 cm である。深さは 11～16 cm と浅い。自然にできた流れの可能性がある。

〈埋土〉 黒褐色土 3 層からなり、自然堆積と考えられる。底部には小礫、砂が認められる。

2 号溝（第 66 図、写真図版 23）

〈検出〉 調査区北側の II A 区中央部に位置し、「北」の II 層直下で黒褐色土の広がりとして検出された。「北」の III～VI 層が縞状に露出している部分を横切って、ほぼ南北に延びる。北側・南側共に調査区外に延びる。

〈形状・規模〉 平面形は Y 字形で北側が二股に分れている。断面形は逆台形状である。底面は南側に向かって低く傾斜している。北隣は調査区内より一段低い水田がある。この水田は昭和 15 年頃の開田であり、それほど大きく地形がかわっていないと考えられる。したがって、本遺構はもともとあまり北側に延びていなかったと考えられる。検出された部分の延長は約 50 m であり、幅は 40～90 cm、深さ 20～60 cm である。溝の中央部は試掘トレンチのため、幅と深さが若干小さくなっている。

〈埋土〉 主に、黒褐色土と暗褐色土からなるが、壁際などに一部地山が崩れた褐色土が見られる。底部には部分的に砂質土が認められる。

3 号溝（第 67 図、写真図版 24）

〈検出〉 調査区北側の II A 区東側に位置し、VI 層で黒褐色土の広がりとして検出された。北東部で 2 号陥し穴状遺構と接するが、本遺構がより新しい。

〈形状・規模〉 平面形は Y 字の二股になった一方が極端に短い形である。断面形は浅い U 字形ないし底部の丸まった V 字形である。底面は B—B' 付近がもっとも低くなっている。Y 字に近い形ではあるがほぼ南北方向に延びており、延長約 26 m で幅 40～60 cm、深さ 10～36 cm である。

4 号溝（第 68 図、写真図版 24）

〈検出〉 調査区北側の II A 区南半～II B 区北端に位置し、「北」の IV 層で黒褐色土の広がりとして検出された。西隣にある 3 号土坑と同じ検出面であり、同時に存在した可能性がある。西側

は調査区内で消滅し、南側は調査区外に延びる。

〈形状・規模〉平面形は鉤形で、断面形は逆台形状である。延長は約 23 m、幅 40～60 cm、深さ 20 cm 前後である。曲った部分から南と西に向かって低く傾斜している。

〈埋土〉黒褐色土で周囲の「北」のIV層の砂質土より粘性が強く堅く締まっている。

5号溝（第69図、写真図版25）

〈検出〉調査区ほぼ中央のII E区中央部にある。排水溝でなんらかの遺構の存在は認められていた。耕作土除去後、東西に延びる黒褐色土の広がりとして検出された。縞状に東西に並ぶ「中央」のII～VI層を横切っている。

〈形状・規模〉ほぼ直線的に調査区を横断してに東西に延びている。断面形は逆台形状で、比較的平坦な底部から壁が外傾しながら立ち上がる。底面は東から西に向かって低く傾斜している。東側は調査区外の水田下に延びていたため、その延長は把握できなかった。西端は滝名川のそばで消滅している。滝名川に向かって流れ込んでいたと考えられる。調査区内における延長は約 33 m で、幅 80～170 cm、深さ 30～60 cm である。

〈埋土〉黒褐色土からなる。人為的に埋め戻された痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。底部には部分的に砂質土が認められる。

6号溝（第69図、写真図版25）

〈検出〉調査区南側のI I区中央部のVI層で東西に延びる黒褐色土の広がりとして検出された。中央部は水田造成時と考えられる削平のため失われており、はじめ東西別々に2条の溝として検出された。しかし、双方の延長が一致し、規模・形状も同様であることから本来同一の溝であると判断された。7号溝が南隣に本遺構と交差するように位置するが、調査区内では交差しておらず、新旧関係は不明である。

〈形状・規模〉西側でわずかに蛇行するが、ほぼまっすぐ東西方向に走っている。断面形は浅い逆台形状である。底面は滝名川寄りの西側に向かって低く傾斜している。東側は調査区外の水田の下に延びており、全体の延長はつかめなかった。西側は滝名川の近くで終わる。調査区内で確認できた延長は削平によって失われた部分を含めて約 34 m で、幅 25 cm 前後、深さ 10～16 cm である。

〈埋土〉2層に分れておりいずれも黒褐色土である。人為的に埋められた痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

7号溝（第69図、写真図版26）

〈検出〉調査区南側のI I区の南東にあり、耕作土除去後VI層で黒褐色土の広がりとして検出された。北側は調査区外に延びており全容はとらえられなかった。

調査区内では、ほぼ中央で直交するように5号陥し穴状遺構と重複している。7号溝がより

新しい。

〈形状・規模〉ほとんど直線状に伸びている。軸の方向は北に向かって、やや東よりに傾く。断面形はU字状で、底面は北側に向かって低く傾斜している。北端はさらに調査区外に伸びており、6号溝と調査区外で交差すると考えられる。そのため、新旧関係は不明である。南端はI J区との境界付近で終わる。

確認できた延長は約16 mで幅40 cm前後、深さ20～40 cmである。

〈埋土〉2層に分れ、下部が暗褐色土、上部が黒褐色土である。人為的に埋められたような状況は認められず、自然堆積と考えられる。

8号溝（第70図、写真図版26）

〈検出〉調査区南側のI J区、I K区に位置し、「南」のV～VI層で、焼土・炭化物を含む帯状の黒褐色土の広がりとして検出された。西隣が滝名川に向かって落ちていく急な崖になっており危険なため、一部を除き東半部だけを調査している。

〈形状・規模〉ほぼ直線状で北西から南東に伸びる。断面は底部が比較的平坦で西側で1段、東側で1～2段の階段状になっている。底面は北に向かって低く傾斜する。北端はわずかに広がり加減で「南」のV層が分布する中に消滅する。南側は調査区外に伸びる。

北側には9号溝・10号溝が流れ込んでいる。

調査区内で確認された延長は約28 mで、中央部の幅は160 cm、深さ40 cm前後である。

〈埋土〉黒褐色土から成り10層に分れる。人為的な埋め戻しの痕跡は認められないため、自然堆積であると考えられる。また、1層上面には焼土粒と炭化材片が幅約30 cmの帯状に分布していた。

9号溝（第70図、写真図版27）

〈検出〉調査区南側のI J区中央に位置しており、8号溝に流入する。

〈形状・規模〉西側で南側にやや曲りながら、ほぼ東西に伸びる。断面は皿状である。8号溝が出来た後で自然に生じた流れの可能性がある。

延長は6.8 m、幅30～80 cm、深さ20 cm前後である。

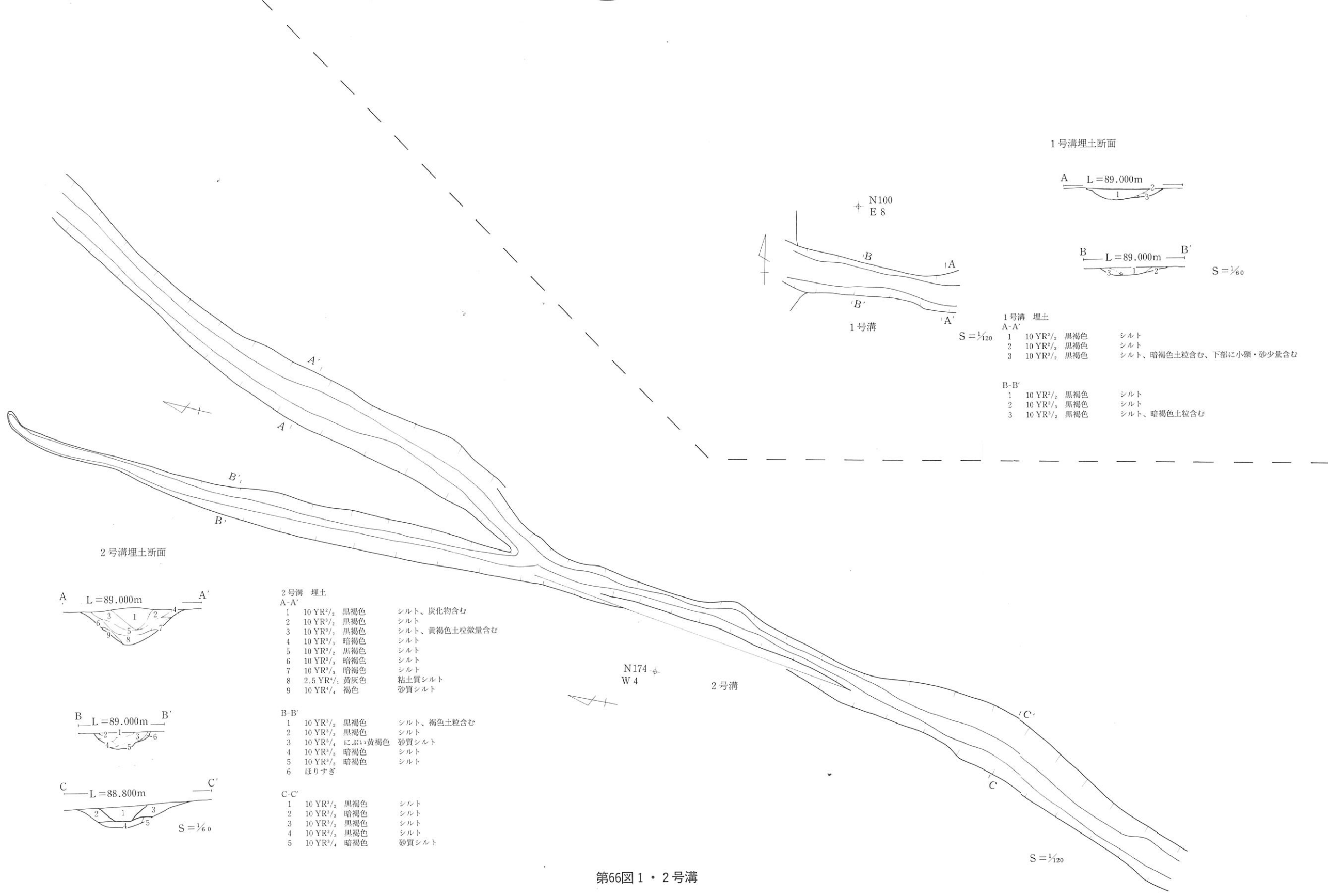
〈埋土〉2層に分れ、上が黒褐色土で下層が褐色土である。褐色土はVI層に由来するものである。人為的な堆積の痕跡は認められず、自然堆積であると考えられる。

10号溝（第70図、写真図版27）

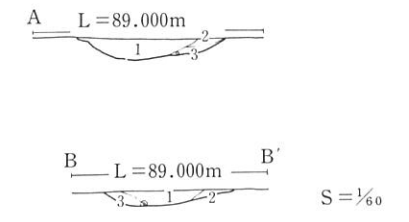
〈検出〉調査区南側のI J区の中央に位置しVI層で黒褐色土の広がりとして検出された。

〈形状・規模〉北東から南西に伸び8号溝に流入する。断面形は皿状である。9号溝と同様に8号溝が掘られた後で自然に生じた流れの可能性がある。延長は6.0 m、幅30～80 cm、深さ10 cmである。

〈埋土〉黒褐色土と褐色土の2層に分れる。



1号溝埋土断面

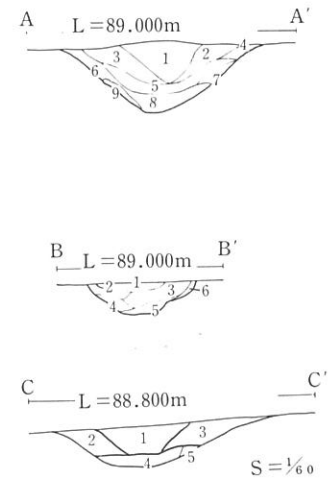


1号溝 埋土

| A-A' | | | |
|------|-----------------------------------|-----|-------------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 3 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒含む、下部に小礫・砂少量含む |

| B-B' | | | |
|------|-----------------------------------|-----|-------------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 | シルト |
| 3 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、暗褐色土粒含む |

2号溝埋土断面



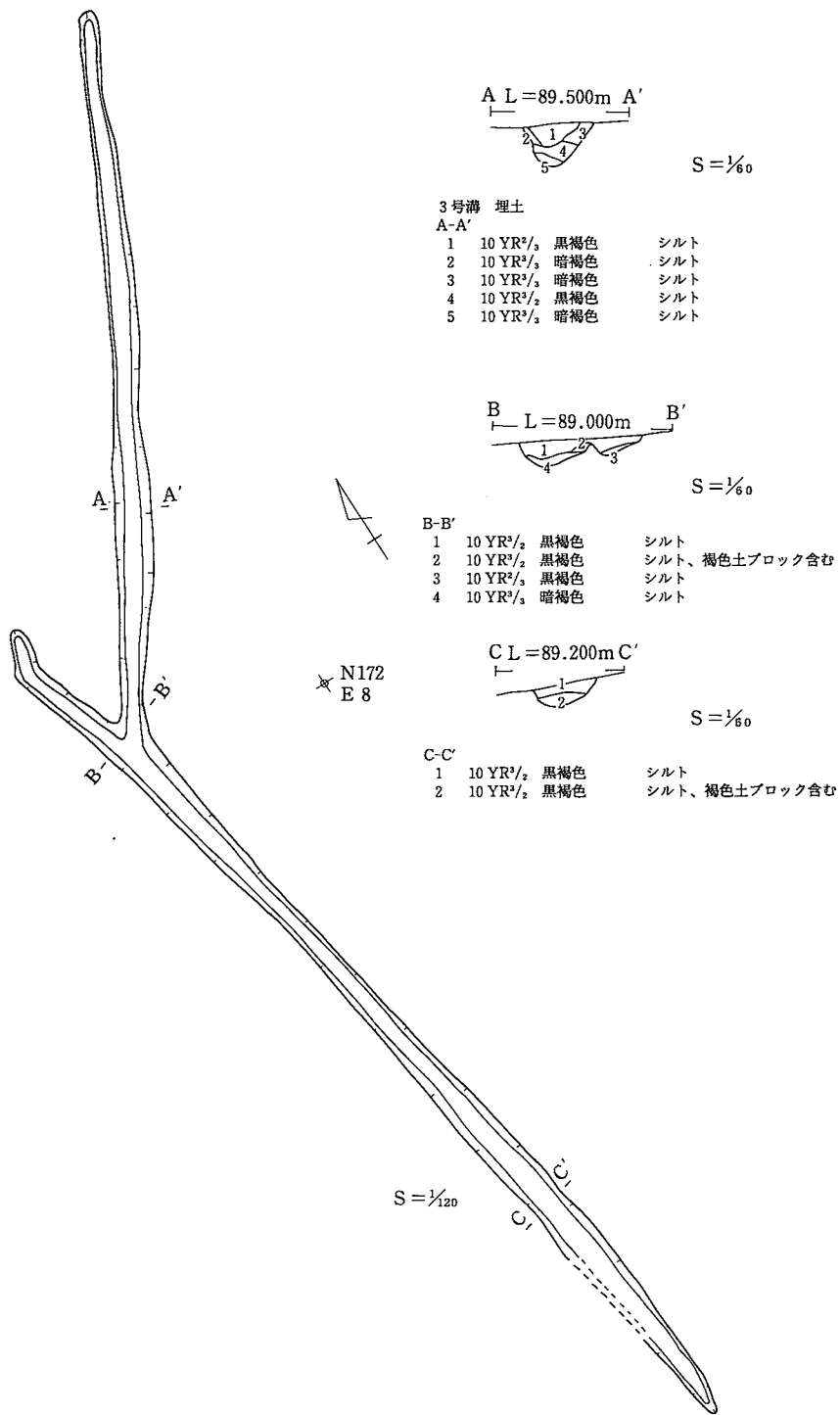
2号溝 埋土

| A-A' | | | |
|------|------------------------------------|-----|---------------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、炭化物含む |
| 2 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 3 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、黄褐色土粒微量含む |
| 4 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト |
| 5 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 6 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト |
| 7 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト |
| 8 | 2.5 YR ¹ / ₁ | 黄灰色 | 粘土質シルト |
| 9 | 10 YR ¹ / ₄ | 褐色 | 砂質シルト |

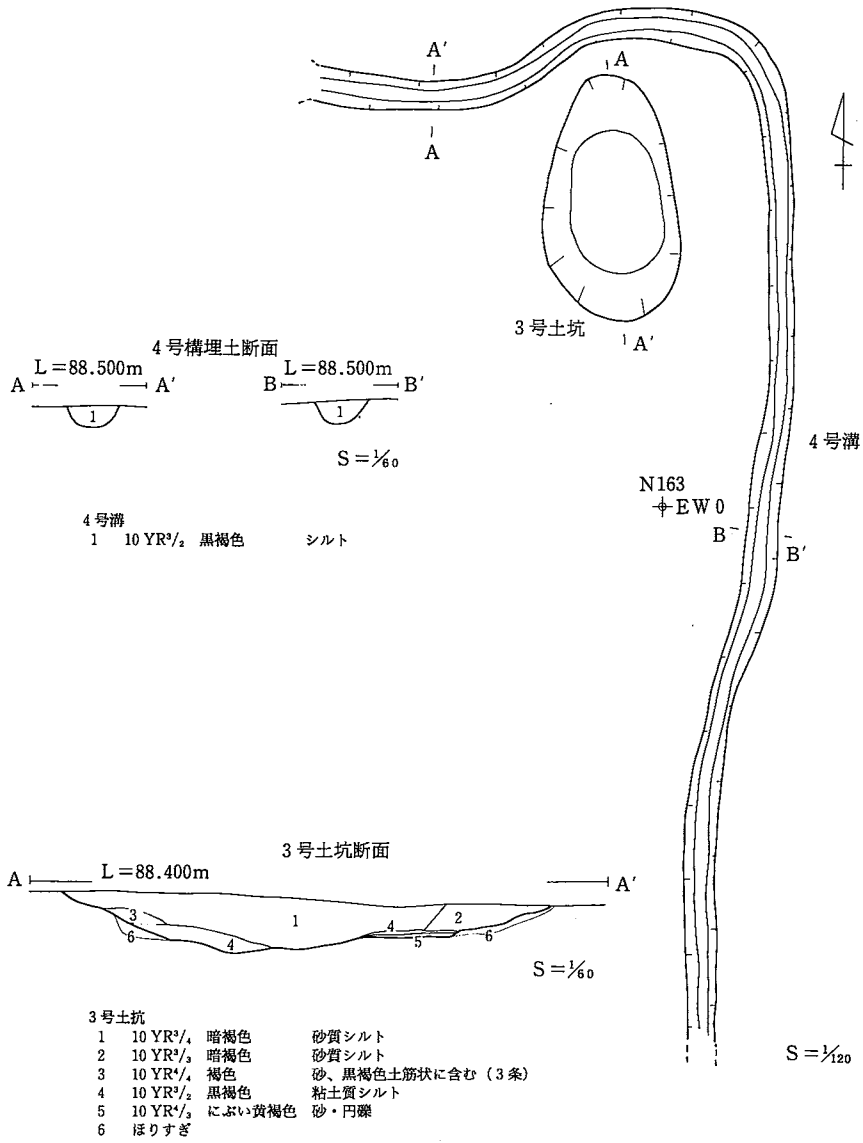
| B-B' | | | |
|------|-----------------------------------|--------|------------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト、褐色土粒含む |
| 2 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 3 | 10 YR ¹ / ₄ | にぶい黄褐色 | 砂質シルト |
| 4 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト |
| 5 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト |
| 6 | ほりすぎ | | |

| C-C' | | | |
|------|-----------------------------------|-----|-------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 | シルト |
| 3 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 4 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 | シルト |
| 5 | 10 YR ¹ / ₄ | 暗褐色 | 砂質シルト |

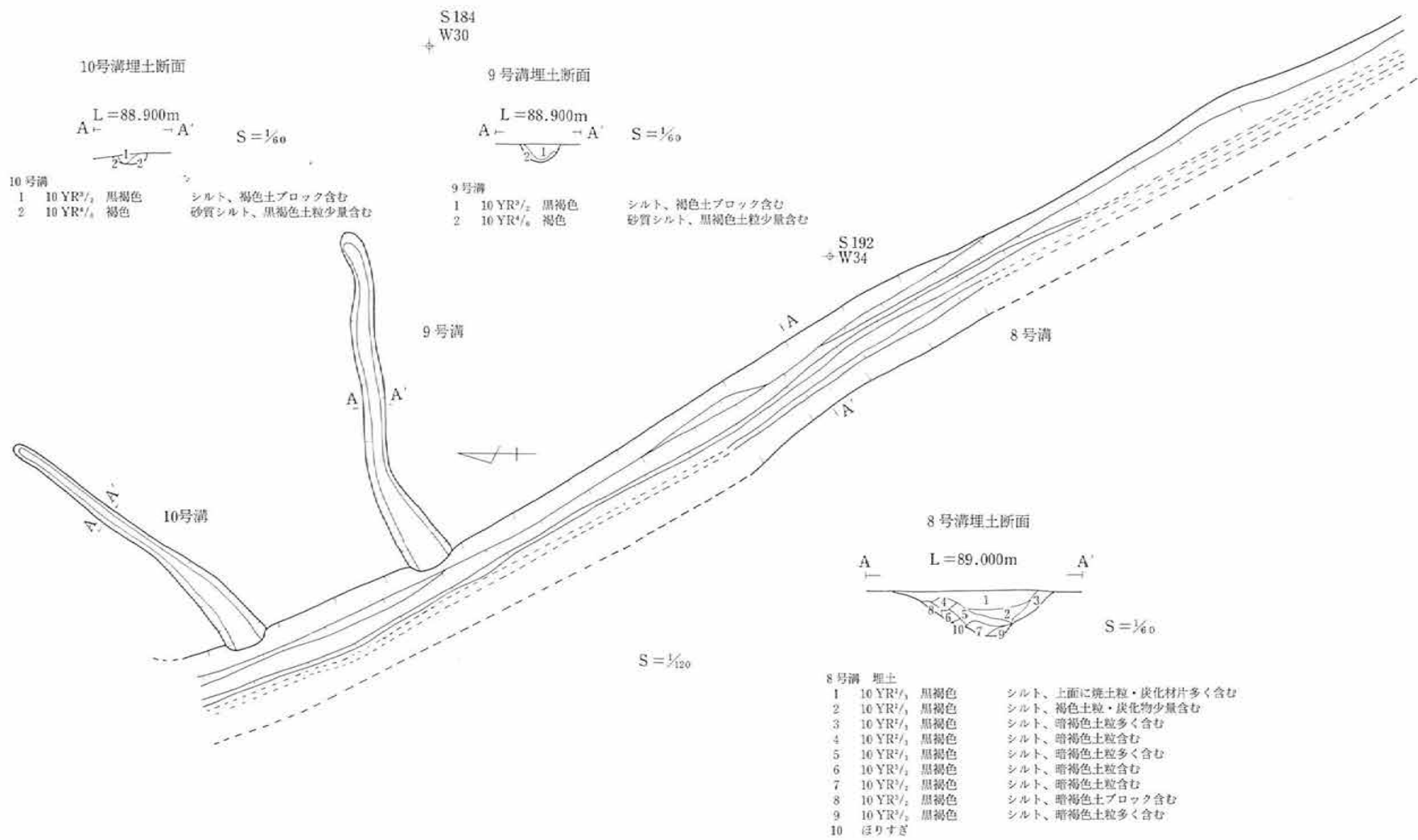
第66図 1・2号溝



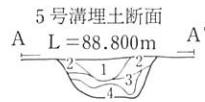
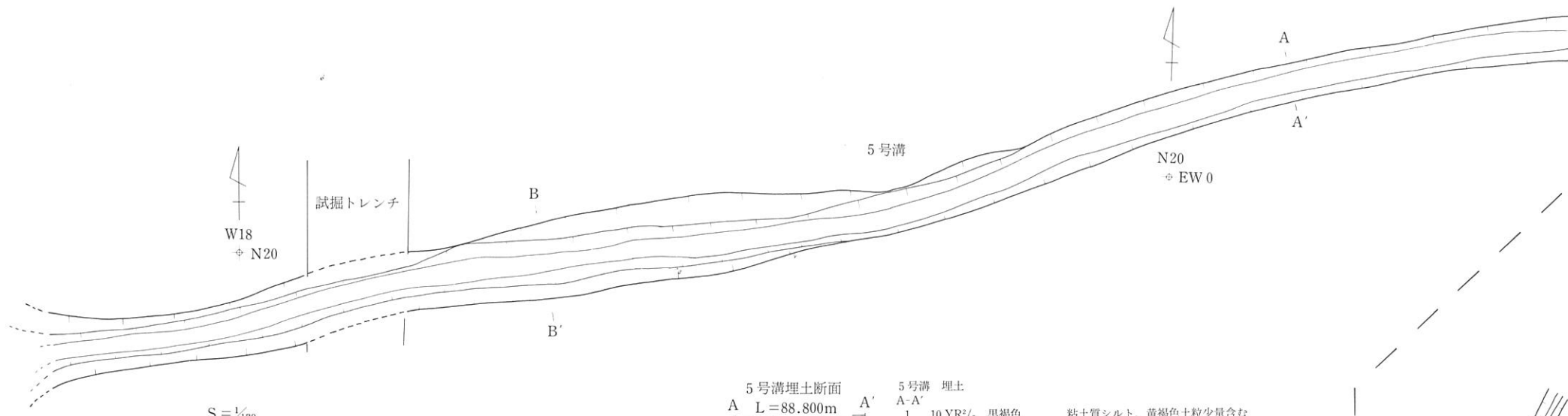
第67図 3号溝



第68図 4号構・3号土坑



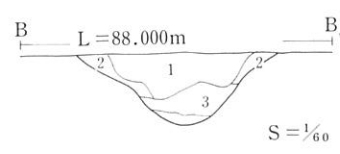
第70図 8～10号溝



5号溝 埋土

| | | |
|---|-----------------------------------|-----|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 |
| 4 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 |

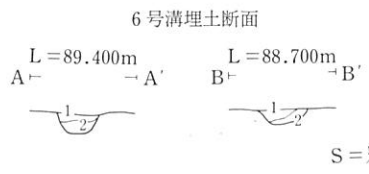
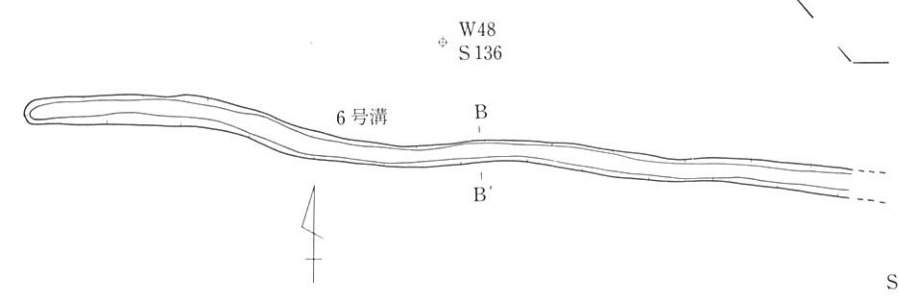
粘土質シルト、黄褐色土粒少量含む
 粘土質シルト、黄褐色土粒多く含む
 粘土質シルト
 粘土質シルトと10 YR⁴/₃褐色粘土質シルトの混合土



5号溝 埋土

| | | |
|---|-----------------------------------|-----|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 |
| 3 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 |
| 4 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 |

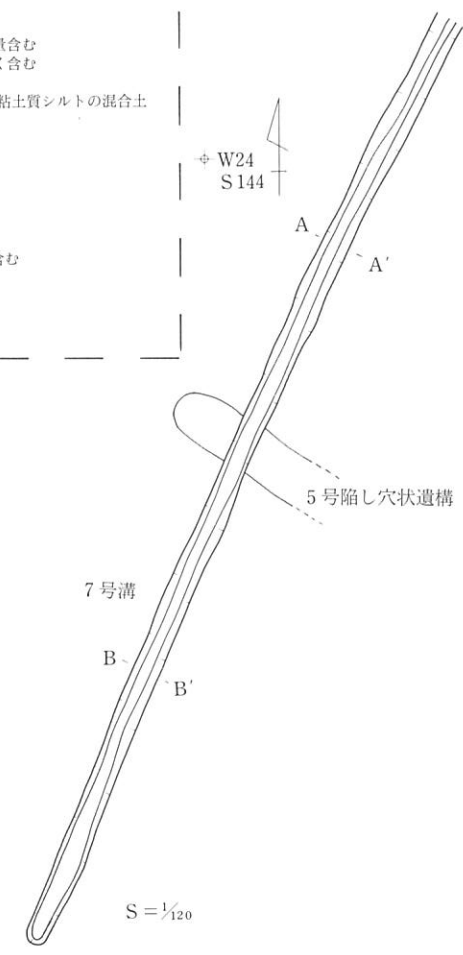
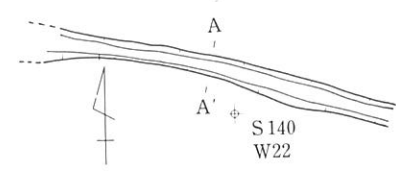
シルト
 シルト、黄褐色土粒含む
 粘土質シルト、黄褐色土粒含む
 粘土質シルト



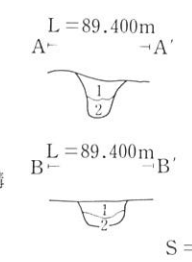
6号溝 埋土

| | | |
|---|-----------------------------------|-----|
| 1 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 |
| 2 | 10 YR ² / ₂ | 黒褐色 |

シルト、褐色土ブロック含む
 シルト、褐色土ブロック多く含む



7号溝埋土断面



7号溝 埋土

| | | |
|---|-----------------------------------|-----|
| 1 | 10 YR ² / ₃ | 黒褐色 |
| 2 | 10 YR ² / ₃ | 暗褐色 |

シルト、炭化材片少量含む
 シルト

第69図 5~7号溝

3 陥し穴状遺構

1号陥し穴状遺構（第71図、写真図版28）

〈検出〉調査区北側のII A区の北東に位置し、耕作土除去後VI層で溝状の黒褐色土の広がりとして検出された。今回の調査区の中では最も北にある陥し穴状遺構である。

〈形状・規模〉平面形は溝状を呈し、断面形はU字形である。開口部は長さは330 cm、幅45 cmあり、底部で長さ300 cm、幅15 cmである。深さは65 cmである。

〈埋土〉黒褐色～暗褐色土と、地山（VI層）が崩れた褐色の砂質土からなる。人為的に埋め戻された痕跡は認められず、自然堆積であると考えられる。

2号陥し穴状遺構（第71図、写真図版28）

〈検出〉調査区北側のII A区の東側にあり、VI層で溝状の黒褐色土の広がりとして検出された。

3号溝と南西端が接しているが、3号溝がより新しい。

〈形状・規模〉平面形は幅の狭い溝状で、断面形はU字形を呈する。開口部は長さ290 cm、幅45 cmで、底部は長さ300 cm、幅20 cmある。深さは63 cmである。

〈埋土〉黒褐色～暗褐色土が主体となり、人為的に埋め戻されたような状況が認められないため、自然堆積であると考えられる。底部付近には地山（VI層）のくずれ落ちた褐色の砂質土が見られる。

3号陥し穴状遺構（第71図、写真図版28）

〈検出〉調査区北側のII B区の東側にあり、VI層で黒褐色～暗褐色土の広がりとして検出された。南東端が調査区外の水田の畦畔下に延びる。

〈形状・規模〉平面形は溝状で断面はU字形である。確認された部分の長さは開口部290 cm、底部280 cmである。幅は開口部で46 cm、底部で22 cmあり、深さは98 cmである。調査できなかつた部分を含めて全長は、他の陥し穴状遺構と同規模の300 cm前後になるものと考えられる。

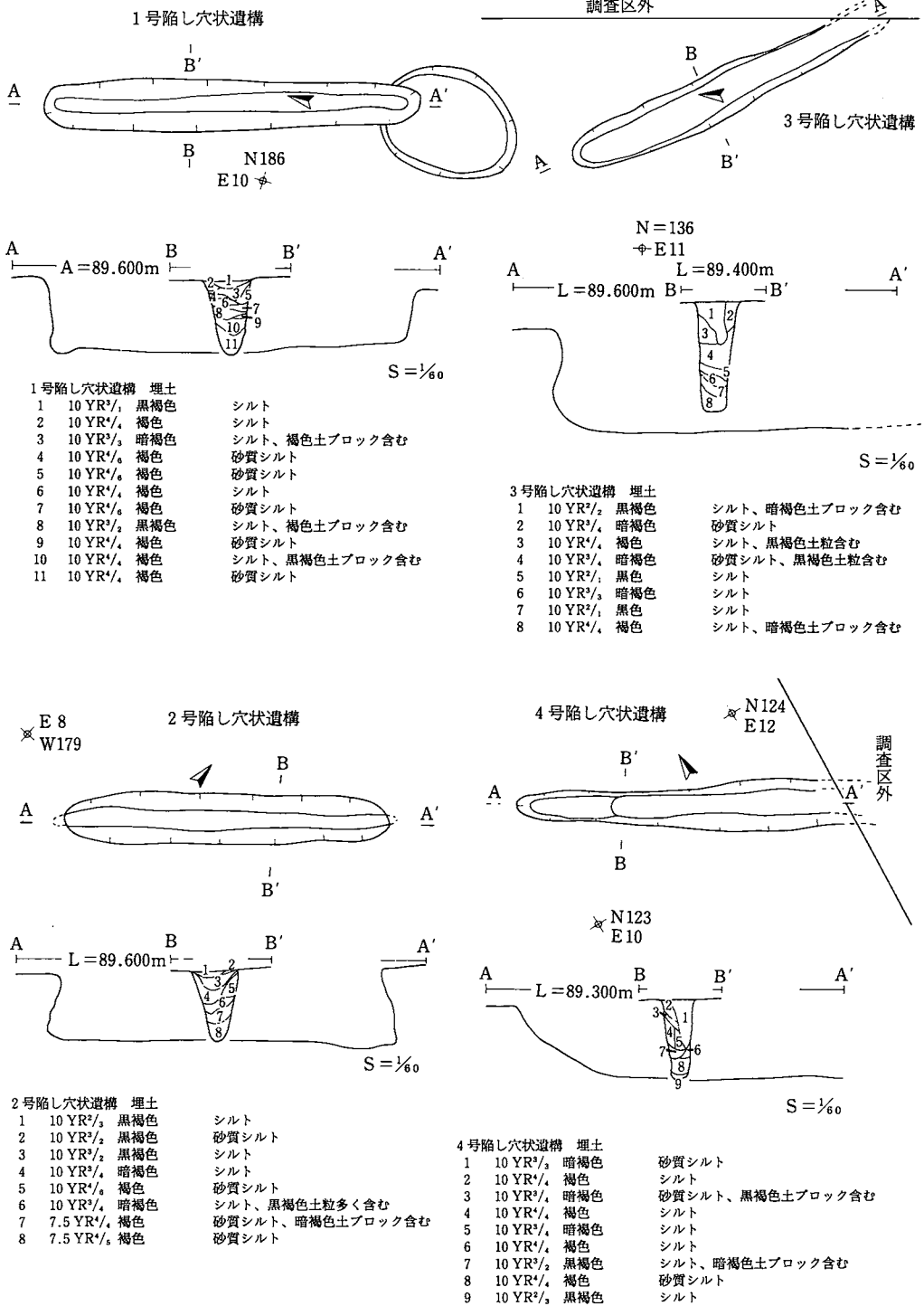
〈埋土〉黒色～暗褐色土が主体となり、人為的に埋め戻されたような状況が認められないため、自然堆積であると考えられる。部分的に、VI層の崩れた褐色の砂質土を含む。

4号陥し穴状遺構（第71図、写真図版29）

〈検出〉調査区北側のII B区の南東にあり、耕作土除去後、VI層で黒褐色土の広がりとして検出された。南東端は調査区外の水田の畦畔下に延びている。

〈形状・規模〉溝状の平面形で断面形はU字形である。確認された部分の長さは開口部で290 cm、底部で210 cmである。調査区外に一部延びているため、全長は不明だが、他の陥し穴状遺構と同様であれば300 cm前後になると考えられる。幅は開口部で47 cm、底部で23 cmである。北西側の立ち上がりがかかなり緩やかであり、他の陥し穴状遺構とは形状において異なっている。

〈埋土〉黒褐色～褐色土から成る。人為的な埋め戻しの痕跡は認められず、自然堆積と考えら



第71図 1～4号陥し穴状遺構

れる。

5号陥し穴状遺構（第72図、写真図版29）

〈検出〉調査区南側のⅠⅠ区南東にあり、耕作土除去後、Ⅵ層の褐色土中の黒褐色土の広がりとして検出された。7号溝に中央部を切られている。

〈形状・規模〉平面形は溝状で、断面形はV字形の底を平らにしたような形である。開口部は長さ340cm、幅76cmで、底部は長さ300cm、幅29cmである。深さは134cmあり今回調査した陥し穴状遺構では最も深い。他の陥し穴状遺構はこれに較べて浅いが、削平を受けていると考えられ、本来はこの程度の深さだった可能性がある。

〈埋土〉黒褐色～褐色土から成り、1層に縄文をもつ土器片を多く含む。人為的な埋め戻しの痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

6号陥し穴状遺構（第72図、写真図版29）

〈検出〉調査区中央のⅡE区の南側に位置する。陥し穴状遺構の6～9号が4基平行にならんでいる内の、北から2番目で8号住居跡の西隣に位置している。耕作土の除去後、Ⅵ層の褐色土中で黒褐色土の広がりとして検出された。

〈形状・規模〉平面形は溝状で、断面形はU字形である。開口部の長さは376cm、幅は52cmあり、底部は長さ360cm、幅26cmである。深さは60cmである。

〈埋土〉黒褐色～褐色土から成っている。人為的な堆積の痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

7号陥し穴状遺構（第72図、写真図版30）

〈検出〉調査区中央のⅡF区の北側に位置する。4基平行に並ぶ6～9号の陥し穴状遺構の内の南端である。耕作土除去後、Ⅵ層中で黒褐色土の広がりとして検出された。

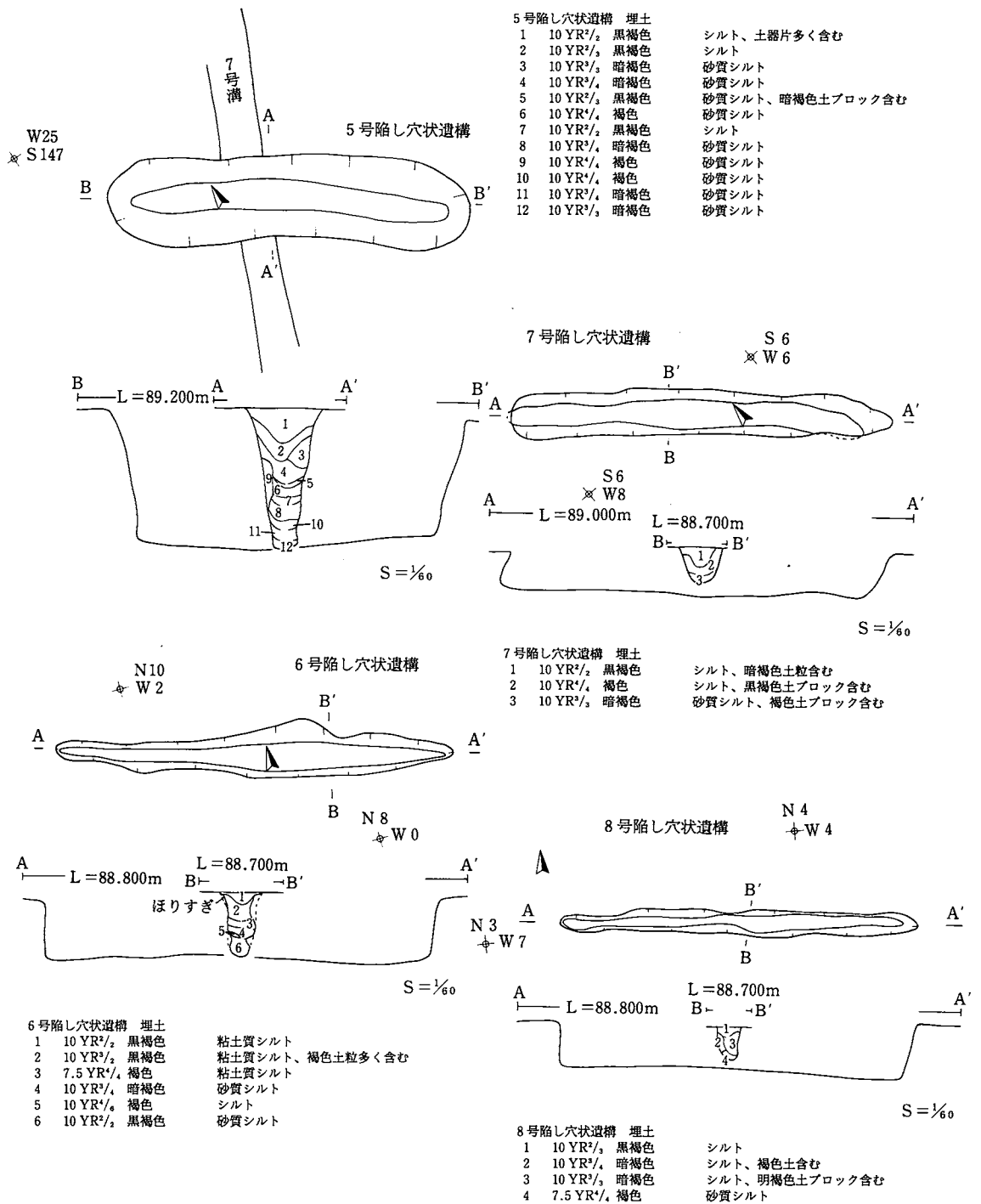
〈形状・規模〉平面形は溝状で、断面形は浅いU字形である。規模は開口部の長さが360cm、幅が46cmあり、底部の長さは336cm、幅が28cmある。深さは33cmと浅い。かなり削平を受けているものと考えられる。

〈埋土〉黒褐色～褐色土からなる。人為的な埋め戻しなどの痕跡は認められず、自然堆積であると考えられる。

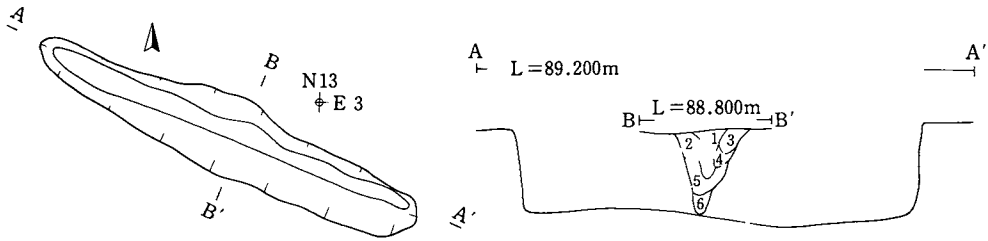
8号陥し穴状遺構（第72図、写真図版30）

〈検出〉調査区中央のⅡE区の南側にあり、10号住居跡の北西隣に接するように位置するが、重複関係にはない。平行に並ぶ6～9号の陥し穴状遺構の南から2番目である。Ⅵ層の褐色土中で黒褐色土の広がりとして検出された。

〈形状・規模〉平面形は溝状であり、断面形は浅いU字形を呈している。規模は、開口部の長さが338cm、幅が26cmある。底部では長さが320cm、幅が16cmある。深さは32cmとかなり浅



第72図 5～8号陥し穴状遺構



| 9号陥し穴状遺構 埋土 | | |
|-------------|---|-------------------|
| 1 | 7.5YR ³ / ₂ -1/2, 暗褐色 | シルト、黒褐色土・褐色土粒多く含む |
| 2 | 7.5YR ⁴ / ₂ , 褐色 | シルト、黒褐色土粒多く含む |
| 3 | 7.5YR ⁴ / ₂ , 暗褐色 | シルト、黒褐色土含む |
| 4 | 7.5YR ⁴ / ₂ , 褐色 | 砂質シルト |
| 5 | 7.5YR ⁴ / ₂ , 褐色 | シルト |
| 6 | 7.5YR ² / ₂ , 黒褐色 | シルト、褐色の砂質土含む |

第73図 9号陥し穴状遺構

くなっている。

〈埋土〉黒褐色～褐色土から成る。人為的に埋め戻されたような痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

9号陥し穴状遺構（第73図、写真図版30）

〈検出〉調査区中央のII E区の南半部にあり、8号住居跡の北隣に位置する。4基並んでいる6～9号の陥し穴状遺構の北端である。耕作土除去後、VI層の褐色土中の暗褐色土の広がりとして検出されている。

〈形状・規模〉平面形は溝状である。断面形は開口部がかなり広がっているため、V字形を呈している。規模は、開口部の長さが330cm、幅が65cm、底部で長さが310cm、幅が18cmある。深さは68cmである。4基並んだ陥し穴状遺構の内、南側2つの深さが約30cm、北側の2つが60cm強である。4基は同時に存在したとするのが自然と考えられ、深さの違いには何等かの意味があったのかもしれない。

〈埋土〉黒褐色～褐色土から成る。人為的に埋め戻された痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

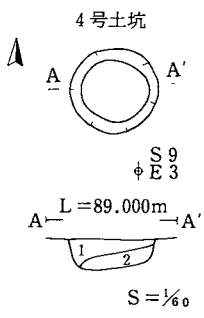
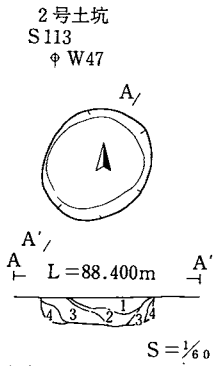
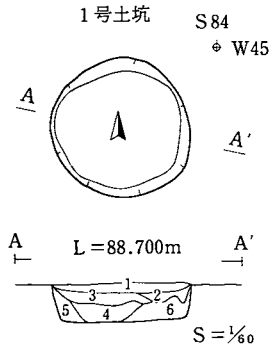
4 土坑

1号土坑（第74図、写真図版31）

〈検出〉調査区南側のIH区北側にあり、2号住居跡の南隣に位置する。耕作土除去後、「南」のIV層で検出されている。

〈形状・規模〉平面形はほぼ円形で底面は平坦である。壁はわずかに外傾しながら立ち上がる。規模は開口部径が110cm、底部径が100cm、深さ30cmである。

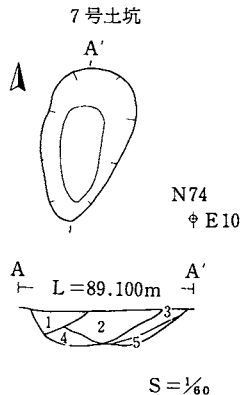
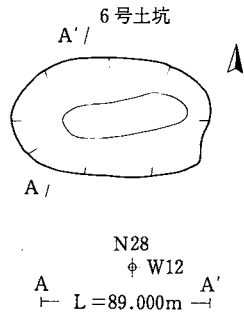
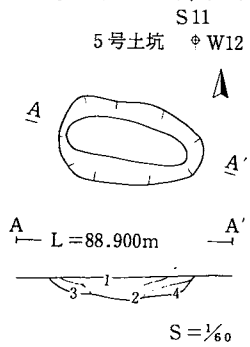
〈埋土〉黒褐色土から成り、暗褐色土粒を含んでいる。人為的に埋め戻された痕跡は認められ



- 1号土坑 埋土
- 1 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、暗褐色土粒多く含む
 - 2 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、暗褐色土粒少量含む
 - 3 10 YR³/₁ 黒褐色 シルト、暗褐色土粒少量含む
 - 4 7.5 YR²/₂ 黒褐色 シルト、暗褐色土粒少量含む
 - 5 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト
 - 6 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、5 Rよりやや暗い

- 2号土坑 埋土
- 1 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、炭化物微量含む
 - 2 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、褐色土粒少量含む
 - 3 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト
 - 4 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、褐色土粒多く含む

- 4号土坑 埋土
- 1 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、礫含む
 - 2 10 YR²/₁ 黒褐色 シルト、礫含む



- 5号土坑 埋土
- 1 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、暗褐色土ブロック含む
 - 2 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、暗褐色土ブロック少量含む
 - 3 10 YR²/₁ 暗褐色 粘土質シルト
 - 4 10 YR²/₃ 暗褐色 シルト

- 6号土坑 埋土
- 1 10 YR²/₃ 暗褐色 シルト
 - 2 10 YR²/₄ 暗褐色 砂質シルト
 - 3 10 YR²/₄ 暗褐色 シルト
 - 4 10 YR²/₃ 暗褐色 シルト

- 7号土坑 埋土
- 1 7.5 YR²/₂ 黒褐色 シルト、炭化物・焼土粒少量含む
 - 2 10 YR²/₃ 黒褐色 粘土質シルト
 - 3 10 YR²/₂ 黒褐色 粘土質シルト、暗褐色土ブロック少量含む
 - 4 10 YR²/₃ 暗褐色 粘土質シルト
 - 5 10 YR²/₂ 黒褐色 シルト、褐色土ブロック含む

第74図 1～7号土坑（3号除く）

ず、自然堆積と考えられる。

2号土坑（第74図、写真図版31）

〈検出〉調査区南側のIH区南東にあり、3号住居跡の南側に位置する。「南」のV層除去後、VI層で黒褐色土の広がりとして検出されている。

〈形状・規模〉平面形はほぼ円形であり底面は平坦である。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。規模は開口部径が90cm、底部径が80cm、深さ22cmである。1号土坑とよく似た形状・規模である。

〈埋土〉黒褐色土から成り、褐色土粒を含んでいる。人為的に埋め戻された痕跡は認められず、

自然堆積と考えられる。

3号土坑（第68図、写真図版31）

〈検出〉調査区北側のII A区南側にあり、4号溝に囲まれるように位置する。「北」のIV層上面で暗褐色の砂質土の広がりとして検出されている。検出面が同じである事とその配置から、4号溝と同時存在の可能性はある。

〈形状・規模〉平面形は楕円形で長軸の断面は浅皿状である。規模は開口部の長さが400 cm、幅が220 cmあり、底部の長さが232 cm、幅が144 cmである。深さは46 cmである。

〈埋土〉暗褐色の砂質シルトから成り、5層に分れる。人為的に埋め戻された痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

4号土坑（第74図、写真図版32）

〈検出〉調査区中央のII F区北側に位置する。耕作土除去後、VI層で黒褐色土の広がりとして検出されている。

〈形状・規模〉平面形はほぼ円形で底面は比較的平坦である。壁はわずかに外傾するがほぼ垂直に立ち上がる。1号・2号土坑とよく似た形状をしている。規模は開口部の径が70 cm、底部径が54 cm、深さ25 cmである。

〈埋土〉黒褐色土から成る。2層に分れ、径1～2 cmの円礫が含まれている。この円礫はVI層に含まれているものと同じものである。人為的に埋め戻された痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

5号土坑（第74図、写真図版32）

〈検出〉調査区のやや南側のII F区の北側に位置する。耕作土除去後、VI層中の黒褐色土の広がりとして検出されている。

〈形状・規模〉平面形は楕円に近い形で長軸の断面形は浅皿状である。規模は開口部の長さが116 cm、幅が66 cmあり、底部の長さが98 cm、幅が30 cmである。深さは20 cmある。

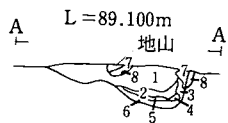
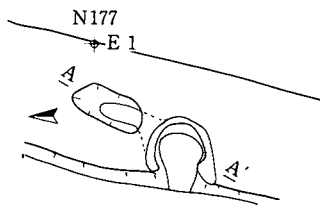
〈埋土〉黒褐色～暗褐色土から成り、4層に分れる。人為的に埋め戻された痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

6号土坑（第74図、写真図版32）

〈検出〉調査区中央のII E区の北西側にあり、7号住居跡と重複している。7号住居跡の方が新しい。耕作土除去後、VI層の中の暗褐色土の広がりとして検出されている。

〈形状・規模〉平面形はほぼ楕円形で短軸の断面形は逆台形である。規模は開口部の長さが160 cm、幅が95 cmあり、底部の長さが100 cm、幅が28 cmである。深さは38 cmある。

〈埋土〉暗褐色のシルト～砂質シルトから成り、4層に分れる。均質な埋土で人為的な堆積の痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。



| 1号焼土遺構 埋土 | | |
|-----------|--|---------------------------|
| 1 | 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、焼土粒微量含む |
| 2 | 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化物微量含む |
| 3 | 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、焼土粒多く含む |
| 4 | 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、焼土粒少量含む |
| 5 | 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、炭化物多く含む |
| 6 | 10 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、焼土粒・炭化物少量含む、褐色土ブロック含む |
| 7 | 7.5 YR ² / ₂ 黒褐色 | シルト、焼土塊含む |
| 8 | 5 YR ² / ₈ 赤褐色 | 焼土 |

第75図 1号焼土遺構

7号土坑 (第74図、写真図版32)

〈検出〉調査区中央のII D区の北東にあり、耕作土除去後、VI層中の暗褐色土の広がりとして検出されている。

〈形状・規模〉平面形はいびつな卵形で長軸の断面形は浅い逆台形である。規模は開口部の長さが124 cm、幅が70 cmあり、底部の長さが78 cm、幅が33 cmである。深さは27 cmある。

〈埋土〉黒褐色～暗褐色土から成り、5層に分れている。人為的に埋め戻された痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。

5 焼土遺構

1号焼土 (第75図、写真図版33)

〈検出〉調査区北側のII A区のはぼ中央に位置する。「北」のII層で検出されている。西側が一部削平を受けている。

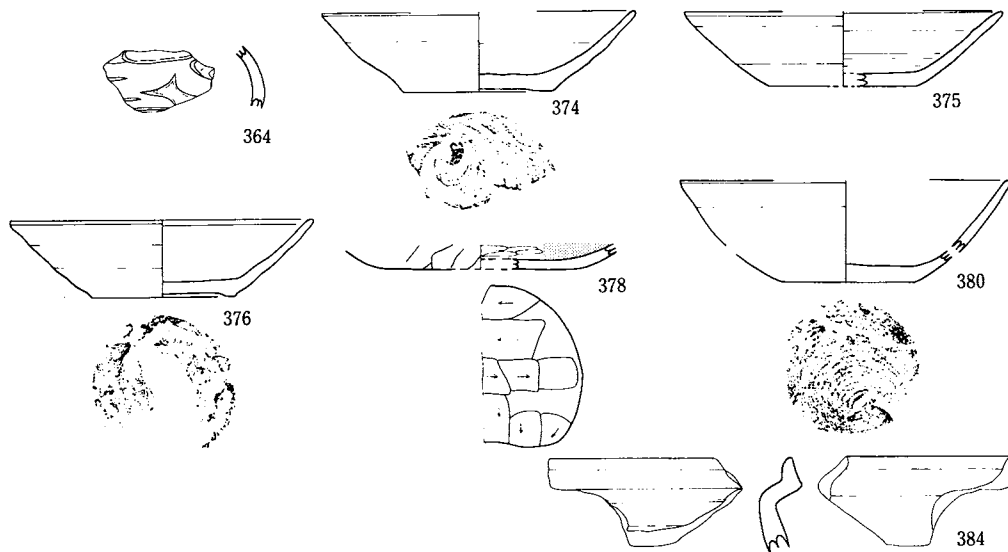
〈形状・規模〉「北」のII層をカマド状に掘り込んでいる。燃焼部はやや潰れた球形で北側に煙道がくりぬかれている。燃焼部は底部・周辺ともに焼けており規模は64×57 cm、深さ34 cmである。煙道の長さは70 cm、煙出口は60×27 cmである。

〈埋土〉黒褐色土からなるが、焼土・炭化物の混じり具合で8層に分れる。自然堆積と考えられる。

6 その他の遺構・遺構外の遺物 (第76～78図、写真図版49～53)

〈土器〉357～396が出土している。内訳は坏が13点、甕が17点、不明が6点、縄文をもつ粗製の深鉢の破片が4点である。須恵器は6点である。

376の坏は調査開始直後に掘られた排水溝から出土しているが、出土した位置や完形で出土している事から見て、本来は15号住居跡に伴っていたものと考えられる。調整によるのか手ずれによるものかわからないが表面は光沢がある。不明の377は坏と思われる。367の甕の焼成は良好で堅く焼きしまっている。390の甕は酸化炎による焼成を受けているが、叩き目や胎土から見て本来は須恵器であると考えられる。393の須恵器の胎土中には砂が多く含まれている。364は



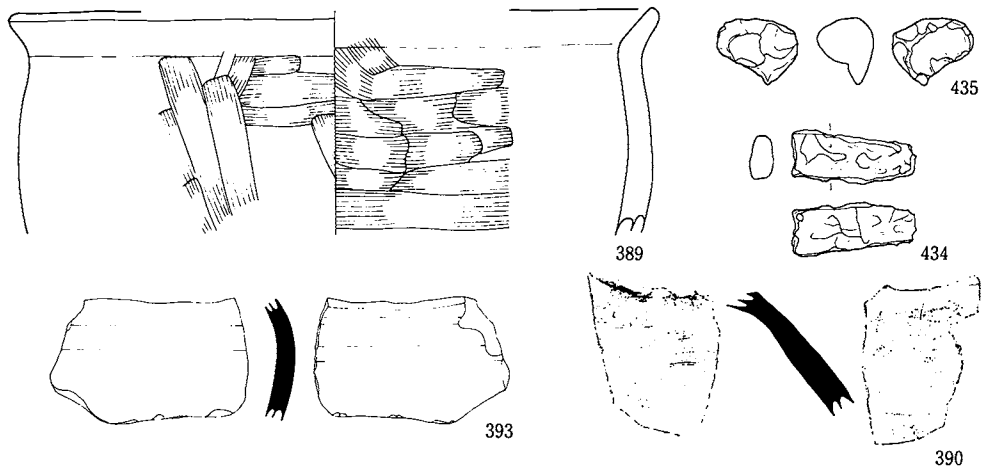
土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真版 |
|-----|----------------|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|------|--------|---------|-------|-------|------|---|-----|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 357 | 5号溝 埋土 | 坏 | — | — | — | — | — | — | — | 橙 | | | [1.0] | I | — | 49 |
| 358 | 5号溝 埋土 | 坏 | — | ロクロ | 回・糸 | — | ロクロ | ロクロ | — | 浅黄褐色 | | | [1.7] | I a | — | 49 |
| 359 | 5号溝 埋土 | 坏 | — | (ロクロ) | 回・糸 | — | — | ロクロ | — | 浅黄褐色 | | | [2.1] | I a | — | 49 |
| 372 | II A 5 h 区 II層 | 坏 | — | — () | 回・糸 | — | — | ロクロ | — | 灰黄褐色 | | | [1.1] | I | — | 50 |
| 373 | II A 区 表土 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | ロクロ | — | 灰黄褐色 | | | [0.8] | I | — | 50 |
| 374 | II C 6 g 区 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | — | にぶい黄褐色 | (12.7) | (6.0) | 3.2 | I a | ○ | 50 |
| 375 | II F 区 表土 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | ロクロ | ロクロ | ロクロ | — | 淡黄 | (12.8) | (6.0) | 3.0 | I a | ○ | 50 |
| 376 | I H 区 | 坏 | ロクロ | ロクロ | 回・糸 | — | — | — | — | 橙 | 12.0 | 5.8 | 3.1 | I a | ○ | 50 |
| 377 | | 坏? | — | — | 回・糸 | — | — | — | — | にぶい黄褐色 | | 7.2 | [1.3] | I | — | 50 |
| 378 | II A 5 h 区 II層 | 坏 | — | — (ケズリ) | ケズリ | — | — | ミガキ | 内 | 橙 | | (8.0) | [0.7] | II b | ○ | 50 |
| 379 | II A 区 表土 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | ミガキ | 内 | 浅黄褐色 | | | [1.5] | II | — | 50 |
| 380 | II F 区 表土 | 坏 | — | — | 回・糸 | — | — | ミガキ | 内 | 橙 | | 5.5 | [1.3] | II | ○ | 50 |
| 360 | 5号溝 埋土 | 坏 | — | — (ケズリ) | 回・糸 | — | — | ミガキ | 内 | 浅黄褐色 | | | [2.1] | II b | — | 49 |
| 361 | 5号溝 埋土 | 甗 | — | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | — | にぶい黄褐色 | | | [3.4] | B | — | 49 |
| 362 | 5号溝 埋土 | 甗 | — | ロクロ | — | — | ナデ | — | — | 浅黄褐色 | | | | A | — | 49 |
| 369 | 5号陥し穴状遺構 | 甗 | — | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | にぶい黄褐色 | | | [1.2] | — | — | 50 |
| 367 | 3号土坑埋土下部 | 甗 | ロクロ | — | — | ロクロ | — | — | — | 浅黄褐色 | | | | A | — | 50 |
| 381 | II A 6 g 区 II層 | 甗 | ロクロ | — | — | ナデ | — | — | — | 橙 | | | | A | — | 50 |
| 382 | II A 区 表土 | 甗 | — | — (ケズリ) | — | — | — | ナデ | — | にぶい黄褐色 | | | [1.8] | — | — | 50 |
| 383 | II A 区 表土 | 甗 | ナデ | ケズリ | — | ナデ | ナデ | — | — | にぶい黄褐色 | | | | B | — | 50 |
| 384 | II A 区 黒色土直下 | 甗 | ロクロ | — | — | ロクロ | — | — | — | 浅黄褐色 | | | [4.0] | A | ○ | 50 |
| 385 | II A 区 表土 | 甗 | ケズリ | — | — | ナデ | — | — | — | 橙 | | | | B | — | 50 |
| 386 | II B 7 g 区 IV層 | 甗 | — | — | — | ナデ | — | — | — | にぶい黄褐色 | | | | B | — | 50 |
| 387 | II B 区 表土 | 甗 | — | ケズリ | — | — | ナデ | — | — | にぶい黄褐色 | | | | — | — | 50 |
| 388 | II B 区 表土 | 甗 | — | — | — | — | — | — | — | にぶい黄褐色 | | | | B | — | 50 |
| 389 | I I 0 c 区 | 甗 | ナデ | ナデ | — | ナデ | ナデ | — | — | 浅黄褐色 | | | [9.0] | B | ○ | 50 |
| 365 | 8号溝 埋土 | 甗 | — | — (ケズリ) | — | — | ナデ | — | — | 褐 | | | [2.3] | — | — | 49 |
| 368 | 5号陥し穴状遺構 | ミガキ | — | — | — | ミガキ | — | — | 内 | 灰黄褐色 | | | | II | — | 50 |
| 364 | 7号溝 埋土 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | 縄文 | ○ | 49 |

第76図 その他の遺構・遺構外の遺物(1)

縄文時代晩期前葉の土器と考えられるが、一部に赤色顔料が付着している。5号陥し穴状遺構から出土している370・371は埋土上部から出土しており、他に縄文をもつ土器の小破片も多く



土器

遺物観察表

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 外 | | | 内 | | | 黒色処理 | 色 | 計測 (cm) | | | 分類 | 図 | 写真図版 |
|-----|--------------|----|-----|---------|----|-----|-----|----|------|---|---------|-------|----|----|----|------|
| | | | 口縁 | 体部 (下端) | 底部 | 口縁 | 体部 | 底部 | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 363 | 5号埴理上 | | — | 叩き目 | — | — | ナデ | — | 灰 | | | | — | ○ | 49 | |
| 390 | II A区 黒色土直下 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | ナデ | — | 浅黄橙 | | | [2.5] | — | — | 50 | |
| 391 | II F区 表土 | 甕 | — | 叩き目 | — | — | ナデ | — | 灰 | | | | — | — | 50 | |
| 392 | III F区 表土 | 甕 | ロクロ | — | — | ロクロ | — | — | 灰 | | | | — | ○ | 50 | |
| 393 | II C区 01 | | — | ロクロ | — | — | ナデ | — | 灰 | | | | — | ○ | 50 | |
| 394 | II F区 5g II層 | 坏 | — | ロクロ | — | — | ロクロ | — | 灰 | | | | — | — | 49 | |
| 364 | 7号溝 埋土 | | — | — | — | — | — | — | | | | | — | — | 49 | |
| 395 | II B区 表上 | | | | — | — | — | — | | | | | — | — | 49 | |
| 366 | 8号溝 埋土 | 深鉢 | | RL | — | — | ナデ | — | | | | | 縄文 | — | 49 | |
| 370 | 5号陥し穴状遺構 | 深鉢 | | LR | — | — | ナデ | — | | | | | 縄文 | — | 50 | |
| 371 | 5号陥し穴状遺構 | 深鉢 | | | — | — | ナデ | — | | | | | 縄文 | — | 50 | |
| 396 | II A区 8a II層 | 深鉢 | | | — | — | — | — | | | | | 縄文 | — | 50 | |

鉄製品

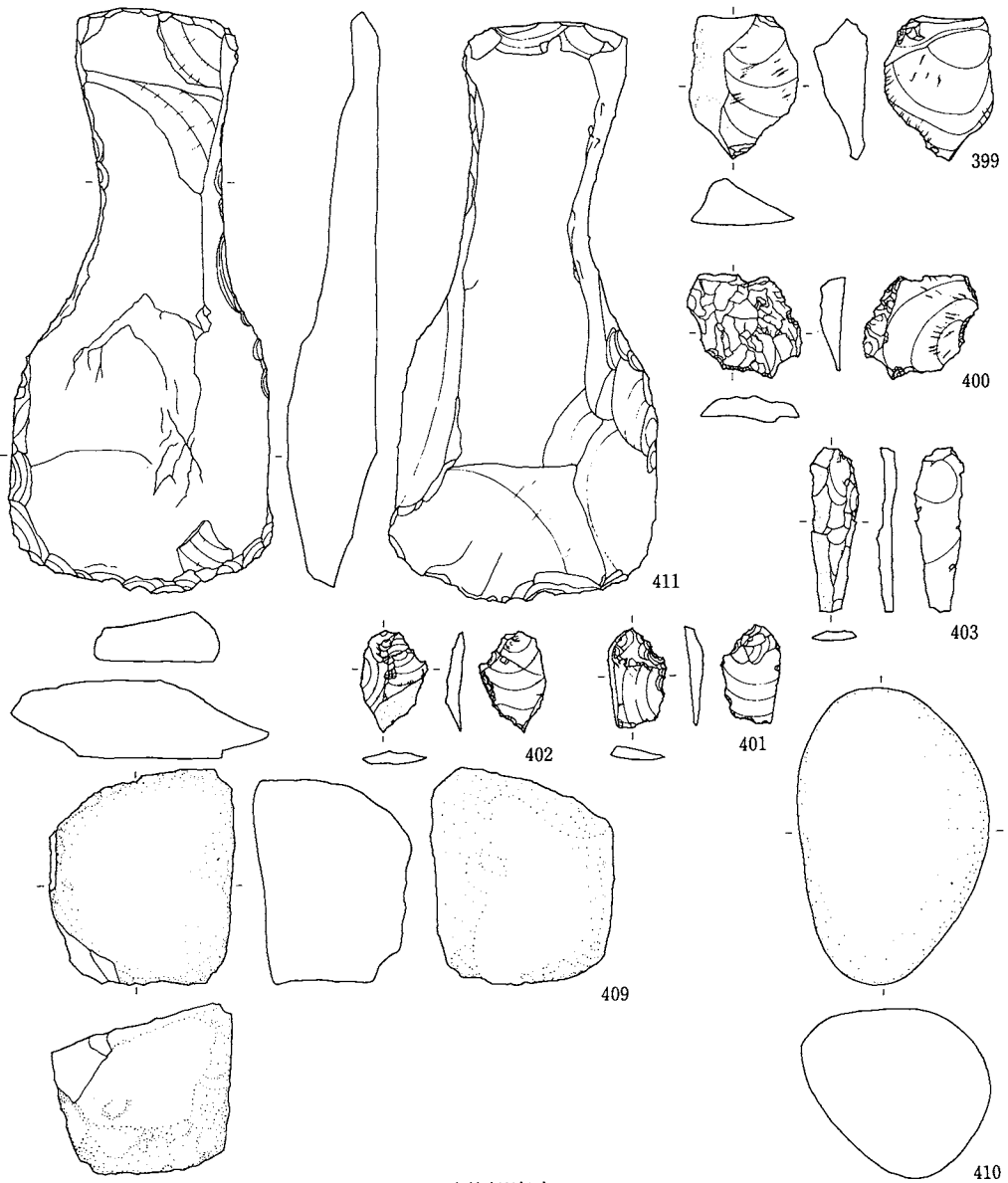
| 番号 | 地点・層位 | 種類 | 計測 (cm, g) | | | | 図 | 写真図版 |
|-----|----------|----|------------|-----|-----|------|---|------|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | |
| 434 | 1号溝 埋土 | | 5.0 | 1.7 | 1.0 | 17.1 | ○ | 53 |
| 435 | II A区 表土 | 鉄滓 | 3.2 | 2.7 | 2.2 | 19.9 | ○ | 53 |

第77図 その他の遺構・遺構外の遺物(2)

出土している。

〈その他〉石器・石製品は 399～403、409～411 が出土している。399～403 は剥片、409 は不明、410 は磨石である。411 は石鋏で 7号溝の埋土の中ほどの 2層上面から出土している。7号溝に伴うのではなく後から溝に流れ込んだものである。

鉄製品等では 434・435 の 2点が出土している。434 は不明、435 は鉄滓である。



遺物観察表

石器類

| 番号 | 地点・層位 | 器種 | 計測 (cm, g) | | | | 石 | 材 | 図 | 写真版 |
|-----|----------|----|------------|------|-----|------|---------------------|---|----|-----|
| | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | | | |
| 399 | II A区 表土 | 剝片 | 5.9 | 4.4 | 2.2 | 43.7 | 珪質泥岩 早石西部 第三系中新統 | ○ | 51 | |
| 400 | II E区 表土 | 剝片 | 5.9 | 4.4 | 2.2 | 43.7 | 珪質泥岩 早石西部 第三系中新統 | ○ | 51 | |
| 451 | II E区 表土 | 剝片 | 4.0 | 2.4 | 0.7 | 7.1 | 珪質泥岩 早石西部 第三系中新統 | ○ | 51 | |
| 402 | 表土 | 剝片 | 4.1 | 2.7 | 0.8 | 5.1 | 珪質泥岩 早石西部 第三系中新統 | ○ | 51 | |
| 403 | 表土 | 剝片 | 6.7 | 2.0 | 0.6 | 6.4 | 珪質細粒凝灰岩 早石西部 第三系中新統 | ○ | 51 | |
| 409 | 5号溝 埋土 | | 8.7 | 7.5 | 6.4 | 340 | 輝石安山岩 紫波郡西部山地 第三系 | ○ | 51 | |
| 410 | 1号土坑 土下層 | | 12.0 | 7.7 | 6.8 | 610 | 輝石安山岩 紫波郡西部山地 第三系 | ○ | 52 | |
| 411 | 7号溝 2層 | 石楯 | 23.6 | 10.5 | 3.1 | 722 | 粘板岩 和賀仙人-夏油川上流間 古生界 | ○ | 52 | |

第78図 その他の遺構・遺構外の遺物(3)

V まとめ

1 遺構

〈竪穴住居跡〉全部で21棟検出されている。分布は大きく2ヵ所に分れる。調査区中央のII D～II F区と南側のI G～I I区である。中央部には1・6・7・8・9・10・20・21号住居跡が、南側にはそのほかが分布する。

21棟は1辺2～5.9mの範囲に収まり、不明のものを除けばその規模から大きく4つに区分される。1辺2m強のもの、3m前後のもの、4～4.7mのもの、5m以上のものである。この内2m強の5・13・19号については内部に何の施設も見当たらず、住居跡ではない可能性も大きい。いずれにしる、おそらく同様の性格をもつものと考えられる。時期は19号住居跡に須恵器が投込まれている事から、他の住居跡と概ね平行する時期と考えられる。ただ、13号は12号住居跡と接するように位置しているため、12号住居跡とは同時に存在したものではないと考えられる。3m前後のものは2・4・6・12号、4～4.7mのものは1・7・10・11・14・17・18号、5m以上のものは3・8・15号である。それぞれのグループに分布の偏りはなく、むしろ均等に分布している。

カマドは住居跡の東あるいは北側に設けられている。煙道の構造は不明のものが多いがくりぬき式1例（1号）、掘り込み式が3例（6・15・16号）確認されている。

柱穴が検出されている住居跡について見ると南あるいは東壁際に間隔の狭い2つの柱穴を持つ。それに対応する2つが床面中央にあり、南壁際に対しては北寄り、東壁際に対しては西寄りに位置する配置になっている。東側に寄るものは2・7・12・15・18・21号で南側に寄るのは3・8・10・11・14号である。前者はカマドの位置が東壁の北寄りか北壁、あるいは北東壁の東寄りと北あるいは北東による傾向がある。また後者は東壁の南寄りに位置している。

焼失住居も比較的多く見られ、炭化材が検出されている。1～4・10号住居跡からはクリが、7号住居跡からはクリ・ケヤキ・雑木2種が同定されている。

〈溝跡〉10条検出されている。調査区の北側のII A区と南側のI I・I G区に比較的集中している。遺物等から時期を確実に決定できるものはない。ただ5号溝は土師器の出土がやや多く、住居跡と同時期のものの可能性が高い。滝名川に向かって注ぐようになっているものとそうでないものが見られる。地形の傾斜にそって底面が傾斜している溝もあるが、現在調査区付近の水田に水を供給している用水路が作られる以前に、恒常的に流れるほどの豊富な水があったとは考えられない。

〈陥し穴状遺構〉9基検出されている。調査区外の状況が分らないがある程度まとまる傾向があり、調査区の北側と中央に比較的集中している。特に中央の6～9号は大体平行に等間隔で

南北に並ぶ。また、5号は南側に孤立している。

形状は全て溝状であり、開口部の長さの分るものは290～376 cmである。深さは32～134 cmと幅がある。

遺物はほとんど出土しておらず時期は特定できないが、5号陥し穴状遺構は7号溝に切られている。田村（1987）によれば本遺跡で検出されているような溝状の陥し穴状遺構の時期を縄文時代中期末～後期前葉としている。

〈土坑〉7基検出されている。分布に特にまとまりはない。遺物はほとんど出土していないため時期は不明である。平面形が円形のものと同円形状のものがある。前者は1・2・4号土坑である。1・2号は住居跡のそばにあり埋土も住居跡と良く似ており、ほぼ同時期のものであろうと思われる。4号についても同様である。性格については不明である。

後者は3・5・6・7号である。3号土坑の埋土下部からは土師器と須恵器の甕の破片が出土しており、4号溝と同じ検出面である。また、6号土坑は7号住居跡より古い。3号はかなり大きい。5～7号土坑は形状・規模とも良く似ている。

〈焼土遺構〉II A区で1基検出されている。「北」のII層を掘り込んでカマド状に形作っている。時期は不明であるが、3号土坑・4号溝より上の層位から掘り込まれている。

2 遺物

〈土器〉遺構に伴うのが確実な住居跡出土の遺物を中心に述べる。住居跡出土の土器はどの住居跡の場合も高橋（1982）による編年のIII-2群（9世紀末～10世紀）に属している。

土師器の甕はロクロ使用のものと粗雑な調整のロクロを使用しない甕が出土している。このロクロ不使用の甕は北上川中流域ではなく、県北部の特色である（高橋1982）。ロクロ使用と不使用の両者が共伴する住居跡とロクロ不使用の甕のみ出土する住居跡がある。共伴するのは4・7・8・9・10・14号住居跡である。ロクロ不使用の甕のみ出土する住居跡は1・2・3・15・20号住居跡である。12・18号住居跡は不明でその他は土師器の甕は出土していない。ロクロ不使用の甕のみ出土する住居跡が滝名川寄りに分布している。また、南側にロクロ不使用の甕のみ出土する住居跡がやや多く、北側にはロクロ使用と不使用が共伴する住居跡がやや多い。

坏については内面黒色処理の土師器の坏と、黒色処理されない坏が出土している。両者ともほとんどが回転糸切り無調整であるが、前者は3・4・14・15号住居跡から、後者は4・7・18号住居跡からごく小数であるが、回転糸切り後体部下端にケズリなどの調整を施したものがある。前者の分布は南側に集中する。後者は前者の坏より多く出土している。最も多い14号住居跡では16：4と4倍になっている。このなかで8号住居跡の133・141と9号住居跡の181が比較的小さく体部が湾曲しながら立ち上がっており、良く似た形態をしている。また、14号住居跡の220・227・239が底部が比較的広く体部は急角度で直線的に立ち上がる特徴的な形をし

ている。一部に内面に調整を施したと思われる個体があるが使用によって生じた可能性のあるものもある。

須恵器は甕と思われる破片が各住居跡で少量ずつ出土している。坏は住居跡の埋土中から小破片が2点出土しているだけである。

〈その他〉鉄製品は鉄滓を含めて24点出土している。鎌(412)・紡錘車(423)・穂摘具(424、433)などが主なもので、他に刀子や鉄滓などがある。

石器類は剝片を含めて15点出土している。

土製品は12号住居跡の埋土下部から土錘が1点出土している。おそらくは12号住居に伴うと思われるがそうでない場合でもほぼ同時期のものと考えられる。滝名川には現在でも鮭が遡上しており、平安時代にその他の淡水魚を含めた形で漁撈活動が行われていたと考えられる。生業全体のなかでどの様な比重を占めていたのか興味深い。

まとめ

住居跡はカマドの位置、規模、土師器のロクロ使用と不使用の甕の出土状況などから分類は可能であるが、全体で見るとそれぞれの相関関係ははっきりしない。同時に存在していた住居跡がそれぞれ異なる特徴を持っていた事も考えられる。ただ、その中でロクロ使用の甕と不使用の甕が共伴する住居跡とロクロ不使用の甕のみ出土する住居跡の分布の違いは比較的はっきりしている。

遺跡の性格は二つの面がある。一つは平安時代の集落跡である。今回の調査区は集落の西側の一部を調査したと考えられる。調査区の東隣にも集落が広がると推定され、全体としては規模の大きな集落になる可能性がある。またもう一つには、陥し穴状遺構が検出されていることから、おそらくは縄文時代の狩猟の場として利用されていた事が考えられる。その場合、滝名川を挟んで対岸にある縄文時代中期の集落である西田遺跡との関わりが問題になるが、狩猟対象となる動物が、狩猟をする側の人間の集落のそばに頻りに近付いて来るものであろうか。西田遺跡が季節的に利用されていたのでない限り、幾らかでも集落の存在した時期と食い違うのではないかと推測される。

引用・参考文献

- 1976 桑原滋郎「須恵系土器について」『東北考古学の諸問題』
- 1981 相原康二「岩手県南部における古代の土器群編年試案」『岩手県文化財調査報告書35集 東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書III』
- 1982 高橋信雄「古代」『岩手の土器』
- 1986 小井川和夫「いわゆる赤焼土器について」『東北歴史資料館研究紀要10』
- 1987 田村壮一「陥し穴状遺構の形態と時期について ―岩手県北地方を中心として―」『(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要VII』

1. 試料

試料は、平安時代に属す 7 号住居跡から出土した種実遺体と思われる炭化物 9 点である。試料については、結果と合わせて表 1 に記す。

2. 結果

結果、表 1 に示す。同定の結果、ハシバミ・オニグルミ・コナラ属に同定された。以下に形態的特徴について記す。

表 1 下川原 II 遺跡種実遺体同定結果

| 試料番号 | 遺構名 | 出土状況 | 時期 | 同定結果 |
|------|------|---------|------|------------|
| 1～3 | 7号住居 | 土坑上面 | 平安時代 | ハシバミ (5点) |
| 4 | 7号住居 | 埋土 (床面) | 平安時代 | オニグルミ (1点) |
| 5 | 7号住居 | 埋土 (床面) | 平安時代 | コナラ属 (3点) |

・ハシバミ (*Corylus heterophylla* var. *thunbergii*) カバノキ科

子葉が検出された。色は黒色。極方向につぶれた球形で、大きさは縦軸 1.2 cm、横軸 1.6 cm 程度。極度に炭化している。表面には、極方向に維管束が通った跡が筋状にくぼんでいる。先端部は突出し、基部はくぼんでいる。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* var. *sachalinensis*) クルミ科

核が検出された。色は炭化し黒色。側面観は楕円形、上面観は半月形で、大きさは縦軸 2.6 cm、横軸 2.4 cm 程度。縫合線にそって割れており、片側が破損している。表面には極方向にそって粗いしわ状のくぼみがみられる。内部は、子葉が入る 2 つの大きなくぼみがみられる。また、側面には 2 本の縫合線が発達する。

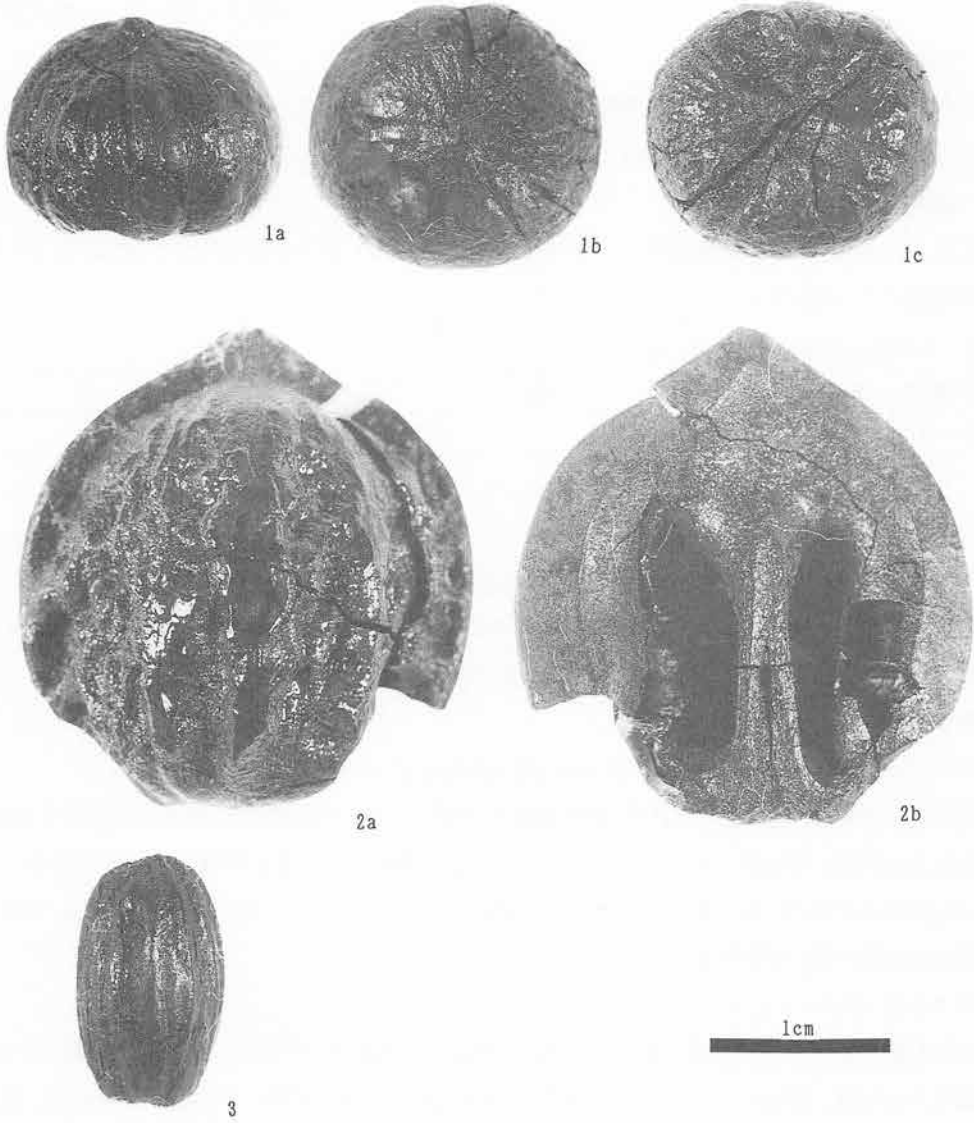
・コナラ属 (*Quercus* sp.) ブナ科

子葉が検出された。側面観は極方向に長い楕円形、上面観は半月形で、大きさは縦軸 1.4 cm、横軸 0.8 cm 程度。炭化している。極方向にふたつに割れ半分が破損している。表面には、極方向に維管束が通った跡が筋状にくぼんでいる。また、一部内果皮が残存する個体もみられる。

3. 考察

今回同定された種類は、いずれも古くから食用とされてきた種類である。これらはいずれも子葉を食用とする。ハシバミ・コナラ属については直接食用となる部位が検出されたが、オニグルミは子葉を覆っている核が検出された。このことは、当時の食料の貯蔵形態（たとえば、ハシバミやコナラ属は外果皮を取り去って保存するが、オニグルミは核のまま保存していたなど）に起因しているのかもしれない。

図版1 下川原Ⅱ遺跡の種実遺体



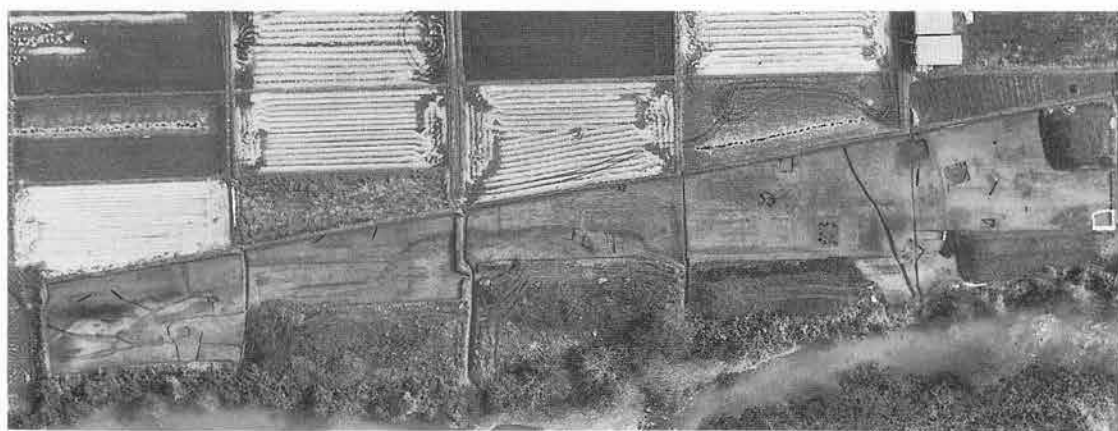
- 1. ハシバミ（子葉）；試料番号1～3
- 3. コナラ属（子葉）；試料番号 5

- 2. オニグルミ（核）；試料番号 4

写 真 图 版



遺跡遠景



同 北側



同 南側

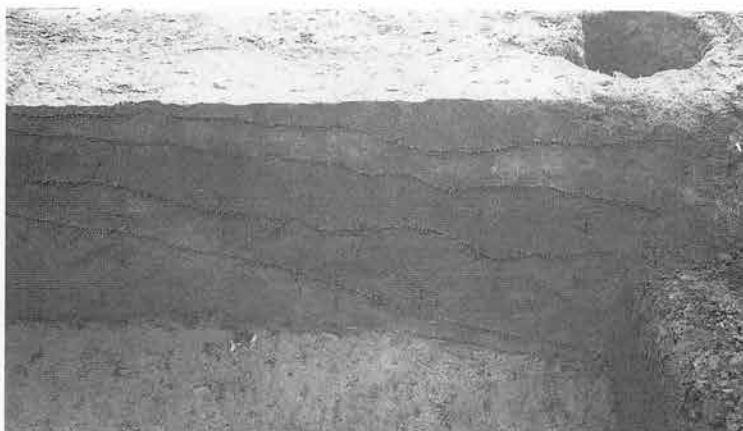
写真図版1 遺跡遠景



基本土層 (北)

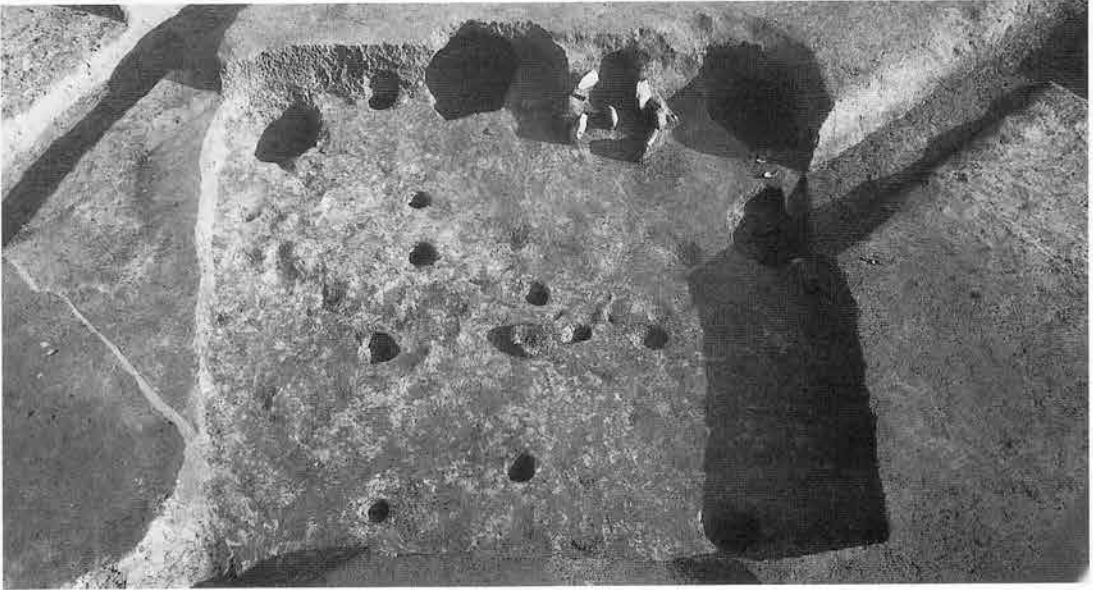


基本土層 (中央)

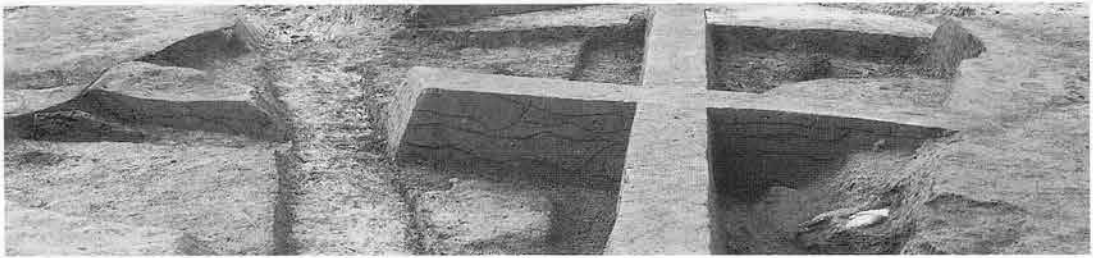


基本土層 (南)

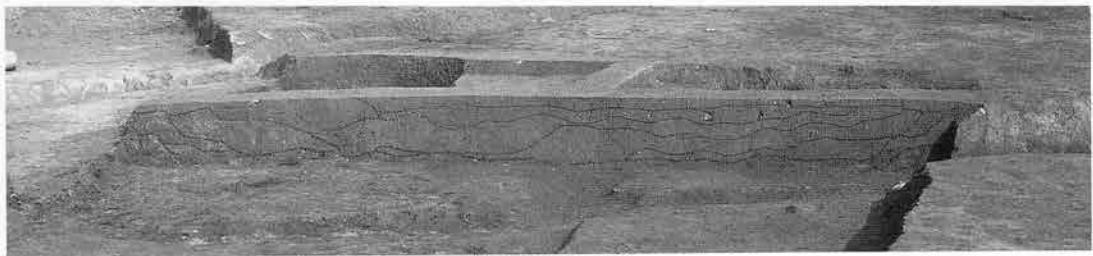
写真図版 2 基本土層



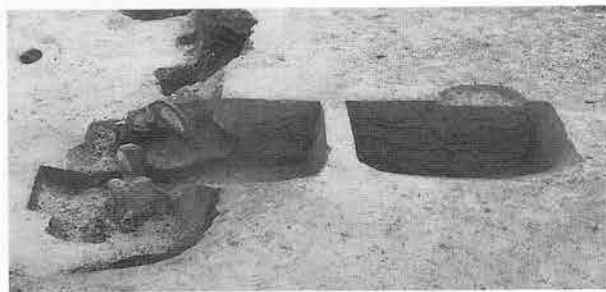
完掘



埋土断面 (A-A')



埋土断面 (B-B')



煙道断面 (タテ)



煙道断面 (ヨコ)

写真図版 3 1号住居跡



カマド断面 (ヨコ)



カマド断面 (タテ)



カマド検出状況

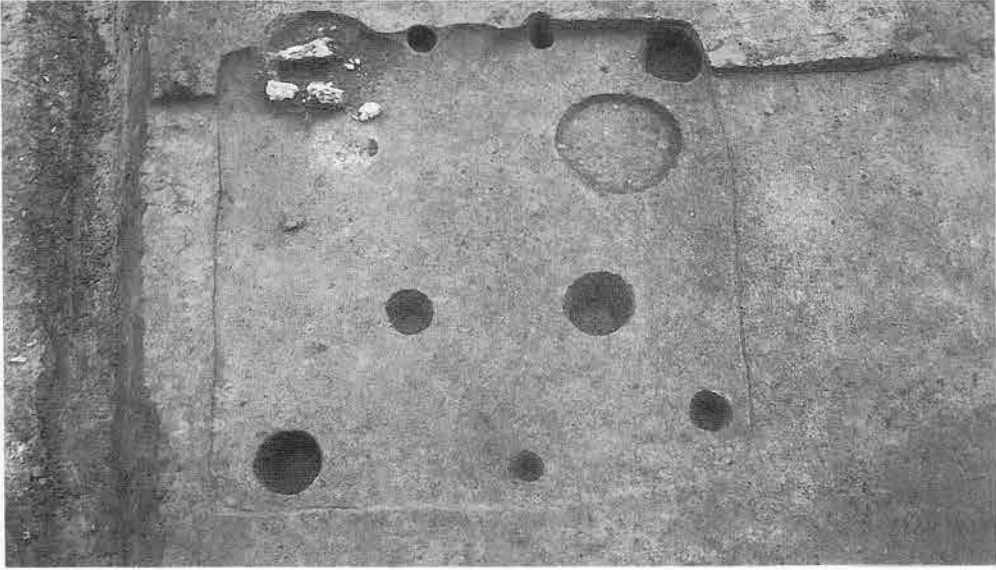


炭化したススキ (床面)

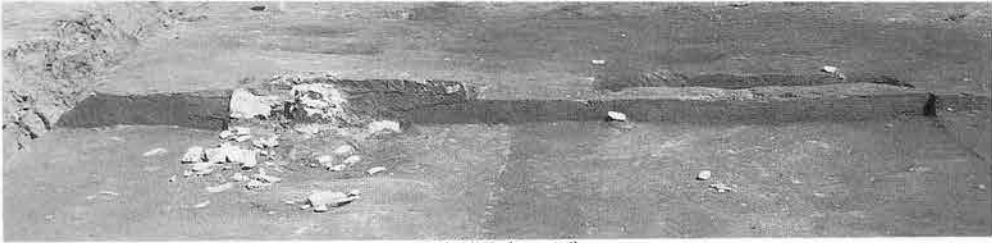


炭化材分布状況

写真図版 4 1号住居跡



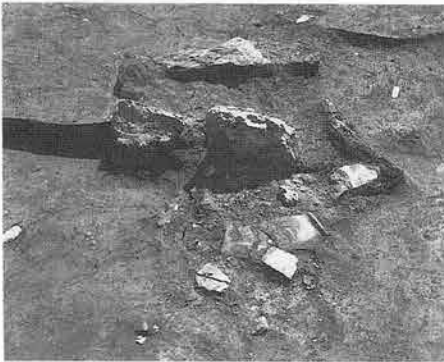
完掘



埋土断面 (B-B')



埋土断面 (A-A')



カマド検出状況



カマド断面 (タテ)

写真図版 5 2号住居跡



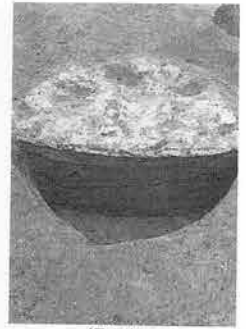
P₇完掘



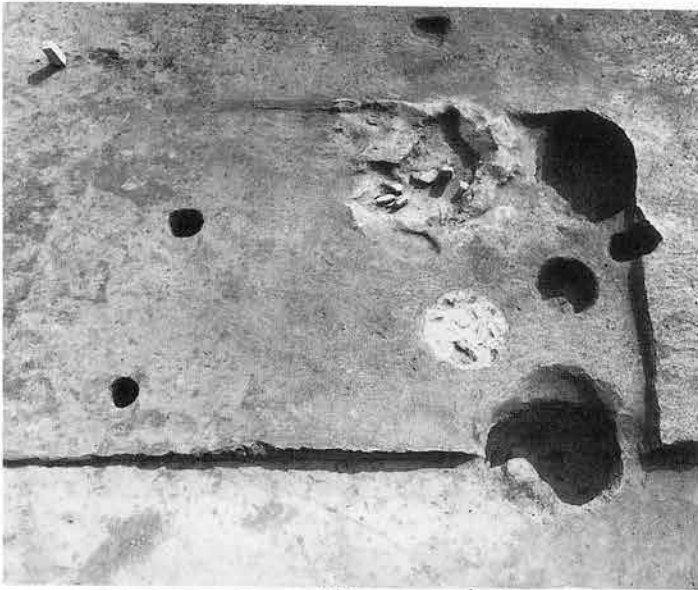
P₈完掘



P₈検出



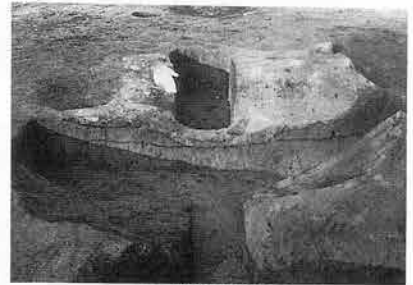
埋土断面



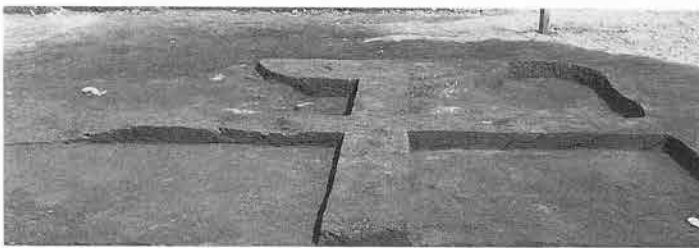
完掘



カマド内土器出土状況



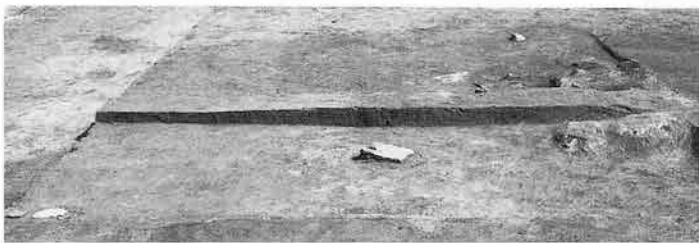
カマド断面 (タテ)



埋土断面 (B-B')

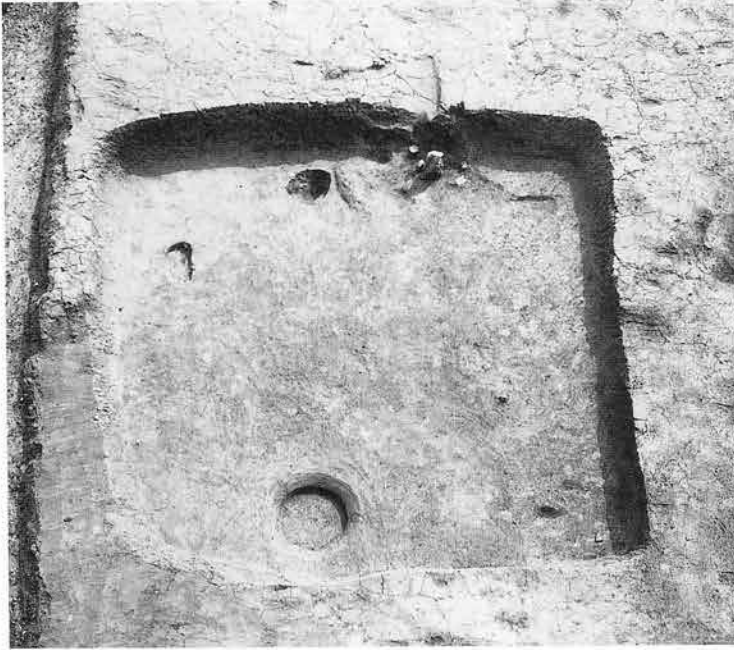


カマド断面 (ヨコ)



埋土断面 (A-A')

写真図版 6 3号住居跡



完掘



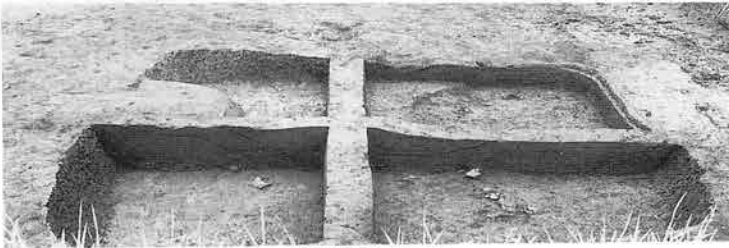
カマド断面 (ヨコ)



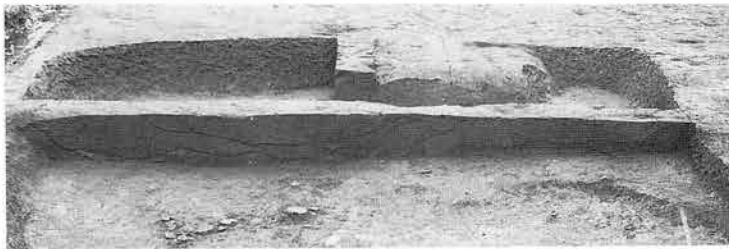
カマド断面 (タテ)



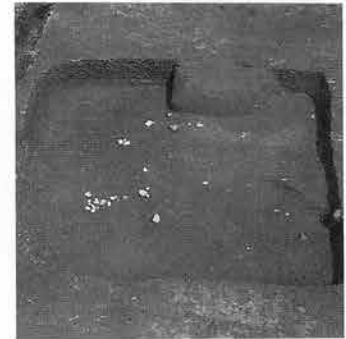
カマド完掘



埋土断面 (A-A')



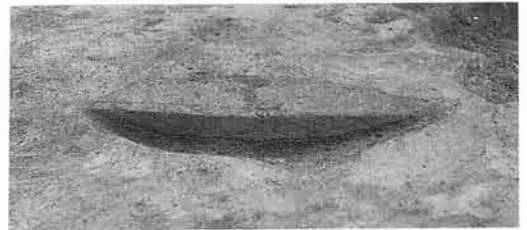
埋土断面 (B-B')



床面土器出土状況

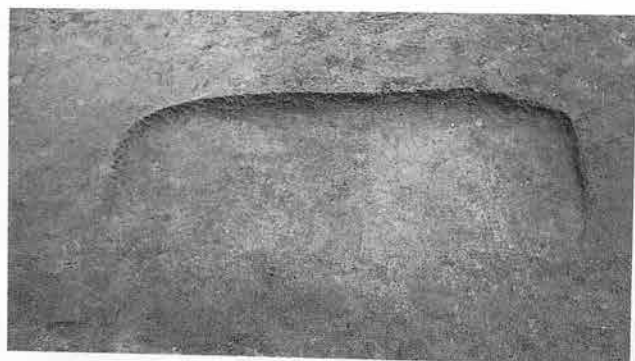


P₃完掘



P₃埋土断面

写真図版 7 4号住居跡



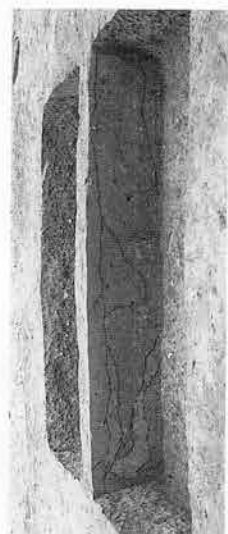
5号住居跡 完掘



埋土断面



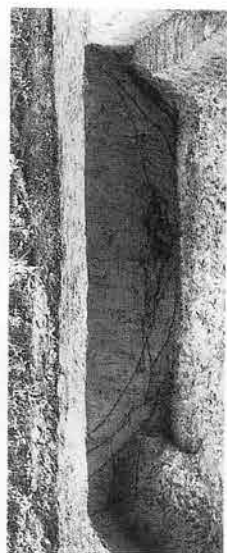
13号住居跡 完掘



埋土断面



19号住居跡 完掘

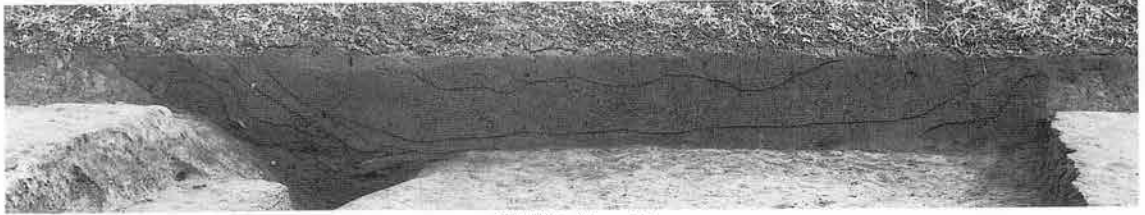


埋土断面

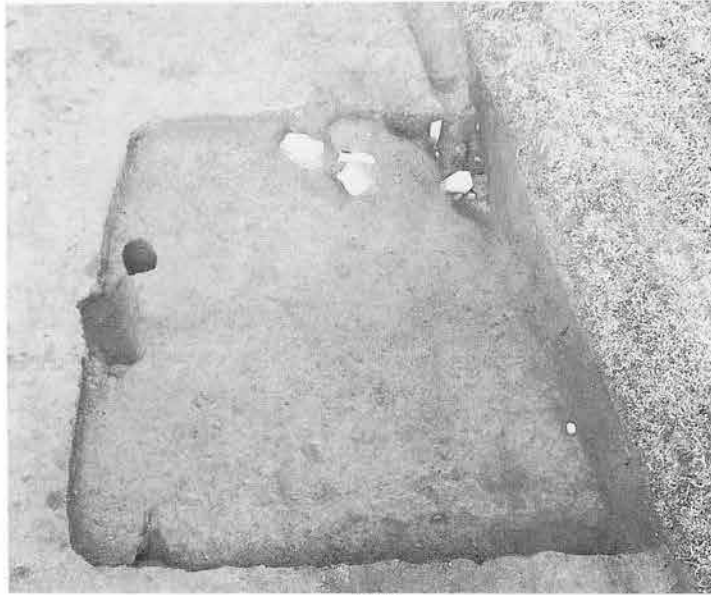
写真図版 8 5号・13号・19号住居跡



埋土断面 (B-B)



埋土断面 (A-A')



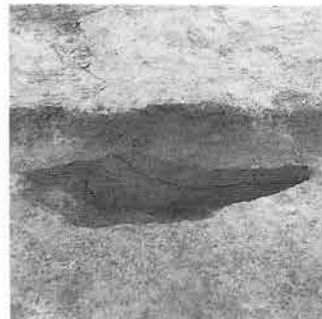
完掘



カマド断面 (タテ)



カマド断面 (ヨコ)



P₂埋土断面

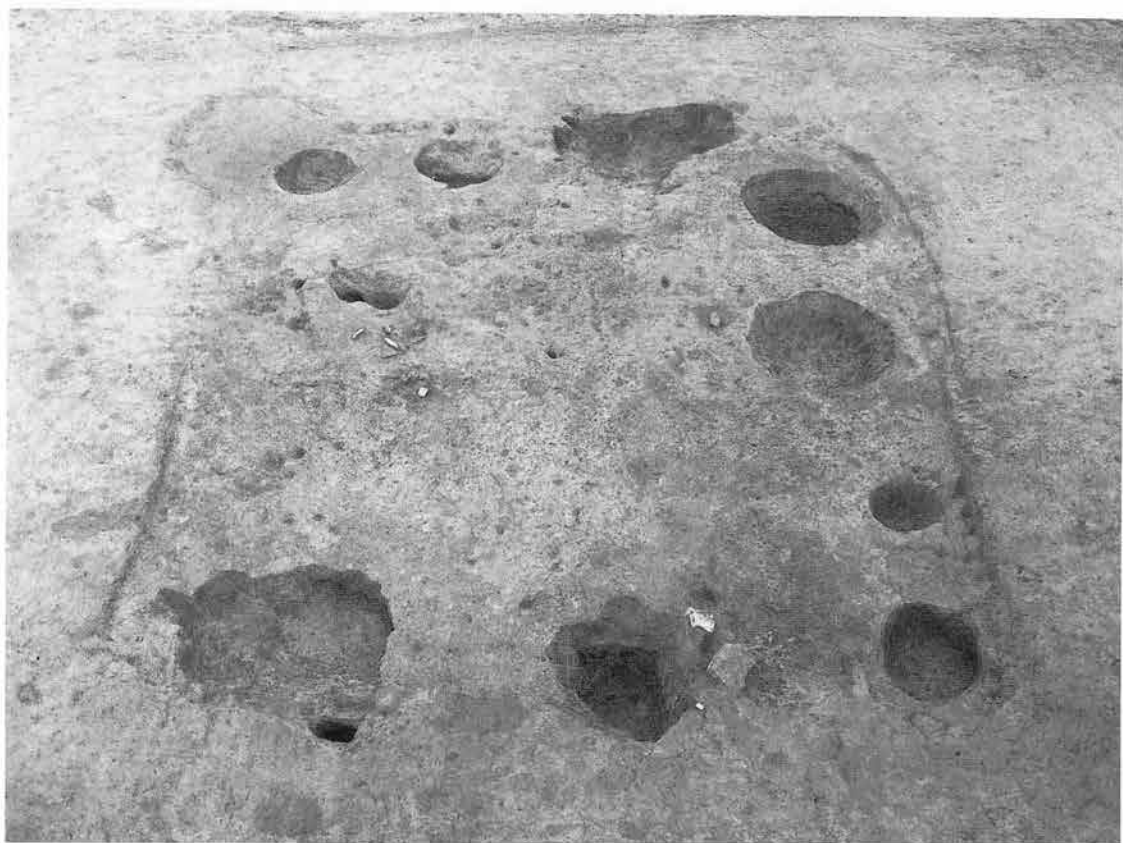


カマド検出状況

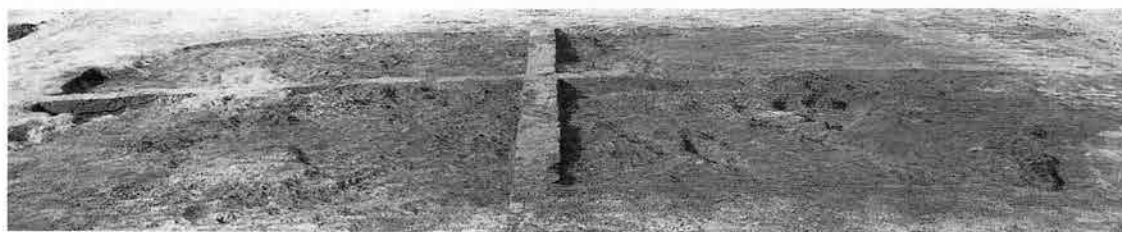


カマド完掘

写真図版 9 6号住居跡



完掘



埋土断面 (A-A')



埋土断面 (B-B')

写真図版10 7号住居跡



炭化材出土状況



紡錘車出土状況



カマド検出状況



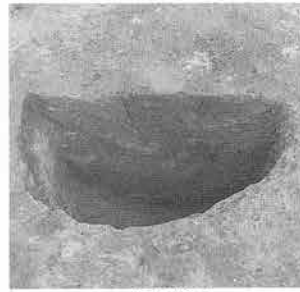
カマド断面 (ヨコ)



カマド断面 (タテ)



P₁埋土断面



P₂埋土断面



P₄埋土断面



P₃埋土断面



P₅埋土断面

写真図版11 7号住居跡



完掘



埋土断面 (A-A')



埋土断面 (B-B')



カマド断面 (タテ)



カマド断面 (ヨコ)



カマド全景

写真図版12 8号住居跡



8号住居跡 P₁完掘



8号住居跡 焼土1断面



8号住居跡 焼土2断面



8号住居跡 P₁埋土断面



8号住居跡 焼土3断面



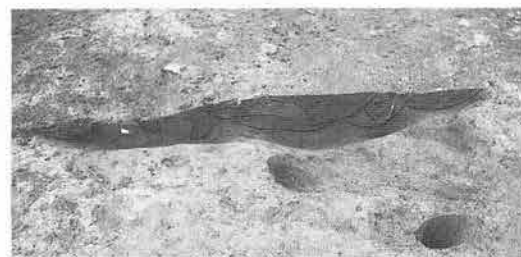
8号住居跡 焼土4断面



9号住居跡 完掘



9号住居跡 埋土断面



9号住居跡 焼土断面



9号住居跡 掘り方完掘

写真図版13 8号・9号住居跡



完掘



埋土断面 (B-B)



埋土断面 (A-A)



カマド断面 (ヨコ)



カマド断面 (タテ)

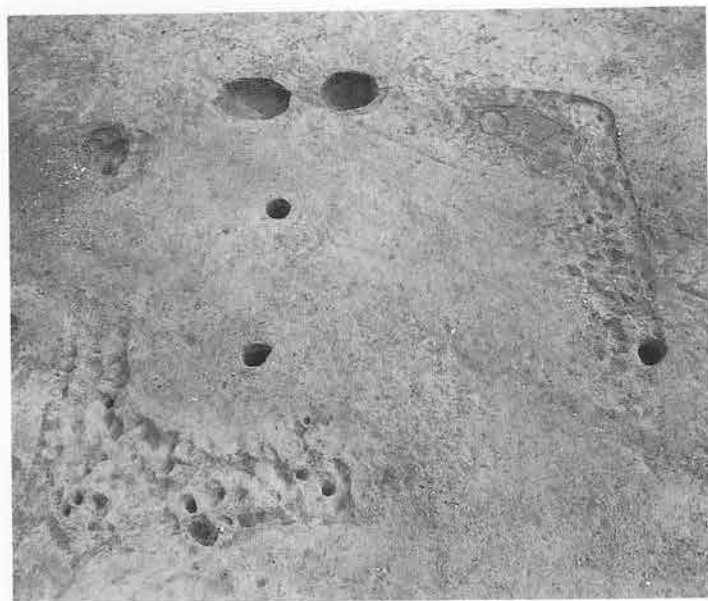
写真図版14 10号住居跡



埋土断面 (c-c')



埋土断面 (b-b')



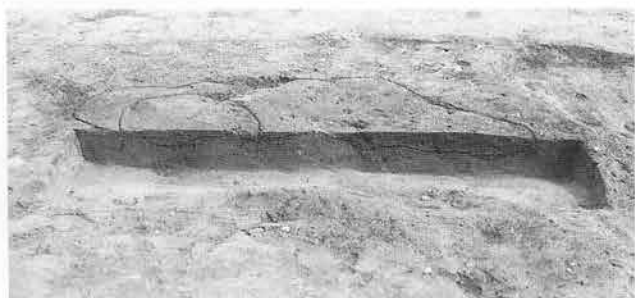
完掘



P₃埋土断面



P₄埋土断面



烧土断面



烧土检出状况

写真图版15 11号住居跡



完掘



埋土断面 (A-A')



埋土断面 (B-B')



カマド断面 (タテ)



カマド断面 (ヨコ)

写真図版16 12号住居跡



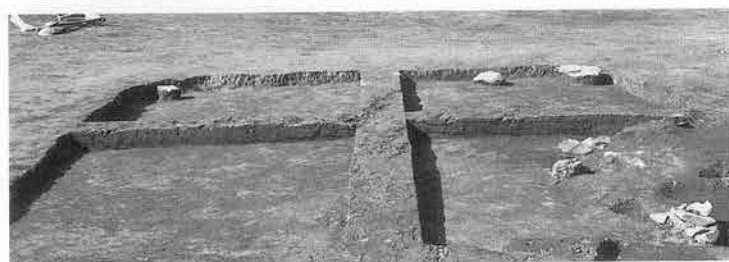
完掘



P₃ 埋土断面



P₃ 完掘



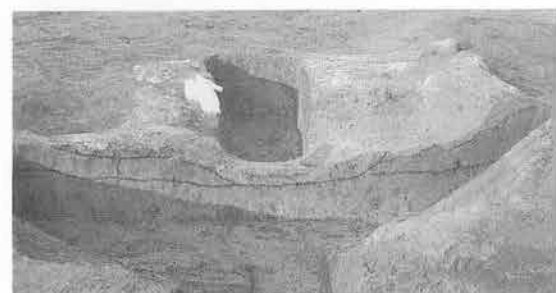
埋土断面 (A-A')



埋土断面 (B-B')



カマド検出状況



カマド断面 (タテ)

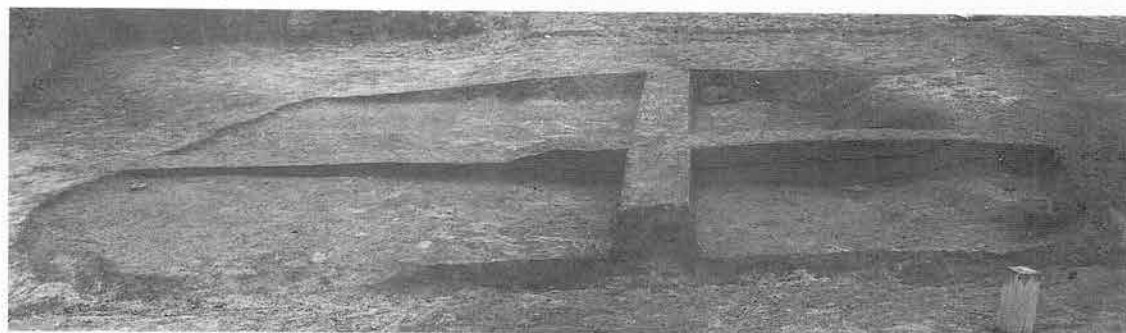


カマド断面 (ヨコ)

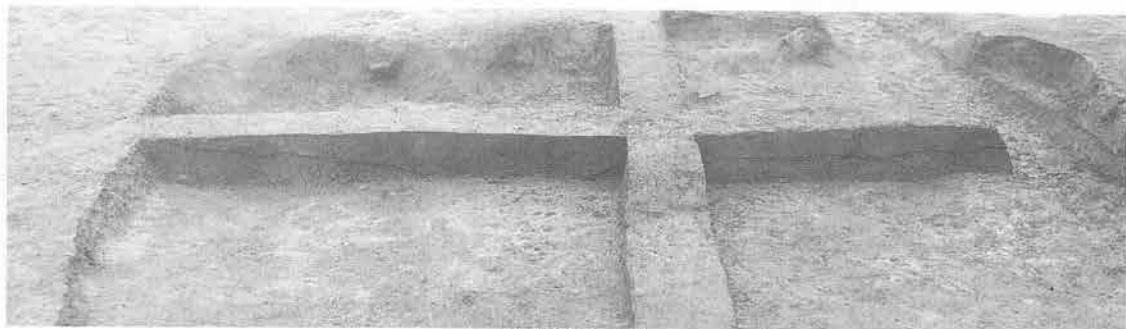
写真図版17 14号住居跡



完掘



埋土断面 (A-A')



埋土断面 (B-B')

写真図版18 15号住居跡



15号住居跡 カマド断面(ヨコ)



15号住居跡 カマド断面(タテ)



15号住居跡 煙道断面



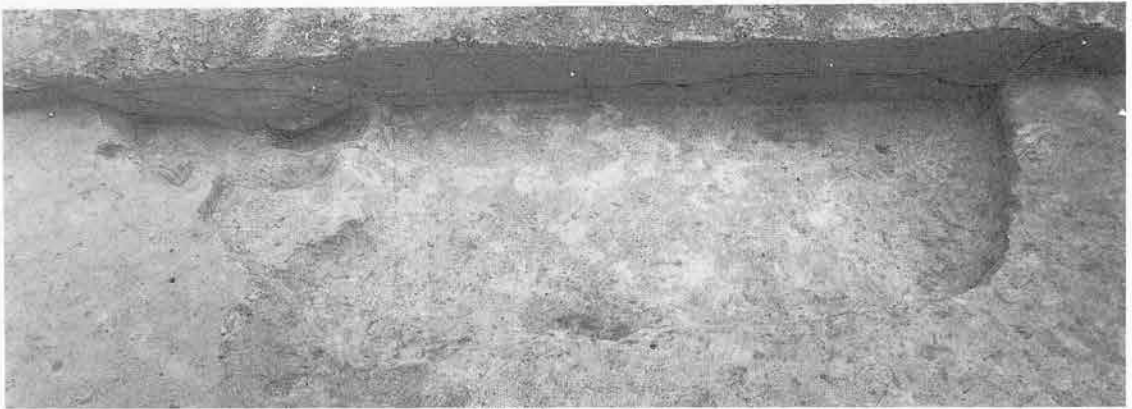
15号住居跡 焼土断面



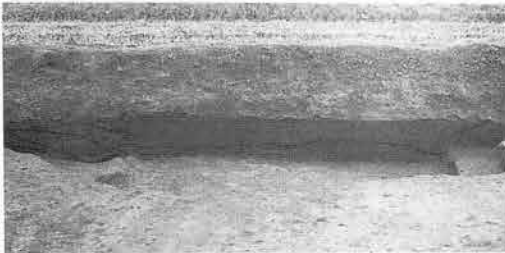
15号住居跡 鉄器出土状況



15号住居跡 土器出土状況



16号住居跡 完掘



16号住居跡 埋土断面

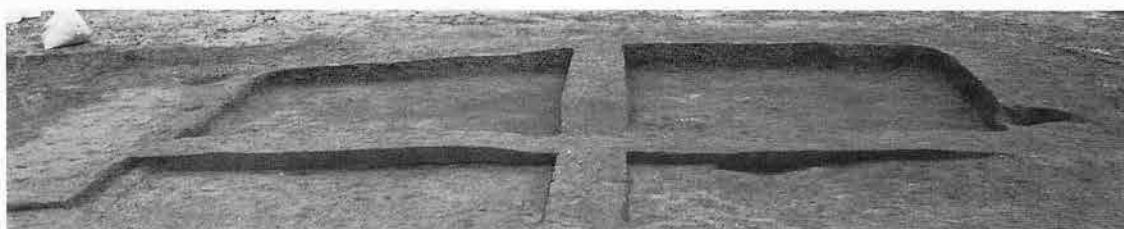


16号住居跡 カマド断面(ヨコ)

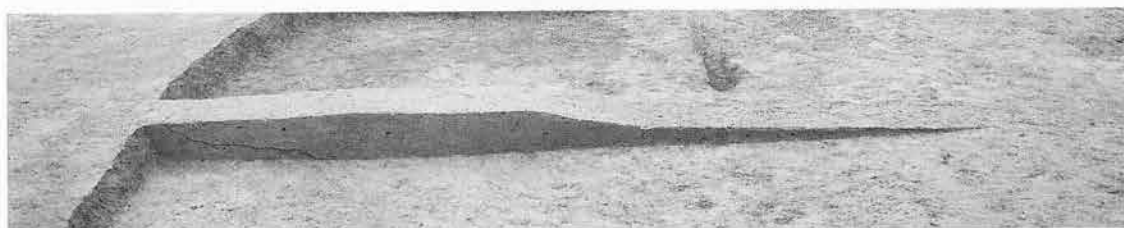
写真図版19 15号・16号住居跡



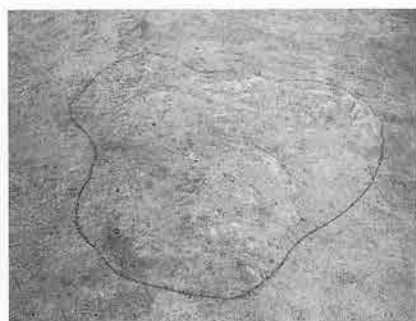
完掘



埋土断面 (B-B')



埋土断面 (A-A')

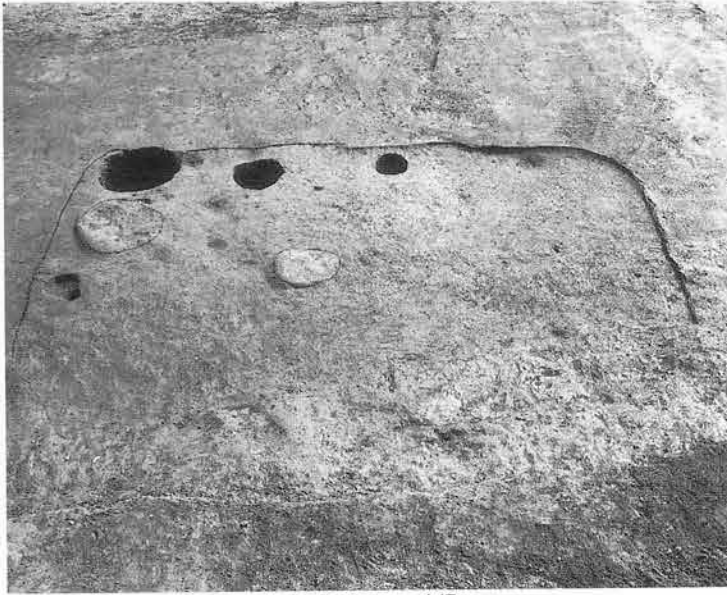


焼土検出状況

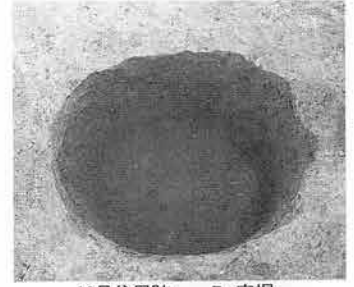


焼土断面

写真図版20 17号住居跡



18号住居跡 完掘



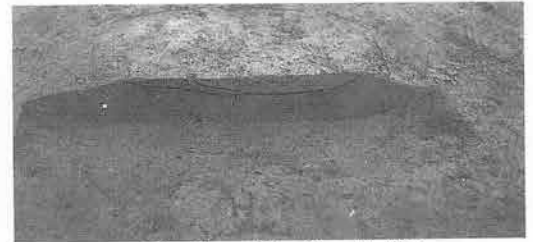
18号住居跡 P₁完掘



18号住居跡 P₂埋土断面



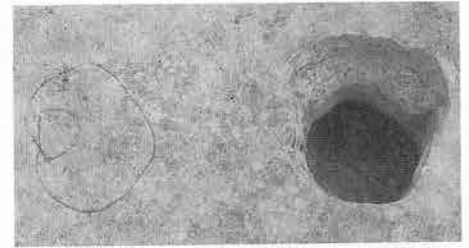
18号住居跡 焼土(c-c')断面



18号住居跡 焼土(d-d')断面

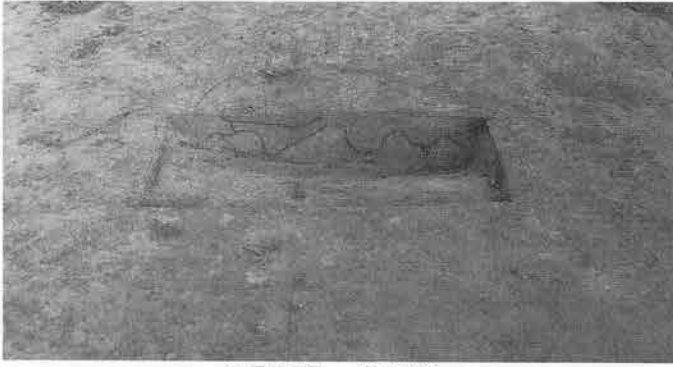


20号住居跡 全景



20号住居跡 焼土検出状況 P₂完掘

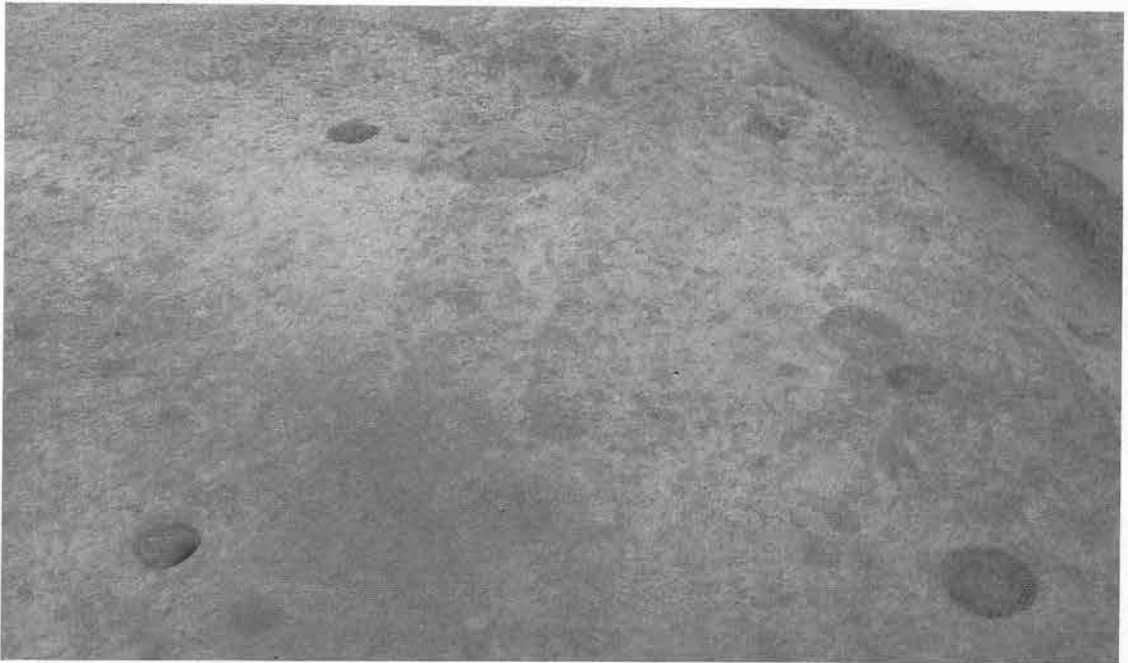
写真図版21 18号・20号住居跡



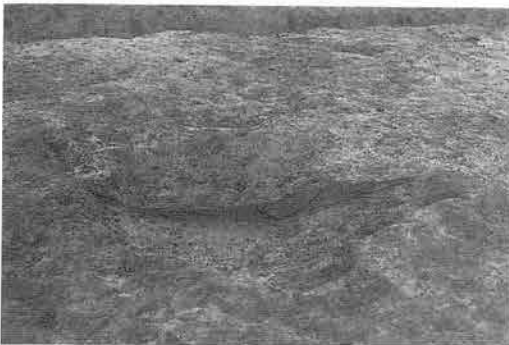
20号住居跡 烧土断面



20号住居跡 P₀埋土断面



21号住居跡 完掘



21号住居跡 煙道断面



21号住居跡 烧土断面

写真図版22 20号・21号住居跡



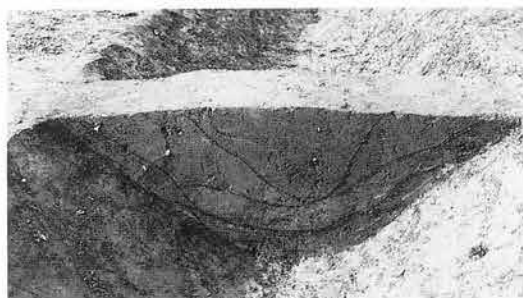
1号沟 完掘



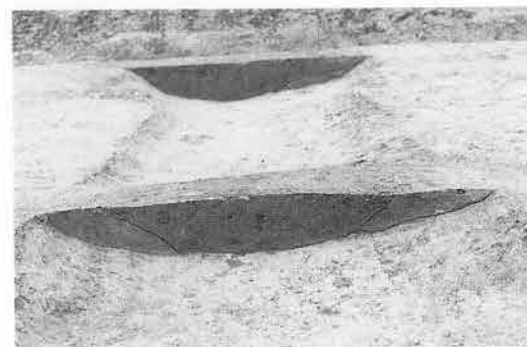
2号沟 完掘



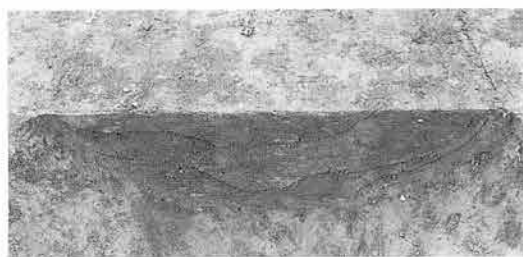
埋土断面 (A-A)



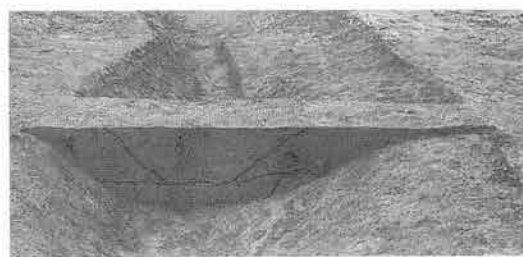
埋土断面 (A-A)



埋土断面 (B-B')



埋土断面 (B-B)



埋土断面 (C-C')

写真图版23 1号·2号沟



3号沟 完掘



4号沟 完掘



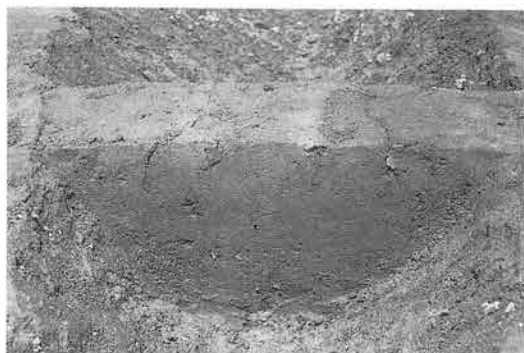
埋土断面 (A-A')



埋土断面 (A-A')



埋土断面 (B-B')



埋土断面 (B-B')

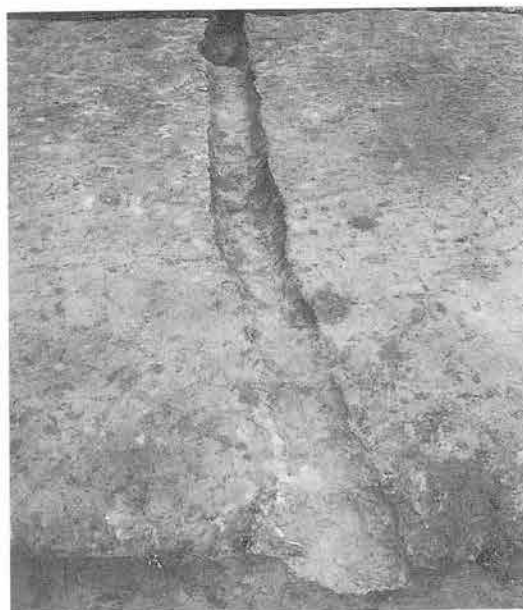


埋土断面 (C-C')

写真図版24 3号・4号溝



5号溝 完掘



6号溝 (東側) 完掘



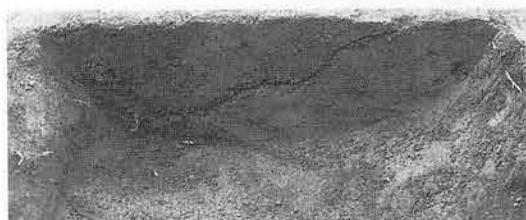
埋土断面 (A-A')



同 (西側) 完掘



埋土断面 (B-B')



埋土断面

写真図版25 5号・6号溝



7号溝 完掘



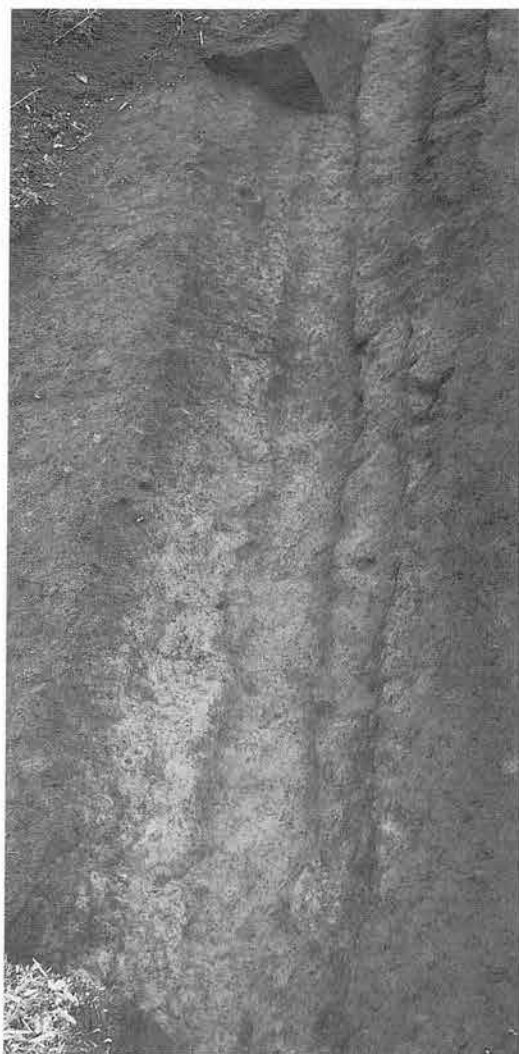
埋土断面 (A-A')



埋土断面 (B-B')



石鍬出土状況

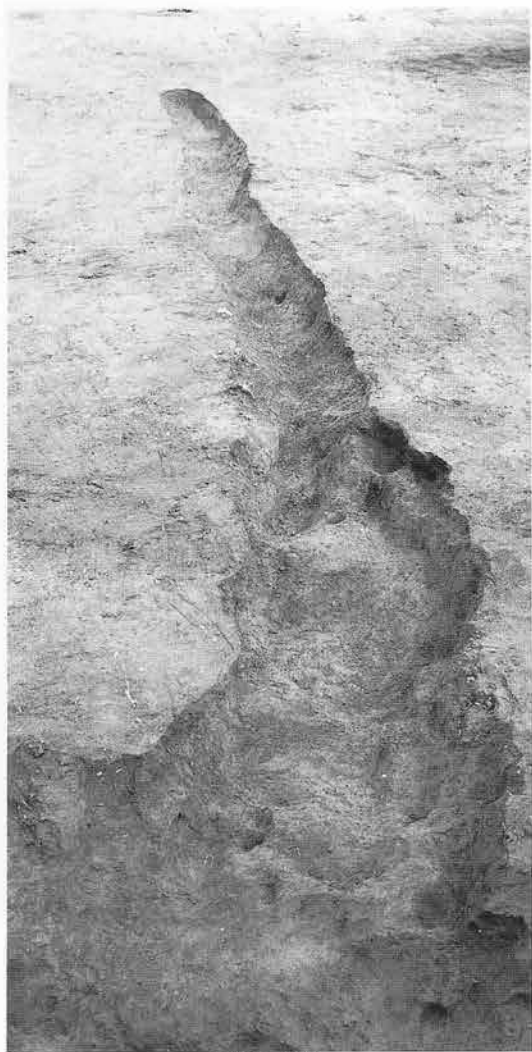


8号溝 完掘



埋土断面

写真図版26 7号・8号溝



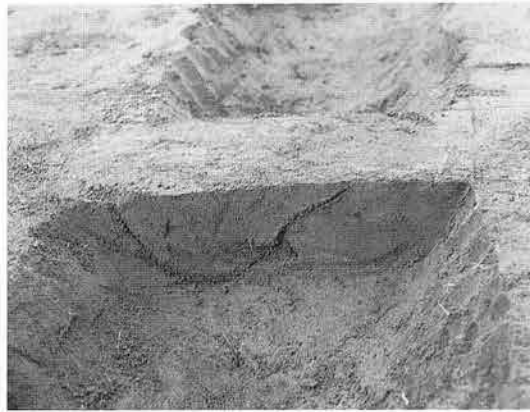
9号沟 完掘



10号沟 完掘



埋土断面

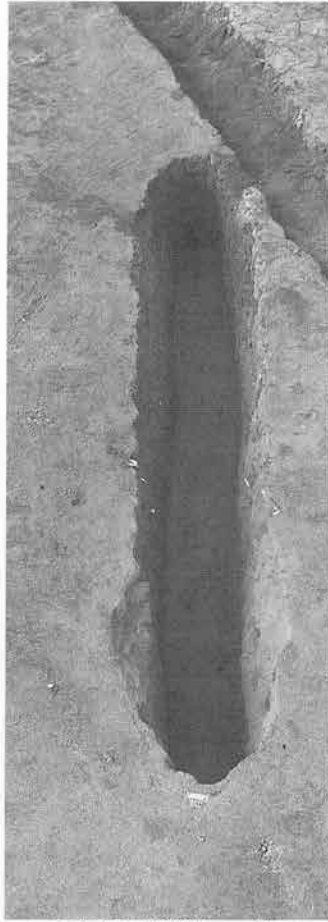


埋土断面

写真图版27 9号・10号沟



1号陥し穴状遺構 完掘



2号陥し穴状遺構 完掘



3号陥し穴状遺構 完掘



埋土断面



埋土断面



埋土断面

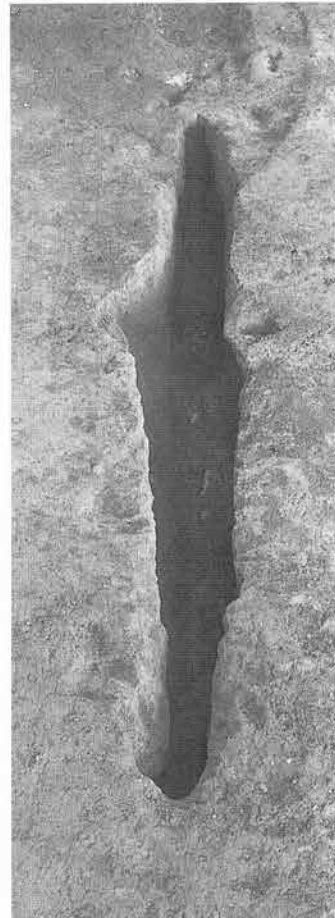
写真図版28 1～3号陥し穴状遺構



4号陥し穴状遺構 完掘



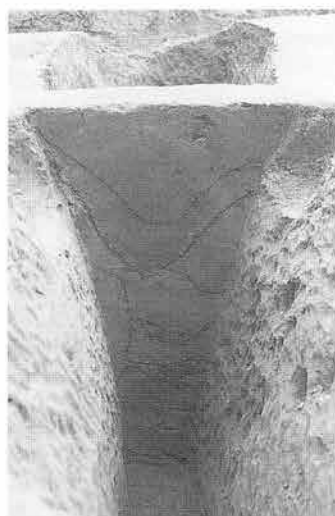
5号陥し穴状遺構 完掘



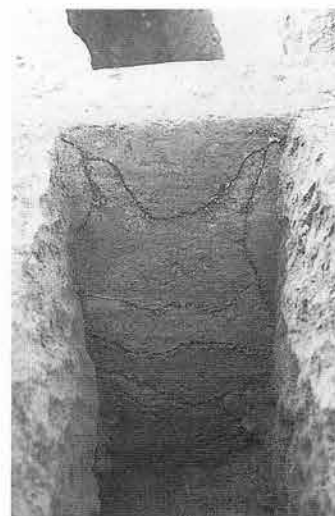
6号陥し穴状遺構 完掘



埋土断面

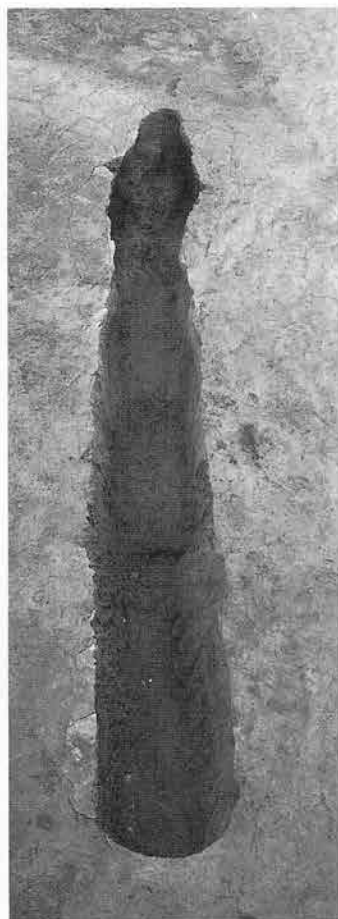


埋土断面

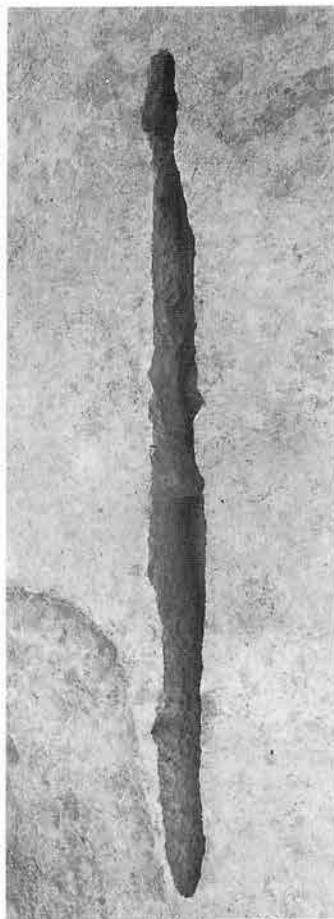


埋土断面

写真図版29 4～6号陥し穴状遺構



7号陥し穴状遺構 完掘



8号陥し穴状遺構 完掘



9号陥し穴状遺構 完掘



埋土断面

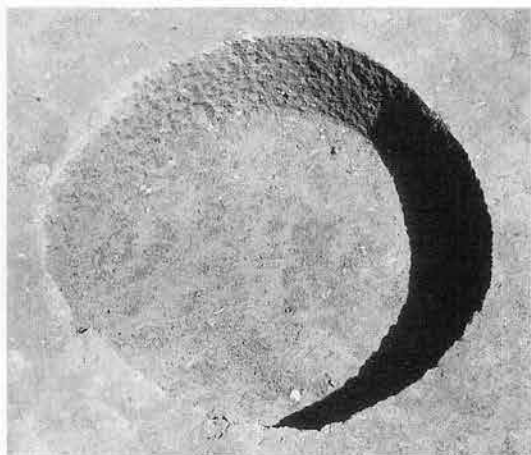


埋土断面

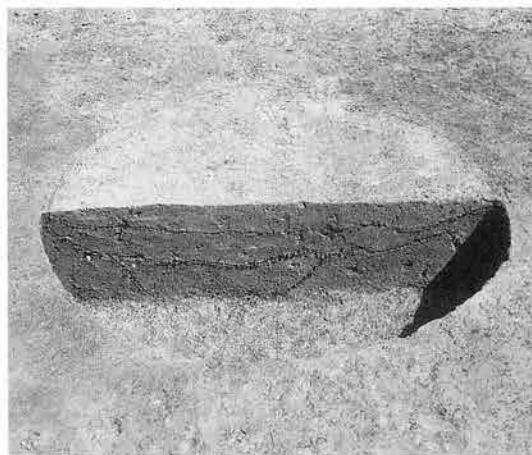


埋土断面

写真図版30 7～9号陥し穴状遺構



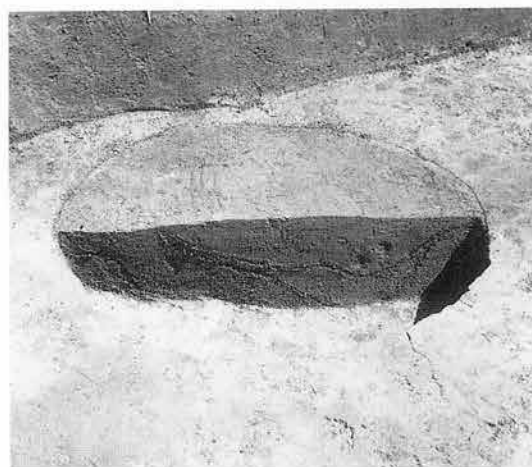
1号土坑 完掘



埋土断面



2号土坑 完掘



埋土断面

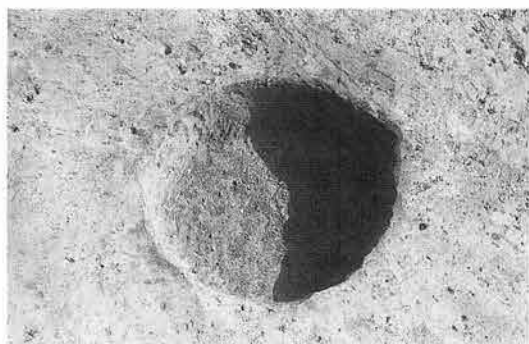


3号土坑 完掘



埋土断面

写真图版31 1号·2号·3号土坑



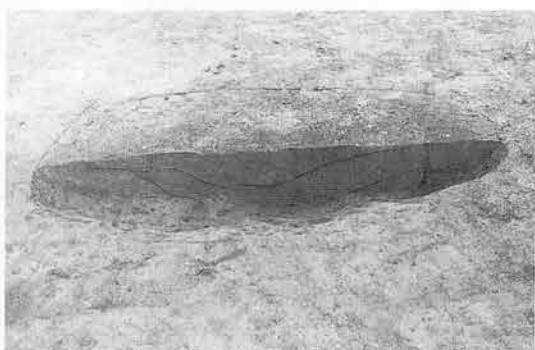
4号土坑 完掘



埋土断面



5号土坑 完掘



埋土断面



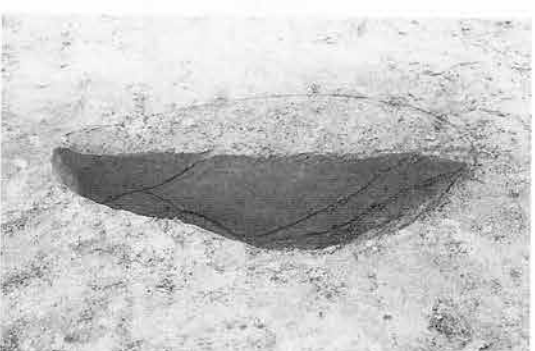
6号土坑 完掘



埋土断面

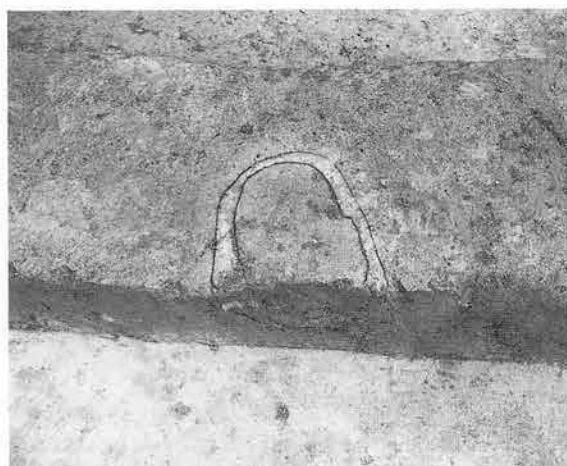


7号土坑 完掘



埋土断面

写真图版32 4~7号土坑



検出状況



埋土断面



埋土断面（煙出）



完掘

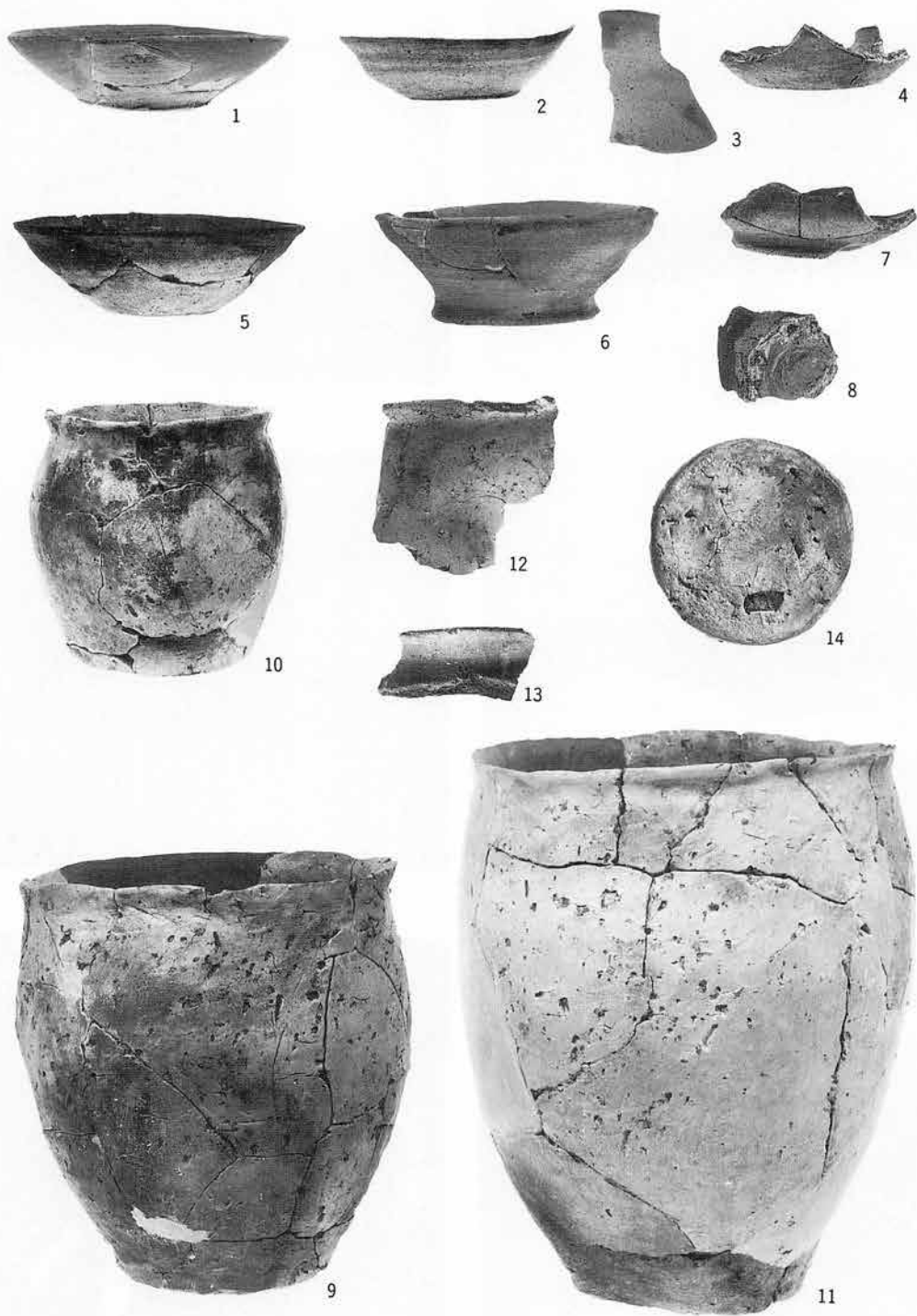


断面

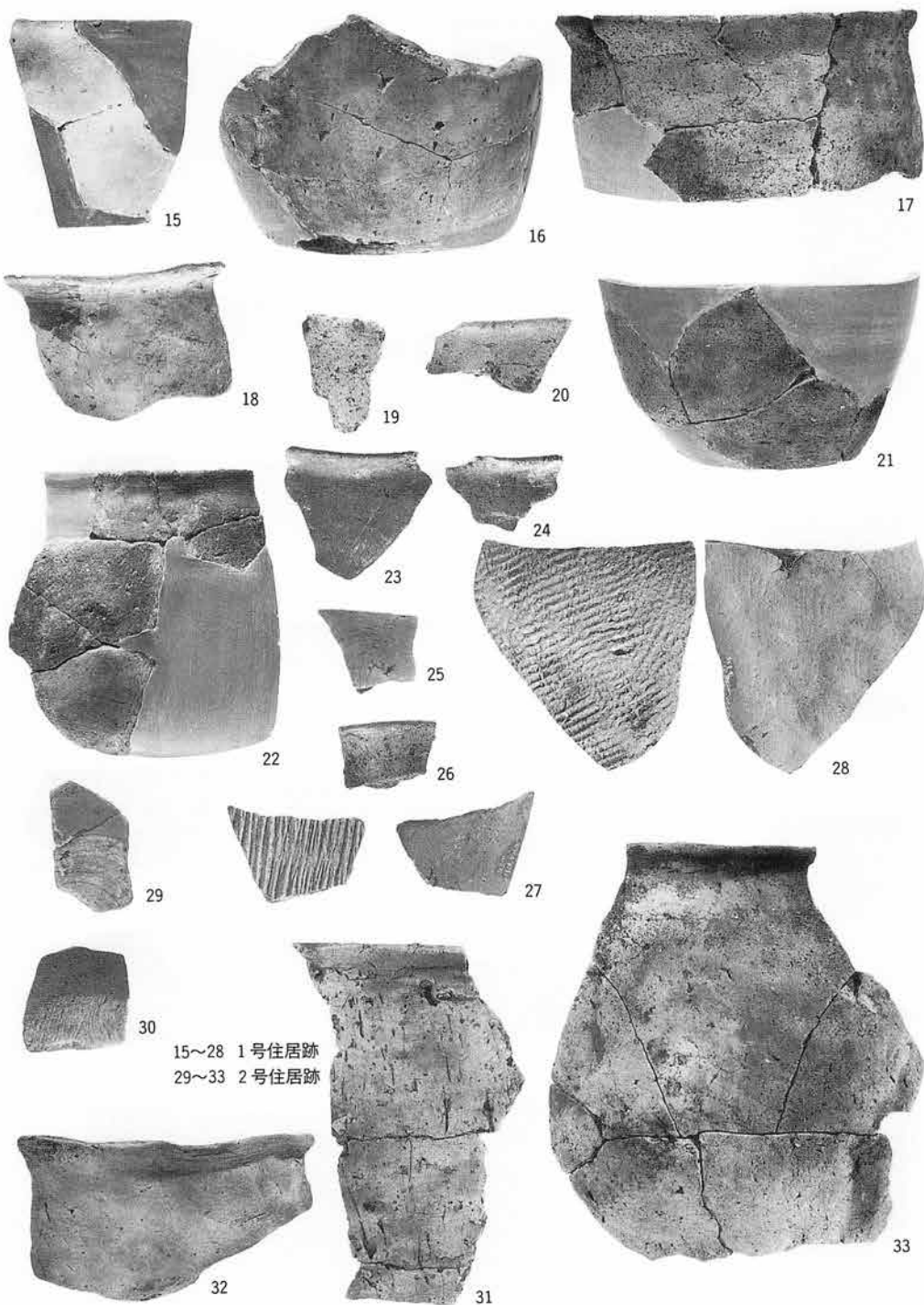


作業風景

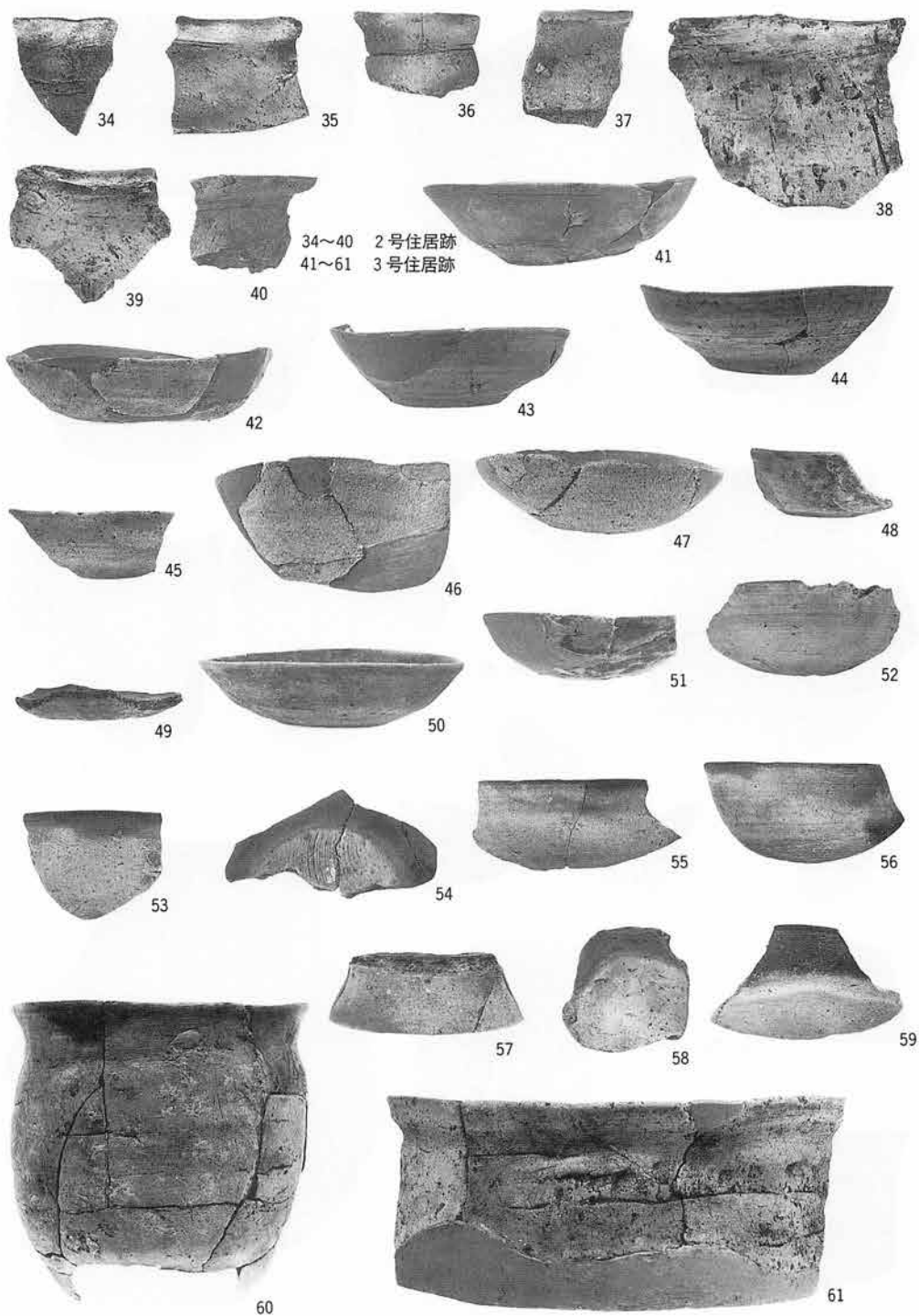
写真図版33 1号焼土遺構



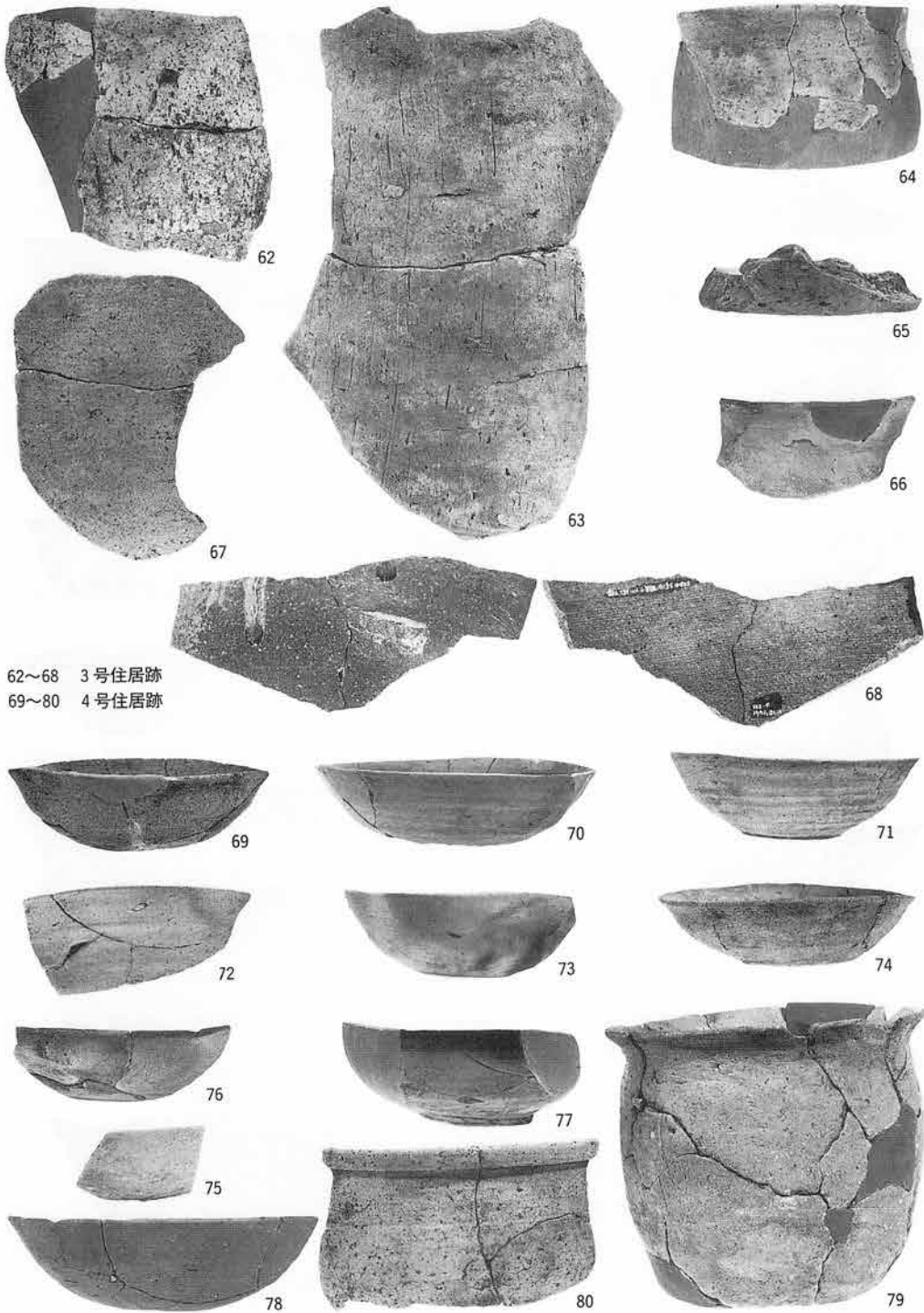
写真图版34 1号住居跡出土遺物 土器



写真図版35 1号・2号住居跡出土遺物 土器

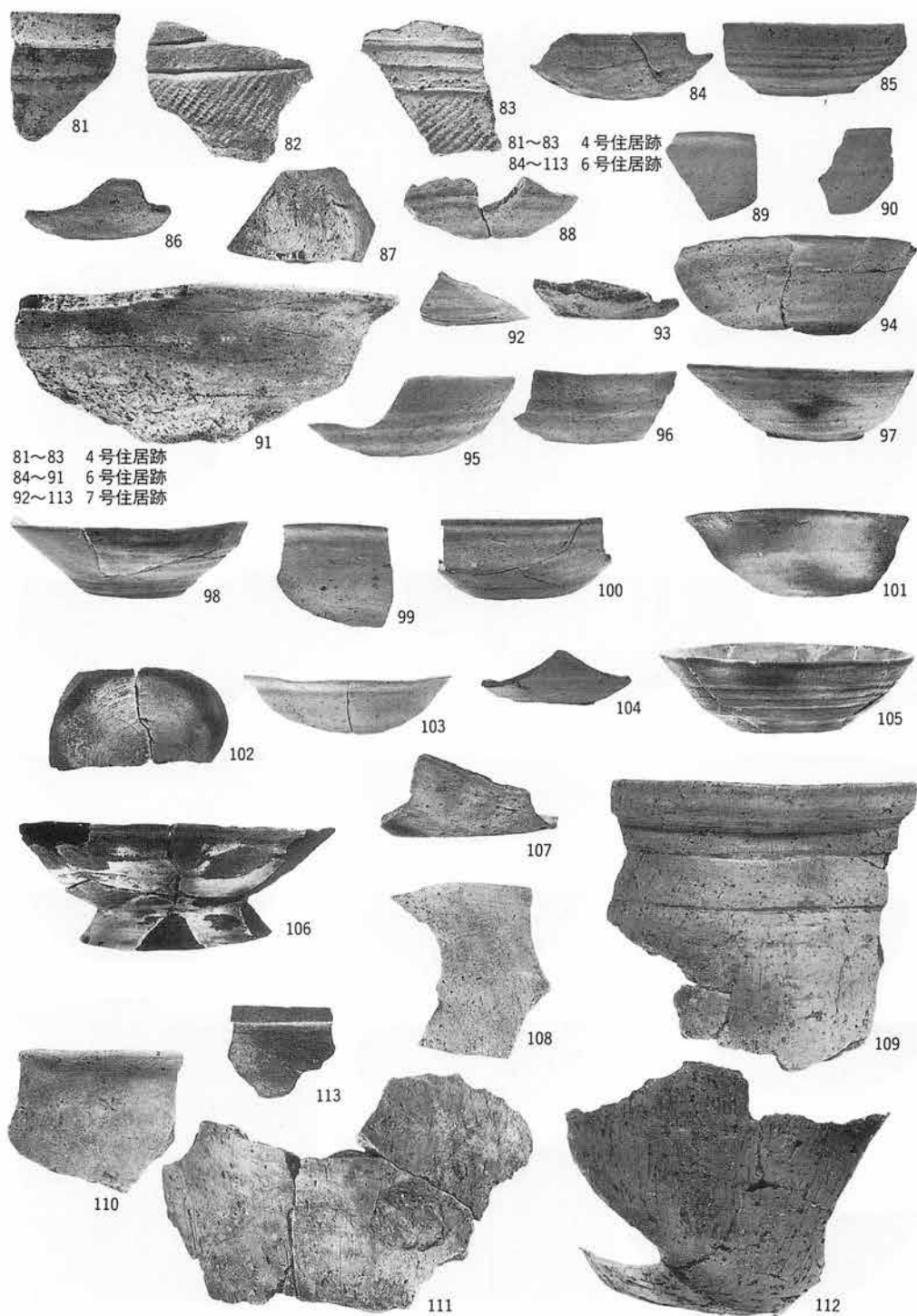


写真図版36 2号・3号住居跡出土遺物 土器

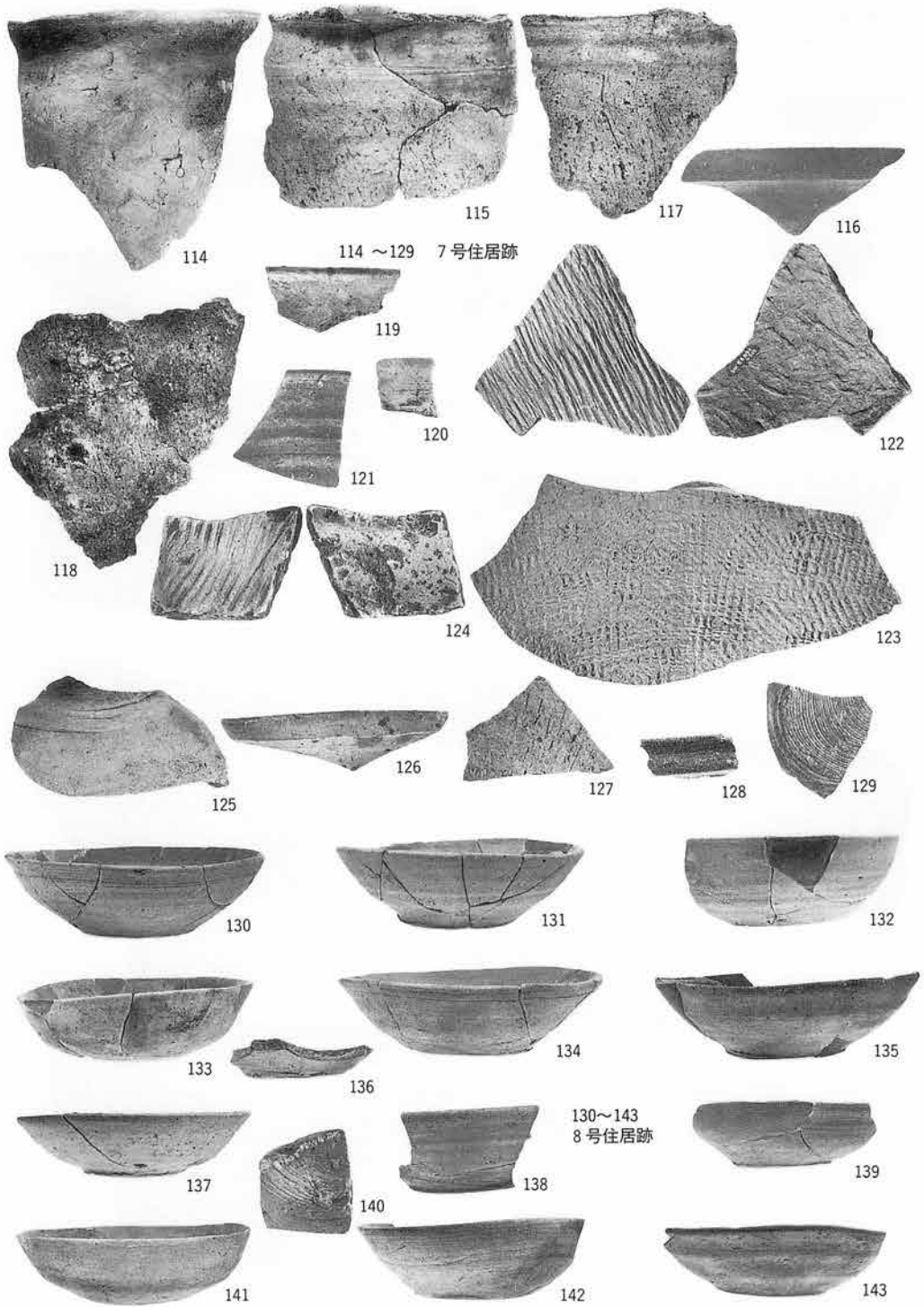


62~68 3号住居跡
69~80 4号住居跡

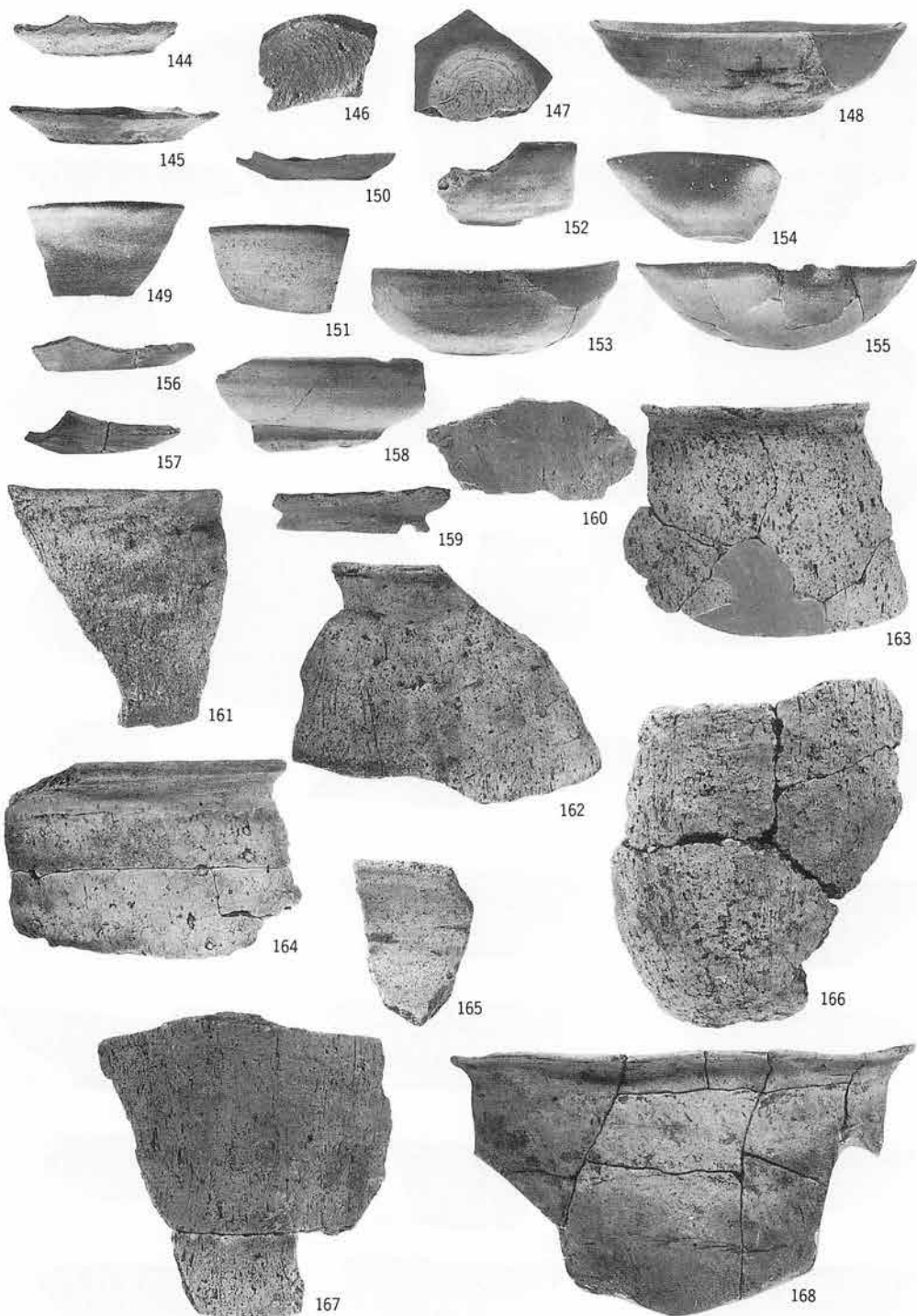
写真図版37 3号・4号住居跡出土遺物 土器



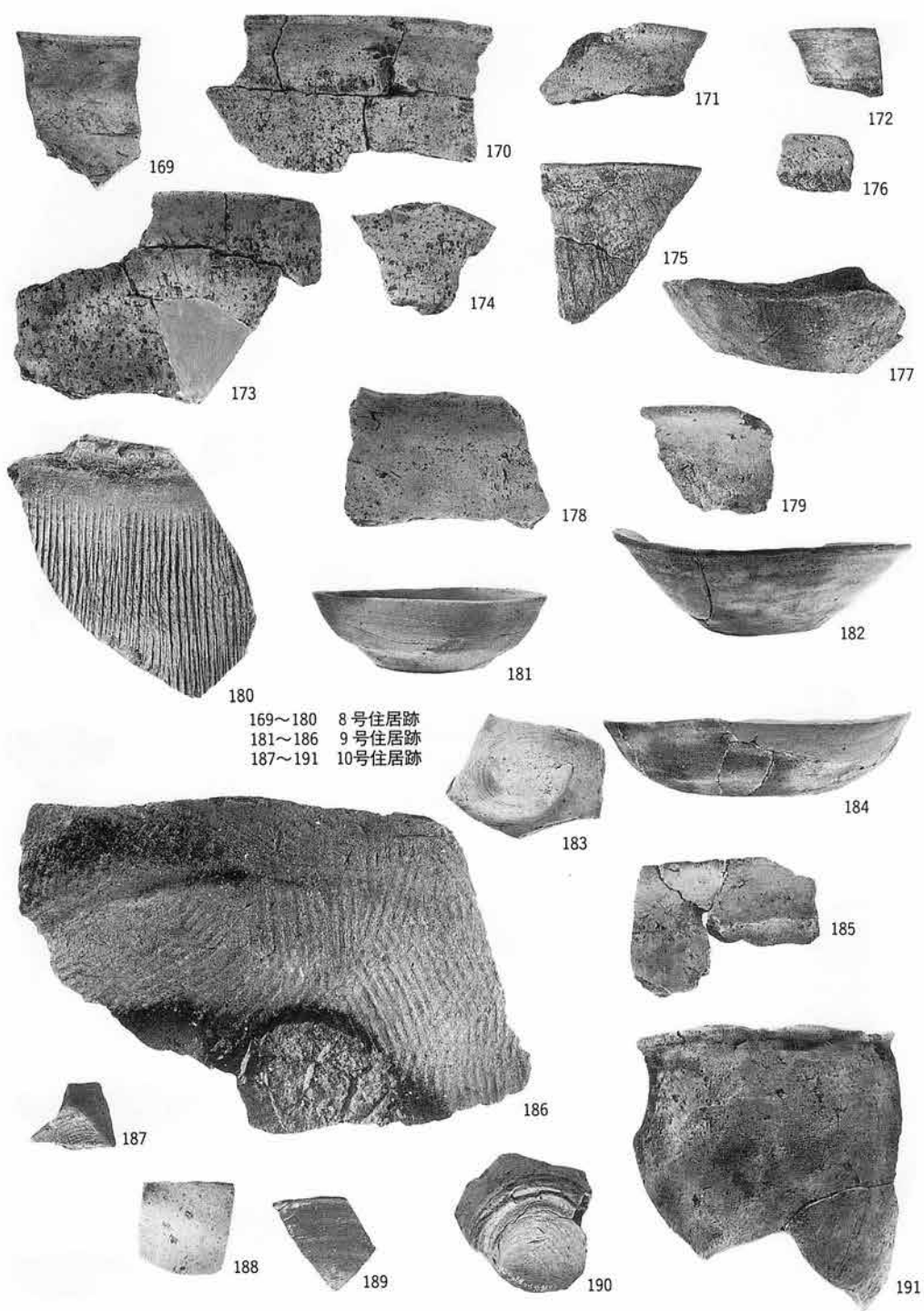
写真図版38 4号・6号・7号住居跡出土遺物 土器



写真図版39 7号・8号住居跡出土遺物 土器

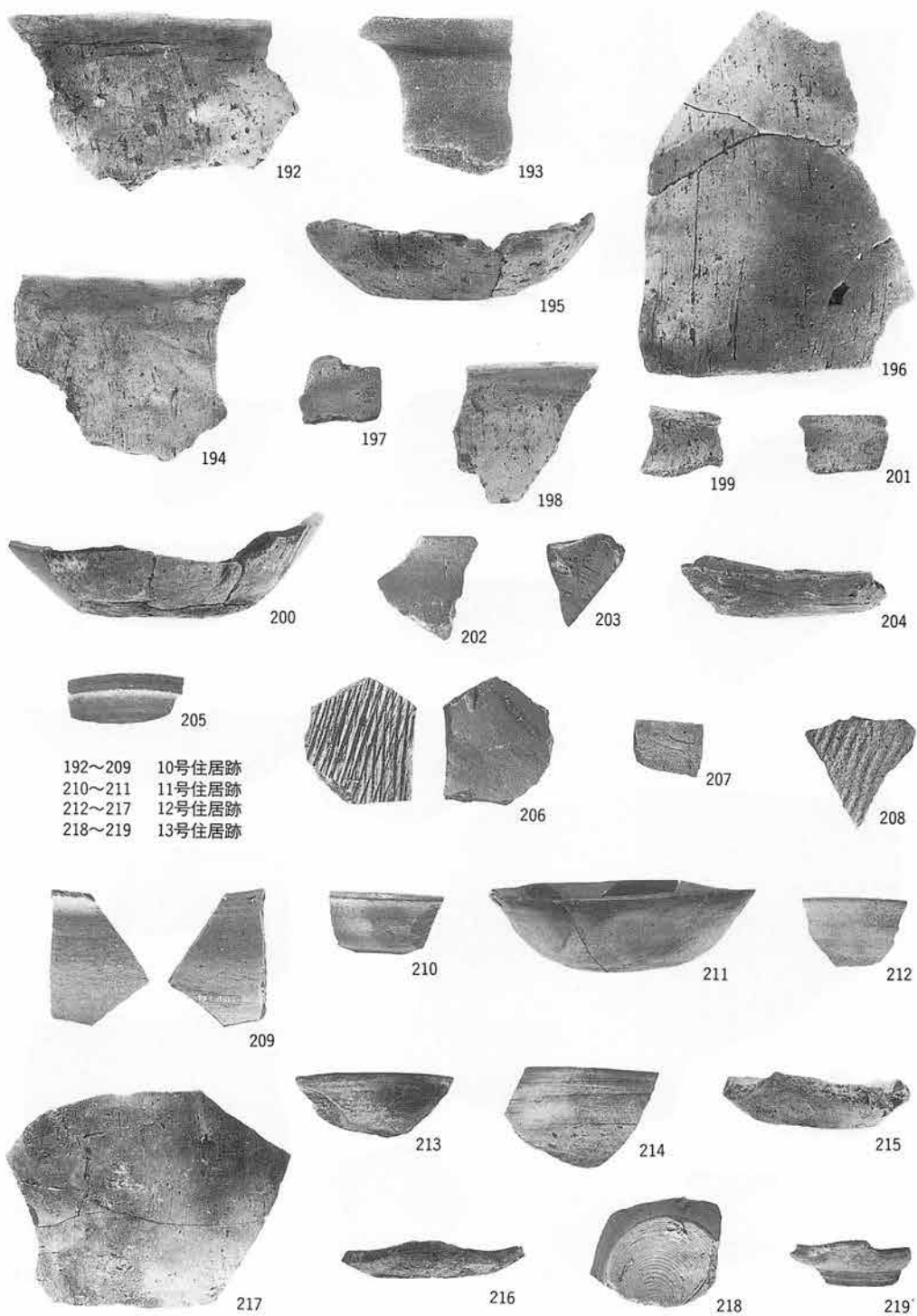


写真图版40 8号住居跡出土遺物 土器

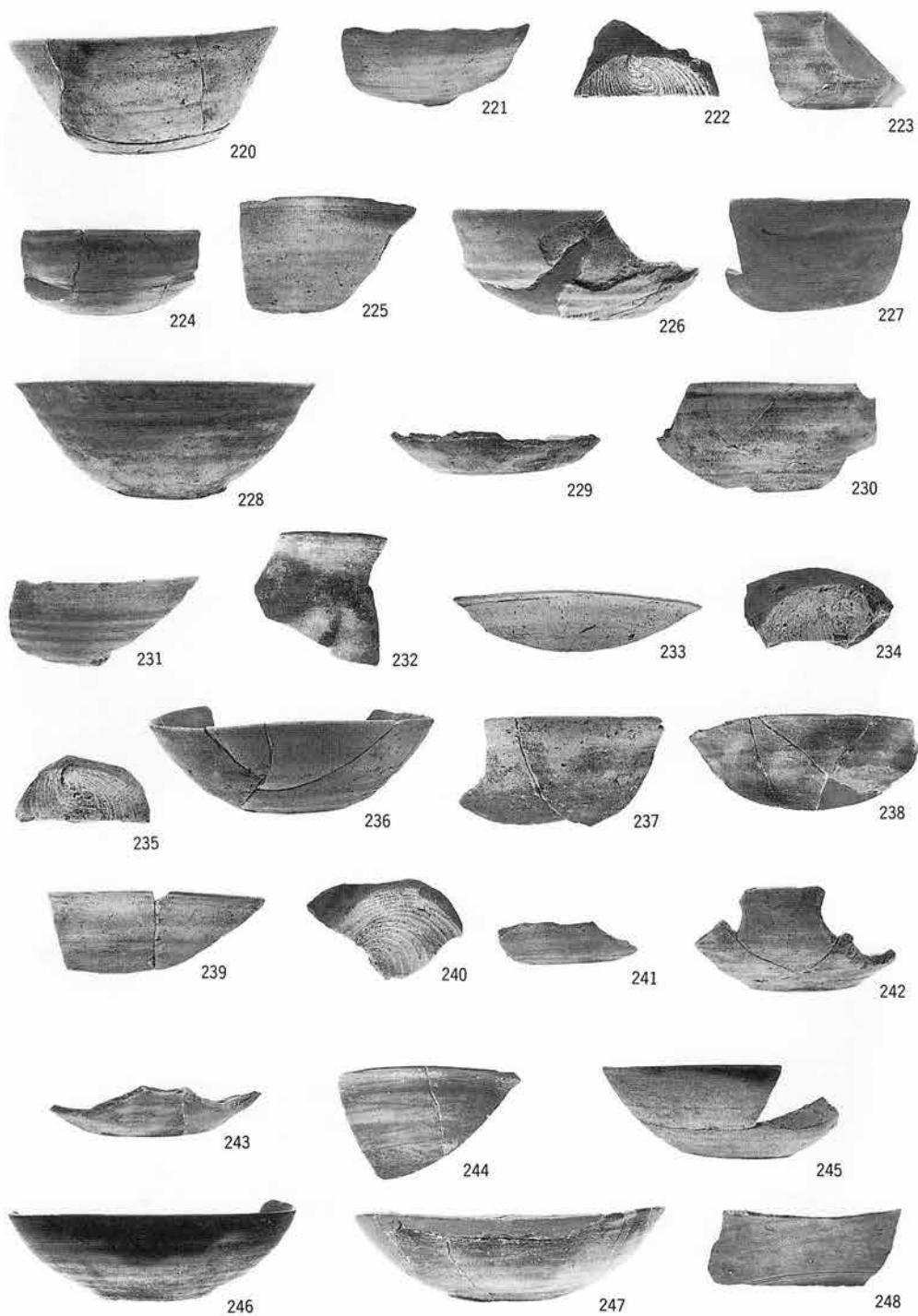


169~180 8号住居跡
181~186 9号住居跡
187~191 10号住居跡

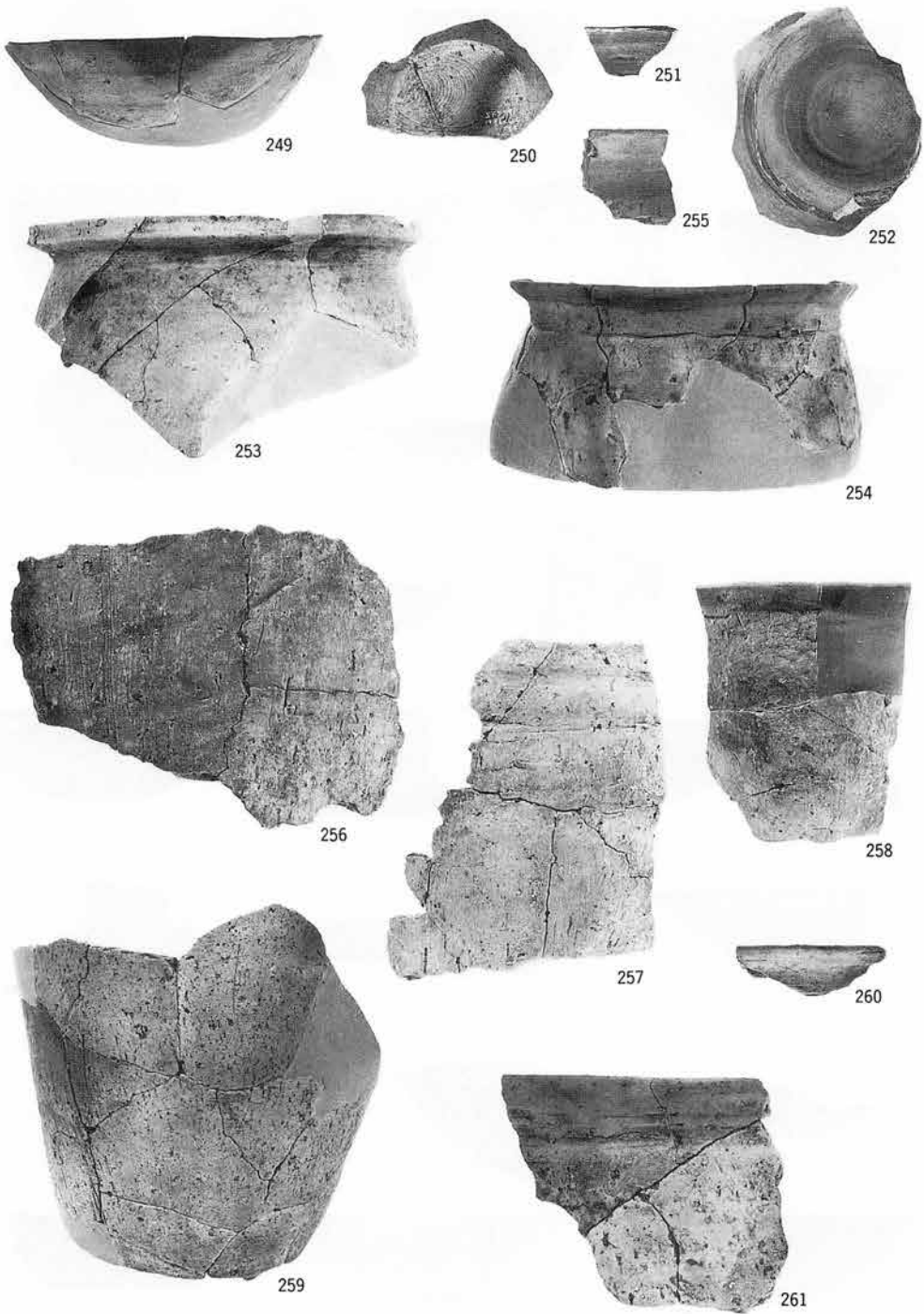
写真図版41 8~10号住居跡出土遺物 土器



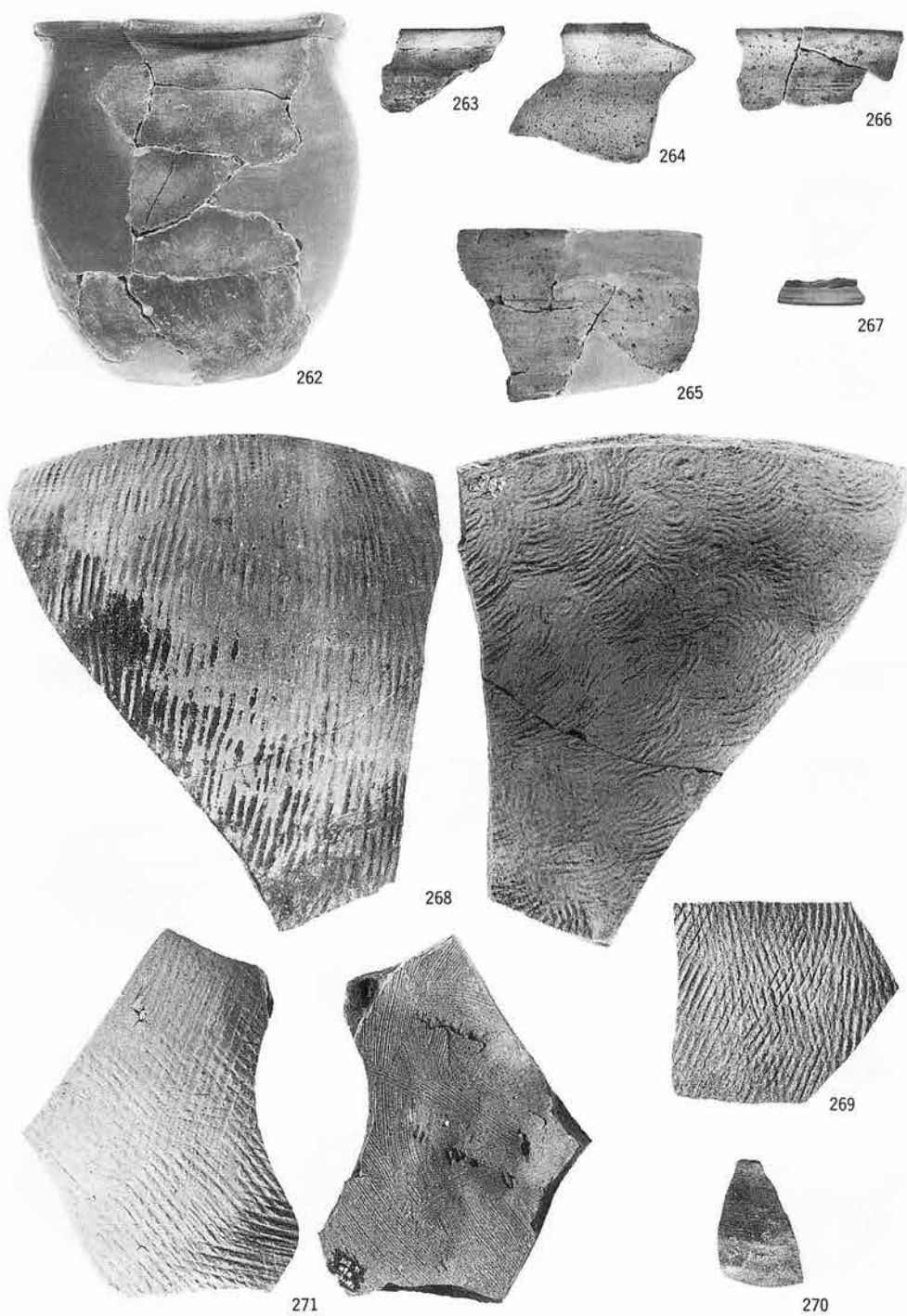
写真図版42 10~13号住居跡出土遺物 土器



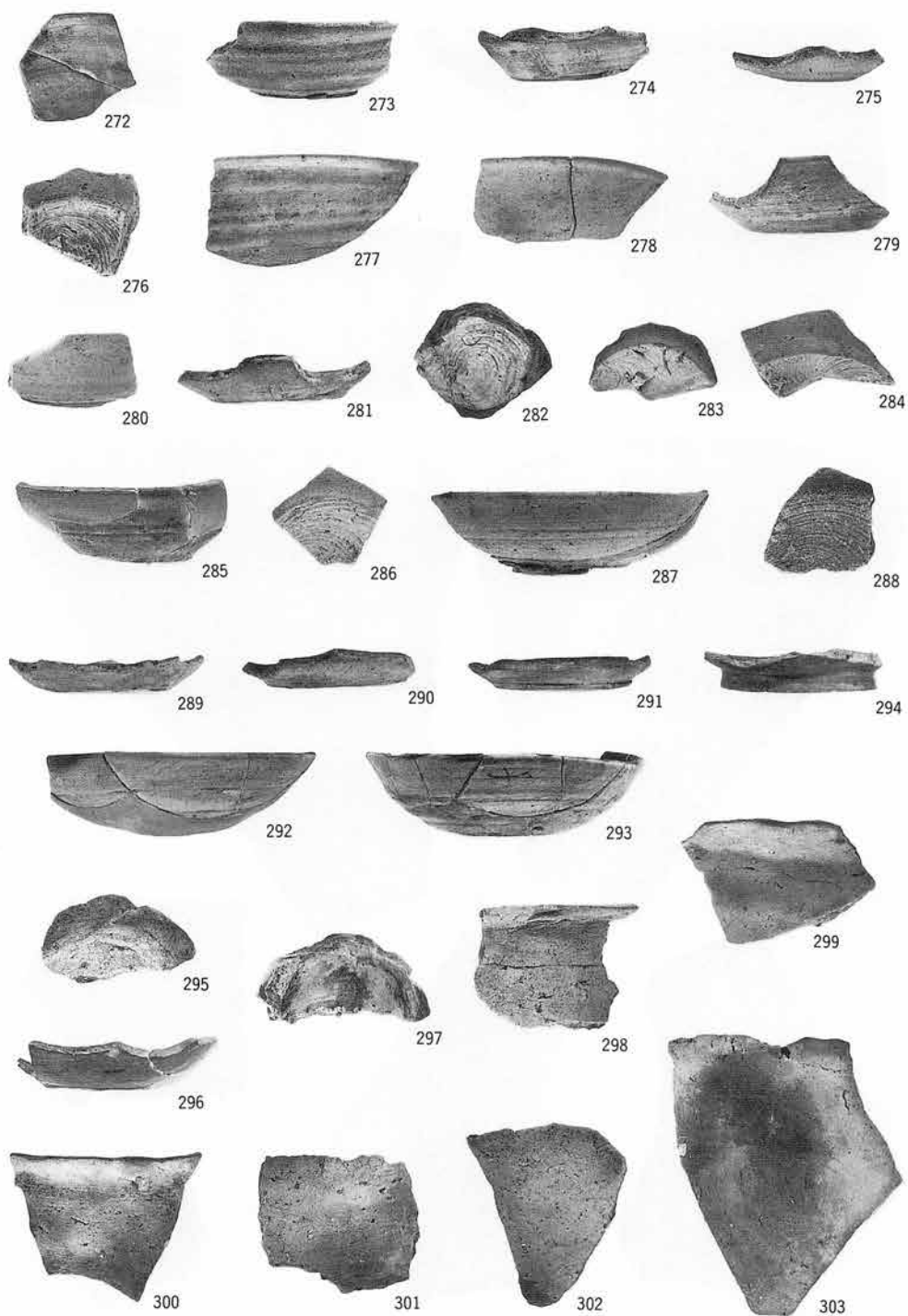
写真图版43 14号住居跡出土遺物 土器



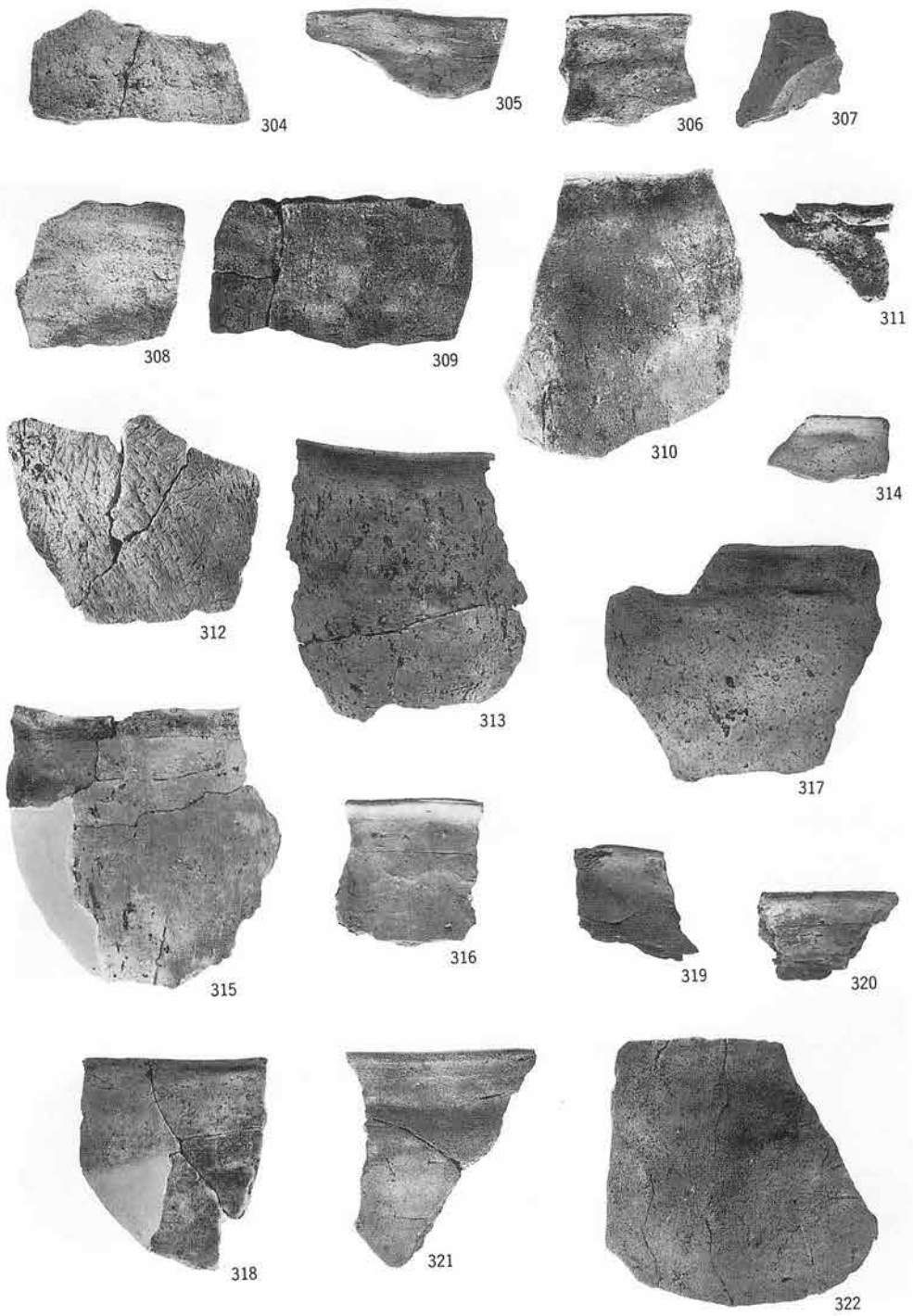
写真图版44 14号住居跡出土遺物 土器



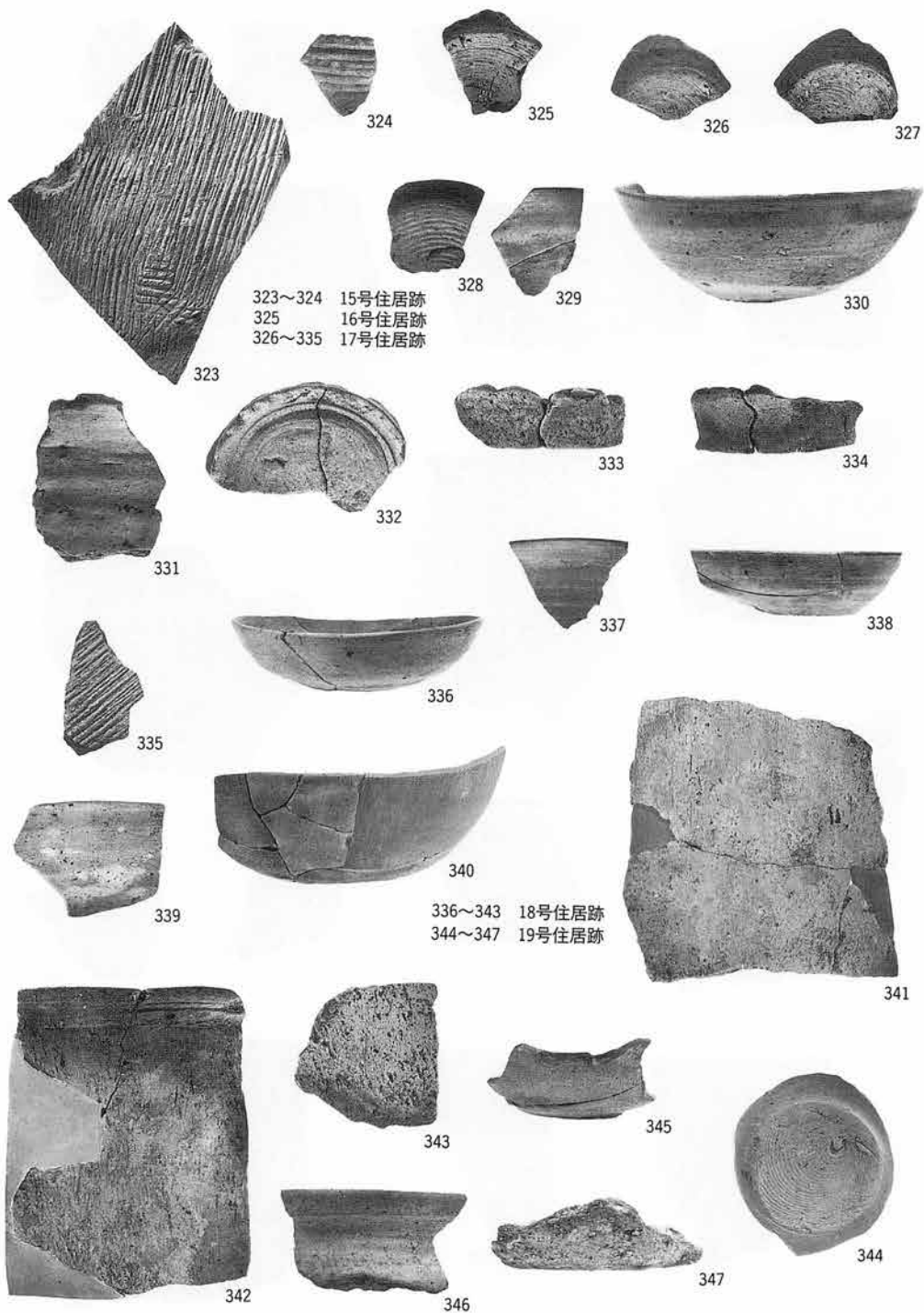
写真図版45 14号住居跡出土遺物 土器



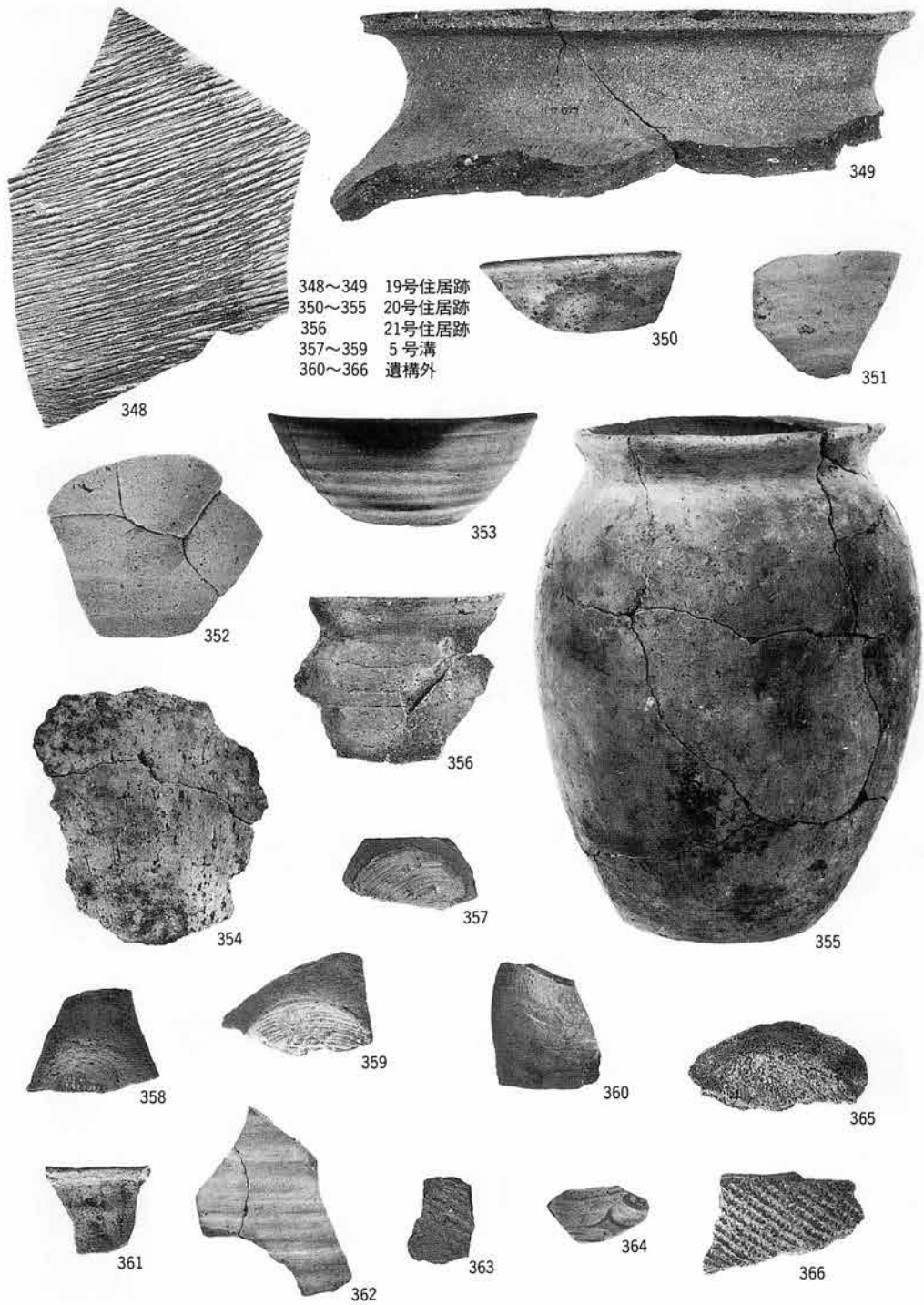
写真図版46 15号住居跡出土遺物 土器



写真图版47 15号住居跡出土遺物 土器

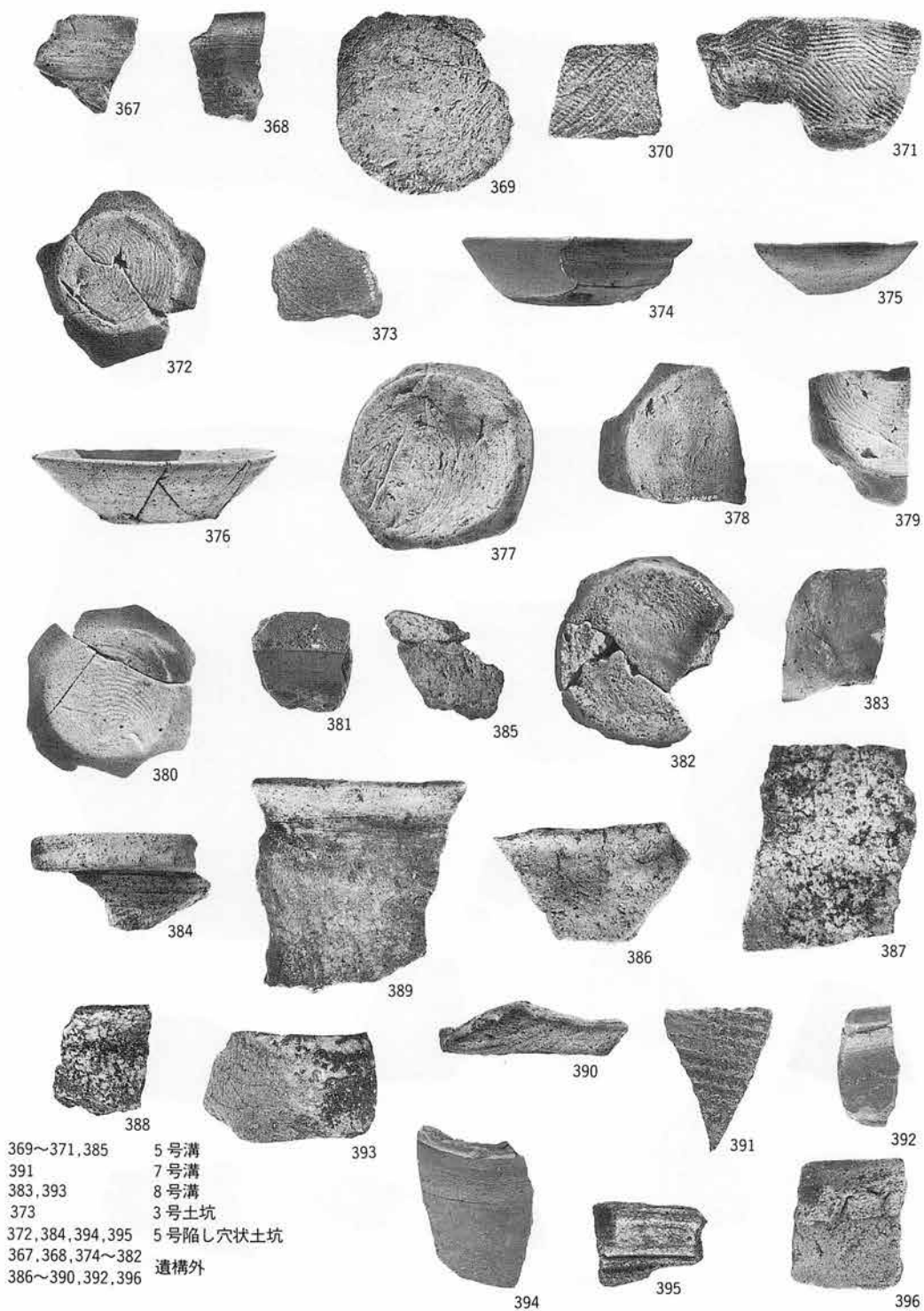


写真図版48 15~19号住居跡出土遺物 土器



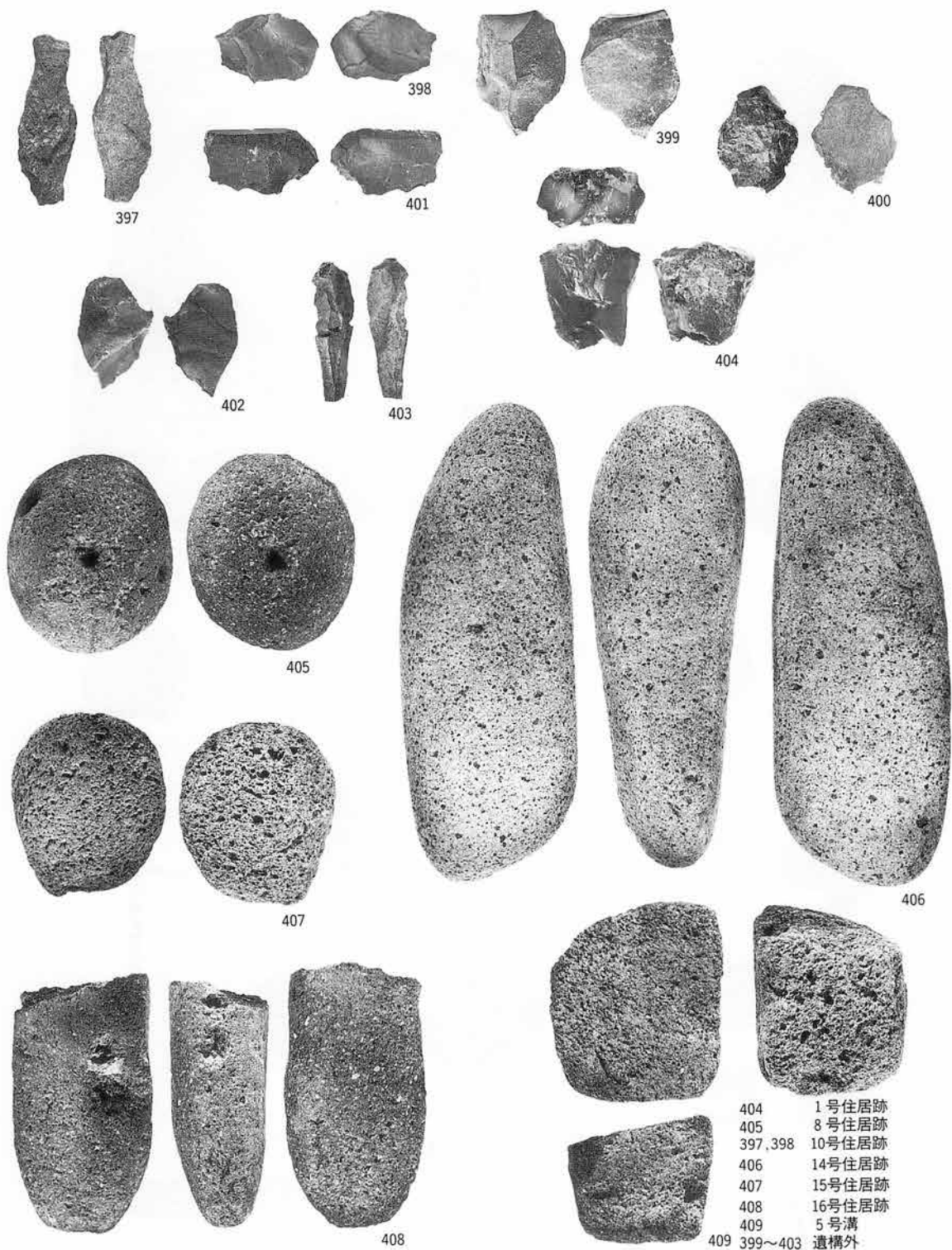
348~349 19号住居跡
 350~355 20号住居跡
 356 21号住居跡
 357~359 5号溝
 360~366 遺構外

写真図版49 19~21号住居跡・5号溝・遺構外出土遺物 土器



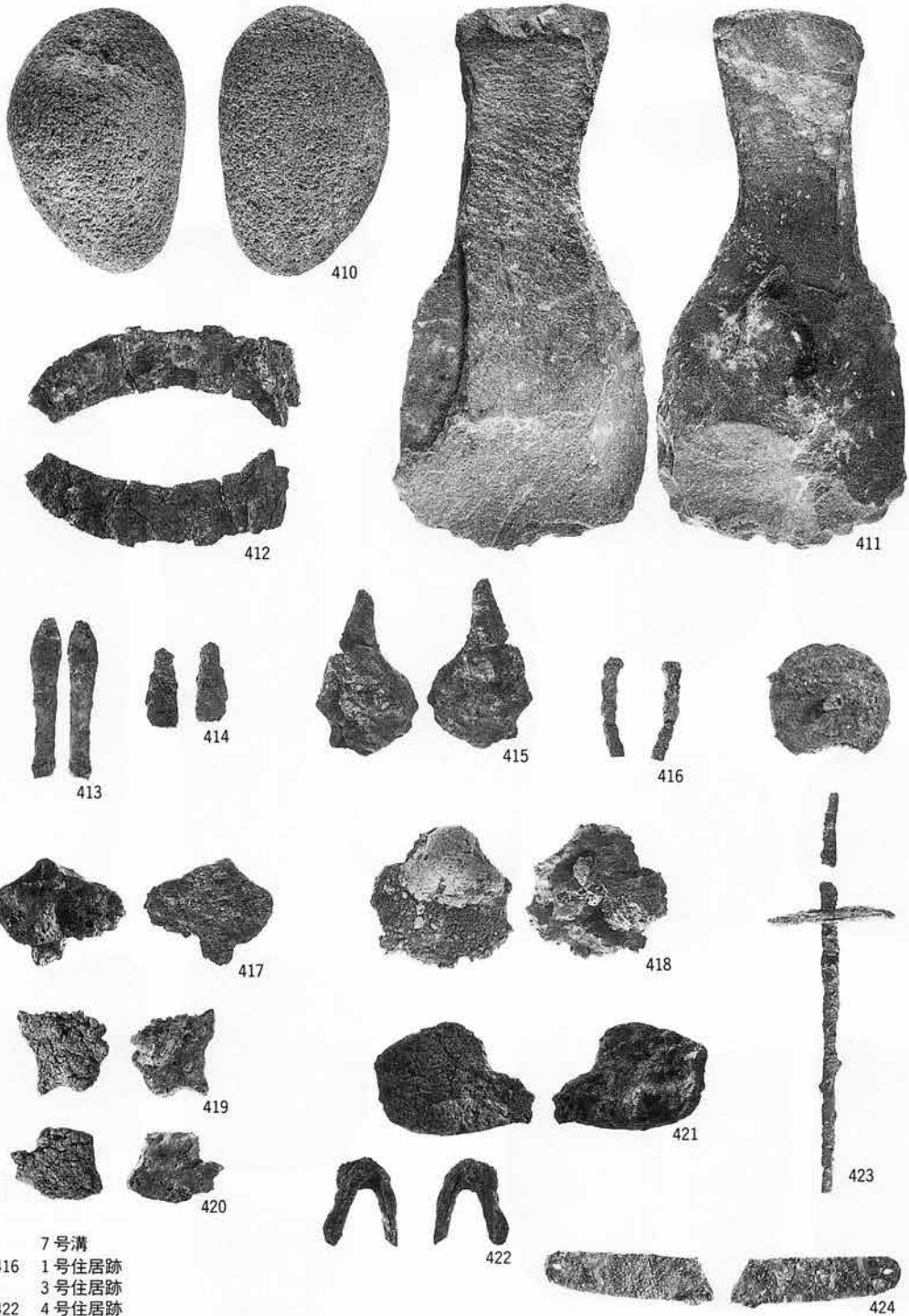
369~371, 385 5号溝
 391 7号溝
 383, 393 8号溝
 373 3号土坑
 372, 384, 394, 395 5号陥し穴状土坑
 367, 368, 374~382 遺構外
 386~390, 392, 396

写真図版50 5号・7号・8号溝・3号土坑・5号陥し穴状遺構・遺構外出土遺物 土器



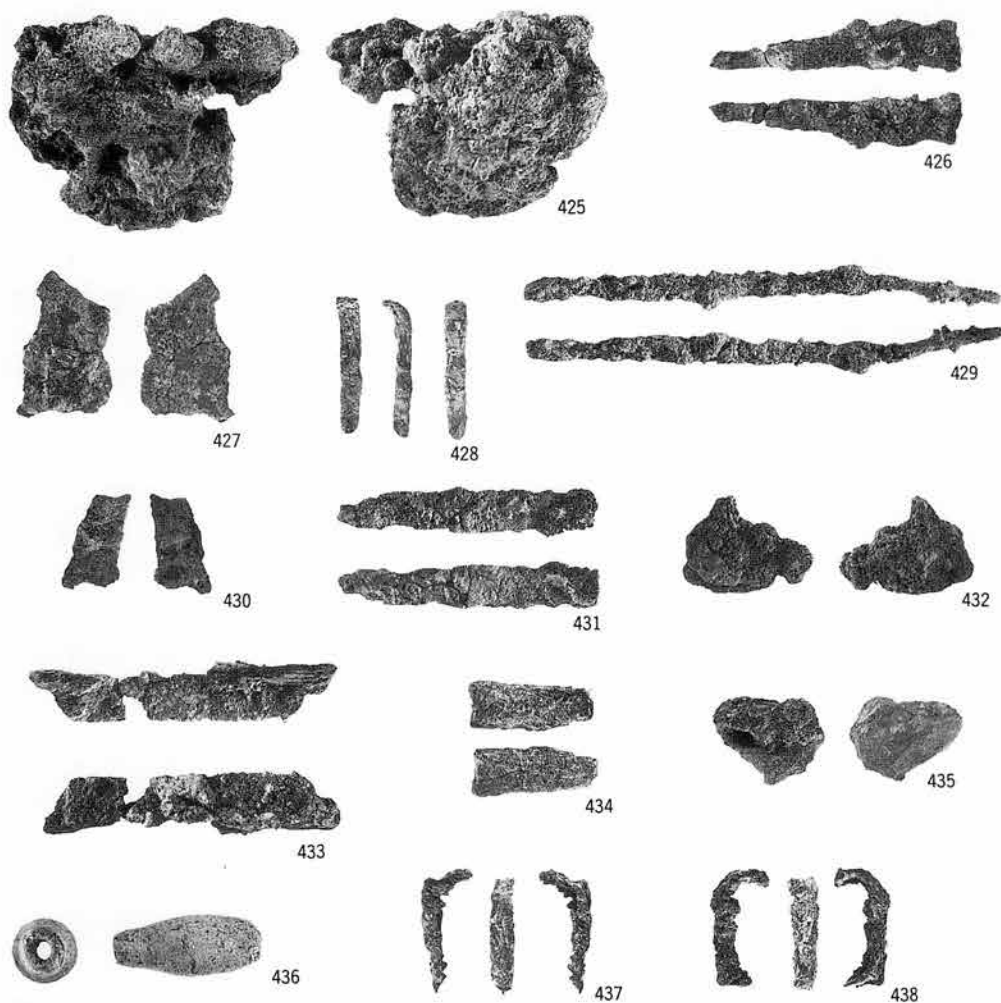
- 404 1号住居跡
- 405 8号住居跡
- 397, 398 10号住居跡
- 406 14号住居跡
- 407 15号住居跡
- 408 16号住居跡
- 409 5号溝
- 409 399~403 遺構外

写真図版51 出土遺物 石器



411 7号溝
 412~416 1号住居跡
 417 3号住居跡
 418~422 4号住居跡
 423, 424 7号住居跡

写真図版52 出土遺物 石器・鉄製品・鉄滓



- 425~427 8号住居跡
 428 10号住居跡
 429~433 15号住居跡
 434 8号溝
 435 遺構外
 436 12号住居跡
 437・438 1号住居跡

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

| | | | | |
|-------------|---------|-------------|-----------|--|
| 理事 兼 長 | 小笠原 喜 一 | | | |
| 副 所 長 | 高 橋 敬 明 | | | |
| [管 理 課] | | | | |
| 管理課長(兼) | 高 橋 敬 明 | 嘱 託 | 根 橋 文 一 | |
| 課 長 補 佐 | 森 岡 陽 一 | 〃 | 吉 田 十 次 | |
| 主 事 | 佐 藤 理 | 運 兼 技 能 士 員 | 佐 藤 春 男 | |
| [調 査 課] | | | | |
| 調 査 課 長 | 村 上 康 昭 | 文 化 財 員 | 松 本 建 速 | |
| 課 長 補 佐 | 鈴 木 恵 治 | 〃 | 笹 平 克 子 | |
| 〃 | 三 浦 謙 一 | 〃 | 花 坂 政 博 | |
| 主 任 文 化 財 員 | 高橋 与右衛門 | 〃 | 佐々木 務 彦 | |
| 〃 | 工 藤 利 幸 | 〃 | 金 子 昭 彦 | |
| 〃 | 中 川 重 紀 | 〃 | 濱 田 宏 人 | |
| 〃 | 藤 村 敏 男 | 〃 | 羽 柴 直 之 | |
| 〃 | 高 橋 義 介 | 〃 | 星 雅 晃 | |
| 〃 | 高 橋 正 之 | 〃 | 高 木 勉 造 | |
| 〃 | 渡 辺 洋 一 | 〃 | 鎌 田 精 則 | |
| 〃 | 佐々木 清 文 | 期 限 調 査 付 員 | 鎌 田 悟 由 | |
| 文 化 財 員 | 斎 藤 隆 雄 | 〃 | 阿 部 博 司 | |
| 〃 | 佐 瀬 孝 司 | 〃 | 千 葉 信 一 | |
| 〃 | 千 葉 博 司 | 〃 | 熊 倉 博 英 | |
| 〃 | 斎 藤 隆 幹 | 〃 | 新 山 口 博 透 | |
| 〃 | 東海林 弘 均 | 〃 | 小 山 内 磨 | |
| 〃 | 佐々木 貞 行 | 〃 | 柳 田 元 明 | |
| 〃 | 川 村 格 雄 | 〃 | 田 中 敬 司 | |
| 〃 | 鈴 木 邦 明 | 〃 | 菅 原 英 樹 | |
| 〃 | 伊 東 敏 一 | 〃 | 工 藤 浩 二 | |
| 〃 | 斎 藤 信 一 | 〃 | 高 橋 修 一 | |
| 〃 | 神 原 真 一 | 〃 | 高 溜 藤 修 | |
| 〃 | 佐々木 真 一 | 〃 | 佐 藤 修 一 | |
| 〃 | 小 原 真 一 | | | |
| 〃 | 酒 井 宗 孝 | | | |
| [資 料 課] | | | | |
| 資 料 課 長 | 村 松 義 夫 | | | |
| 文 化 財 員 | 高 橋 一 浩 | | | |
| 主 任 文 化 財 員 | | | | |

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 192 集

下川原 II 遺跡発掘調査報告書

滝名川河川改修関連遺跡発掘調査

印刷 平成 5 年 3 月 25 日

発行 平成 5 年 3 月 30 日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020 岩手県紫波郡都南村大字下飯岡 11-185
TEL (0196) 38-9001・9002

印刷 山口北州印刷株式会社
〒020-01 盛岡市青山四丁目 10-5
TEL (0196) 41-0585

© 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993